

これからの生涯学習の在り方および文化芸術について
公共施設や地域資源を活用した持続可能なまちづくり
に関する調査研究

令和4年3月

滋賀県 愛荘町

一般財団法人 地方自治研究機構

これからの生涯学習の在り方および文化芸術について
公共施設や地域資源を活用した持続可能なまちづくり
に関する調査研究

令和4年3月

滋賀県 愛荘町

一般財団法人 地方自治研究機構

はじめに

昨今のわが国の地方行政を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症への継続的な対応、社会全体のデジタル化の急速な進行、少子高齢化に伴う本格的な人口減少社会の到来、住民のライフスタイルと価値観の多様化、公共私連携による地域社会の新たな動き、脱炭素化やSDGs等の地球規模の潮流など、これまでとは大きく異なる変化が見られます。

こうした中で、地方公共団体は、自治体DXの推進、人材の育成、財源の確保、経営マネジメントの強化等を図りつつ、住民ニーズを的確に捉え、地域の特性を活かしながら、住民福祉の向上、地域産業の振興、社会的インフラの整備、まちづくりの推進、共生社会の実現等に関する諸課題に、自らの判断と責任において取り組んでいくことが求められています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の団体が抱える課題を取り上げ、当該団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は6つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

本調査研究の共同実施自治体である愛荘町では、多様化するライフスタイルや少子高齢化など、社会情勢が変化する中で、町民ニーズに即した生涯学習環境の整備や機会の提供を推進することが求められています。

本調査研究では、生涯学習や地域資源についての意識を把握するための町民へのアンケート調査や関係団体へのヒアリング調査等を実施し、愛荘町の特性を活かした今後の生涯学習の在り方や持続可能なまちづくりの方向性について検討を行いました。

今年度の本研究の企画及び実施に当たりましては、コロナ禍の大変困難な中、研究委員会の委員長及び委員を始め、関係者の皆様から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の交付金を受けて、愛荘町と当機構とが共同で行ったものであり、ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば大変幸いです。

令和4年3月

一般財団法人 地方自治研究機構
理事長 井上源三

目次

序章 共同調査研究について.....	1
1. 調査研究の背景.....	3
2. 目的.....	3
3. 全体像、全体スケジュール、実施体制.....	4
第1章 愛荘町の現状と課題.....	7
1. 地勢、人口等.....	9
2. 町内の地域資源の概要.....	19
3. 愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画.....	22
4. 町内の生涯学習実績の概要と課題認識.....	25
第2章 国内の動向.....	29
1. 全国の生涯学習を取り巻く状況.....	31
2. 教育現場等におけるデジタル化の動き.....	36
3. 自治体での動き.....	39
4. 国内の学級・講座の実施状況.....	42
5. 次世代を担う人々の参画に関するまちづくりの動き.....	45
第3章 アンケート調査.....	47
1. 町民アンケート実施による意識等調査.....	49
2. 近隣地域住民へのアンケート調査.....	86
3. 考察.....	95
第4章 関係団体ヒアリング調査.....	97
1. 町内関係団体ヒアリング調査.....	99
2. 関連団体ヒアリング調査.....	111
第5章 今後に向けて（更なる発展に向けて）.....	115
1. 変革の必要性.....	117
2. 考え方（「消費型の学び」から「生産型の学び」へ）.....	118
3. 新しい生涯学習に向けて.....	120
4. 地域資源の利活用.....	122
5. 今後に向けて.....	125
委員会名簿.....	129
参考資料.....	133

序章 共同調査研究について

序章 共同調査研究について

1. 調査研究の背景

人生 100 年時代と言われる今日、学校教育以降、約 80 年余りの人生において、生涯学習の在り方である自ら学ぶという姿勢をどのように培うが重要である。愛荘町においても、ユビキタス社会における情報の多様化・社会情勢等の対応やニーズ変化に合致した生涯学習を町民へ提供する必要がある、愛荘町の教育を取り巻く主な現状と課題について、令和 3 年 2 月に策定された愛荘町教育大綱 第 2 期教育振興基本計画で「少子化・高齢化・人口減少への対応」、「超スマート社会（Society5.0）の到来」、「地域コミュニティの活力低下への対応」、「人生 100 年時代を見据えたライフステージへの対応」、「グローバル化の進展」等が挙げられており、住民の満足度を向上し、持続可能なまちを実現するためには、これまで以上に、町の保有する地域資源等を活かした独自性のある、愛荘町ならではの教育環境の充実・機会提供が重要になってきている。

2. 目的

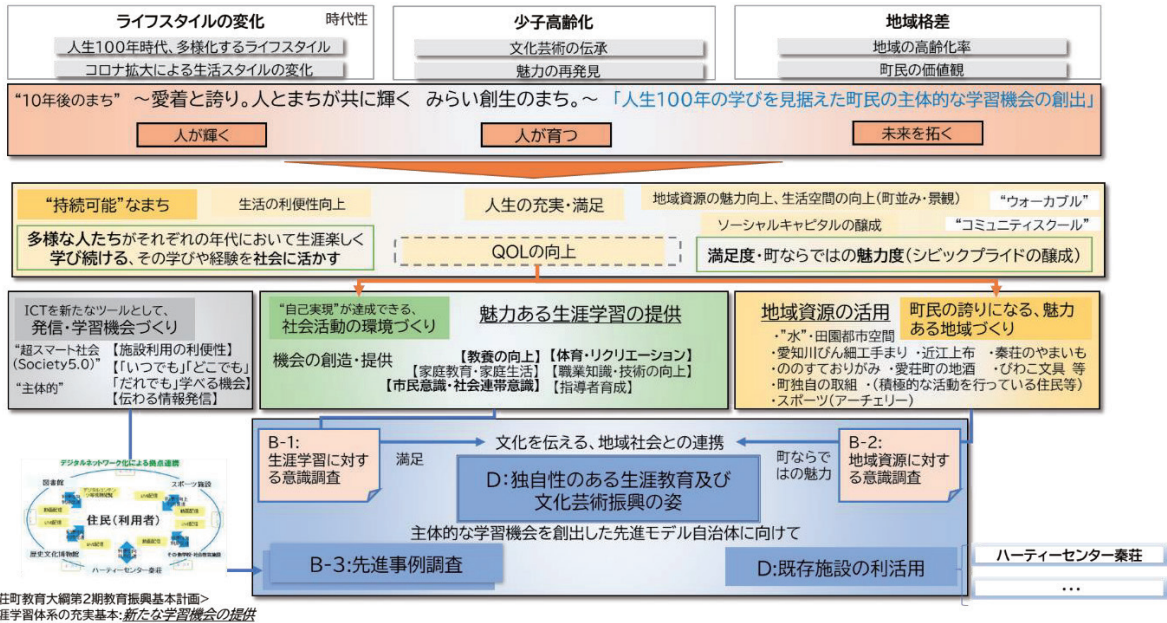
人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づき、自己に適した手段や方法を自ら選んで、生涯を通じて行うことが望まれる生涯学習に対して、愛荘町独自の生涯学習および文化芸術振興に関する調査研究を行い、これから先の時代における生涯学習の在り方、特性にあった方向性、施策展開の検討および持続可能な施設利活用の在り方を検討する。

第 2 次愛荘町総合計画や愛荘町 2040 グランドデザイン構想等上位計画・関連計画との整合性を図り、特に令和 2 年度策定された愛荘町教育大綱・第 2 期教育振興基本計画の方針に則り、これからの愛荘町における生涯教育の在り方を検討する。

3. 全体像、全体スケジュール、実施体制

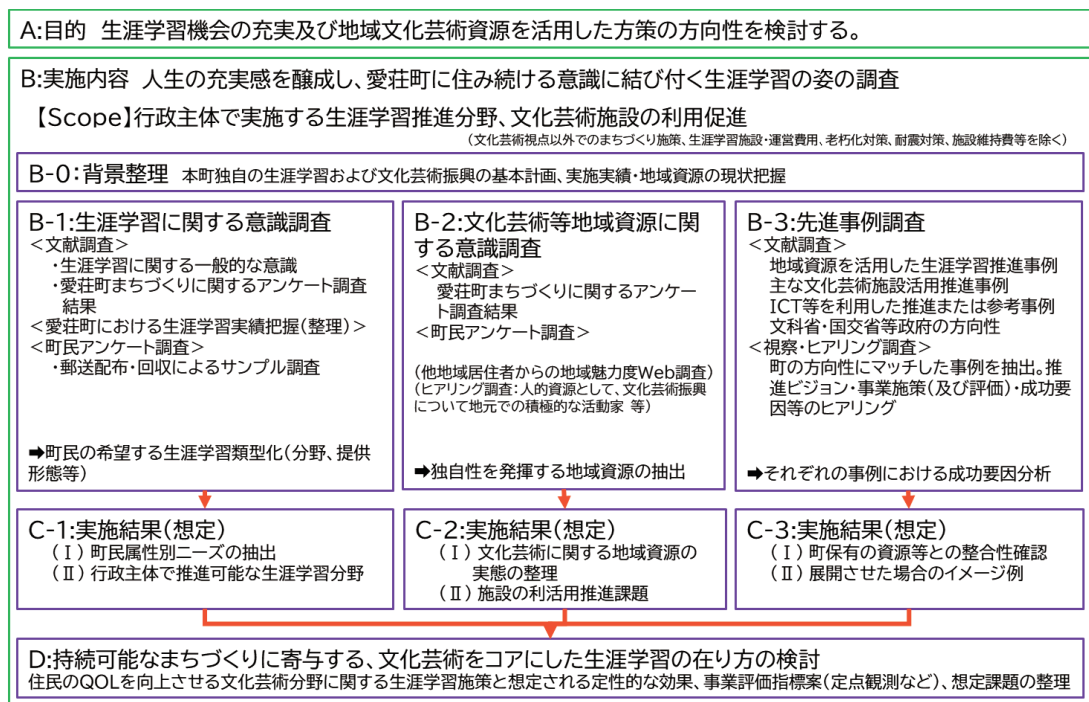
本調査研究の全体像を以下の図表 序-1、序-2 に示す。前述した「少子高齢化」、「地域コミュニティ」、「町民のライフスタイルの多様化」等の課題に対して、「人が輝く」、「人が育つ」、「未来を拓く」まちを目指し、文化芸術資源や人々の意識など愛荘町の地域資源を生かした「魅力ある生涯学習」の在り方に関する調査研究を行った。

図表 序-1 調査研究の背景



具体的な調査研究内容を以下の図に示す。

図表 序-2 調査研究の全体像

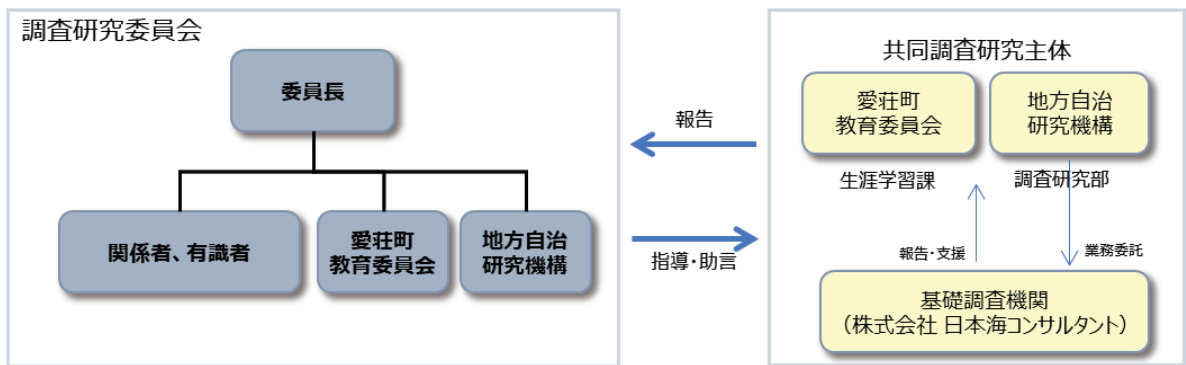


共同調査研究の全体スケジュールと実施体制を以下の図に示す（図表 序-3 及び図表 序-4）。

図表 序-3 調査研究の全体スケジュール



図表 序-4 調査研究体制



学識経験者、有識者、実務家及び共同調査研究実施部門代表者で構成される調査研究委員会（詳細メンバーは「委員会名簿」を参照）を設置し、以下の日程で委員会を開催し議論を行い、共同調査研究を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、感染の拡大状況を考慮し、愛荘町役場秦荘庁舎を主会場とし各拠点をインターネット接続した Web 会議の形式で委員会を開催した。

【第1回委員会】

日時：令和3年（2021年）6月30日 14:00 - 16:00

場所：愛荘町役場秦荘庁舎 2階大会議室（及び Web 会議）

内容：共同調査研究の背景説明及び調査研究企画書案の審議

【第2回委員会】

日時：令和3年（2021年）12月13日 10:00 - 12:00

場所：愛荘町役場秦荘庁舎2階大会議室（及び Web 会議）

内容：報告（事例視察、町民アンケート調査分析、関係団体ヒアリング調査、検討案）
及び各報告に対する議論

【第3回委員会】

日時：令和4年（2022年）2月15日 13:30 - 15:30

場所：愛荘町立ハーティーセンター秦荘 中ホール（及び Web 会議）

内容：検討案に対する意見及び調査研究報告書案の審議

第1章 愛荘町の現状と課題

第1章 愛荘町の現状と課題

1. 地勢、人口等

(1) 位置・地勢

愛荘町は、琵琶湖の東部・湖東地域に位置し、東西約13キロメートル、南北約6.9キロメートル、総面積は37.97平方キロメートルで滋賀県全体の約1%を占めている。標高は、最も高い南東部で約700メートル、低い北西部で95メートル、鈴鹿山系の山麓から西に広がる洪積丘陵と扇状地が湖東平野の一部を形成しており、南には一級河川愛知川が、中央部には一級河川宇曾川や岩倉川が流れている。

図表 1-1 愛荘町の位置



(出典：愛荘町ホームページ)

(2) 自然環境

鈴鹿山系からの豊かな清水と自然に恵まれ、平成の名水百選に認定される「山比古湧水」など、古くから水との関わりが深く、田畑が町域の約4割を占めている。この美しい自然環境が、農業を始めさまざまな産業を発展させてきた。おだやかな風が吹き、青い空が広がる春、太陽の光を受けて深緑のみどりがまぶしい夏、田園風景が小麦色に染まる秋、鈴鹿の尾根が白い雪をまとう冬。彩り豊かな自然と、美しい水辺空間がまちを囲んでいる。

(3) 公共交通

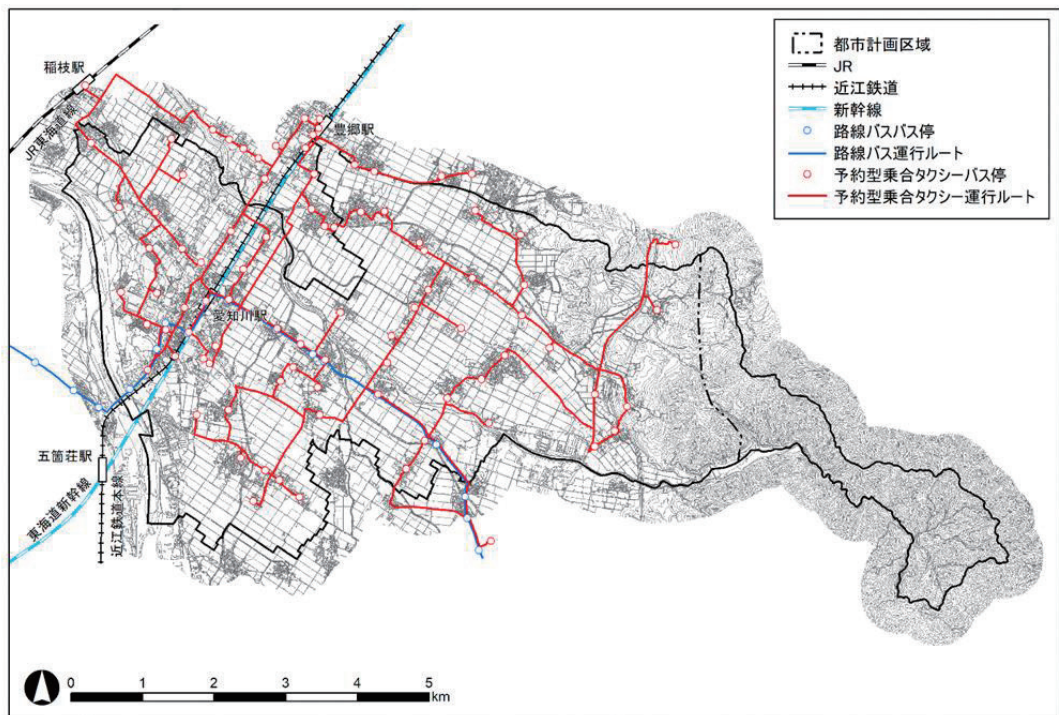
町内の公共交通として、近江鉄道本線が運行され、愛知川駅が立地している。また、近江鉄道バス、予約型乗合タクシー（愛のりタクシーあいしょう）が運行されている。

図表 1-2 公共交通路線及び運行本数

種別	路線名	町内の主な駅・バス停名 ()内は町外	運行本数 (平日・片道)
鉄道	近江鉄道本線 (湖東近江路線)	愛知川駅	25 本/日
路線バス	近江鉄道バス角能線	愛知川駅	14 本/日
予約型 乗合タクシー	愛のリタクシーあいしょう (金剛輪寺線、愛荘西部線)	愛知川庁舎、秦荘庁舎 愛知川駅、(豊郷駅)	14 本/日 (予約があった 便のみ運行)

(出典：愛荘町資料及び各交通機関資料)

図表 1-3 公共交通網図



(4) 歴史文化、伝統

この地域は古くから開けた土地で、古代の渡来系氏族「依智秦氏（えちはたうじ）」ゆかりの古墳群のほか、条里制による土地制度の遺構が多く残されている。湖東三山として知られる金剛輪寺は聖武天皇の勅願により行基が開山、また、近世には中山道 65 番目の宿場として愛知川宿が栄えたほか、明治には郡役所や警察などの官公署が置かれ、近江鉄道が開通するなど、古くから地方の中心として発展した。

1955 年、昭和の大合併では秦川村と八木荘村が合併して秦荘町に、また愛知川町と豊国村が合併して愛知川町となり、この秦荘町と愛知川町が 2006 年に合併し愛荘町が誕生した。

交通の要衝として発展してきた愛荘町には、自然環境の豊かな恵みを活かした「秦荘のやまいも」や「近江上布」、「愛知川びん細工手まり」などさまざまな特産品・工芸品が、伝統の技とともに今に受け継がれている。

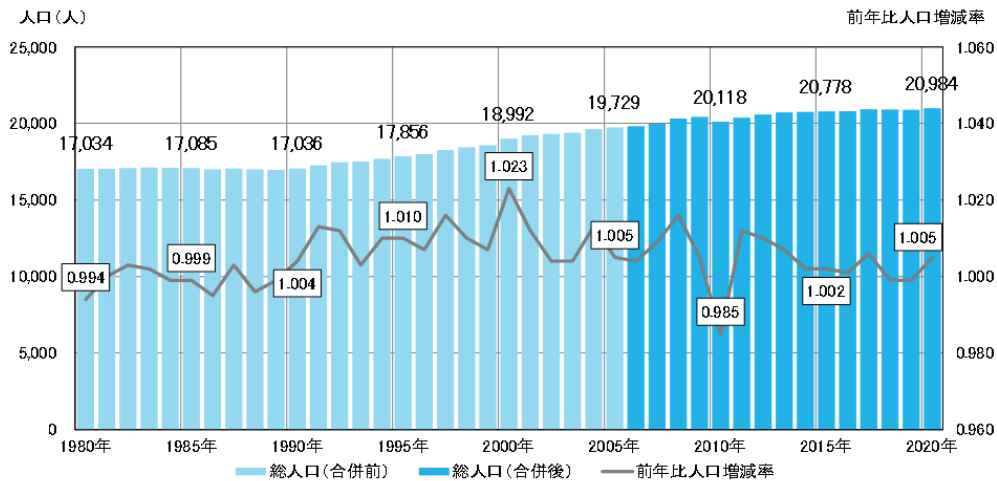
(5) 人口動態

ア 人口および世帯数の推移

愛荘町の人口の推移をみると、1980年（昭和55年）代は概ね17,000人前後で推移しているが、1990年（平成2年）以降、第2次産業を中心とした優良企業の進出による工業団地の形成等を契機に、急速に人口は増加している。

2006年（平成18年）の旧秦荘町・旧愛知川町の合併以降も、2010年（平成22年）を除いて人口は増加傾向だが、近年は微増から現状維持となっている。

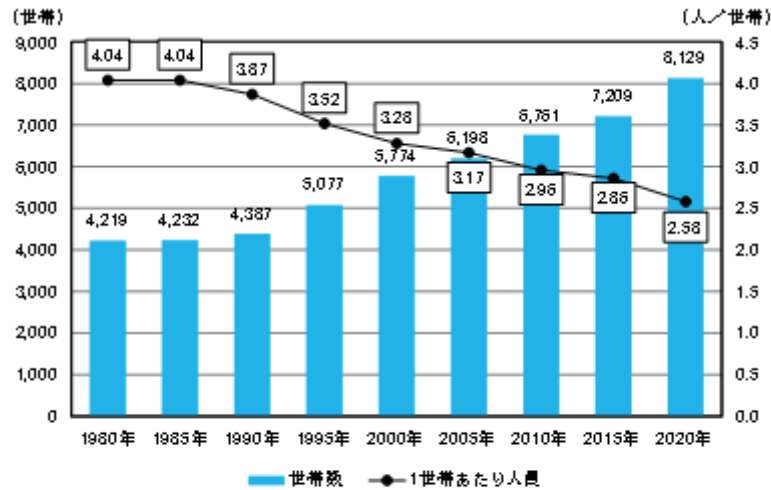
図表 1-4 総人口の推移（1980年（昭和55年）～2020年（令和2年））



※1980～国勢調査年は国勢調査の結果を、その間の時点における人口は滋賀県人口推計による。
(出典：国勢調査、滋賀県推計人口年報・月報)

1980年（昭和55年）以降の世帯数の推移をみると、1990年（平成2年）以降、世帯数は大きく増加している。その結果、1世帯あたりの人員は、1980年（昭和55年）に4.04人/世帯であったが、2020年（令和2年）には2.58人/世帯に減少している。

図表 1-5 世帯数および1世帯あたり人員の推移



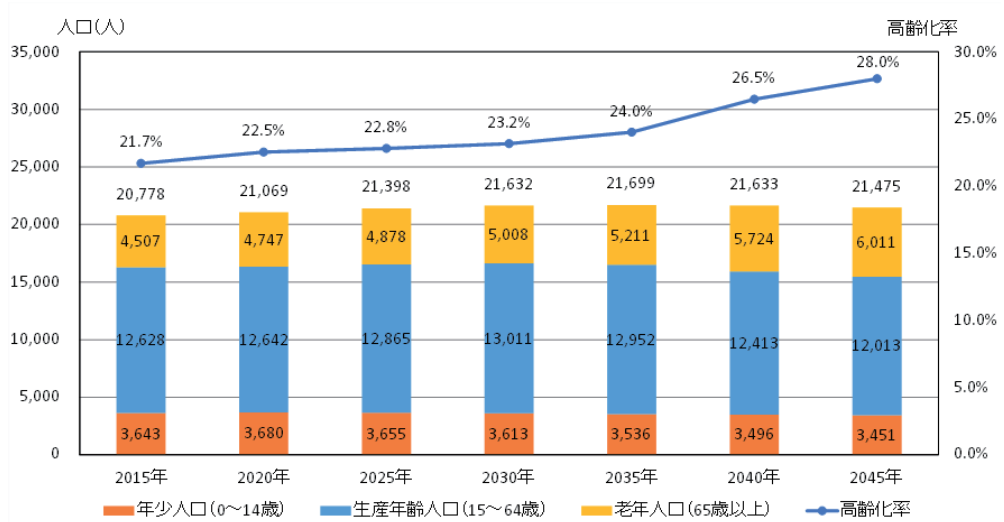
(出典：国勢調査（2015年以前）、滋賀県推計人口月報（2020年）)

イ 将来人口

愛荘町の将来人口の推移をみると、人口に大きな変化はみられないものの、2035年（令和17年）をピークとして減少に転じ、年齢3区分別にみると、年少人口と生産年齢人口は減少し、老年人口は増加することが想定される。

高齢化率は、2035年（令和17年）以降急激に増加し、2015年（平成27年）の21.7%から2045年（令和27年）には28.0%に増加すると推定されている。

図表 1-6 将来人口の推移

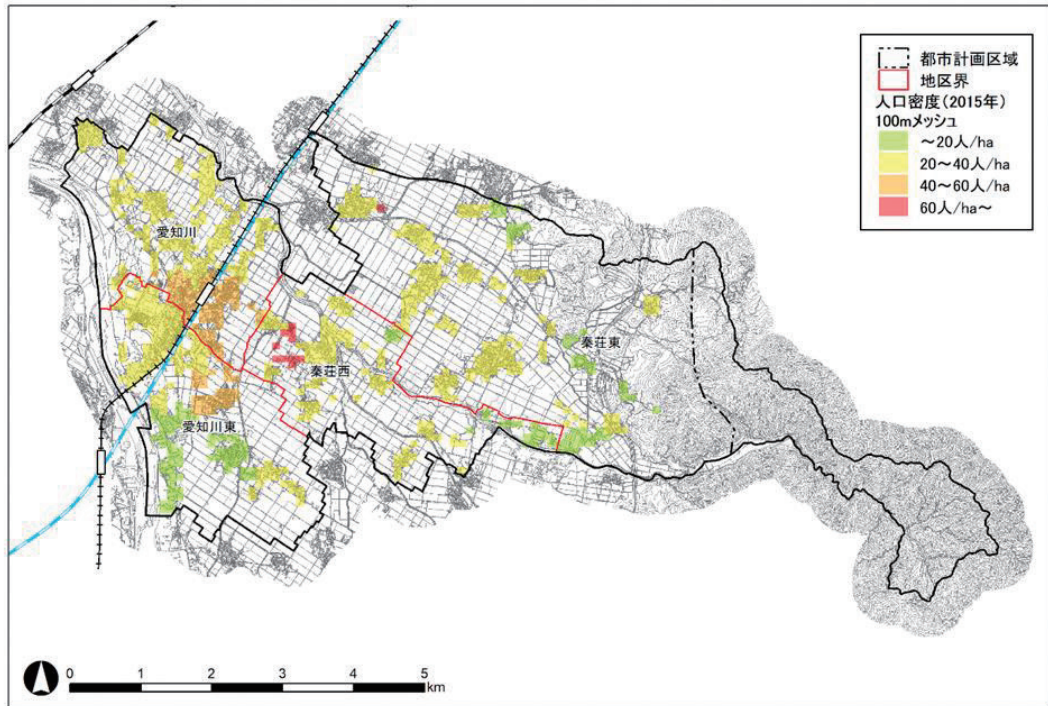


(出典 2015年：国勢調査、2020年以降：日本の地域別将来推計人口（2018年（平成30年）推計）)

総人口の分布状況を見ると、2015年（平成27年）から2040年（令和22年）の間に、愛知川駅周辺で増加、駅から離れた町東部では減少している。

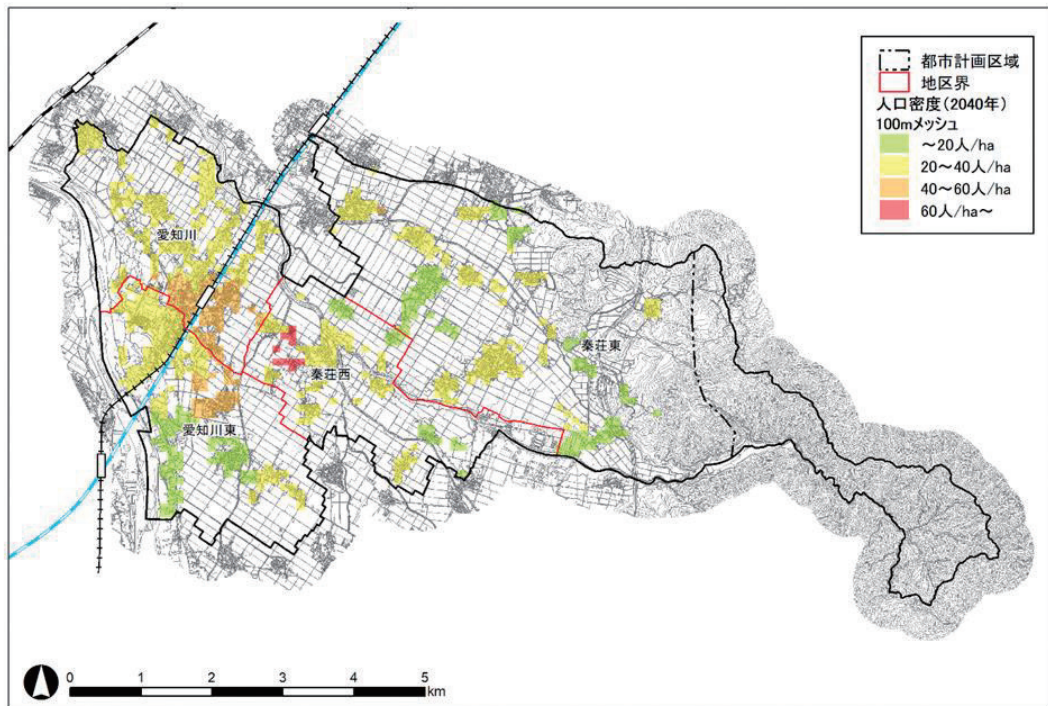
高齢化率の分布状況を見ると、2015年（平成27年）から2040年（令和22年）の間にほぼ全域で高齢化率が増加している。

図表 1-7 総人口の分布状況（2015年（平成27年））



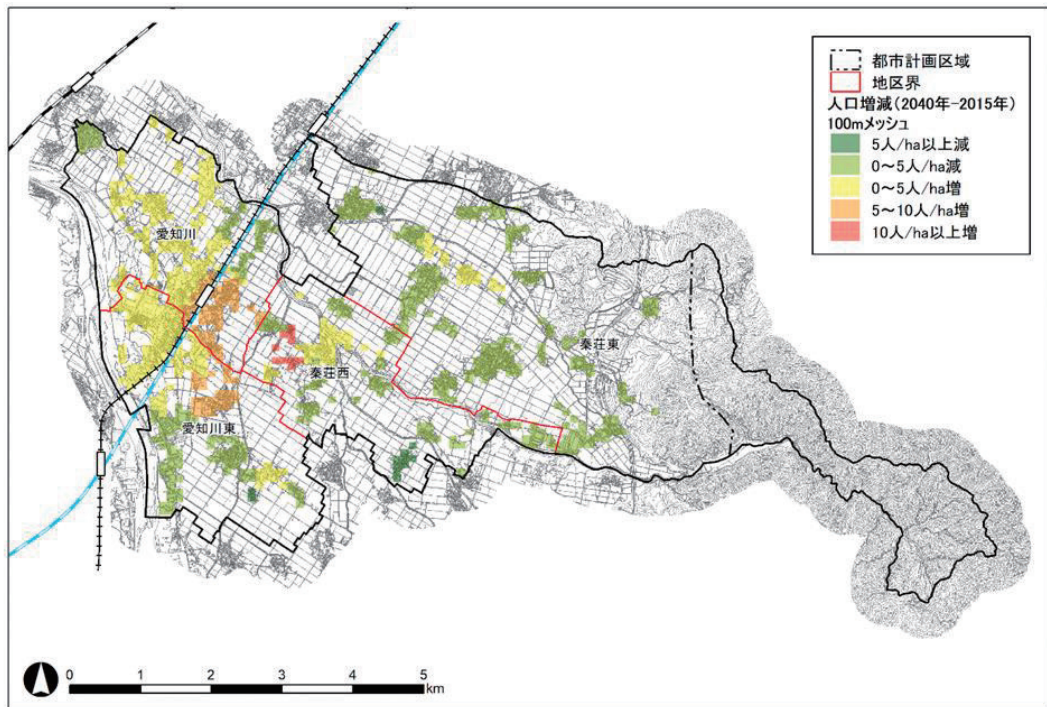
（出典：将来人口・世帯予測ツール V2（国総研）により国勢調査人口を 100m メッシュに配分）

図表 1-8 総人口の分布状況（2040年（令和22年））

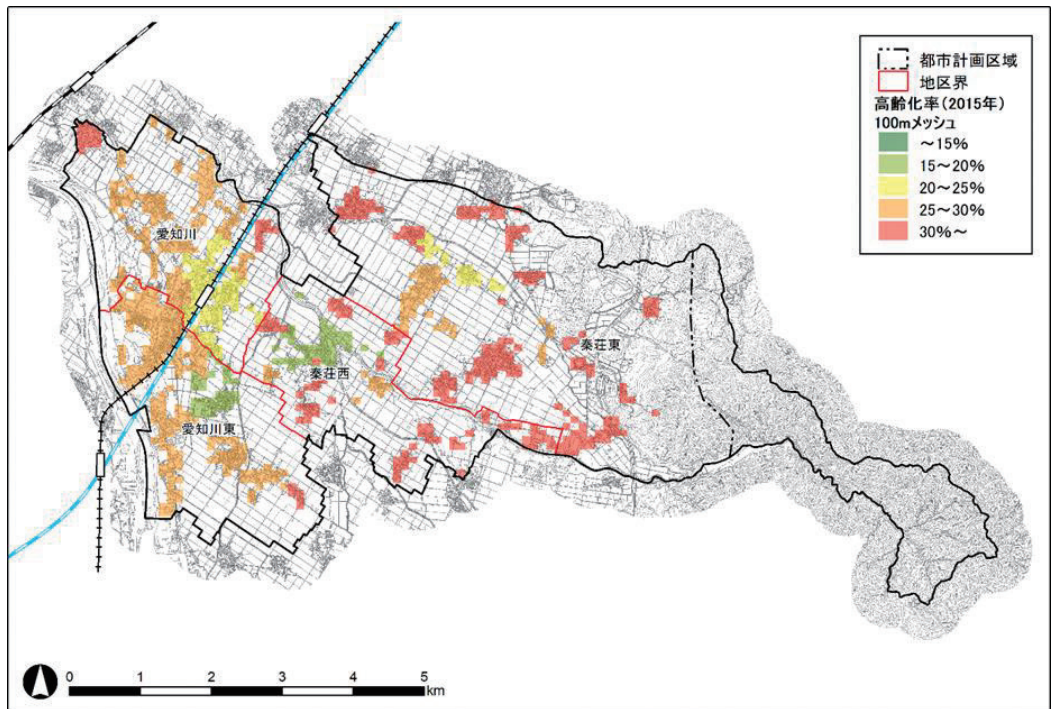


（出典：将来人口・世帯予測ツール V2（国総研）により社人研準拠で算出）

図表 1-9 総人口の差分状況 (2040年(令和22年) - 2015年(平成27年))

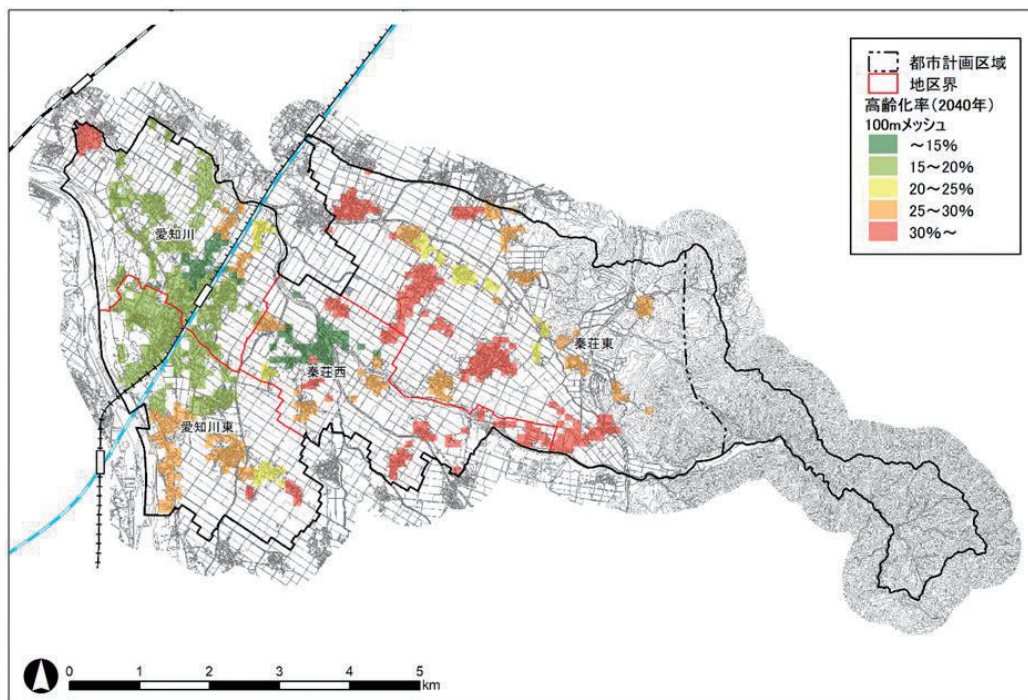


図表 1-10 高齢化率の分布状況 (2015年(平成27年))



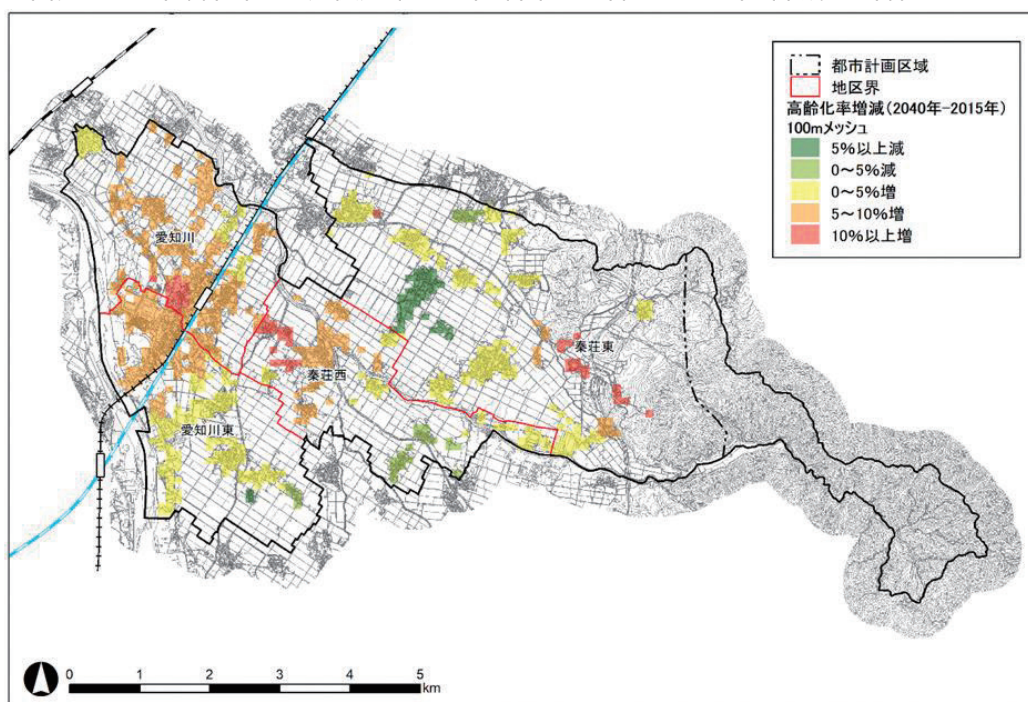
(出典：将来人口・世帯予測ツール V2 (国総研) により国勢調査人口を 100m メッシュに配分)

図表 1-11 高齢化率の分布状況（2040年（令和22年））



（出典：将来人口・世帯予測ツール V2（国総研）により社人研準拠で算出）

図表 1-12 高齢化率の差分状況（2040年（令和22年）－2015年（平成27年））

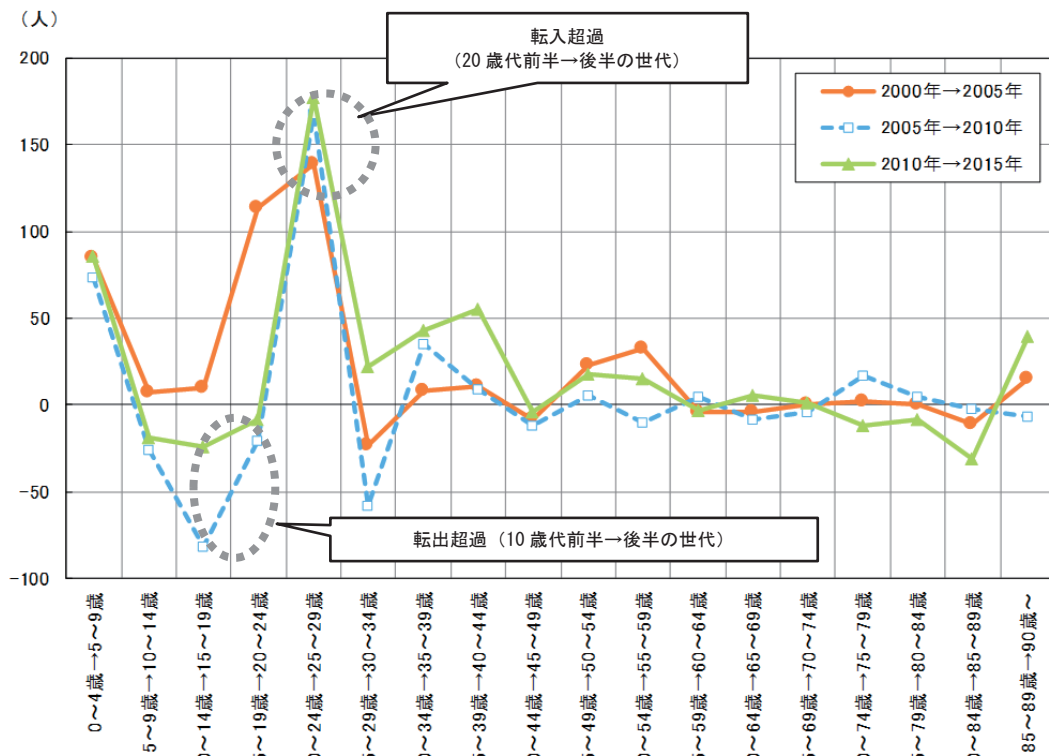


ウ 年齢階級別の人口移動状況

2000年（平成12年）から2015年（平成27年）にかけての年齢階級別人口の移動状況を見ると、20歳代前半→後半の世代の転入超過の傾向が一貫して続き、愛荘町の社会増に大きく影響を与える状況となっている。一方で、10歳代前半→後半の世代は転出超過の傾向が近年続いており、若年層の転出が目立つ状況となっている。

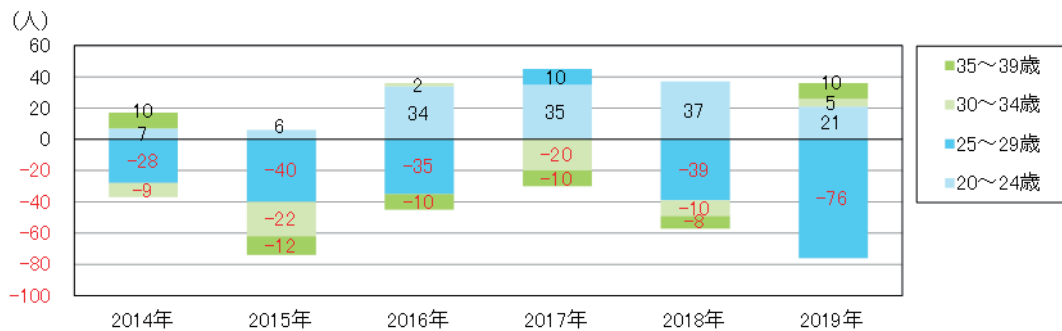
20歳代～30歳代の詳細をみると、20歳代前半の年代で転入超過の傾向となるものの、20歳代後半～30歳代では転出超過の傾向が目立つ状況となっている。

図表 1-13 年齢階級別の人口移動状況



(出典：国勢調査、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成)

図表 1-14 20歳代～30歳代の人口移動状況の推移



(出典：住民基本台帳人口移動報告)

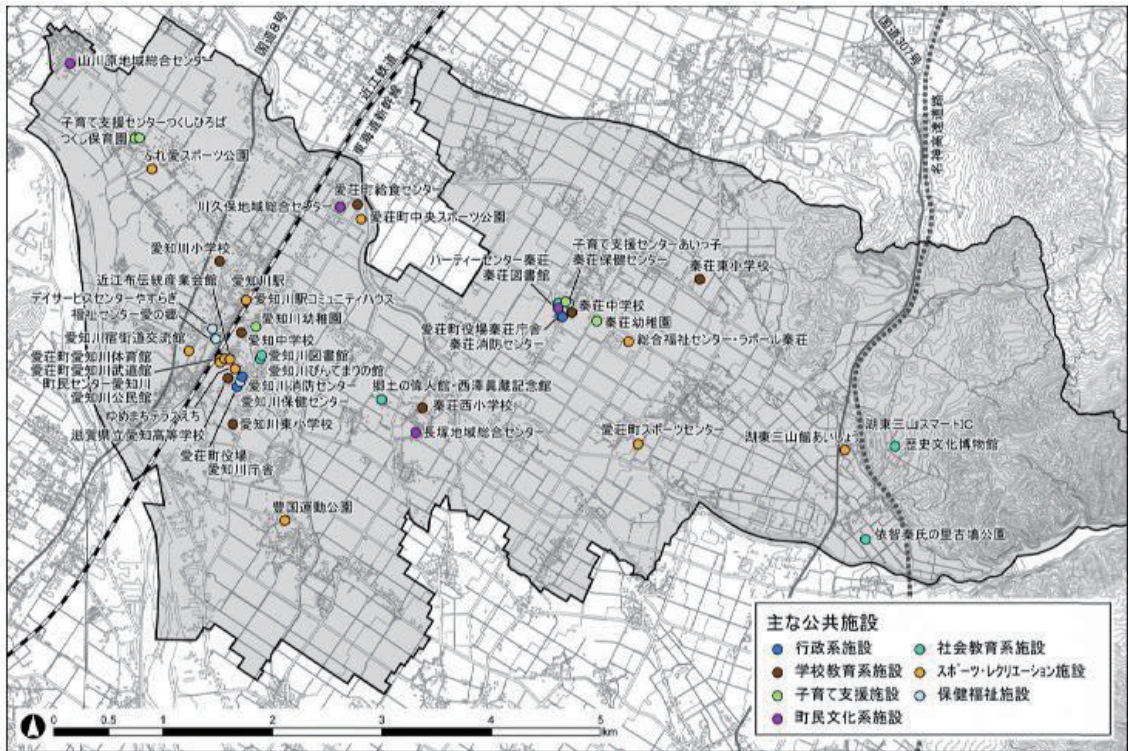
(6) 公共施設の保有状況

愛荘町域内の文化芸術（生涯学習）に関連した施設を以下に掲載する。

図表 1-15 愛荘町域内の主な公共施設

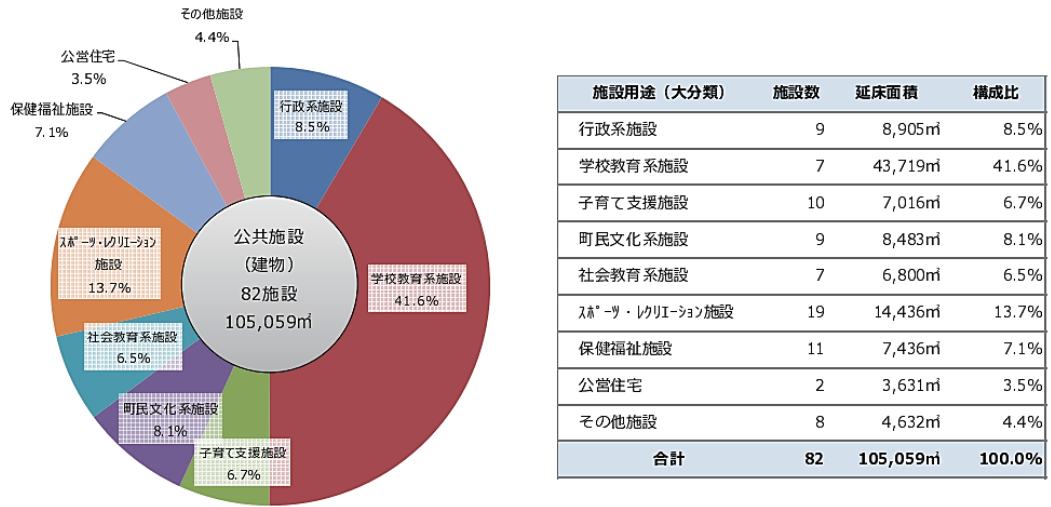
ジャンル	施設名称	ジャンル	施設名称
ホール・コミュニティセンター	愛荘町立ハーティーセンター秦荘	スポーツ施設	宇曽川グラウンドゴルフ場
	愛荘町立町民センター愛知川		はつらつドーム
	愛荘町立愛知川公民館		けんこうプール
	愛荘町立長塚地域総合センター		保愛運動場
	愛荘町立川久保地域総合センター		山川原運動場
	愛荘町立山川原地域総合センター		
スポーツ施設	愛荘町スポーツセンター	図書館 資料館	愛荘町立秦荘図書館
	愛荘町ふれ愛スポーツ公園		愛荘町立愛知川図書館
	愛荘町愛知川武道館・愛荘町愛知川体育館		愛荘町立愛知川びんてまりの館
	愛荘町中央スポーツ公園		愛荘町立歴史文化博物館
			郷土の偉人館・西澤真蔵記念館

図表 1-16 主な公共施設の位置



(出典：愛荘町公共施設(建物)個別施設計画(第I期) (2019年3月))

図表 1-17 類型ごとの保有状況

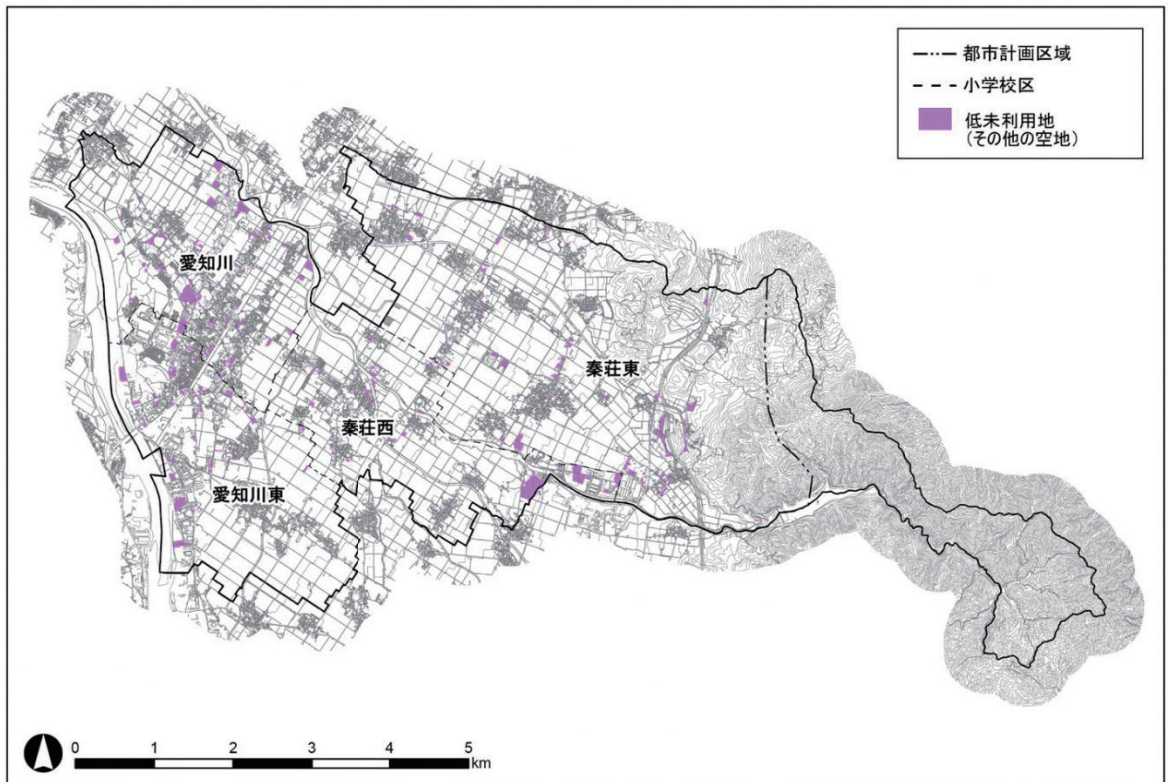


(出典：愛荘町公共施設等総合管理計画 (平成 29 年 3 月))

(7) 小学校区

町内には、秦荘東小学校、秦荘西小学校、愛知川小学校、愛知川東小学校の 4 つの町立小学校があり、それぞれの小学校区の位置は以下の図の通りである。

図表 1-18 愛荘町の小学校区



2. 町内の地域資源の概要

愛荘町は、愛知川びん細工手まりなどの伝統文化品をはじめ多くの文化芸術資源を有している。以下、主な地域資源を以下に示す。

(1) 文化的芸術や伝統工芸品など

繊細で美しい「愛知川びん細工手まり」は平成 23 年に滋賀県伝統的工芸品に指定された。「丸くて（家庭円満）、中がよく見える（仲良く）」と、新築や結婚祝いの贈り物に喜ばれている。また、「近江上布」は昭和 52 年、絣、生平が国の伝統的工芸品に指定されている。近江上布の絣は伝統的な染色技法「櫛押捺染」「型紙捺染」と先染めに特徴がある。近江上布の生平は高宮布と同じ原料である大麻を使い、江戸時代とほぼ変わらない技術や工程によって織られている。愛荘町にはほかにも江戸時代の中頃より愛知川の良質な水を利用してつくられてきた「愛知川太鼓」やむら芝居などがあげられる。

図表 1-19 びん細工手まり（左）と近江上布（右）



(出典：愛荘町ホームページ)

(2) 寺社仏閣

参道の千体地蔵に迎えられる「松峰山金剛輪寺」は「奈良の大仏さま」を建立された聖武天皇の勅願により、行基菩薩が天平 13 年(741)に開山された天台の巨刹である。大悲閣本堂は檜皮葺、入母屋の鎌倉時代を代表する和様建造物として国宝に指定されている。また、「豊満神社」は境内にある竹を切って旗ざおにすると戦いに勝つと言われているため、源頼朝をはじめ多くの武将が豊満神社の竹で旗ざおを作ったと伝えられている。また、鎌倉時代後期に建立された四脚門は入母屋造りこけら葺きで国の重要文化財に指定されている。ほかにも仏心寺には鎌倉時代作で右手に矢を持った木造菩薩で重要文化財に指定されている矢取地蔵尊を安置している。

「今昔物語」や「矢取地蔵縁起絵巻」など、先祖から受け継がれた伝説を持つ地蔵尊である。このように歴史的な寺社仏閣が多くある。

図表 1-20 金剛輪寺



図表 1-21 豊満神社



(出典：愛荘町ホームページ)

(3) 史跡・遺産

愛知川宿は中山道 65 番目の宿場町として設置され、河川愛知川の川止宿として繁栄した。江戸期は、伊勢から多賀大社への参詣のため通行した春日局をはじめ、多くの人が往来した。また約 100 年前の大正 11 年に建てられた旧愛知郡役所は、近代化のシンボルとして長い歴史を刻んできたが、平成 30 年 9 月に保存工事が完了し、大正時代の風情を感じることができる地域のシンボルとして新たに「ゆめまちテラスえち」として生まれ変わった。ほかにも目加田城址など多くの史跡・遺産が存在する。

図表 1-22 旧愛知郡役所（ゆめまちテラスえち）



図表 1-23 中山道愛知川宿



(出典：愛荘町ホームページ)

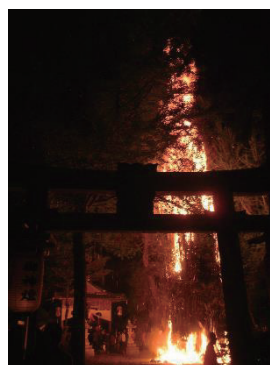
(4) 伝統行事や町のイベント

祇園納涼祭花火大会は明治初期に祇園神社の祭礼として始まり、湖東地域では最も古い歴史を誇る花火大会である。また、江戸時代の草刈場相論で命を落とした義民や戦死者を弔う勇壮な御崎神社の火祭りなどがあげられる。

図表 1-24 祇園納涼祭花火大会



図表 1-25 御崎神社の火祭り



(出典：愛荘町ホームページ)

(5) 豊かな自然

鈴鹿山系の山裾、宇曾川の源流にほど近く、湖東流紋岩帯（秦荘石英斑岩）を通過して出てくる「山比古湧水」は平成の名水百選選ばれるなど町内には豊かな水源が存在する。ほかにも春桜の名所である古代の渡来系豪族である「依智秦氏ゆかりの古墳群」は、例年4月ごろになると公園一帯が桜で彩られる。

図表 1-26 依智秦氏の里古墳公園の桜



図表 1-27 平成の名水百選「山比古湧水」



(出典：愛荘町ホームページ)

(6) アーチェリー競技

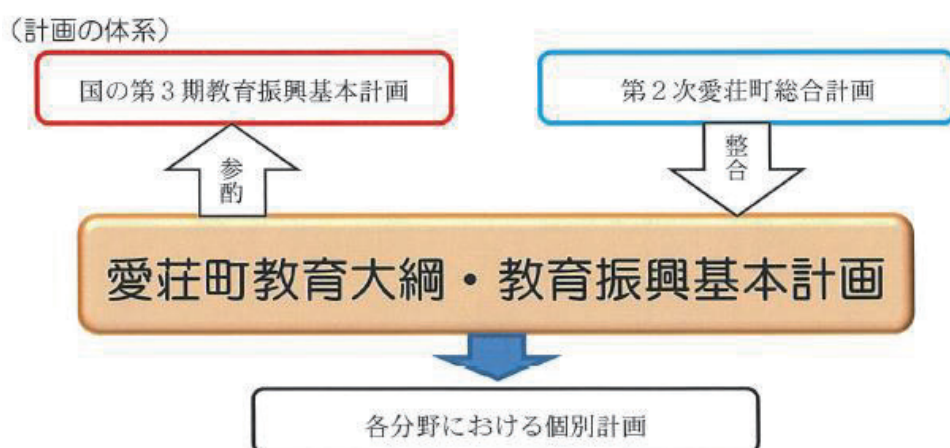
昭和 56 年（1981 年）、滋賀県で開催された第 36 回国民体育大会（びわこ国体）と全国障害者スポーツ大会の前身である第 17 回全国身体障害者スポーツ大会（びわこ大会）においてアーチェリー競技の開催地であった。このような歴史から町のスポーツ振興の中核として位置づけているアーチェリー競技の普及・啓発に努めている。さらに令和 7 年（2025 年）、滋賀県で開催される第 79 回国民スポーツ大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会においてもアーチェリー競技会場となっており、アーチェリー教室等を継続して開催し、選手育成に努め、地元出身者の出場を目指している。

3. 愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画

愛荘町教育大綱は、平成27年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改訂され、愛荘町の実情に応じ、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として、平成27年11月（策定された大綱の期間：平成27年度から5か年）に定められた。期間満了を迎え、変化する社会・教育情勢を鑑み、令和2年度から令和6年度の5か年を計画期間とする第2期教育振興基本計画が策定された。

この第2期教育振興基本計画は、愛荘町総合計画に準じた5つの教育の視点、3つの教育の方向性と9つの目標で構成されている。

図表 1-28 愛荘町教育大綱の位置づけ



(出典：愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画)

第2次愛荘町総合計画では、めざすべき“10年後のまちの姿”を「愛着と誇り。人とまちが共に輝く みらい創生のまち。」と定めており、それにのっとり、教育の基本方針を以下のように定め、同じく総合計画にある「つながり」「こころざし」「にぎわい」「やすらぎ」「かがやき」をキーワードに今後10年を見通した5つの視点、3つの教育の方向性、9つの目標が定められた。

図表 1-29 教育の基本方針

＝人が輝き 人が育つ 未来を拓く 愛荘の教育＝

(出典：愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画)

図表 1-30 5つの教育の視点

つながり	人権を尊重する上で重要な理念であり、これからの時代の真の幸福を考える中では、年代その他を問わず誰にとっても不可欠のものであると考えます。
こころざし	学びの原動力である、夢・志・理想を語ることは、「*学欲」を生み、その「学欲」は「学力」につながります。こうしたことからキャリア教育*の充実が求められます。
にぎわい	人が育ち合う場面で、対話や交流を繰り返すことは、物事の本質を掘り下げ、深い学びへと到達します。それは、学校園教育・社会教育ともに当てはまるものであります。
やすらぎ	安全・安心をベースにすることで、豊かに心身を育むことができます。教育によって「やすらぎ」を覚えることができれば、それは「うるおい」につながると考えます。
かがやき	全ての人が自身の個性・持ち味・強み・良さ、あるいは可能性といったものを発揮することこそが「人が輝く」ことにつながり、自身や社会の未来を拓くことにつながると確信しています。

(出典：愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画)

図表 1-31 3つの教育の方向性と9つの目標

教育の方向性	教育の目標
夢・こころざし・生きる力を育む	目標1 確かな学力と自立を育む教育の充実
	目標2 豊かな心と健やかな体を育む
	目標3 共生社会の形成
地域で支え合い つながりとやすらぎで豊かな人生を育む	目標4 安全・安心な教育環境の充実
	目標5 魅力と活力のある学校・園づくり
	目標6 家庭・地域社会の教育力向上
人生 100 年時代 かがやき にぎわいのある学び	目標7 生涯学習体系(社会教育・スポーツ)の充実
	目標8 まちじゅう読書の推進
	目標9 歴史文化の継承と芸術文化の振興

(出典：愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画より作成)

目標7「生涯学習体系(社会教育・スポーツ)の充実」では、生涯学習機会の充実や新しい学習機会の提供が、そして、目標9「歴史文化の継承と芸術文化の振興」では、歴史や文化の継承などが挙げられており、本調査研究の目的や成果が寄与できるのではないかと考える。

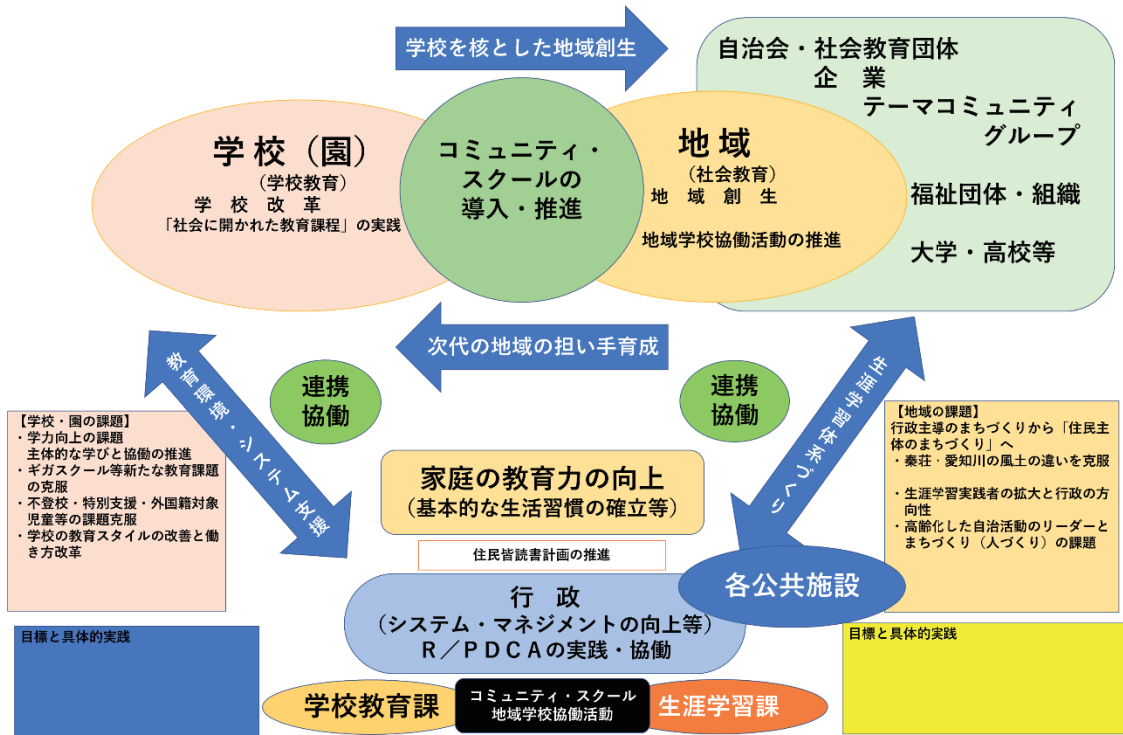
愛荘町教育振興基本計画を策定するに当たり、人生100年時代の生涯学習体系実現のためのシステムづくりとして、以下の図に示す「学びの循環社会の形成」が基本計画の骨組みとして考えられており、学校(園)の課題や地域の課題を解決する上で、学校(園)、地域、行政の連携協働

が重要であり、それらの循環を促進することが、今後の持続可能な生涯学習・社会教育の実現に必要なことが示されている。

図表 1-32 愛荘町教育振興基本計画の骨組み

●愛荘町教育振興基本計画の骨組み

「学びの循環社会の形成」【人生100年：生涯学習体系実現のためのシステムづくり】



4. 町内の生涯学習実績の概要と課題認識

(1) 生涯学習の実績

愛荘町より提出していただいた資料を基に、平成31年・令和元年度に愛荘町で実施・開催された主な生涯学習を以下の図表に示す。

なお、令和2年度に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面を基本とする生涯学習に関しては多くが中止を余儀なくされてしまった。

図表 1-33 生涯学習の実績（愛荘町文化協会）

	事業名	場所	開催日	参加人数
愛荘町文化協会	広報・サークル活動活性化部会	ハーティーセンター秦荘	6月5日	4
	第18回文化協会総合発表会	ハーティーセンター秦荘	7月14日	988
	広報・サークル活動活性化部会	ハーティーセンター秦荘	9月10日	3
	ミドル・シニアのためのスマホ講座	ハーティーセンター秦荘	10月9日・10月10日 10月16日・10月17日 10月23日・10月24日	18
	通学宿舎事業手伝い	秦荘中学校セミナーハウス	11月1日	6
	町外研修会	パナソニックミュージアム 石見神楽なにわ館	11月29日	47
	アウトリーチコンサート①フロアーチャリティーコンサート vol.27	愛知川公民館エントランス	12月17日	47
	清掃ボランティア活動	愛知川公民館 ハーティーセンター秦荘 秦荘武道館	12月4日 12月7日 12月12日	120 (35サークル)
	人権学習会	ハーティーセンター秦荘	2月8日	
	一般事業	北海道歌旅座 昭和のうたコンサート	大ホール	4月29日
第1回ハーティー講談会		中ホール	5月26日	113
第8回お笑い七夕 ハーティー寄席		大ホール	6月15日	264
劇団ポプラ ファミリーミュージカル宝島		大ホール	7月28日	318
第6回近江の歴史文化遺産 景観を描くあじょう絵画展		中ホール	7月27日～8月4日	延べ497
宝くじ文化公演 吉田兄弟×レ・フレールスペシャルコラボコンサート		大ホール	9月1日	415
愛荘町音楽祭2019		大ホール	11月9日	約250
滋賀県アートコラボレーション事業 愛荘むら芝居		大ホール	9月29日	291
二階堂和美コンサートin愛荘町		大ホール	12月24日	146
ハーティーわかあゆライブ!!2020 《新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止》		大ホール	3月1日	—
愛荘町文化協会 指定管理事業	劇団かかし座 長靴をはいたねこ 《新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止》	大ホール	3月21日	—
	フロアーチャリティーコンサートvol.32 シンガーソングライター岡田和宏フロアコンサート	愛知川公民館ホールエントランス	10月6日	69
	フロアーチャリティーコンサートvol.33 BLESS TM レタイン TM が TM コンサート	大ホールエントランス	2月2日	97
	アウトリーチ事業：中学校吹奏楽部への専門家派遣事業	各学校音楽室	7月7日	30
		各学校音楽室	7月15日	28
	アウトリーチ事業：小学生への専門家派遣事業	各学校体育館	10月7日	697
		各学校体育館	10月28日	561

図表 1-34 生涯学習の実績（愛荘町人権教育推進協議会）

	事業名	場所	開催日	参加人数
愛荘町人権教育推進協議会	総会 研修会：地域に支えられ、地域と共に歩む	愛知川公民館 大ホール	5月22日	136
	人権問題研修講座第1回	ハーティーセンター秦荘 大ホール	6月11日	505
	人権問題研修講座第2回	ハーティーセンター秦荘 大ホール	6月26日	358
	人権問題研修講座 リーダー研修	愛荘町役場秦荘庁舎 愛荘町役場愛知川庁舎 愛荘町役場秦荘庁舎	7月18日 7月25日 8月8日	110 24
	第51回愛知・犬上郡人権教育研究大会	甲良町立保健福祉センター	9月1日	51
	じんけんフェスタしが2019	近江八幡市文化会館	9月28日	15
	第63回滋賀県人権教育研究大会(全体会)	栗東芸術会館さくら	10月19日	30
	第63回滋賀県人権教育研究大会(分科会)	なごやかセンター 他5施設	10月20日	
	青少年健全育成・人権教育啓発演劇	ハーティーセンター秦荘 大ホール ハーティーセンター秦荘 大ホール	10月25日 10月26日	497
	先進地視察研修	下京区いきいき市民活動センター (京都市)	11月21日	8
	人権尊重と部落解放をめざす県民のつどい	滋賀県立文化産業交流会館 (米原市)	12月8日	30
	人権を考える町民のつどい※じんけんミニフェスタ同時開催	ハーティーセンター秦荘 大ホール	12月10日	322

図表 1-35 生涯学習の実績（愛荘町体育協会）

	事業名	場所	開催日	参加人数
愛 荘 町 体 育 協 会	町民親善ソフトボール大会	愛知川ふれ愛スポーツ公園	5月12・19日	400
	町親善テニス交流会	中央スポーツ公園 テニスコート	5月26日	42
	愛荘町世代交流ゲートボール大会	はつらつドーム	6月15日	107
	町親善軟式野球大会	ふれ愛スポーツ公園	7月7・14日	176
	スポーツフェスティバル	中央スポーツ公園	9月29日	180
	町親善ソフトバレーボール大会	愛荘町スポーツセンター	10月20日	105
	町親善グラウンドゴルフ大会	中央スポーツ公園 グラウンドゴルフ場 宇首川グラウンドゴルフ場	6月1日 12月7日	91 97
	ふれ愛ウォーク	スポーツセンター周辺	11月6日	219
	滋賀県民体育大会 選手派遣	県内各所	6月～1日	116
	アーチェリー教室		5月～10月	親子13名 中学生以上12
	アーチェリー大会	中央スポーツ公園 アーチェリー場	12月26日	
	教室の部・一般の部			教室 8 一般 5
	テニス大会	中央スポーツ公園 テニスコート	5月～11月	延べ31

(2) 課題認識

前述した愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画において、以下のような項目が、愛荘町の教育に関して主な課題として挙げられている。

図表 1-36 課題の認識

項目	教育・学習に関する課題の認識
少子化・高齢化・人口減少への対応	生涯にわたって住民が主体的に学ぶ機会を創出するなど、まちの原動力となる「ひとづくり」を進め協働のまちづくりを一層推進していく必要がある。
超スマート社会(Society 5.0)の到来	AI の発展によって近い将来多くの職種がコンピュータに代替されるとの指摘がある時代だからこそ、「人と人」と「人と地域」が協働し、人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ、新しい価値を創造する力を育成することが一層重要になってくる。
地域コミュニティの活力低下への対応	これまでの学習で身につけた知識や技能・経験を地域社会での活動に生かし、新しい地域コミュニティづくりに向けた生涯学習の振興を図る必要がある。
人生 100 年時代を見据えたライフステージへの対応	多様な人たちが違いを認め合う関係を築きながら、住民一人一人がその価値観やライフスタイルに応じて、心身共に健康で、生涯にわたり、ワークライフバランスを図りつつ、仕事や地域活動など様々な場面で活躍できる環境づくりをめざしていく必要がある。
グローバル化の進展	「持続可能な開発目標(SDGs)」に則し日本が抱える社会問題や地球規模の問題を自ら発見し、解決できる能力を有したグローバルに活躍する人材の育成が重要。また、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、国内外の様々な場において、外国語でも躊躇せず意見を述べ、他者と交流し、共生していくために必要なコミュニケーション能力などを育成していくことが必要である。
一人一人の人権が尊重される社会の実現	あらゆる差別や偏見に基づく行為は、他人の人権を傷つけるものであり、決して許されないものである。一人一人が、あらゆる人権問題を理解することにより、差別のない社会、人権が尊重される社会の実現をめざす必要がある。
未来を担う子どもを取り巻く環境の変化への対応	急速な技術革新やグローバル化の進展、いじめ・不登校などの喫緊の課題、核家族化や共働き世帯の増加、地域との関わりの希薄化、虐待や貧困の問題など子どもを取り巻く環境が大きく変化している。確かな学力を育む教育の充実や、いじめや不登校などへの対応体制の整備に取り組むとともに、子どもの発達段階に応じた切れ目のない支援や、社会的支援の必要性の高い子どもや、その家族の状況に応じたきめ細かい支援が必要である。
主体的・対話的で深い学びへの転換	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの改善が求められており、「確かな学力」と「読み解く力」の育成を目指し「分かる」、「できる」喜びを実感できる環境づくりを行い、「学欲」を育む学習活動、「こころざしの教育・キャリア教育」の実践が必要。「まちじゅう読書の宣言」から町民総ぐるみで「減メディア・親読書」運動を推進し、読書に焦点を当てた取組を行い、「読み解く力」を育む基盤づくりをめざす必要がある。
ICT の活用などによる学力向上への取組	次代を生き抜く子どもたちの教育環境の質的向上を図るため、国の「GIGA スクール構想」に基づき、令和2(2020)年度において全ての児童・生徒に端末を配備した。今後は、デジタル教科書や電子ドリル教材の導入など先端技術の活用を図りながら、教員の研修と授業の改善に取り組まなければならない。
いじめの防止と早期解決に向けた対応	学校・園におけるいじめ防止などの対策を実効的に行うため「愛荘町いじめ未然防止対策協議会」を設置しており、こうした関係機関と連携・協働し着実に対応していく必要がある。
不登校児童・生徒への支援	教育機会確保法に掲げる基本理念を実現するため、登校しやすい学校づくりを進めるとともに、個々の児童・生徒の状況に応じて、ICT を活用した相談や学習など多様な支援をより強力に進める必要がある。
子どもの貧困問題への対応	子ども一人一人が心身共に健やかに成長でき、夢や希望を持つことができるよう、子どもの貧困対策を総合的に推進することが求められており、経済的な負担軽減や学習支援、相談支援などの施策を推進するとともに、教育と福祉の連携、地域や関係機関などとの連携により、支援を必要とする家庭をより早期に把握し、適切な支援につなげていく必要がある。

第2章 国内の動向

第2章 国内の動向

1. 全国の生涯学習を取り巻く状況

「人生 100 年時代」や「超スマート社会(Society 5.0)」など国内における社会の大きな転換点を迎えている。文部科学省では令和 2 年度文部科学白書¹の中で「国民一人一人の生涯を通じた学習の支援」を掲げ、生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それを生かして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現のための取組を推進している（図表 2-1）。

図表 2-1 生涯学習社会の実現に向けた取組

社会人の学びの推進	(1)社会人の学び直し(リカレント教育)の充実
	(2)高等教育機関における社会人の学ぶ環境の整備
障害者の生涯を通じた学習の支援	—
専修学校教育の振興	—
多様な学習機会の提供	(1)放送大学の充実・整備
	(2)大学、専修学校における学習機会の提供
	(3)公民館等社会教育施設における学習機会の提供
	(4)社会通信教育
	(5)民間教育事業者、NPO 法人等との連携
学習成果の評価・活用	(1)学校外における学修の単位認定
	(2)高等学校卒業程度認定試験
	(3)大学改革支援・学位授与機構による学位授与
	(4)検定試験の質の向上等

(出典：文部科学省、令和 2 年度文部科学白書 第 2 部第 3 章より作成)

また、当該白書の中では、少子化対策や高齢社会への対応、人権教育、児童虐待、子どもの貧困対策など、現代的・社会的な課題に対応した学習等の必要性和同時に、社会教育の振興と地域全体で子どもを育む環境づくりについて触れられており、今後の社会教育の在り方として、「人口減少や高齢化をはじめとする急速な社会経済環境の変化や取り組むべき課題の複雑化の中であって、住民の主体的な参加による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、社会教育はこれまで以上にその役割を果たすことが期待」と記述され、以下の平成 30 年の中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」の以下の取りまとめが引用されている。

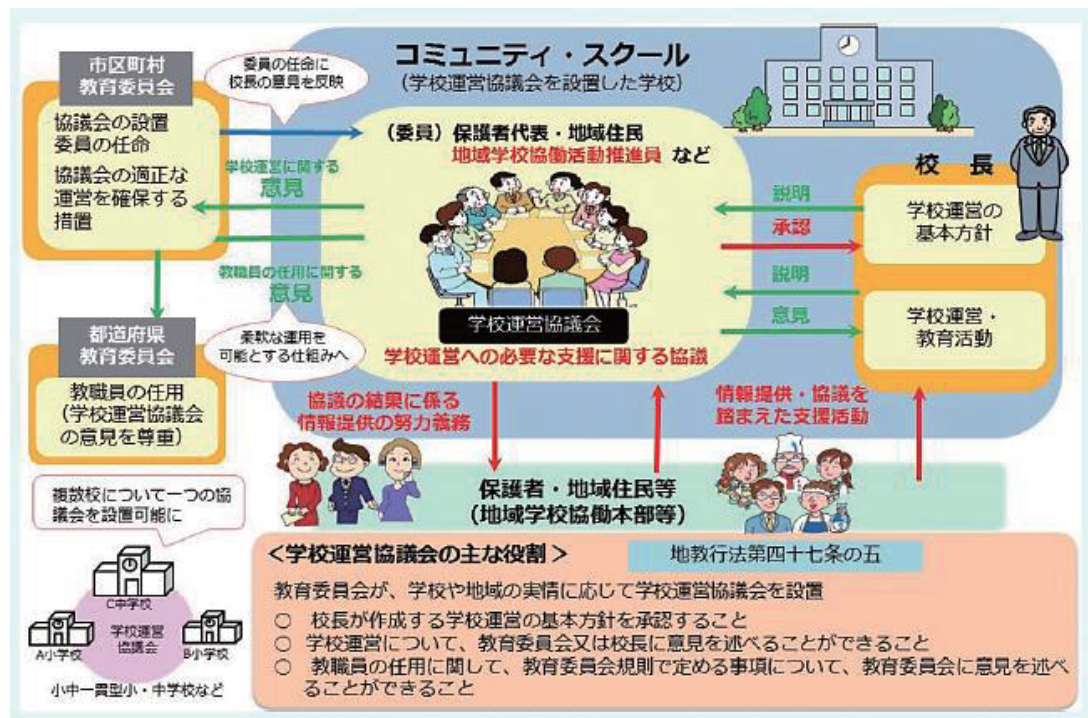
- 今後の社会教育の在り方として、人口減少やコミュニティの衰退を受けて、住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中、「『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」が一層重要
- その上で、新たな社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育」を提示

1 文部科学省、令和 2 年度 文部科学白書 第 2 部第 3 章 生涯学習社会の実現、
https://www.mext.go.jp/content/20210720-mxt_oseisk01-000016965_2-3.pdf

文部科学省では、「社会教育主事養成の見直しに関する基本的な考え方について」（平成 29 年 8 月社会教育主事養成等の改善・充実に関する検討会）等の提言内容を踏まえ、社会教育主事講習及び社会教育主事養成課程の科目の改善を図ることとし、「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令」（平成 30 年文部科学省令第五号）を平成 30 年 2 月 28 日に公布し、令和 2 年 4 月 1 日から施行されている。学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る科目である「生涯学習支援論」と、多様な主体と連携・協働を図りながら学習成果を地域課題解決等につなげていくための知識及び技能の習得を図る科目である「社会教育経営論」を習得した「社会教育士」を育成し、地域学校協働活動の推進や社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習を支援する活動を通じて、人づくりや地域づくりに関する活動に積極的に携わっていくことや、首長部局、NPO や大学、企業等においても広く活用され、教育委員会に置かれる社会教育主事を中心とした社会教育行政の連携体制の構築を推進している。

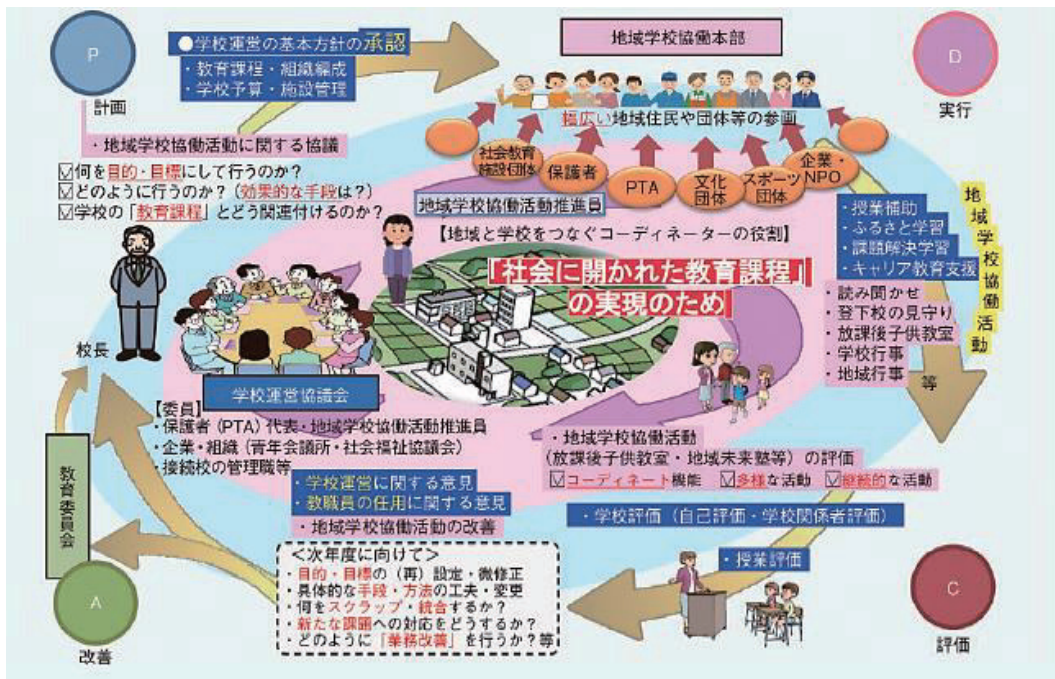
また、文部科学省では、地域と学校の連携・協働のための仕組みとして、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の導入を推進しており、全ての公立学校に学校運営協議会が設置されることを目指している（図表 2-2 及び図表 2-3）。

図表 2-2 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み



(出典：文部科学省、令和 2 年度文部科学白書 第 2 部第 3 章)

図表 2-3 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



(出典：文部科学省、令和2年度文部科学白書 第2部第3章)

第10期中央教育審議会生涯学習分科会では、今後の生涯学習・社会教育の在り方や具体的な推進方策を、令和2年9月に「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」²を取りまとめた(図表2-4)。その中でも、新しい時代の生涯学習・社会教育の広がりや充実に向けた基本的な考え方に、「新しい時代の学びの在り方」、「命を守る」生涯学習・社会教育」と共に「学びを通じた地域づくり」の必要性を説いている。

² 中央教育審議会生涯学習分科会、第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理、令和2年9月

図表 2-4 第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（概要）

第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育
～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ～

1. 生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題

社会的包摂の実現

- ・地域の多様な人たちが相互に理解し合い共生できる環境をつくっていく上で、社会教育は極めて重要な役割を果たすことが期待されている。
- ・様々な理由で困難を抱える人たちに、知識や技能を習得する機会を充実するなど、社会教育における学習機会の拡充が重要。

人生100年時代と生涯学習・社会教育

- ・マルチステージの人生においては、必要な時に必要な学びを通じ成長し、心身の健康を保持しながら活動できることが求められる。また、職場や職種の転換を経験する機会も増える可能性が高まるため、必要な資質・能力等を更新できる学びの場が重要。

Society 5.0に向けたこれからの生涯学習・社会教育

- ・時間的・空間的な制約を超えた学びなど、新しい技術を活用した様々な学びの在り方が可能になる。
⇒新しい技術を活用した学びの利点を最大限生かし、取組を更に充実・発展していくことが求められる。
- ・ICT機器を利用できる者とできない者の格差（デジタル・ディバイド）の解消は、住民の安全や命を守ることにもつながる。

地域活性化の推進

- ・地域における豊かな学びを推進するためには、多様な主体が連携・協働し共に学び合うことが求められる。

子供・若者の地域・社会への主体的な参画と多世代交流の推進

- ・子供・若者が地域の課題解決に主体的に関わることは、主権者意識の涵養にも資するものであり、よりよい社会を創っていく資質・能力を育む上で重要。社会教育・学校教育という区分を超えて充実を図るべき。

2. 新しい時代の生涯学習・社会教育の広がりや充実に向けて

新しい時代の学びの在り方

- ・いわゆる講義形式で知識をインプットする「学び」だけでなく、疑問を持ち、課題を見つけ、考えを発信し、他者と共に考え、新たな考えを創造するといったことも「学び」の重要な要素となる。
- ・様々な背景を有する多様な世代の人たちがつながり、共に学び合うことにより、新たなアイデアが生まれ課題解決につながることや、他者を理解し、受け入れ、共生する社会の実現につながることを期待される。
- ・新しい技術を活用した「オンラインによる学び」と「対面による学び」の組合せで学びが更に豊かなものになる。

「命を守る」生涯学習・社会教育

- ・新型コロナウイルス感染症や自然災害などの課題に対し、必要な知識を得たり課題解決に向けて共に学び合ったりする機会の充実、あらゆる人々の「命を守る」ことに直結する。
- ・「誰一人として取り残さない」包摂的な社会の実現のため、様々な人たちに必要な学びの機会を設けることが重要。
⇒学びを通じて人々の生命や生活を守る「命を守る」生涯学習・社会教育という視点が今後ますます重要。

推進のための方策

学びの活動をコーディネートする人材の育成・活用

- ・社会教育士の取組事例や成果を具体的に紹介し、多様な場での活躍を促進していくこと。
- ・多様な人材が社会教育主事講習を受講できるよう、オンライン等による受講機会の確保などの条件整備が求められる。

新しい技術を活用した「つながり」の拡大

- ・MOOCや放送大学などの積極的な活用をこれまで以上に推進していくこと。
- ・社会教育施設におけるICT環境の整備推進のため、既存財源の活用や企業との協同等の創意工夫を凝らした取組を促進すること。
- ・デジタル・ディバイド解消のため、社会教育施設等でのICTリテラシーを身に付ける学習機会を充実すること。

学びと活動の循環・拡大

- ・生涯学習の分野におけるICT等を活用した学習履歴の可視化について推進方策を検討すること。
- ・より多くの人たちが自主的に学びの活動に参画するような工夫として、ボランティア活動をポイント化し、それを地域での購買や学校等への寄附に利用できるようにするといった特色のある取組を推進していくこと。

個人の成長と社会の発展につながるリカレント教育の推進

- ・大学や専門学校等と産業界が連携した実践的な教育プログラムを開発・拡充すること。
- ・大学や専門学校等における遠隔授業のリカレント教育への活用を積極的に推進すること。

各地の優れた取組の支援と全国展開

- ・先進的な事例等のわかりやすい形での情報提供や、関係者がノウハウ等を共有する機会を充実すること。

（出典：中央教育審議会生涯学習分科会、
第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理、令和2年9月）

この中央教育審議会生涯学習分科会の「議論の整理」(令和2年)では、以下のように述べられている。

- 生涯学習・社会教育は、個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を持つもの。
- その要となるのが、学びの場を通じた住民相互の「つながり」であり、この「つながり」が、新しい時代の生涯学習・社会教育の鍵となる。

この報告書にあるように、生涯学習を通じて、様々な背景を有する多様な世代の人々がつながり、共に学び合うことで、新たなアイデアが生まれたり課題解決につながったりすることもあり、更に、他者を理解し、受け入れ、共生する社会の実現にもつながるポテンシャルを、生涯学習の機会を持っている。また、これまでの対面による「つながり」だけでなく、ICTなど新しい技術を活用したオンラインによる「つながり」も併せて形成することで、さらに豊かな学びが実現できると考えられる。

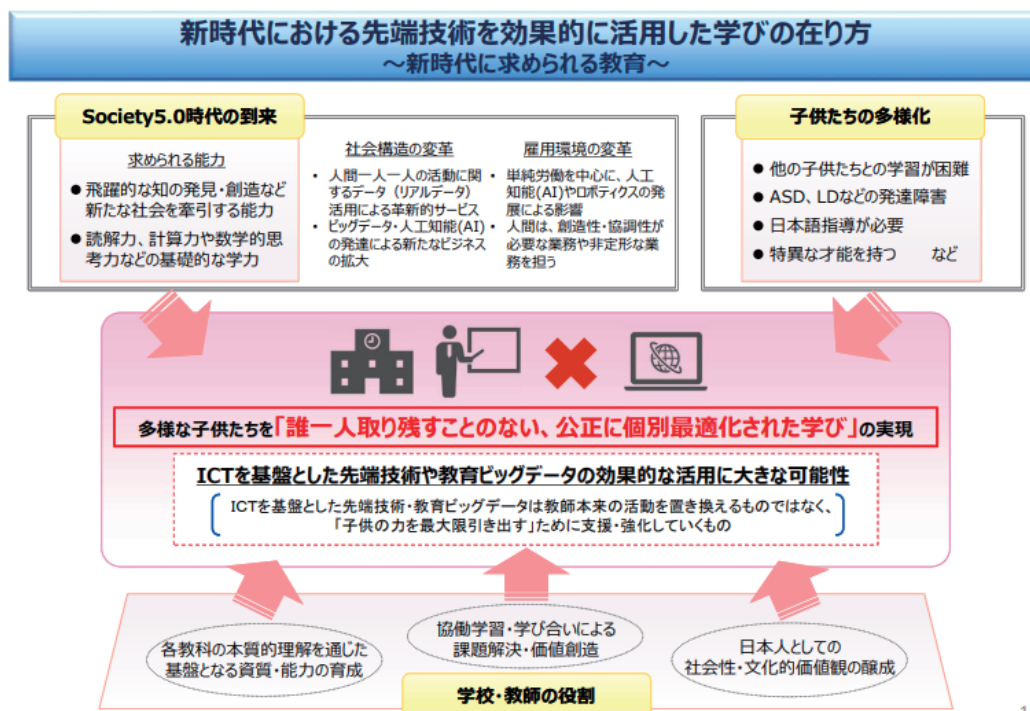
多様で豊かな学びや「つながり」による生涯学習・社会教育の取組を通じて、これからの時代・社会の変革を「チャンス」と捉え「チャレンジする」生涯学習の在り方が求められる、そういった生涯学習の取組視点の変革・新しい価値の提供が求められていると考える。

2. 教育現場等におけるデジタル化の動き

(1) 教育現場

昨今の ICT 技術の急速な発展を鑑み、文部科学省では、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現へ」³とし、GIGA スクール構想を推進している。GIGA スクール構想の実現パッケージにおいて、令和の時代のスタンダードな学校に向け、環境整備の標準仕様例示と調達改革、クラウド活用前提のセキュリティガイドライン公表、学校 ICT 利活用ノウハウ集公表、関係省庁の施策との連携、民間企業等からの支援協力募集が挙げられ、学校教育現場への ICT 技術が加速されることになる。また、「教育の情報化に関する手引き」⁴の中でも検討されているように、情報活用能力、プログラミング教育の推進、教科等の指導における ICT の活用など、日常的な「学び」の機会での先端技術への対応・利活用が求められることになる（図表 2-5 及び図表 2-6）。

図表 2-5 新時代における先端技術を効果的に活用した学び



（出典：文部科学省ホームページ、新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）、

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/24/1418387_01.pdf

³ 文部科学省、「GIGA スクール構想の実現」、https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf より

⁴ 文部科学省、「教育の情報化に関する手引き」、https://www.mext.go.jp/content/20200609-mxt_jogai01-000003284_002.pdf

図表 2-6 先端技術・教育ビッグデータを活用することの意義



(出典：文部科学省ホームページ、新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）、
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/24/1418387_01.pdf)

コロナ禍により、3密回避など人との接触機会を回避する、新しい行動様式が求められている。学校教育においても、登校を避けオンラインによる授業を実施するため、自宅でのノートパソコンなどの操作・インターネットの利活用等の ICT 技術の経験・修得が求められることになった。日常的な「学び」の機会でも、児童・生徒にとってデジタル技術の習得・親和性が求められることとなった。

(2) 日常生活

滋賀県下における FTTH や CATV などによる固定系ブロードバンドサービスの普及状況は、以下の表に示すように、近畿地域のみならず全国的にも高い水準にある。

図表 2-7 近畿地域のブロードバンド普及状況

	FTTH		CATV	
	契約数	世帯普及率	契約数	世帯普及率
滋賀県	438,396	74.4%	1,253	0.2%
京都府	787,711	64.2%	86,562	7.1%
大阪府	2,527,785	58.1%	935,173	21.5%
兵庫県	1,345,625	52.6%	409,386	16.0%
奈良県	386,576	64.7%	31,876	5.3%
和歌山県	249,602	56.6%	39,056	8.8%
近畿合計	5,735,695	58.8%	1,503,306	15.4%
全国	35,020,607	59.3%	6,584,177	11.1%

(出典：総務省 近畿総合通信局「近畿の情報通信 2021」資料⁵ より作表)

⁵ 総務省 近畿総合通信局、「ミライを生み出す。いくで、関西！ 近畿の情報通信 2021」、
https://www.soumu.go.jp/main_content/000743354.pdf

そういった滋賀県下の ICT 普及状況を反映し、県及び県内自治体（愛荘町を含む 14 団体）における行政サービスの改革による住民の利便性向上および自治体組織の働き方改革に資する行政事務の効率化を推進するため、システムや事務の標準化等によりワンストップ行政サービスの実現等に向け、「スマート自治体滋賀モデル」研究会を発足させ推進している⁶。

(3) ICT・デジタル化に関する考察

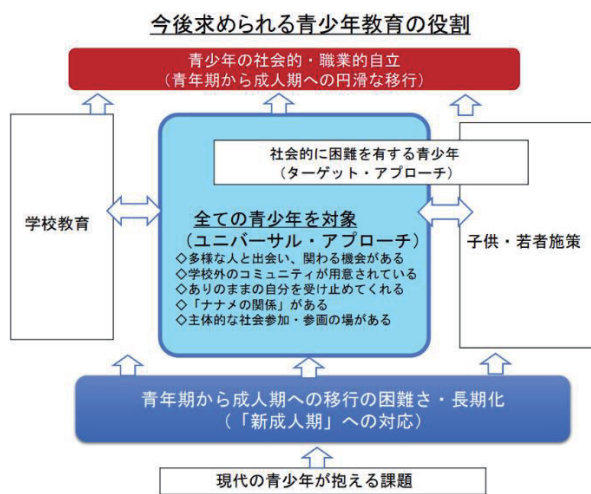
以上のように、教育現場や小中学生の学びのシーン、行政サービス、そして、町内に住む人々の日常生活及び日常の活動における、デジタル技術を利用する比重がますます高くなり、今後の行政が提供・推進する住民サービスは、それらの浸透及び人々の生活の変化に素早く対応した事業・実施計画を検討する必要がある。

⁶ 滋賀県記者発表資料、令和 2 年度スマート自治体都道府県補完モデル調査研究事業のモデル自治体の決定およびモデル事業の開始について、令和 2 年 10 月

3. 自治体での動き

東京都生涯学習審議会では、コロナ禍が子どもたちの成長にもたらした負の影響や、子どもを家庭や地域で育てることが困難な状況になっている現状において、次代を担う子どもたちを育成する役割を一手に引き受ける形になった学校教育では、教員の疲弊感の解消が喫緊の課題となっており、学校を支えていくための施策対応が急務であるという現状を踏まえ、令和3年9月、次世代を担う青少年が健やかに育つ環境づくりに関して、「東京都における今後の青少年教育振興の在り方について」をまとめた⁷（図表 2-8）。

図表 2-8 東京都における今後の青少年教育振興の在り方について



- （章構成）
- 第1章 青年期から成人期への移行の困難さの克服を目指す青少年教育**
- 1 青少年教育の位置付けの変遷
 - 2 青少年教育が目指してきたもの
 - (1) 青少年教育に期待されてきた役割
 - (2) ノンフォーマル教育としての青少年教育の特徴
 - 3 これからの青少年教育の対象
 - (1) 青少年の範囲をどのように設定するか
 - (2) 工業化社会の下での青少年教育の位置付け
 - (3) 「新成人期」の登場
 - (4) 「新成人期」の課題に対応した青少年教育の在り方
- 第2章 今後求められる青少年教育の在り方**
- 1 ユニバーサル・アプローチを担う青少年教育
 - 2 なぜ、ユニバーサル・アプローチが求められるのか
 - 3 青少年教育の手法としてのユースワークへの注目
 - 4 これからの青少年教育に求められる役割
- 第3章 青少年教育の推進者とその役割**
- 1 ユニバーサル・アプローチの担い手としてのユースワーカー
 - 2 青少年教育の推進者
 - (1) 青少年教育・青少年援助を担うNPO関係者等をユースワーカーに
 - (2) ユースワークの一翼を担うユースソーシャルワーカーの役割
 - (3) ユースワーカーの助言者としての社会教育専事
- 第4章 東京都における今後の青少年教育振興の在り方**
- 1 青少年教育事業の現状を把握する
 - (1) 区市町村における青少年教育施策の現状
 - (2) 東京都における青少年教育施策の現状
 - 2 東京都における今後の青少年教育振興の考え方
 - (1) 区市町村との役割分担の考え方
 - (2) 青少年教育振興における区市町村の役割
 - (3) 東京都に求められる役割
 - 3 今後の青少年教育振興を充実させるための提言

（出典：第11期東京都生涯学習審議会 概要⁸ より抜粋）

その中で、青少年教育の手法として、「若者の居場所をつくる・若者の人生の橋渡しをする」役割であるユースワーク（ユースワーカー）や、青少年（主に中高生）の活動や場の重要性を挙げ、活動や場の事例として、文京区の青少年プラザ(b-lab)や調布市の青少年ステーション CAPS に注目している。

東京都文京区青少年問題協議会では、中高生世代が社会へ踏み出すための、区や地域社会としての支援の在り方をまとめ、区や地域団体が実施する中高生向け事業の充実を図るため、平成24年、「文京区中高生育成基本方針～かけがえのない10代を過ごすために～」⁹を策定した（図表 2-9）。

育成目標で、中高生に身につけてほしい3つの「チカラ」として、①目標に向かって、自ら考え歩みだせる「チカラ」、②失敗や挫折を乗り越えて、自分らしく生きる「チカラ」、③自らの体

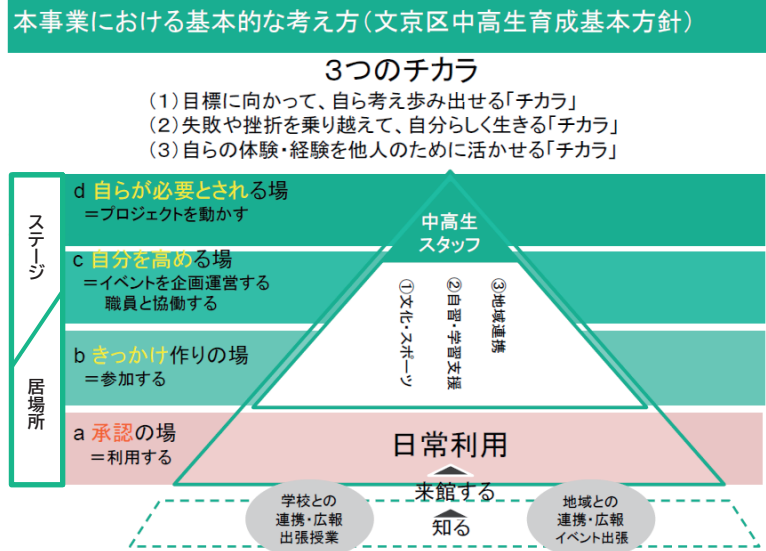
⁷ 東京都生涯学習審議会、東京都における今後の青少年教育振興の在り方について—ユニバーサル・アプローチの視点から—建議、https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/09/24/documents/05_01.pdf

⁸ https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2021/files/release20210924_01/gaiyou.pdf

⁹ 文京区ホームページ、『中高生育成基本方針』、https://www.city.bunkyo.lg.jp/kyoiku/seshonen/seisyonen/kyougikai/_16390.html

験・経験を他人のために活かせる「チカラ」を挙げ、その3つの「チカラ」を身につけるために必要な「ステージ」と環境の整備を事業の方向性として定めている。

図表 2-9 文京区中高生育成方針 基本的な考え方



(出典：NPO 法人カタリバ様ご提供資料より抜粋)

その拠点として、NPO 法人カタリバに運用を委託し、東京都生涯学習審議会も注目する、文京区青少年プラザ(b-lab)を平成 27 年 4 月に設置し推進している。b-lab は、中高生世代の自主的な活動の場及び交流の場を提供する中高生向けの施設であり、NPO 法人カタリバが制度的には運用委託事業者であるが、実質的には区とともにコンセプトづくりからネーミングまで協働で作上げた官民連携の代表例の一つであり、中高生の活動支援の拠点となっている。(NPO 法人カタリバホームページ内「文京区長記載」<https://www.katariba.or.jp/administration/>より抜粋)

また、本調査研究の共同実施主体である、一般財団法人地方自治研究機構の調査¹⁰でも取り上げた、東京都杉並区において、平成 18 年から地域貢献活動を支える仕組みとして「すぎなみ地域大学¹¹ (図表 2-10 及び図表 2-11) を実施しており、

- ・ 区民の社会貢献意欲を喚起し、自らの学びの成果を地域社会の中で活かす「協働の担い手」を育てる
- ・ 地域貢献活動を担う NPO 団体等を人材面から支援し、相互に連携・協力して「協働の輪」を拡げる
- ・ 地域の課題解決に向け、区民が知恵と力を出し合い取り組む「協働社会の基盤」をつくる

¹⁰ 山口県下関市と一般財団法人地方自治研究機構の共同調査研究「住民自治によるまちづくり－人材育成－に関する調査研究」、http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/004/pdf/h28/h28_10.pdf

¹¹ 杉並区ホームページ、すぎなみ地域大学とは、<https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/bunka/gakushu/daigaku/1005140.html>


を基本理念に、地域活動に参加する人材の育成に取り組んでいる。

図表 2-10 すぎなみ地域大学、基本理念

すぎなみ地域大学とは

地域活動に必要な知識・技術を学び、仲間を助け、区民の皆様が地域社会に貢献する人材、協働の担い手として活躍するための仕組みとして、平成18年4月に開校し、これまでに16,000人を超える方が学びました。

講座修了後は、多くの方が区のボランティアに登録したり、NPO法人などの団体に加入したり、仲間が団体を立ち上げる(26団体)など、学んだ知識を活かしてさまざまな分野の地域活動に参加しています。



すぎなみ地域大学

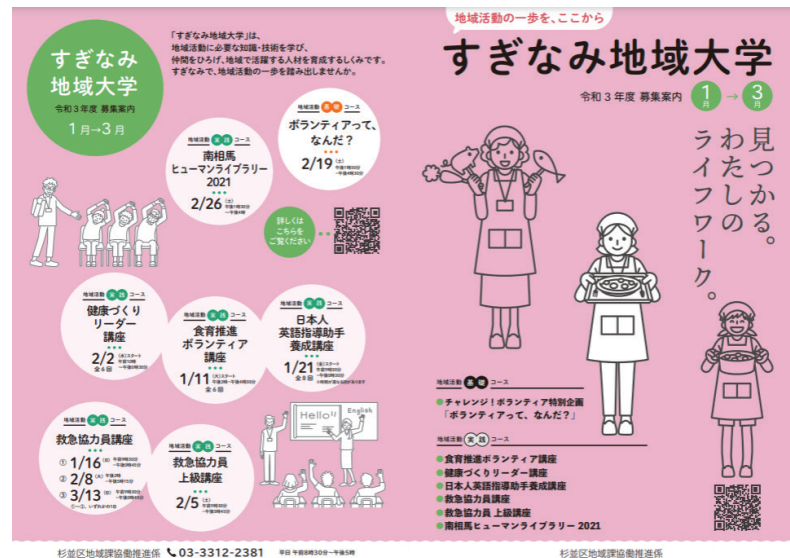
学ぶ楽しさと
まちに貢献する喜びを
皆様にご提供します。

すぎなみ地域大学基本理念

- 1 区民の社会貢献意欲を喚起し、自らの学びの成果を地域社会の中で活かす「協働の担い手」を育てる
- 2 地域貢献活動を担うNPO団体等を人材面から支援し、相互に連携・協力して「協働の輪」を広げる
- 3 地域の課題解決に向け、区民が知恵と力を出し合い取り組む「協働社会の基盤」をつくる

(出典：杉並区ホームページ、すぎなみ地域大学募集案内パンフレットより、
https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/005/143/r3bosyu1-3.pdf)

図表 2-11 すぎなみ地域大学 募集パンフレット (抜粋)



The pamphlet features a pink background with various course listings and illustrations of people participating in activities. Key elements include:

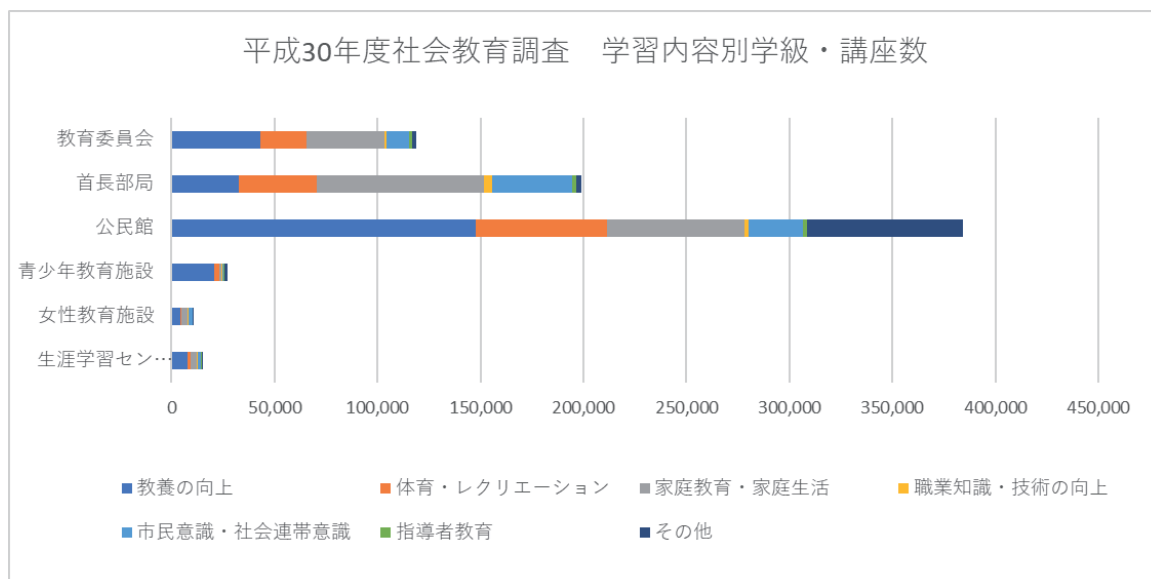
- Header:** 「すぎなみ地域大学」は、地域活動に必要な知識・技術を学び、仲間を助け、地域で活躍する人材を育成するしくみです。すぎなみで、地域活動の一步を踏み出ませんか。
- Section:** 地域活動の一步を、ここから
- Course Listings:**
 - ボランテアって、なんだ? (2/19)
 - 健康づくりリーダー講座 (2/2)
 - 食育推進ボランティア講座 (1/11)
 - 日本人英語指導助手養成講座 (1/21)
 - 救急協力員講座 (1/16, 2/8, 3/13)
 - 救急協力員上級講座 (2/5)
- Illustrations:** Three women in aprons representing different roles like volunteer, leader, and instructor.
- Text:** 見つける。わたしのライフワーク。
- Footer:** 杉並区地域課題推進係 ☎03-3312-2381

(出典：杉並区ホームページ、すぎなみ地域大学募集案内パンフレットより、
https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/005/143/r3bosyu1-3.pdf)

4. 国内の学級・講座の実施状況

平成30年度社会教育調査（平成29年度間）を基に、国内各地で実施されている学習・講座（一定期間にわたって組織的・継続的に行われている学習形態）のカテゴリーを整理した（図表2-12）。

図表 2-12 平成30年度 学習内容別学級・講座実施数



なお、具体的に実施されている学習内容は、以下の表に示す内容を指している。

図表 2-13 学級・講座内容

教養の向上	外国語	文学
	歴史	自然科学
	哲学・思想	心理学・カウンセリング
	映画鑑賞	芸術鑑賞(音楽・演劇等)
	自然観察・天体観測	その他
趣味・けいこごと	華道・茶道・書道	俳句・短歌・川柳
	将棋・囲碁・カルタ	音楽実技(合唱・演奏・演劇等)
	ダンス・舞踊	芸能(日舞・詩吟・民謡等)
	美術実技(絵画・版画・彫刻等)	手工芸・陶芸
	工作・模型	写真・ビデオ
	パソコン・IT	その他
体育・レクリエーション	球技(テニス・卓球・バレーボール・サッカー等)	ランニング
	水泳	武道(柔道・剣道等)
	体操・トレーニング・ヨガ・エアロビクス	ニュースポーツ
	ゴルフ・スキー・スケート	ハイキング・登山
	野外活動	その他
家庭教育・家庭生活	育児・保育・しつけ	くらしの知恵・技術
	読書・読み聞かせ	生活体験・異年齢交流
	健康・生活習慣病予防・薬品	料理・食品・食生活
	年中行事・冠婚葬祭	介護・看護

	生活設計・ライフプラン	住まい・住環境
	安全・災害対策	洋裁・和裁・編み物・着付け
	園芸(ガーデニング・盆栽等)	その他
職業知識・技術の向上	農業水産技術	工業技術
	コンピュータ・情報処理技術	知的財産(著作権等)問題
	メディアリテラシー	経営・経理・事務管理
	編集・制作	その他
市民意識・社会連帯意識	自然保護・環境問題・公害問題	資源・エネルギー問題
	国際理解・国際情勢問題	政治・経済問題
	裁判員制度	科学技術・情報化
	男女共同参画・女性問題	高齢化・少子化
	社会福祉(障害者・高齢者福祉・年金等)	同和問題・人権問題
	教育問題	消費者問題
	地域・郷土の理解	まちづくり・住民参加
	ボランティア活動・NPO	金融・保険・税金
	自治体行政・経営	地域防災対策・安全
	その他	
指導者養成	施設ボランティア養成	各種リーダー養成
	団体育成・運営技術	その他

実施件数の推移を以下に示す。

図表 2-14 学習内容別学級・講座数(年間実施件数)

区分	計	教養の向上(趣味・けいこ と含む)	体育・レクリエーション	家庭教育・家庭生活	職業知識・技術の向上	市民意識・社会連帯意識	指導者育成	その他	
平成26年度間	計	701,759	281,273	114,098	203,754	8,426	75,684	7,878	10,646
	都道府県・市町村教育委員会	123,877	42,702	22,095	43,085	925	11,010	1,264	2,796
	都道府県・市町村首長部局	170,191	27,402	19,173	78,205	3,963	36,675	2,252	2,521
	公民館(類似施設含む)	359,445	184,525	67,615	75,119	1,662	24,238	2,306	3,980
	青少年教育施設	18,201	13,893	1,841	1,189	59	298	413	508
	女性教育施設	11,178	2,494	499	2,876	1,394	1,953	1,319	643
	生涯学習センター	18,867	10,257	2,875	3,280	423	1,510	324	198
平成29年度間	計	755,558	256,591	128,479	193,453	7,863	79,828	6,667	82,677
	都道府県・市町村教育委員会	118,950	43,148	22,530	37,817	890	10,877	1,362	2,326
	都道府県・市町村首長部局	199,150	32,871	37,508	81,213	4,010	38,720	2,069	2,759
	公民館(類似施設含む)	384,371	147,553	63,946	66,929	1,760	26,617	1,978	75,588
	青少年教育施設	27,194	20,816	2,351	1,324	294	247	800	1,362
	女性教育施設	10,831	4,578	290	3,124	507	1,808	121	403
	生涯学習センター	15,062	7,625	1,854	3,046	402	1,559	337	239

各年度、「教養の向上（趣味・けいごと含む）」が34%（平成26年度間では40.1%）を占め多く実施されている。続いて「家庭教育・家庭生活」が25.6%（同29.0%）、「体育・レクリエーション」が17.0%（同16.3%）という順番となっている。実施区分の特徴により実際の実施件数の多寡はあるものの、やはり、「教養の向上（趣味・けいごと含む）」が主となっていることが分かる。また、昨今の人々の健康意識・健康志向を反映させていると思われるが、「体育・レクリエーション」の実施件数も伸びている。

全体総数として平成26年度間に比べ平成29年度間では増えており、住民に対する学級・講座の提供は今後も重要である。

また、新しい動きとして、市民主導・市民参加型の講座なども実施されている地域もあり、用意された受け身の学習・講座ではなく、より地域（地域住民）が中心で、参加者の自立した活動を生み出す仕組み・住民同士のヨコのつながりを醸成しようとする動きがみられる。

以下に挙げた「サマーセミナー」は、愛知県から始まり全国に広がる「教育イベント」であり、「誰でも先生、誰でも生徒、どこでも学校」をコンセプトに、愛知県以外でも奈良市、会津若松市、仙台市、水戸市、渋谷区、尼崎市等で開催されている。（図表2-15は尼崎市の例）

図表 2-15 尼崎市 みんなのサマーセミナー

みんなのサマーセミナー

サマセミ! 2021

8/7(土).8(日)
オンライン開催!

まち中には「生涯学習プラザ」や「図書館」、「市民講座」などの「学びの場」がありますが、そこで学んだ「ひとりの学び」が「みんなの学び」になり、「まちの学び」になれば、尼崎がステキなまちになると思いませんか？

みんなのサマーセミナーは「ひとりの学び」が「まちの学び」につながるきっかけになることを目指しています。

（出典：尼崎市ホームページ、まちに、まなびを、まきおこす「みんなの尼崎大学」 みんなのサマーセミナーから、<https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/siminsanka/1001859/index.html>）

尼崎市のサマーセミナーでは、みんなのサマーセミナー実行委員会、尼崎市、尼崎市教育委員会の主催、参加費無料で実施され、新型コロナウイルス感染拡大の状況も鑑み、2021年はオンラインで開催（授業はすべて20分）するなど多くの人が参加しやすいよう行われている。

セミナーの運営も先生もボランティアであり、当日の先生を務める方の募集（先着順）も行われるなど、みんなで作り上げる、「ひとりの学び」が「まちの学び」に繋がる、地域の学びの活性化の一つの姿を表していると考えます。

5. 次世代を担う人々の参画に関するまちづくりの動き

本調査研究の名称にある「持続可能なまちづくり」に関しては、全国の自治体において喫緊の課題となっている。これからの地域社会を考慮すると、行政のみではなく、地域、地域の人々が積極的に意識的に参画し連携することがこれまで以上に求められる。

地域の人々の参加によるまちづくり、とりわけ、これからの地域を支える若者の参画を促し、若者の知恵と活力を活かしたまちづくりに関する調査研究¹²では、

- ・ 漫然とした取組では、それほどの効果が認められず、あるいは一時的な効果にとどまり、結局は時間の浪費になりかねない
- ・ 若者が具体的な「見える化」された成果をつかめるような取組を入念に準備し、若者が成長を実感できるような参加の場づくりがされなければならない
- ・ 自治体の取組の中には、高校生が中学生を、大学生が高校生を、市民が若者をそれぞれ導く仕組み（メンターなど）を設けている例がある。若者参加には、学校教育や職業、職場で分断されたステージをどうつなげるか、そして、同年代の関係だけではない、幅広い世代内のつながり、世代間のつながり、地域内でのいわゆる斜めのつながりをいかに意識するか常につきまとう問題である。これらの連携を図ることが成長の場・機会を創造し、かつ、一時的なものにとどまらない、実効性・実行性のあるサポート体制の構築にもなるような工夫が必要がある

と述べている。この調査研究では、「若者が住み続けたいと思うまちを実現していくために、若者の声を聞く場を設けたり、事業に参加する機会を与えたりする制度」に関する自治体での実施状況のアンケートや取組をまとめている。

これからのまちづくりや持続可能な地域活性化、文化芸術の継承などで中心となることが期待される人々に対するアプローチについて、その特性も踏まえた施策検討が必要である。

¹² 一般財団法人 地方自治研究機構、若者の知恵と活力を活かしたまちづくりに関する調査研究、平成 29 年度、
http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/004/pdf/h29/h29_14_01.pdf, http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/004/pdf/h29/h29_14_02.pdf

第3章 アンケート調査

第3章 アンケート調査

1. 町民アンケート実施による意識等調査

(1) 調査の目的

町民が、普段の生活における趣味・スポーツ活動、自治会などの活動、研修会などの学びの場等の生涯学習についてどのような考えを持っているのかを調査することにより、愛荘町の生涯学習充実に向けた施策の方向性等を検討するための資料とする。

(2) 調査の概要

◇調査対象：愛荘町全域の16歳以上の方

◇調査方法：郵送によるアンケート調査票の配布・回収、はがきによるWEBアンケート

◇調査期間：令和3年9月11日（土）～9月30日（木）

◇回収数：①紙アンケート回収率：紙：586通/2,000通=29.3%

②WEBアンケート回収率：33通/500通=6.6%

・40代以下の若者層の回収率向上を目指してはがきにQRコードを印刷したWEBアンケートを実施したが、設問が多いことなどから回収率は低くなった。

そのため、全体の回収率としては619通/2,500通=24.8%。

図表 3-1 アンケート配布数

年齢別	人口(R2)	紙アンケート 配布数	WEBアンケート 配布数	合計 配布数	回収数	回収率
16-19歳	959	111	215	326	34	10.4%
20代	2,250	261	165	426	35	8.2%
30代	2,587	300	20	320	68	21.3%
40代	3,165	368	100	468	91	19.4%
50代	2,442	285		285	82	28.8%
60代	2,208	256		256	118	46.1%
70代以上	3,607	419		419	188	44.9%
	17,218	2,000	500	2,500	619	24.8%

※年齢無回答3票

(3) 調査結果

<集計結果の留意点>

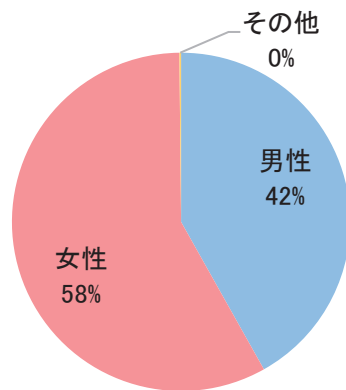
- ◇集計結果のパーセントは、合計値が四捨五入の関係で 100%とならない場合あり。
- ◇グラフのスペース上、3%未満の値を省略している場合あり。

問1 ①性別 ②年齢 ③同居家族構成 ④愛荘町にお住まいの年数
あなたの性別、年齢などを教えてください。

①性別

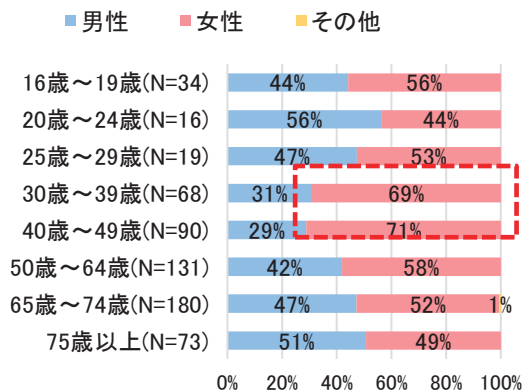
- ・「女性」が58%、「男性」が42%となっている。
- ・30歳～39歳、40歳～49歳は「女性」が約7割と多くなっている。

図表 3-2 性別（全体）

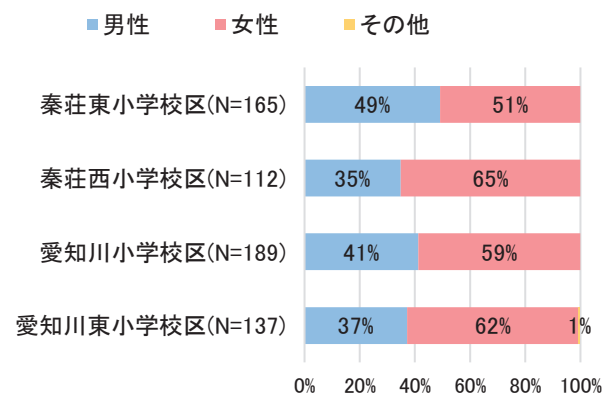


(N=614)

図表 3-3 性別（年齢別）



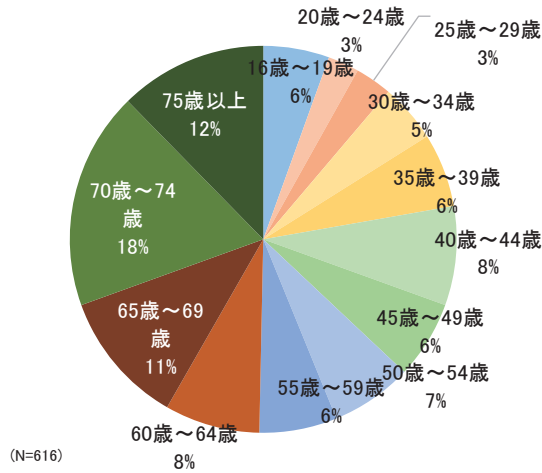
図表 3-4 性別（小学校区別）



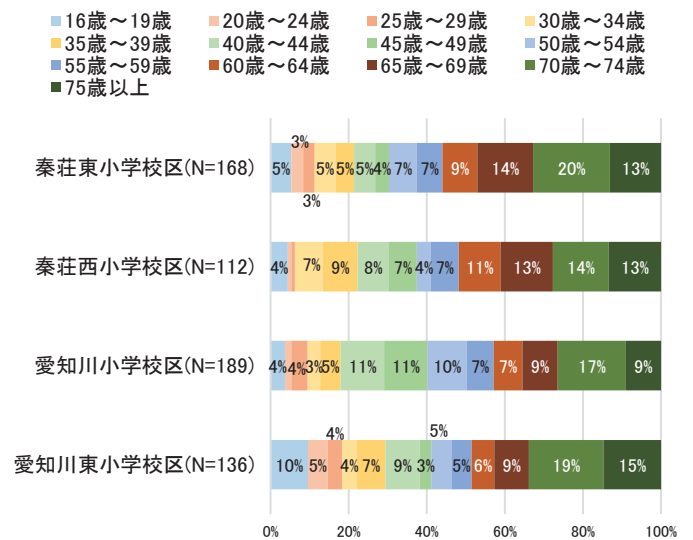
②年齢

- ・「70歳～74歳」が18%と最も多く、次いで「75歳以上」が12%、「65歳～69歳」が11%となっている。

図表 3-5 年齢 (全体)



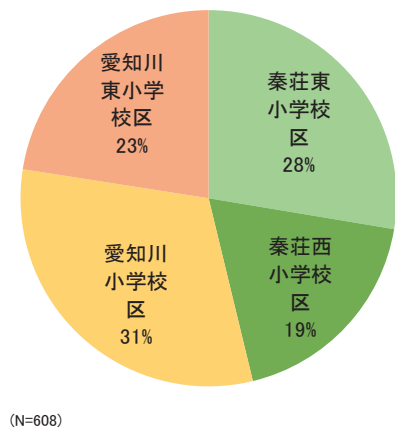
図表 3-6 年齢 (小学校区別)



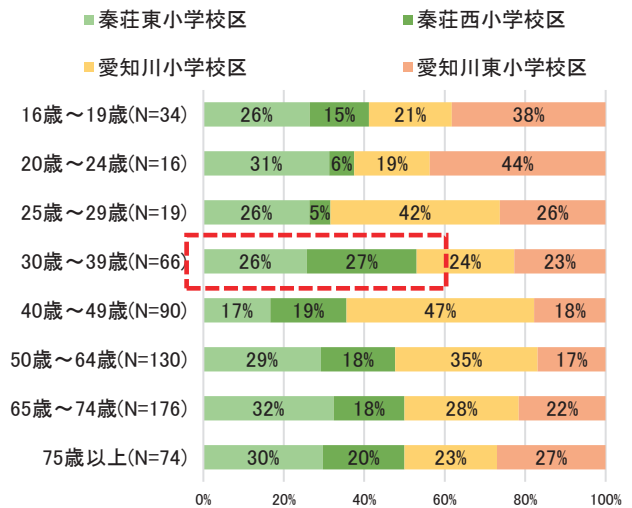
問3 お住まいの地域 (小学校区) あなたのお住いの地域についてお聞きします。

- ・「愛知川小学校区」が31%と最も多く、次いで「秦荘東小学校区」が28%、「愛知川東小学校区」が23%となっている。
- ・30歳～39歳は「秦荘東小学校区」「秦荘西小学校区」が53%と、「愛知川小学校区」「愛知川東小学校区」に比べて多くなっている。

図表 3-7 住まい (全体)



図表 3-8 住まい (小学校区別)



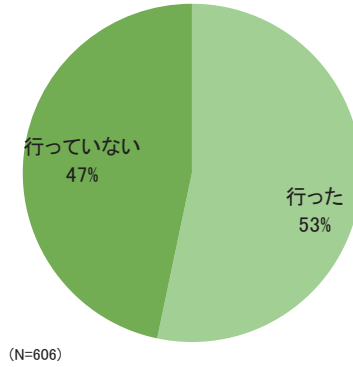
問5

生涯学習の経験の有無

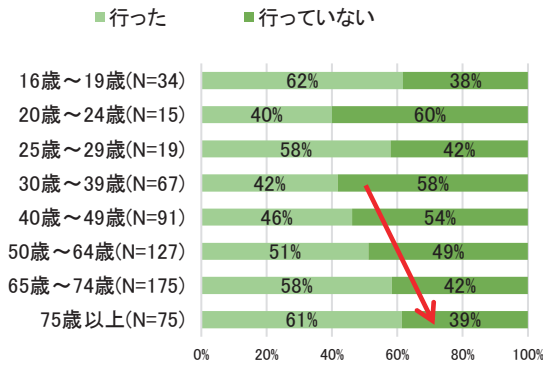
あなたはここ数年の中で「生涯学習」を行いましたか？

- ・「行った」が53%、「行っていない」が47%となっている。
- ・30歳～39歳から年齢が上がるにつれ、「行った」の割合が多くなっている。

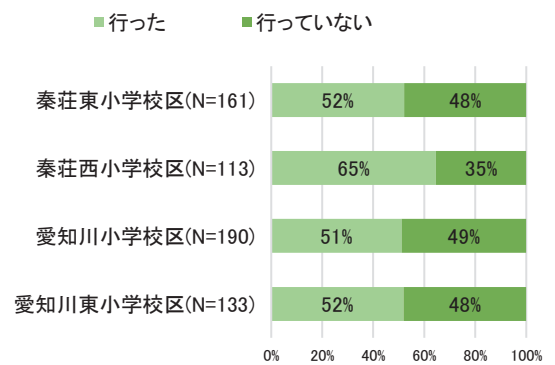
図表 3-9 生涯学習の経験（全体）



図表 3-10 生涯学習の経験（年齢別）



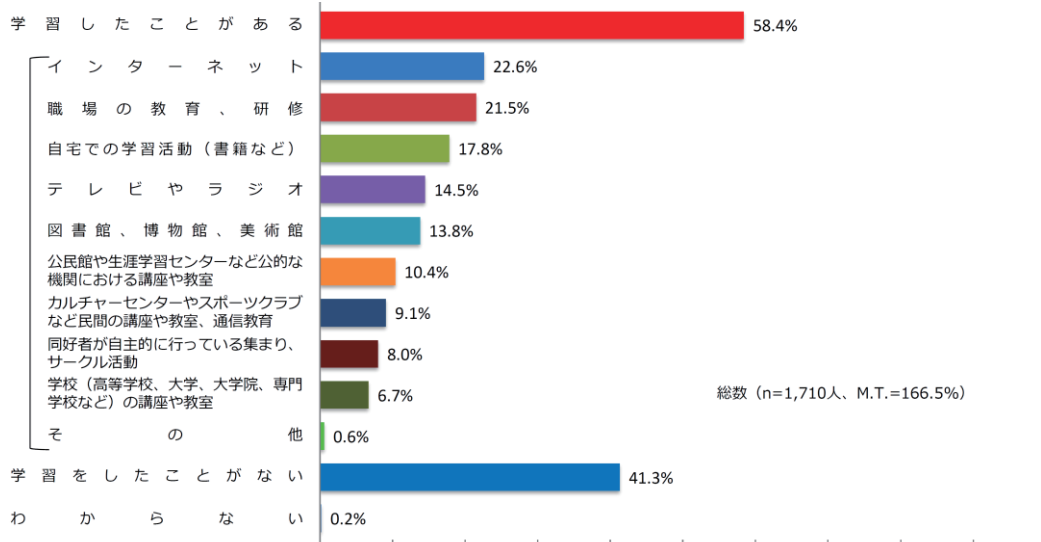
図表 3-11 生涯学習の経験（小学校区別）



【参考】内閣府生涯学習に関する世論調査（平成 30 年）

類似設問のある平成 30 年全国調査では、「生涯学習したことがある」は 58.4%であり、全国と比較すると 5 ポイント程度少ないが、新型コロナの影響もあると考えられる。

図表 3-12 生涯学習の状況



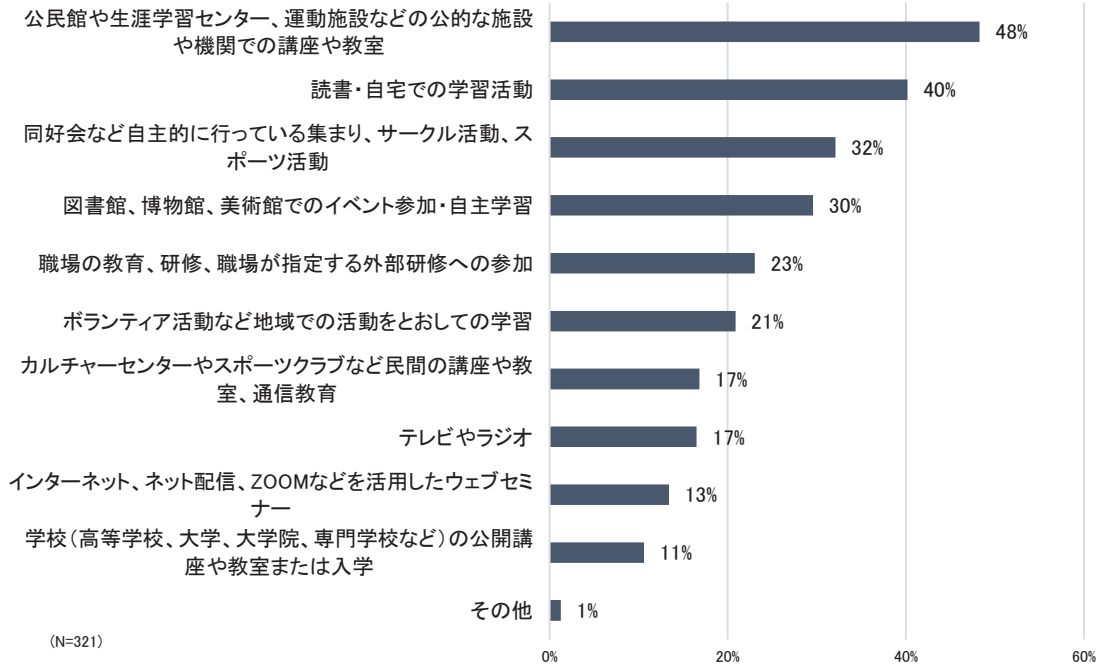
問6

生涯学習を行った場所・形態【複数回答】

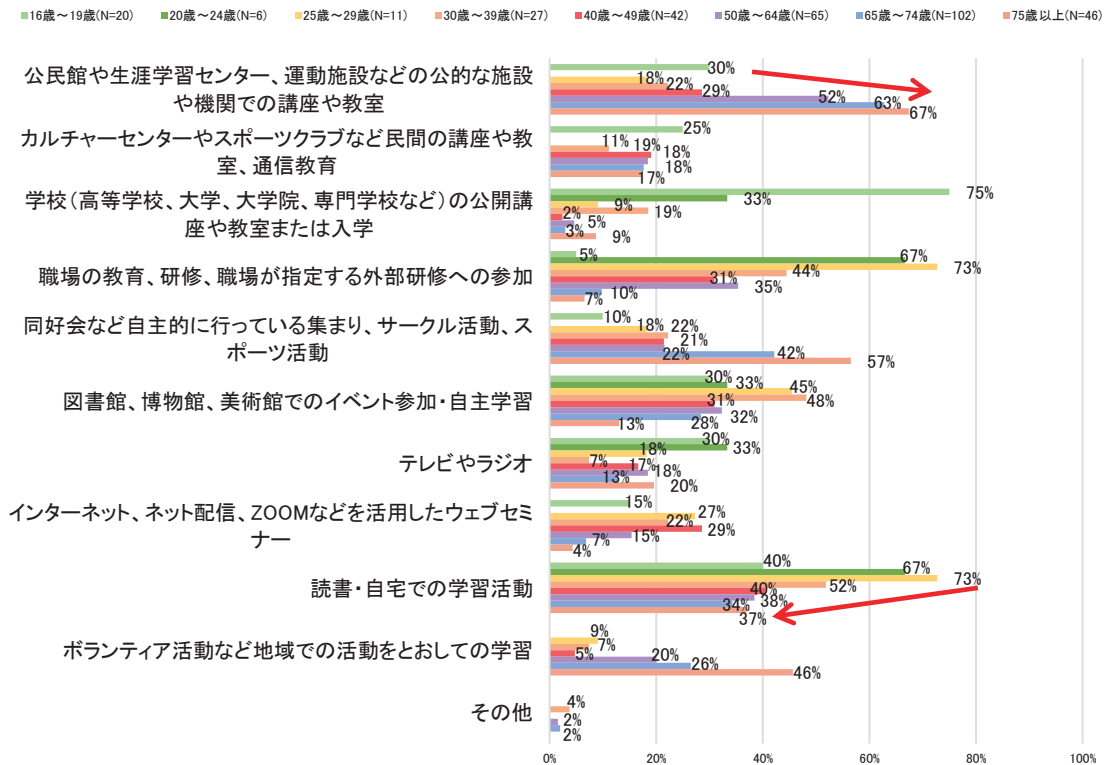
あなたは、その生涯学習をどのような場所や形態で行いましたか？
※問5で「行った」と回答した方のみ

- ・「公的な施設での講座や教室」が48%と最も多く、次いで「自宅」が40%となっている。
- ・「公的な施設での講座や教室」は年齢が高くなるほど多く、「自宅」は年齢が低いほど多い。

図表 3-13 生涯学習を行なった場所・形態（全体）

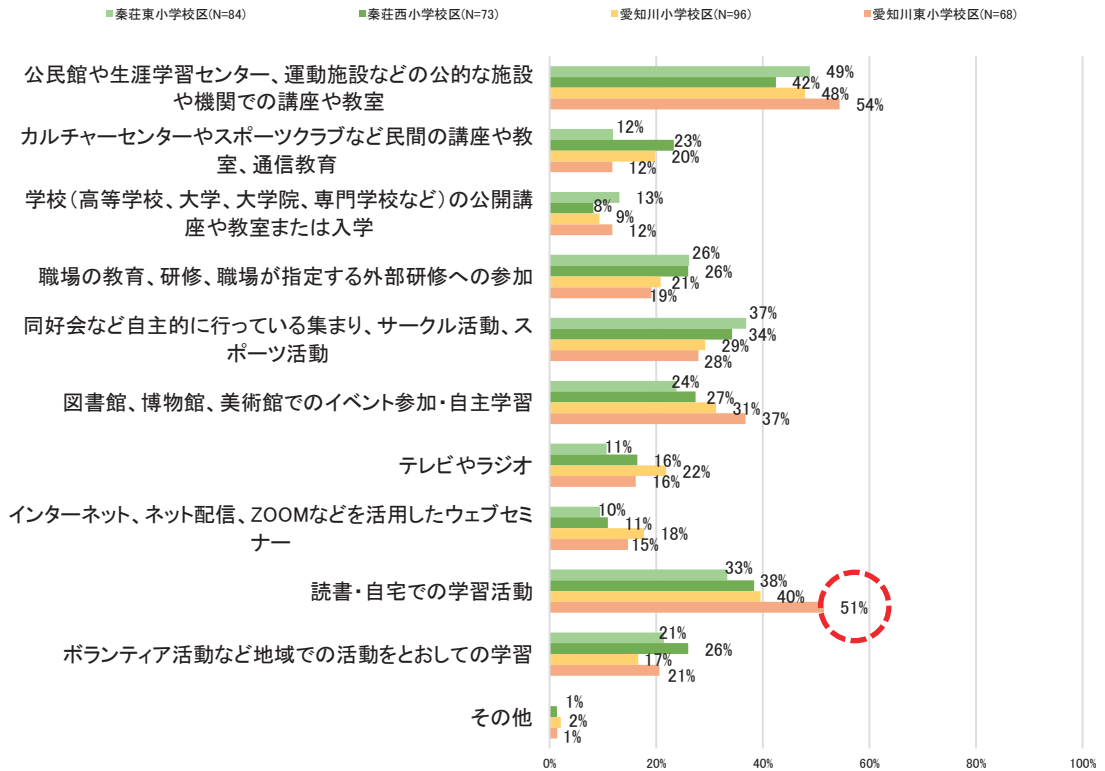


図表 3-14 生涯学習を行なった場所・形態（年齢別）



・愛知川東小学校区では、「自宅での学習」が51%と、他の小学校区に比べて11ポイント以上多くなっている。

図表 3-15 生涯学習を行なった場所・形態（小学校区別）

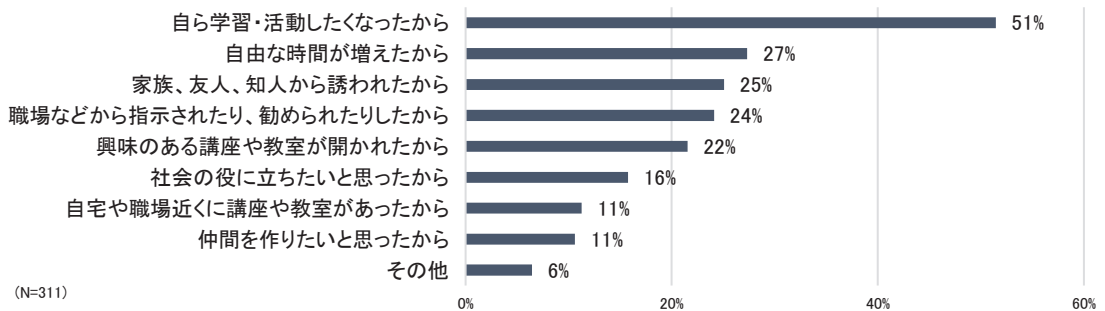


問8

学習活動を行うようになったきっかけ【複数回答】
あなたが、生涯学習を行うようになったきっかけは何ですか？

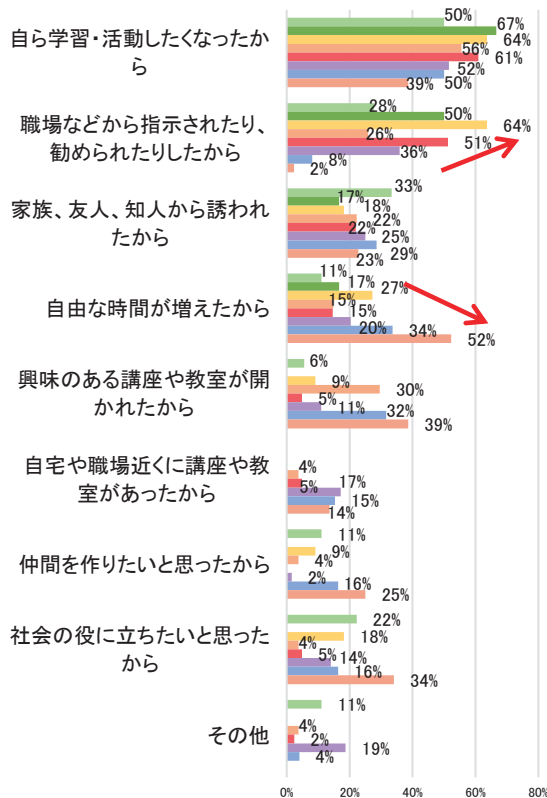
- ・「学習しなくなった」が51%と最も多く、次いで「自由な時間が増えた」が27%となっている。
- ・65歳以上は「自由な時間が増えた」が多く、20代は「職場から指示された」が多い。
- ・秦荘東・秦荘西小学校区では、「自由な時間が増えた」「社会の役に立ちたい」の回答が愛知川・愛知川東小学校区より多い。

図表 3-16 生涯学習のきっかけ（全体）



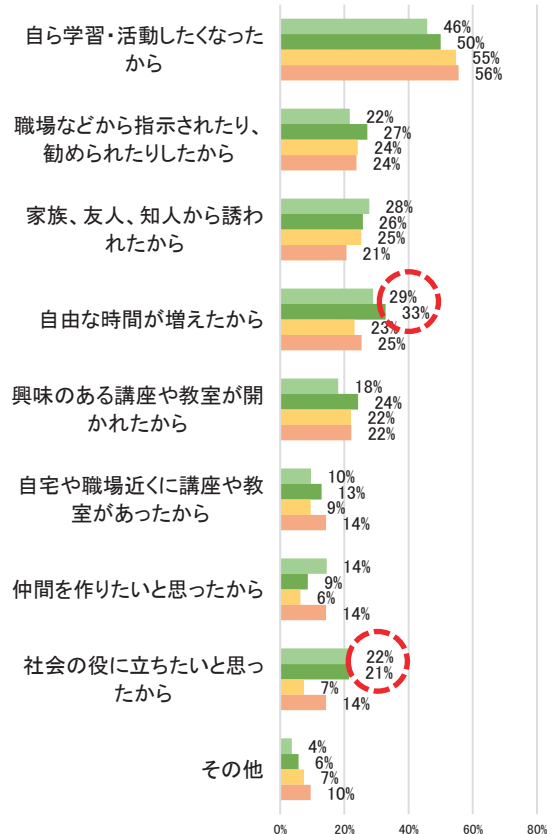
図表 3-17 生涯学習のきっかけ（年齢別）

■ 16歳～19歳(N=18) ■ 20歳～24歳(N=6) ■ 25歳～29歳(N=11)
■ 30歳～39歳(N=27) ■ 40歳～49歳(N=41) ■ 50歳～64歳(N=64)
■ 65歳～74歳(N=98) ■ 75歳以上(N=44)



図表 3-18 生涯学習のきっかけ（小学校区別）

■ 秦荘東小学校区(N=83) ■ 秦荘西小学校区(N=70)
■ 愛知川小学校区(N=95) ■ 愛知川東小学校区(N=63)



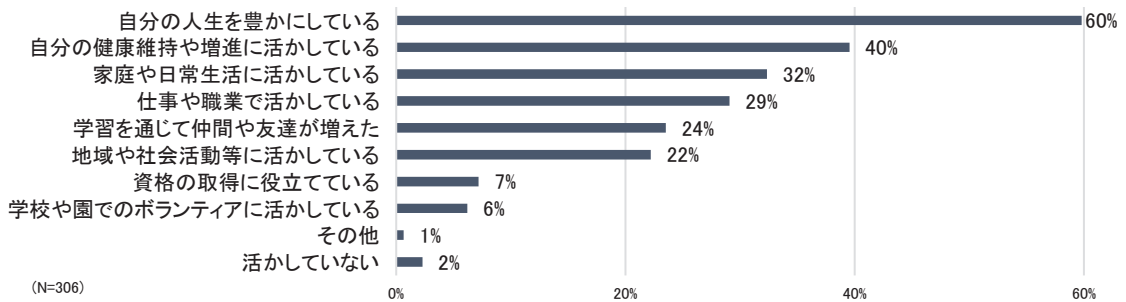
問 9-1

学習活動の活かし方【複数回答】

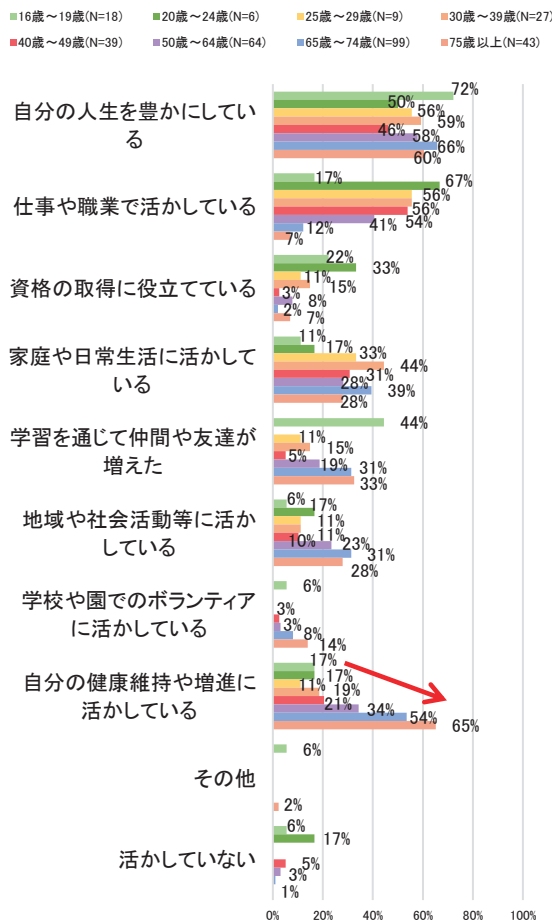
あなたは、学習活動を通じて得た知識や技能・経験をどのように活かしていますか？

- ・「人生を豊かにしている」が60%と最も多く、次いで「健康増進」が40%となっている。
- ・年齢が高くなるにつれて、「健康増進」の割合が多くなっている。
- ・どの小学校区も「人生を豊かにしている」が最も多く、「家庭や日常生活に活かしている」は、秦荘東小学校区と愛知川東小学校区は16ポイント差がある。

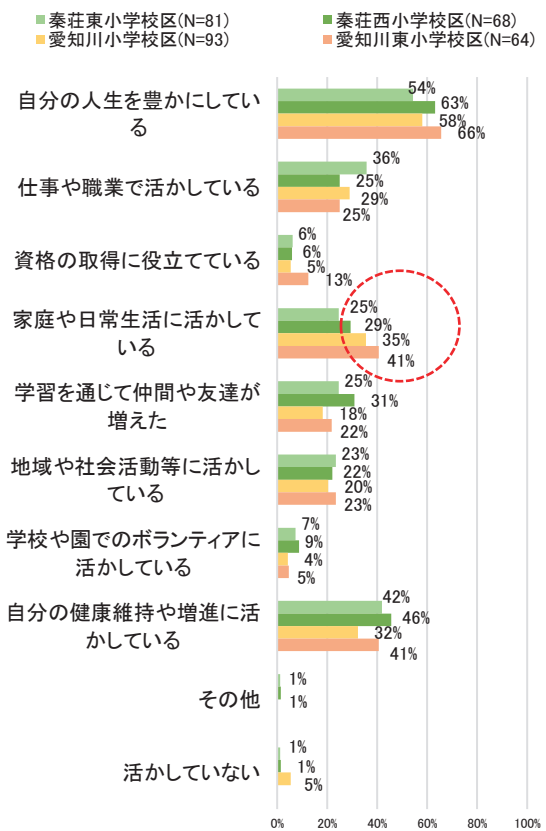
図表 3-19 学習活動の活かし方（全体）



図表 3-20 学習活動の活かし方（年齢別）



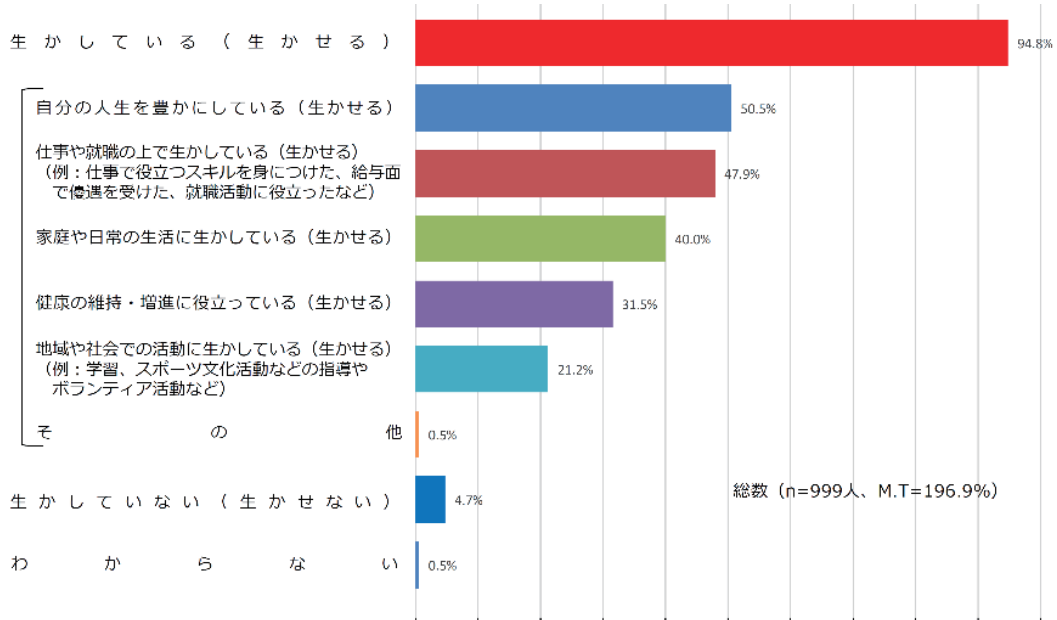
図表 3-21 学習活動の活かし方（小学校区別）



【参考】内閣府生涯学習に関する世論調査（平成 30 年）

全国調査では「人生を豊かにしている」が 50.5%、「健康増進」は 31.5%となっており、愛荘町の数値が上回っている。また、「生かしていない」は 4.7%であり、愛荘町では活かしている人が多い。

図表 3-22 学習成果の活用状況



問 10

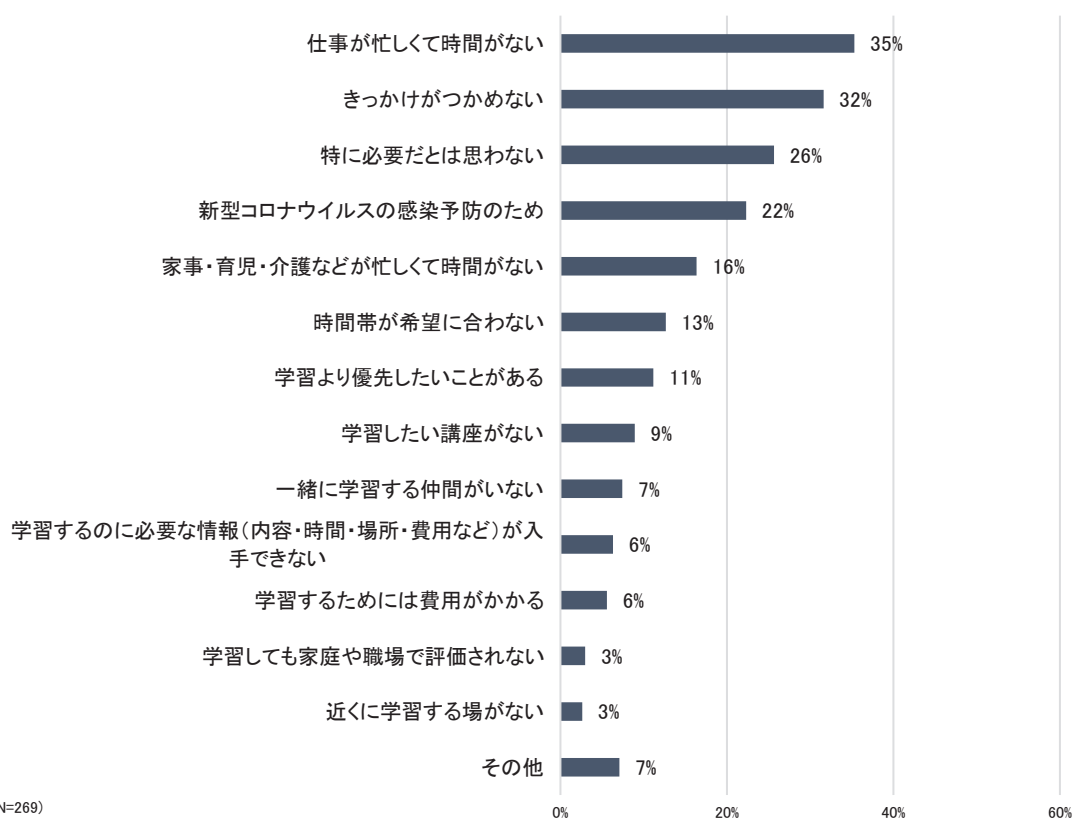
生涯学習を行わなかった理由【複数回答】

ここ数年の中で「生涯学習」を行わなかった理由は何ですか？

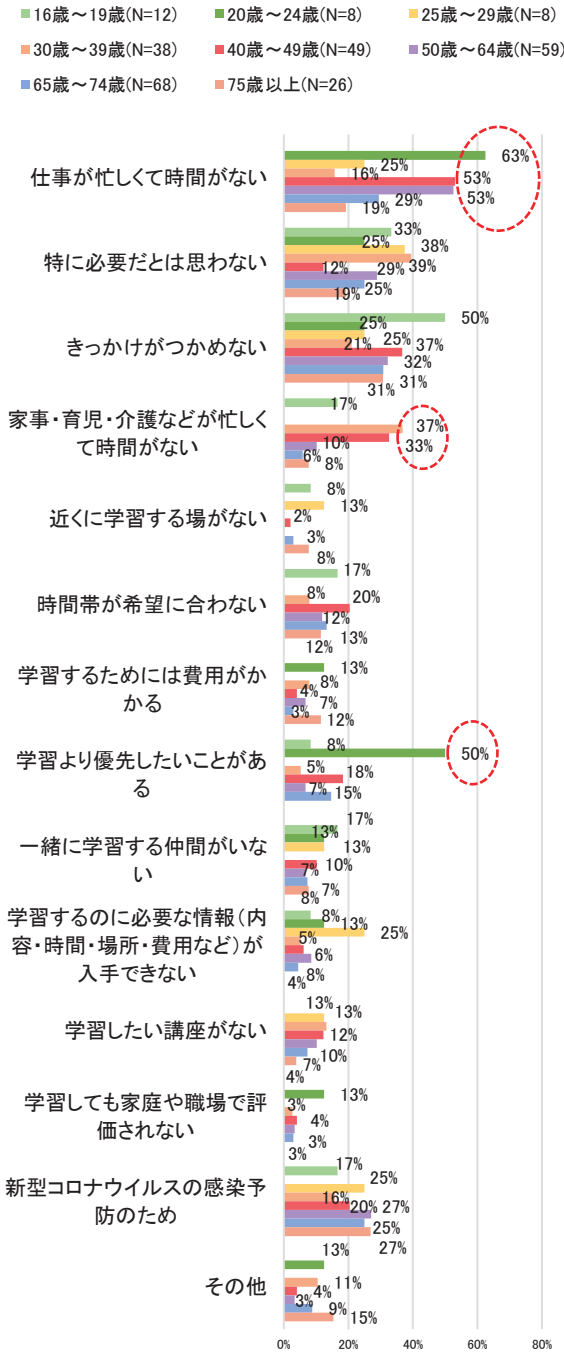
※問5で「行ってない」と回答した方のみ

- ・「仕事が忙しい」が 35%と最も多く、次いで「きっかけがつかめない」が 32%となっている。
- ・20代前半、40～50代は50%以上が「仕事が忙しい」と回答、30～40代は「家事育児で忙しい」、20代前半は「学習より優先したいことがある」の回答も多い。
- ・秦荘西小学校区は「きっかけがつかめない」が46%と、他の小学校区に比べて13ポイント以上多くなっている。

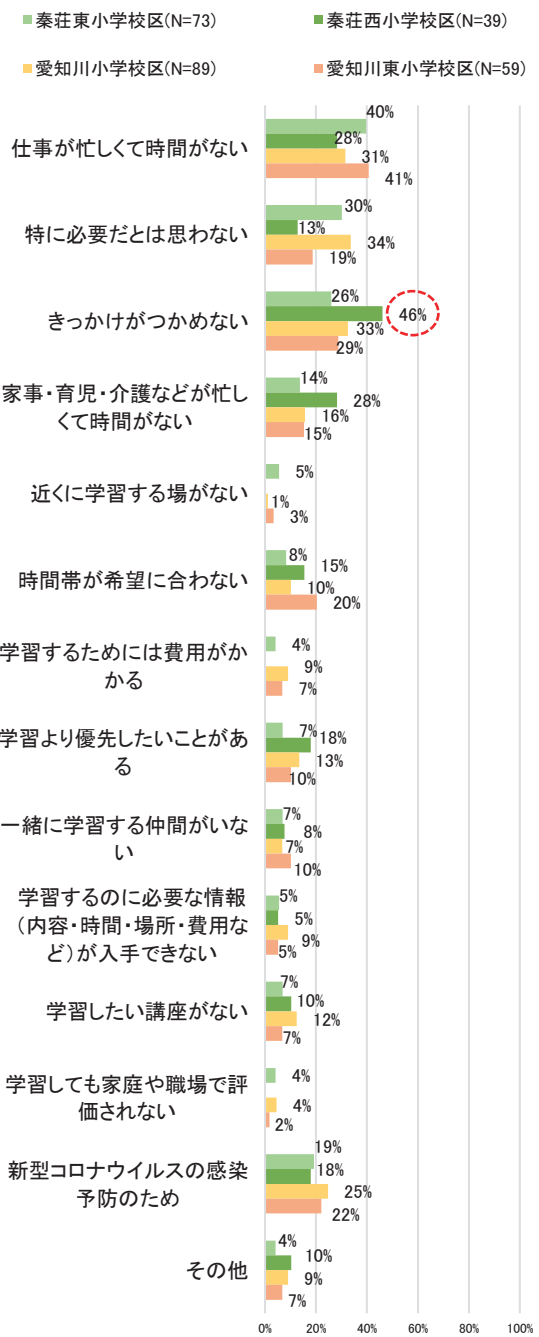
図表 3-23 行わなかった理由（全体）



図表 3-24 行わなかった理由（年齢別）



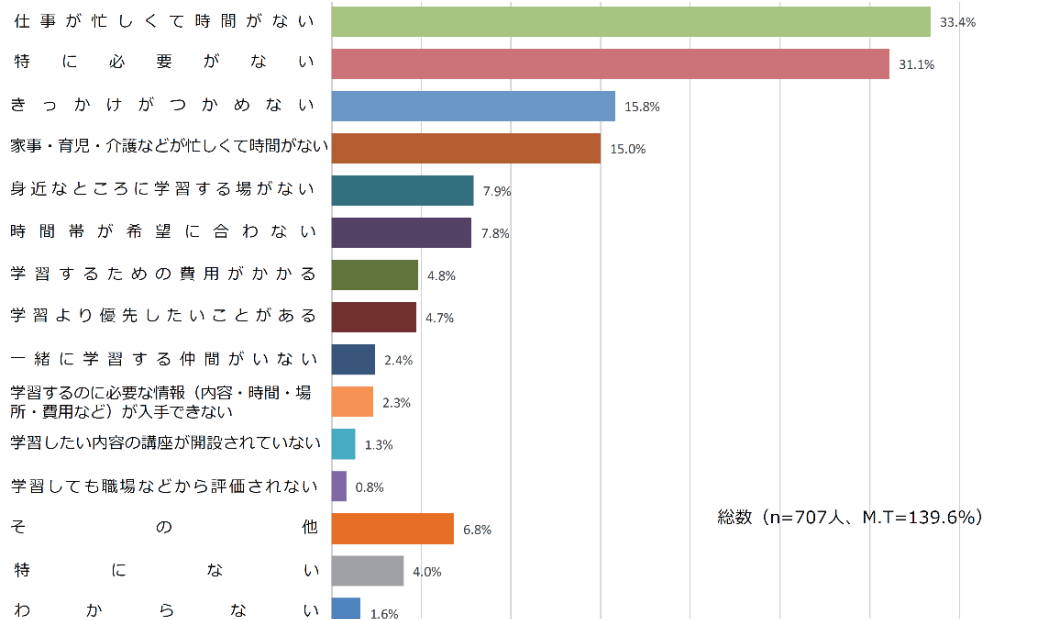
図表 3-25 行わなかった理由（小学校区別）



【参考】内閣府生涯学習に関する世論調査（平成 30 年）

全国調査では「仕事が忙しい」が 33.4%、「必要がない」が 31.1%、「きっかけがつかめない」が 15.8%となっており、愛荘町では必要と感じている人が多い。

図表 3-26 学習をしない理由



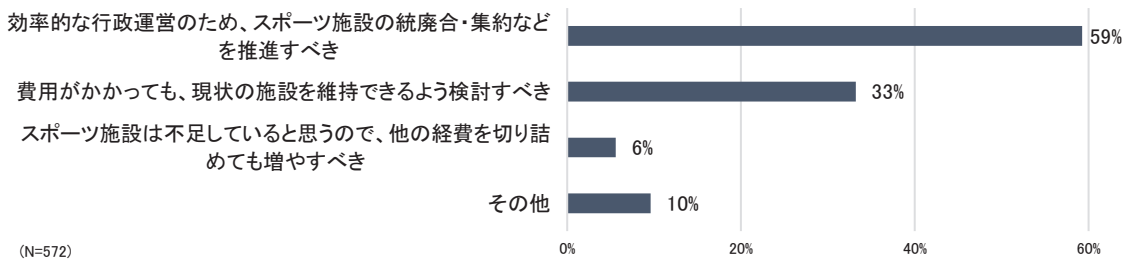
問 14

スポーツ施設の今後の対応【複数回答】

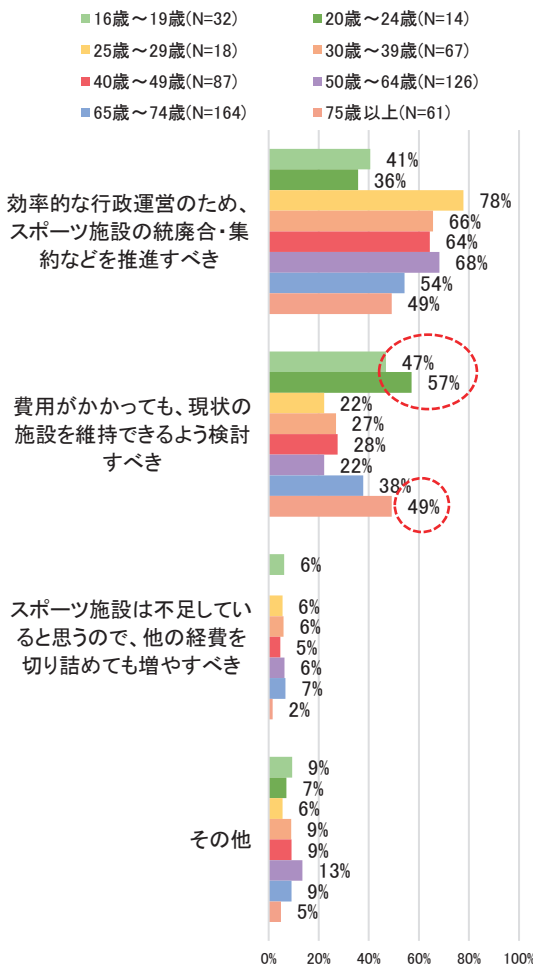
愛荘町は2町合併で誕生し、スポーツ施設が多く整備されていますが、老朽化し多額の維持管理費等が発生している施設も見られます。これらの施設は今後どのようにすることが望ましいとお考えですか？

- ・「スポーツ施設を統廃合すべき」が59%と最も多く、次いで「維持すべき」が33%となっている。
- ・16～24歳、75歳以上は「維持すべき」の回答が多い。
- ・小学校区での差はほとんどないが、秦荘東・秦荘西小学校区の方が「維持すべき」の意見が多い。

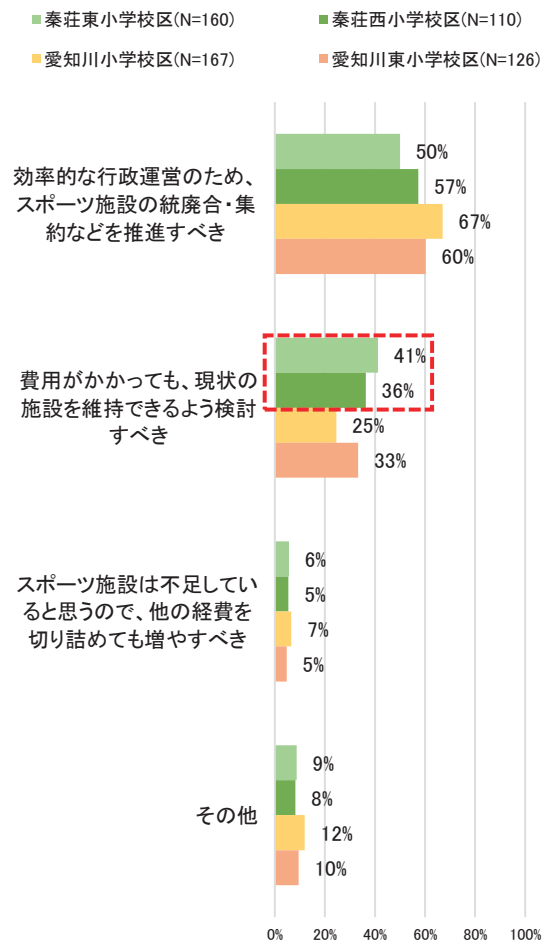
図表 3-27 スポーツ施設の今後の対応（全体）



図表 3-28 スポーツ施設の今後の対応（年齢別）

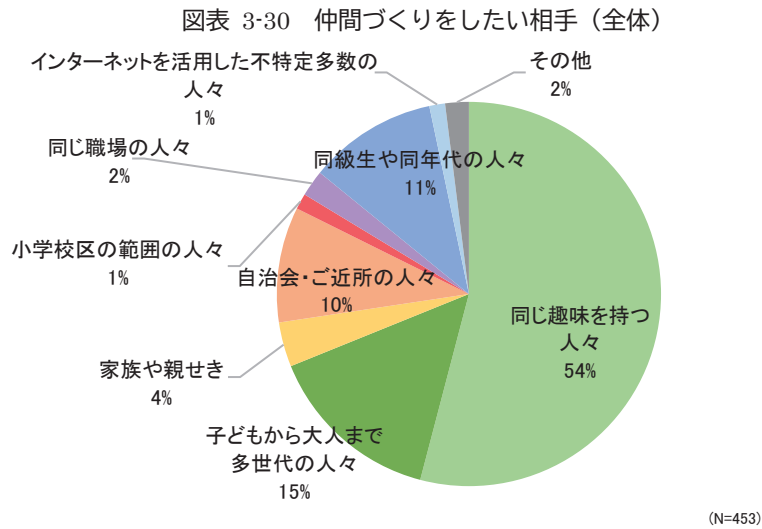


図表 3-29 スポーツ施設の今後の対応（小学校区別）

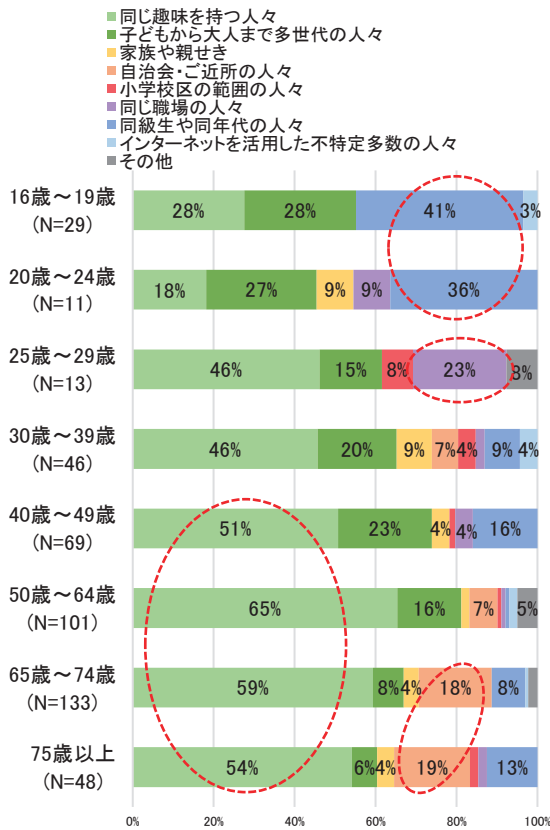


問 15 仲間づくりをしたい相手
あなたはどのような人々と学びあい仲間づくりをしていきたいですか？

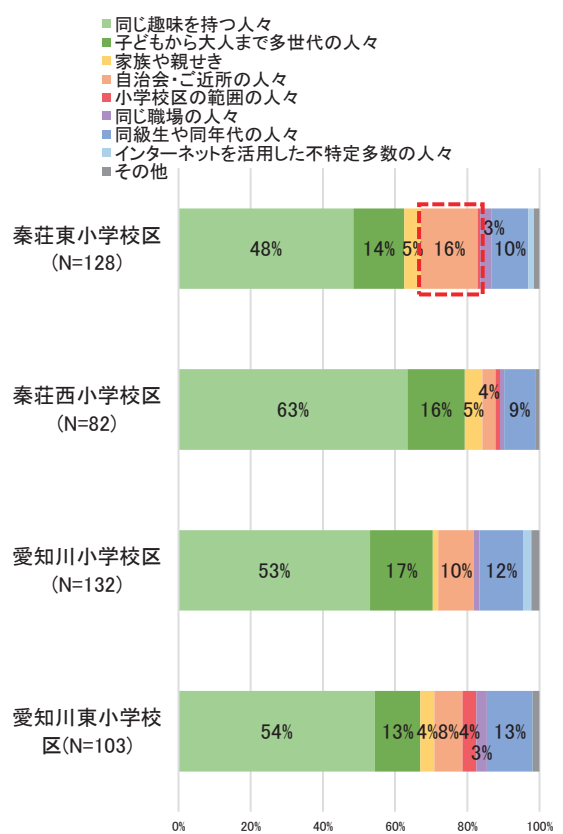
- ・「同じ趣味」が54%と最も多く、次いで「多世代」が15%、「同年代」が11%となっている。
- ・16～24歳は「同年代」が多く、「多世代」も他の年代より多い。25～29歳は「職場」が他の年代より多い。
- ・40歳以上は「同じ趣味」が半数を超えている。65歳以上は「自治会」が他の年代より多い。
- ・秦荘西小学校区は「同じ趣味」が63%と、他の小学校区より9ポイント以上多い。



図表 3-31 仲間づくりをしたい相手（年齢別）



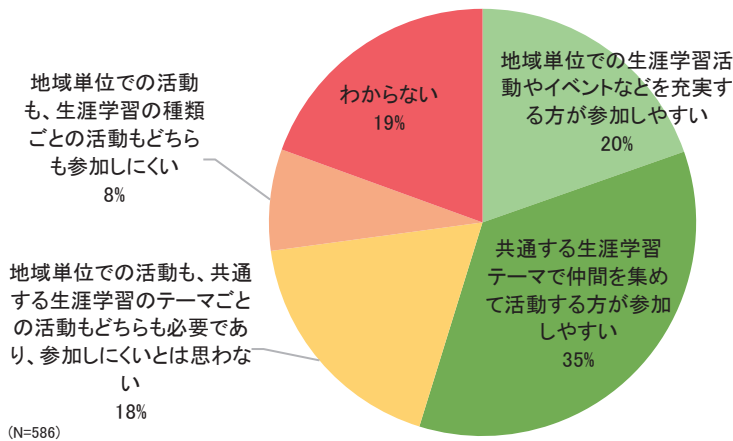
図表 3-32 仲間づくりをしたい相手（小学校区別）



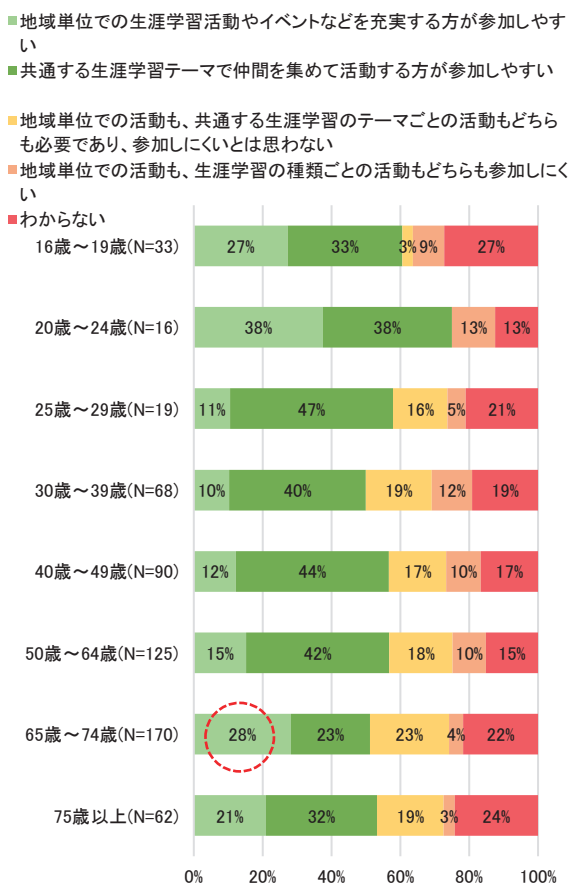
問 16 生涯学習に参加しやすくするために充実させた方がよい活動
 あなたが、生涯学習（趣味のサークル活動、ボランティア活動、スポーツ活動等）に参加するなら、「学校区などの地域単位での活動」か「共通する生涯学習のテーマでの活動」のどちらを充実させた方が参加しやすいですか？

- ・「共通テーマ単位」が35%と最も多く、次いで「地域単位」が20%、「両方」が18%となっている。
- ・どの年代も「共通テーマ単位」が多いが、65～74歳は「地域単位」の方が多い。
- ・小学校区での差はほとんど見られない。

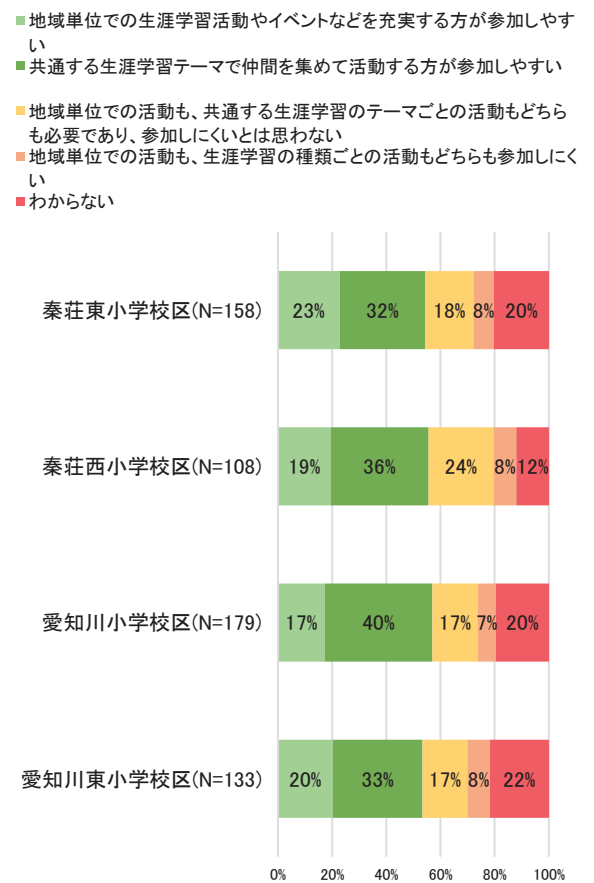
図表 3-33 充実させた方がよい活動（全体）



図表 3-34 充実させた方がよい活動（年齢別）



図表 3-35 充実させた方がよい活動（小学校区別）



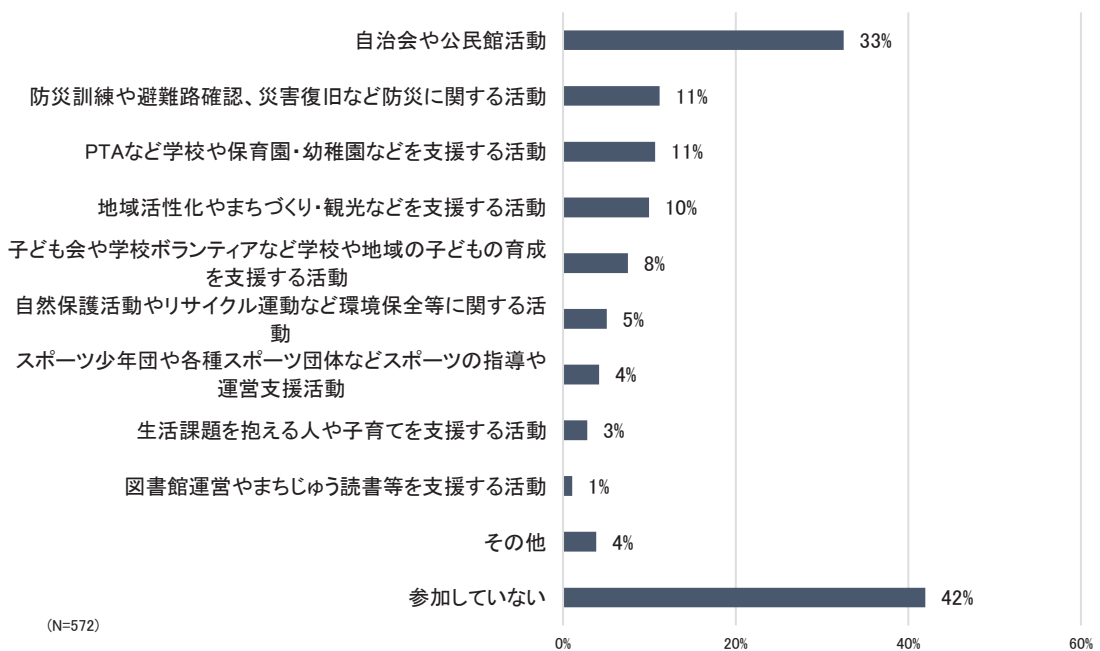
問 17

参加している活動【複数回答】

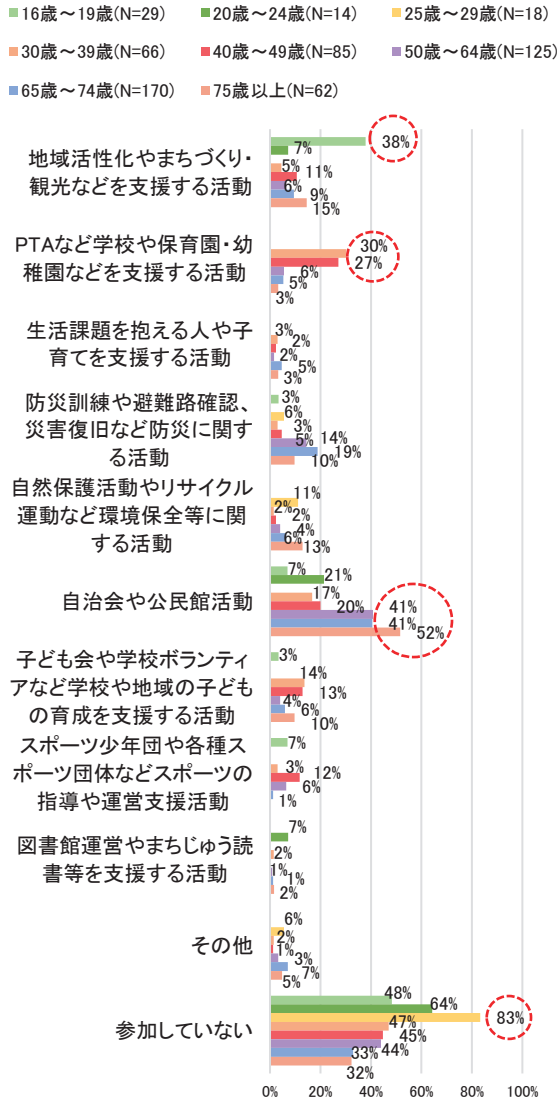
あなたが、地域活動やボランティア活動など、参加している活動はありますか？

- ・「参加していない」が 42%と最も多く、次いで「自治会活動」が 33%、「防災」「PTA」が 11%となっている。
- ・ライフステージに合わせ、10代は「まちづくり」、30～40代は「PTA」、50代以上は「自治会活動」が多く、25～29歳の83%は「参加していない」と回答している。
- ・小学校区での差は見られないが、秦荘西小学校区の「参加していない」が他の小学校区より少ない。

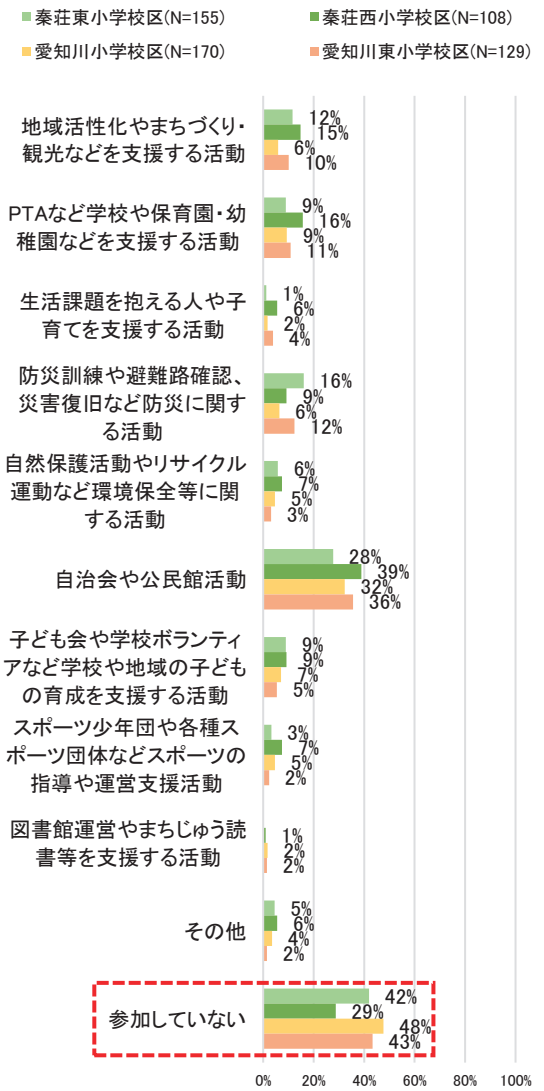
図表 3-36 参加している活動（全体）



図表 3-37 参加している活動（年齢別）



図表 3-38 参加している活動（小学校区別）

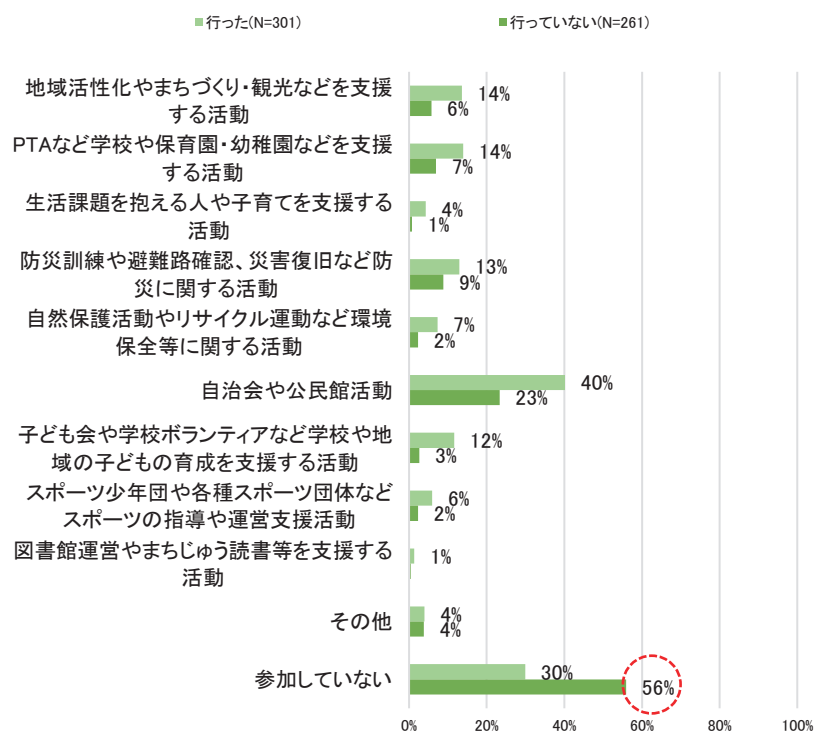


【設問間クロス集計】

問5×問17 生涯学習経験の有無×参加している活動

・生涯学習を行っている人は、地域活動等に参加している人が多く、生涯学習を行っていない人は、参加していない人が多い。

図表 3-39 生涯学習経験の有無×参加している活動



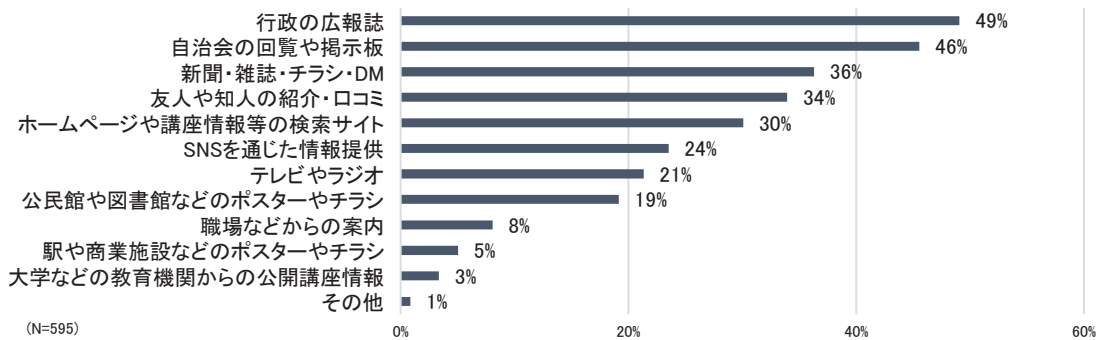
問 19

学習する際の情報収集方法【複数回答】

あなたがこれから学習する場合、どこから情報収集を行いますか？

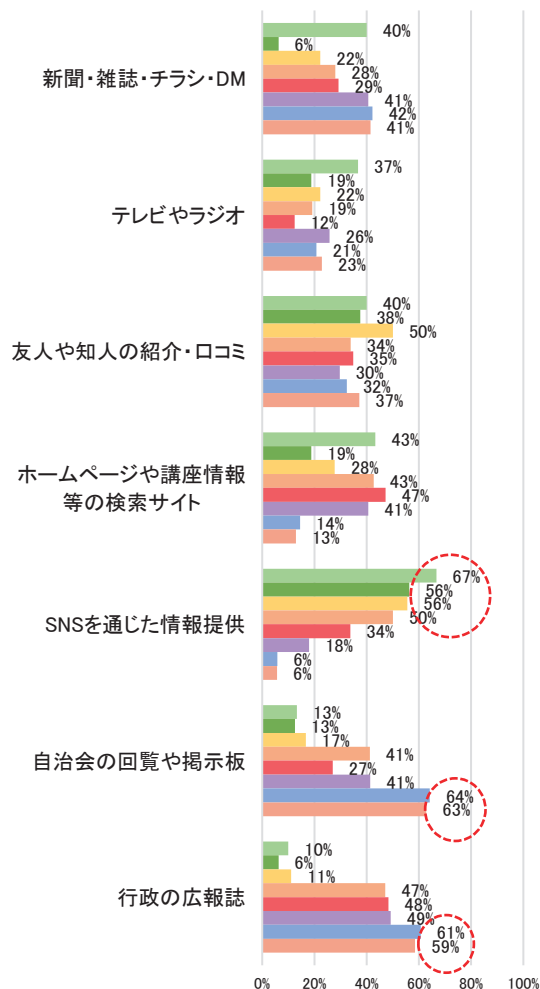
- ・「広報誌」が49%と最も多く、次いで「回覧」が46%、「新聞雑誌」が36%となっている。
- ・10代20代は「SNS」が多く、65歳以上は「回覧」「広報誌」が多い。
- ・「ホームページ」は愛知川小学校区と秦荘西小学校区では10ポイント差がある。

図表 3-40 情報収集方法（全体）



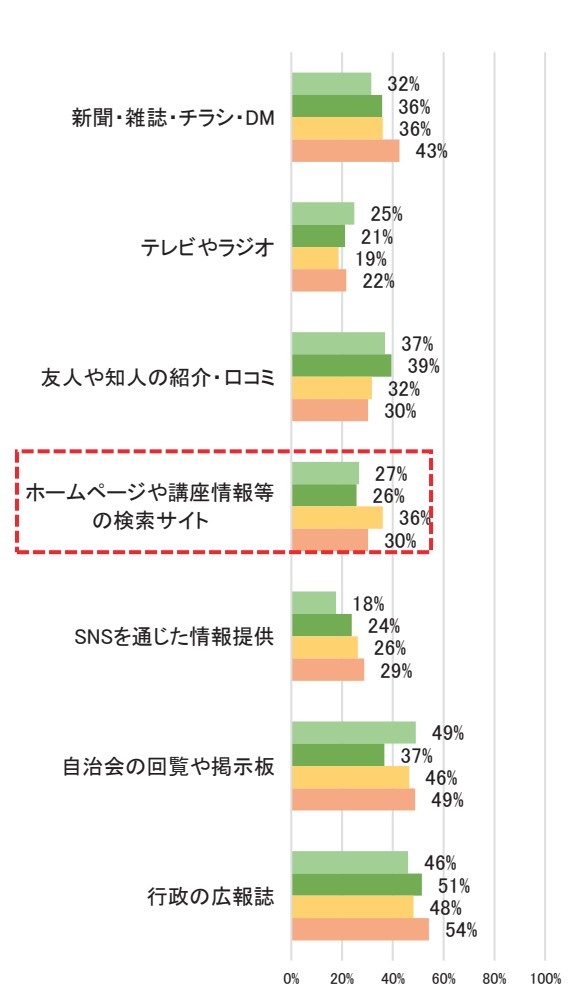
図表 3-41 情報収集方法（年齢別）

■ 16歳～19歳(N=30) ■ 20歳～24歳(N=16) ■ 25歳～29歳(N=18)
■ 30歳～39歳(N=68) ■ 40歳～49歳(N=89) ■ 50歳～64歳(N=128)
■ 65歳～74歳(N=173) ■ 75歳以上(N=70)



図表 3-42 情報収集方法（小学校区別）

■ 秦荘東小学校区(N=165) ■ 秦荘西小学校区(N=109)
■ 愛知川小学校区(N=183) ■ 愛知川東小学校区(N=129)

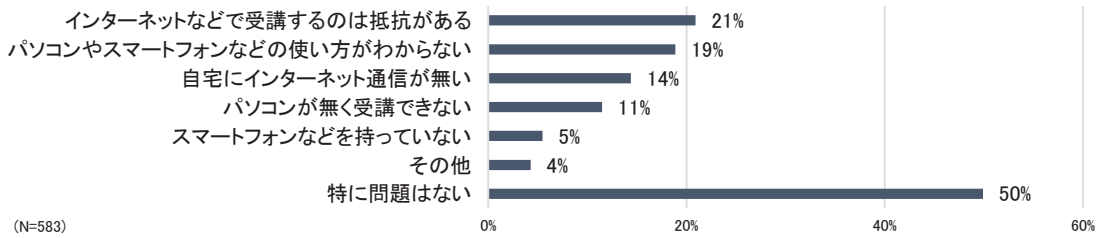


問 20

インターネット講座を受講する際の問題【複数回答】
あなたがインターネット講座を受講する際に問題となることは何ですか？

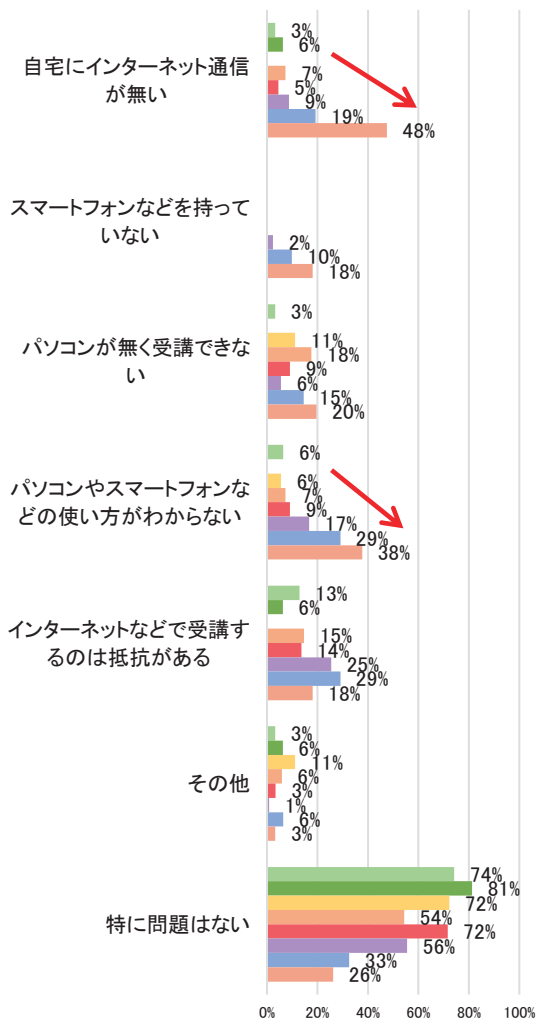
- ・「特に問題はない」が50%と最も多く、次いで「抵抗がある」が21%となっている。
- ・年齢が高くなるほどネット受講が困難になると考えられる。
- ・小学校区での差は見られない。

図表 3-43 受講する際の問題（全体）



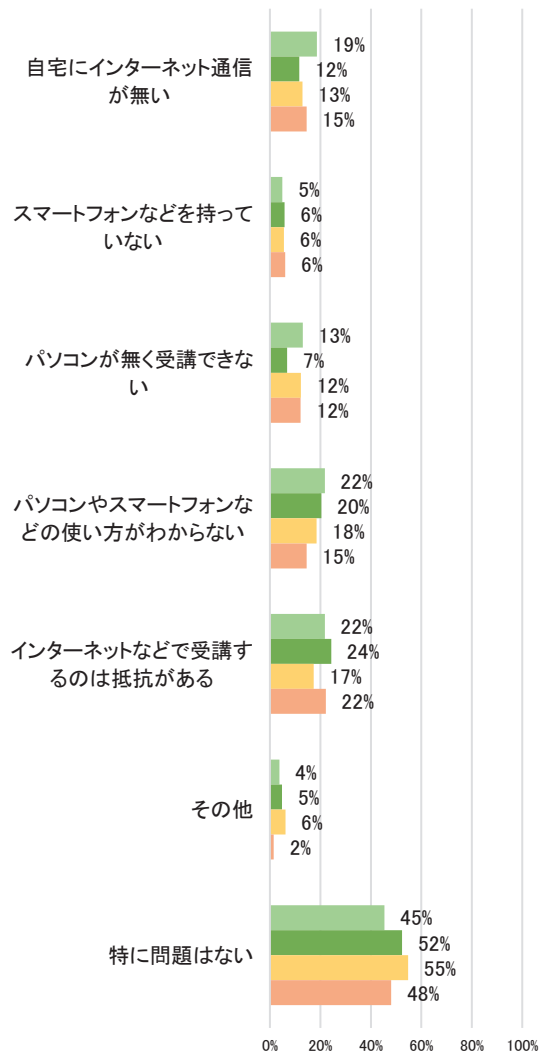
図表 3-44 受講する際の問題（年齢別）

16歳～19歳(N=31) 20歳～24歳(N=16) 25歳～29歳(N=18)
30歳～39歳(N=68) 40歳～49歳(N=88) 50歳～64歳(N=126)
65歳～74歳(N=172) 75歳以上(N=61)



図表 3-45 受講する際の問題（小学校区別）

秦荘東小学校区(N=161) 秦荘西小学校区(N=103)
愛知川小学校区(N=179) 愛知川東小学校区(N=131)



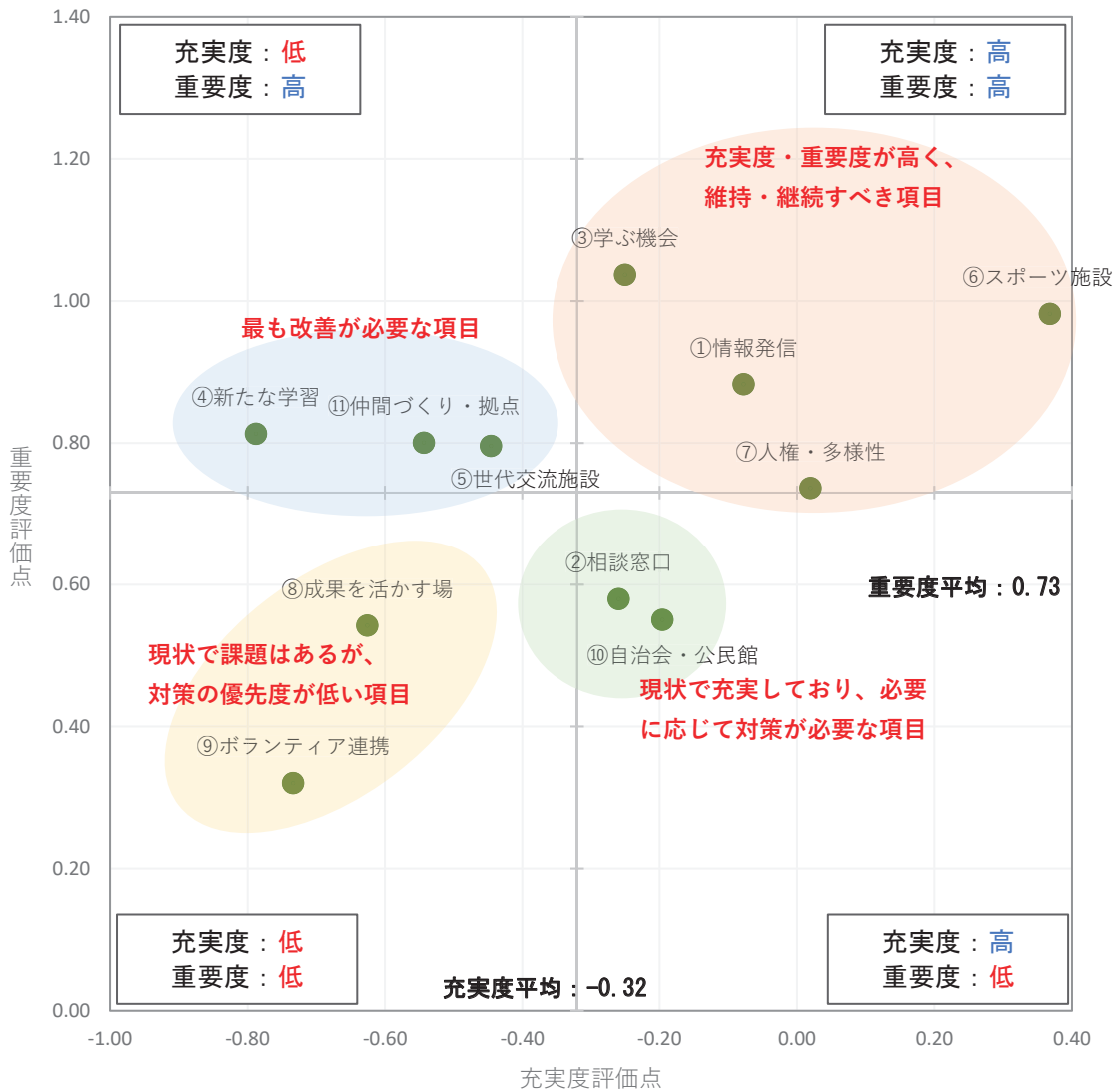
問 21

生涯学習の取組について充実度と重要度

愛荘町の生涯学習に関する取組について、充実度と重要性について評価してください。

- ・充実度が低く、重要度が高い最も改善が必要な項目として、「④新たな学習」「⑩仲間づくり・拠点」「⑤世代間交流施設」が上げられている。

図表 3-46 相関図（充実度と重要度）



※各設問の充実度（横軸）を、充実+2点、まあ充実+1点、やや不十分-1点、不十分-2点、重要度（縦軸）を、重要+2点、やや重要+1点、あまり重要ではない-1点、重要ではない-2点で算定し、充実度の平均-0.32点、重要度の平均0.73を中央値としてグラフを作成した。

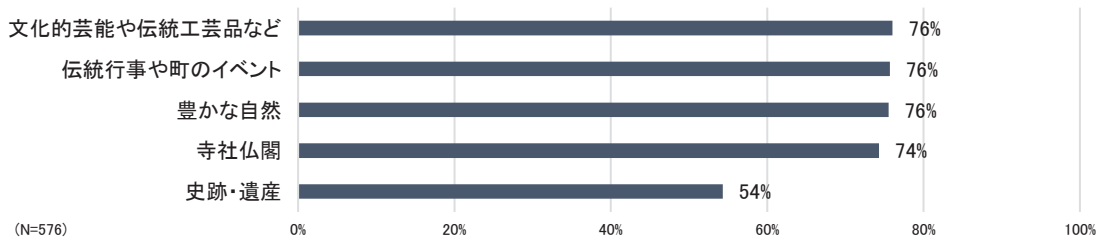
問 22

大切に思う歴史・芸術文化資源のカテゴリー【複数回答】

下記の愛荘町の主な歴史・芸術文化資源のうち、あなたが大切に思う『カテゴリー』は何ですか？

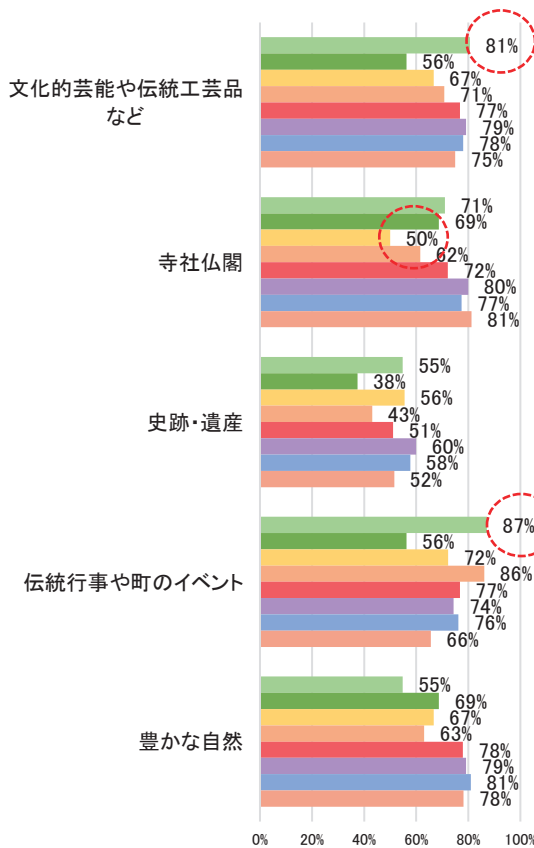
- ・「史跡・遺産」以外は、カテゴリーでは差はなく、全て大切に感じている。
- ・16～19歳は「文化的芸能」や「伝統行事」の支持が高く、25～29歳は「寺社仏閣」の支持が少ない。
- ・「文化的芸能」は愛知川・愛知川東小学校区の方が多く、「寺社仏閣」は秦荘東・秦荘西小学校区が多い。

図表 3-47 大切に思う『カテゴリー』（全体）



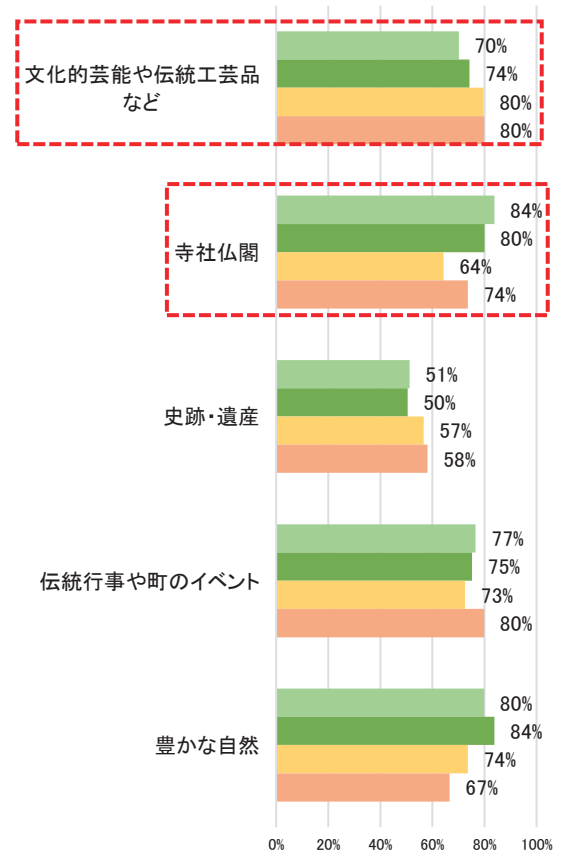
図表 3-48 大切に思う『カテゴリー』（年齢別）

16歳～19歳(N=31) 20歳～24歳(N=16) 25歳～29歳(N=18)
 30歳～39歳(N=65) 40歳～49歳(N=86) 50歳～64歳(N=125)
 65歳～74歳(N=168) 75歳以上(N=64)



図表 3-49 大切に思う『カテゴリー』（小学校区別）

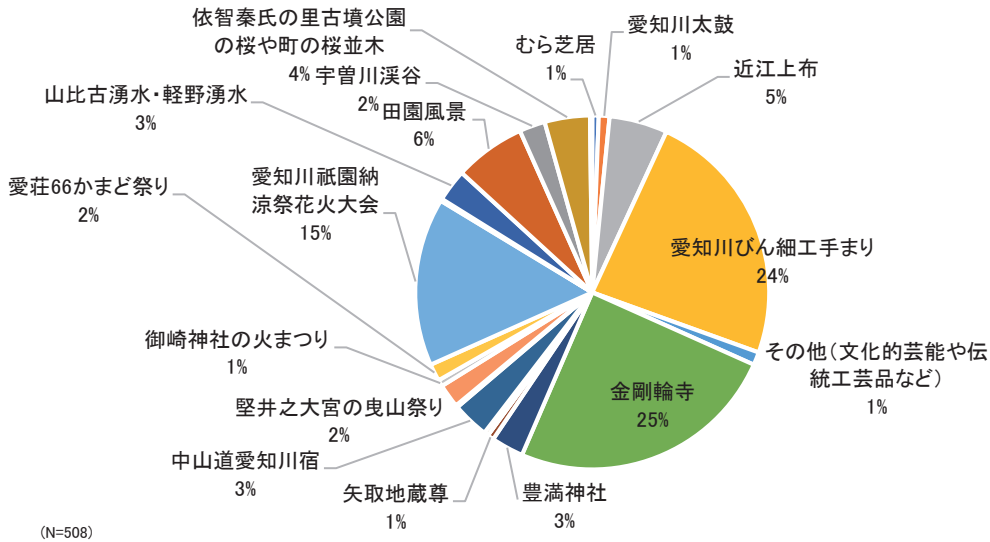
秦荘東小学校区(N=154) 秦荘西小学校区(N=105)
 愛知川小学校区(N=182) 愛知川東小学校区(N=129)



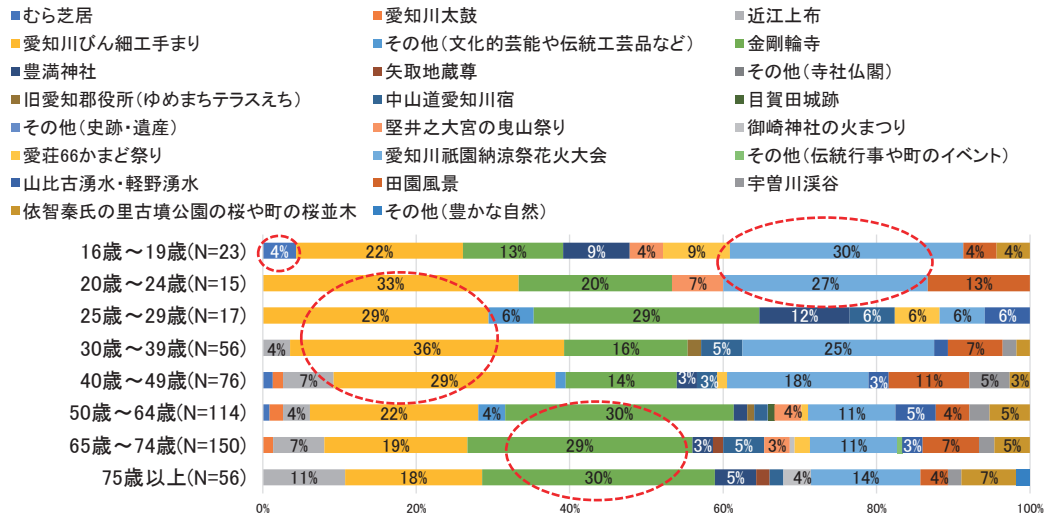
問 23 最も大切だと思う歴史・芸術文化資源
問 22 で選択したカテゴリーの中で、最も誇りに思う資源を①～③から 1 つ選び、番号を記載してください。

- ・「金剛輪寺」が 25% と最も多く、次いで「愛知川びん細工手まり」が 24%、「愛知川祇園納涼祭花火大会」が 15% となっている。
- ・16 歳～24 歳の若い世代は「花火大会」の支持が多く、50 歳以上の年齢が高い世代は「金剛輪寺」の支持が多い。
- ・16 歳～19 歳は他の世代に比べ「むら芝居」の支持がみられたが、授業で観劇などが始まった世代である。
- ・20 歳～49 歳は他の世代に比べ「愛知川びん細工手まり」の支持が多くみられたが、中学の選択授業でびん細工手まりを体験した世代であり、学校教育が歴史・文化資源の意識に影響を与えていると考えられる。

図表 3-50 誇りに思う資源 (全体)

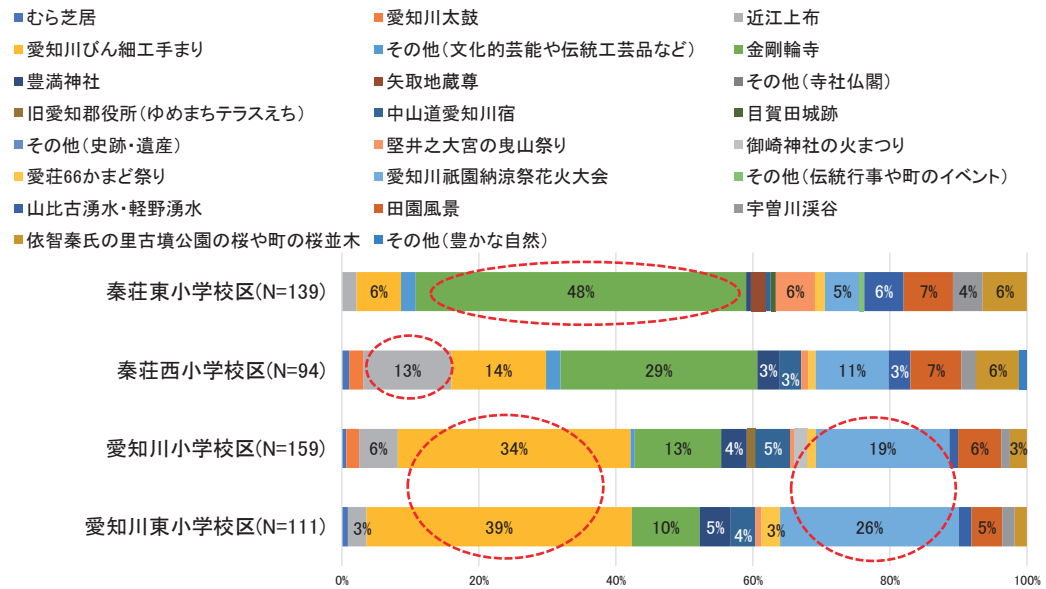


図表 3-51 誇りに思う資源 (年齢別)



- ・愛知川・愛知川東校区では、「愛知川びん細工手まり」「花火大会」の支持が多く、秦荘東小学校校区では半数近くが「金剛輪寺」を支持している。
- ・秦荘西小学校校区では、手織りの里があるため他の小学校校区に比べ「近江上布」が支持されていると考えられる。

図表 3-52 誇りに思う資源（小学校区別）

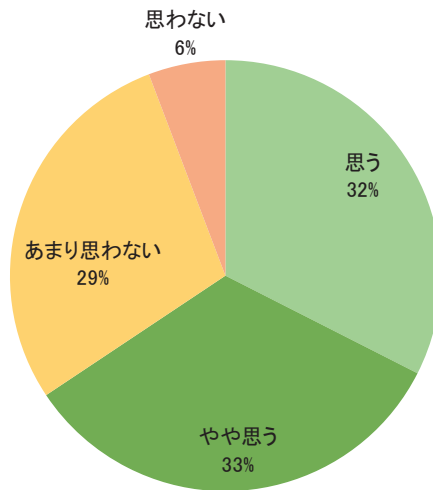


問 24

歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいか
あなたは愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思いますか？

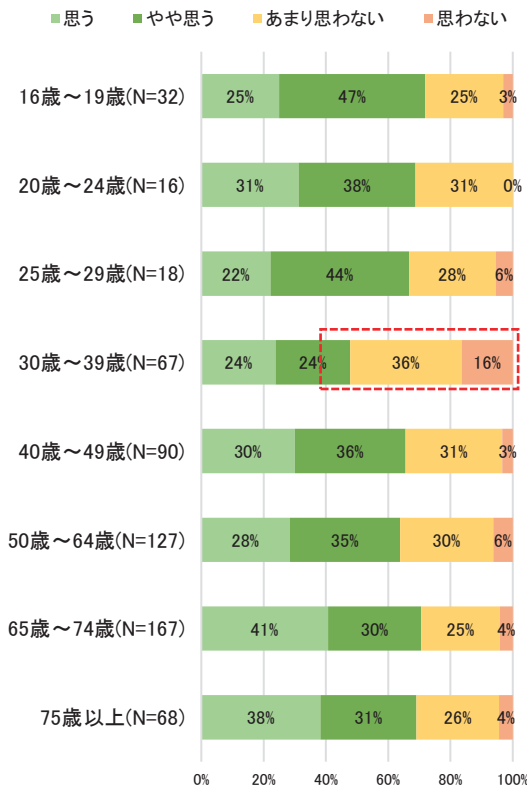
- ・「思う」「やや思う」が合わせて 65%となっている。
- ・30代は「思わない」「あまり思わない」が合わせて 52%と半数を超えており、歴史・芸術文化への意識がやや希薄となっている。
- ・秦荘東小学校区は「思う」「やや思う」が合わせて 73%、愛知川小学校区は 60%でポイント少ない。

図表 3-53 魅力を伝えたいか（全体）

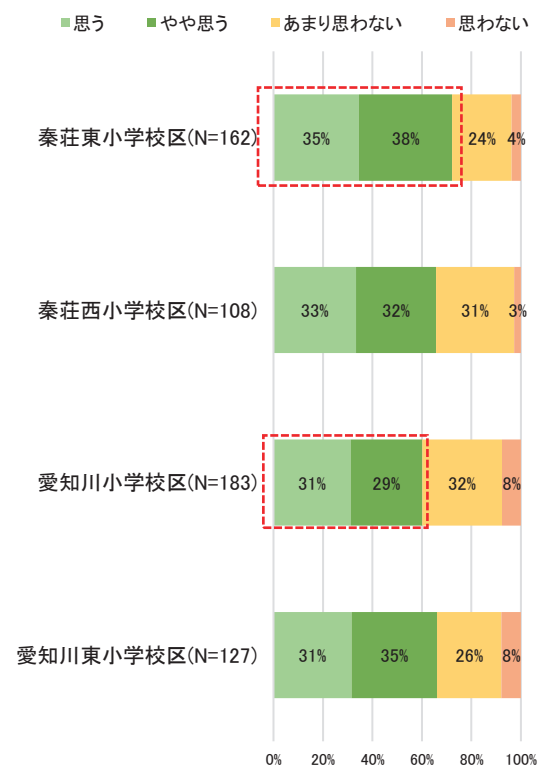


(N=588)

図表 3-54 魅力を伝えたいか（年齢別）



図表 3-55 魅力を伝えたいか（小学校区別）

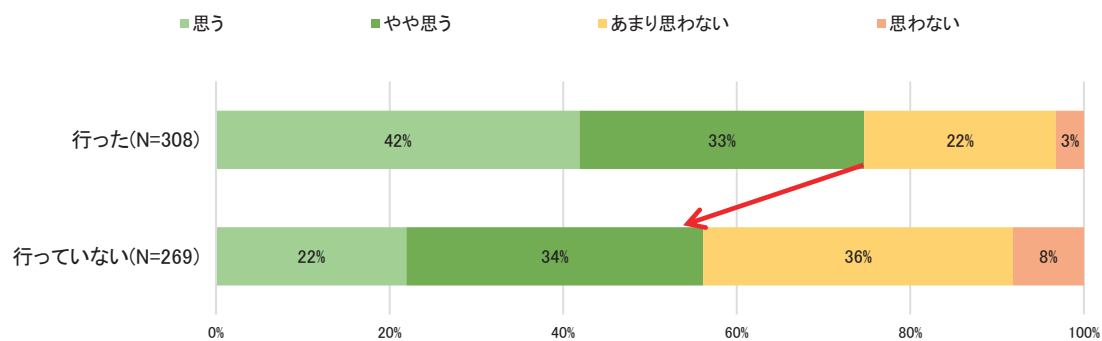


【設問間クロス集計】

問5×問24 生涯学習経験の有無×歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたい

・生涯学習を行った人のうち魅力を伝えたいと思う人は75%であり、行っていない人の56%よりも19ポイント多い。

図表 3-56 生涯学習経験の有無×魅力を人に伝えたい

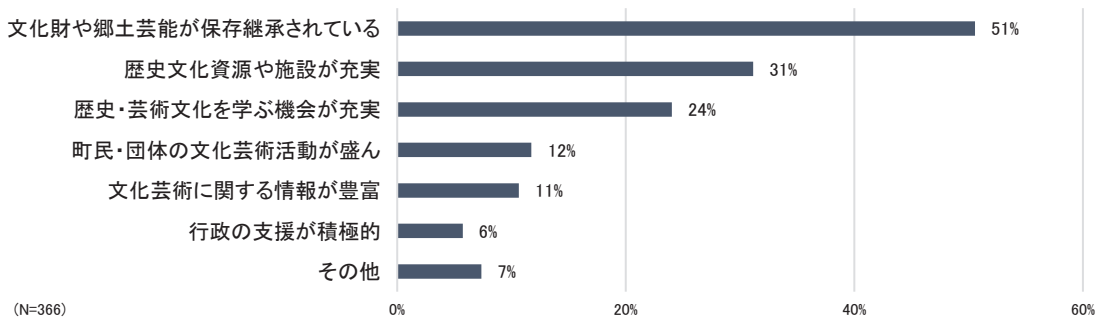


問 25

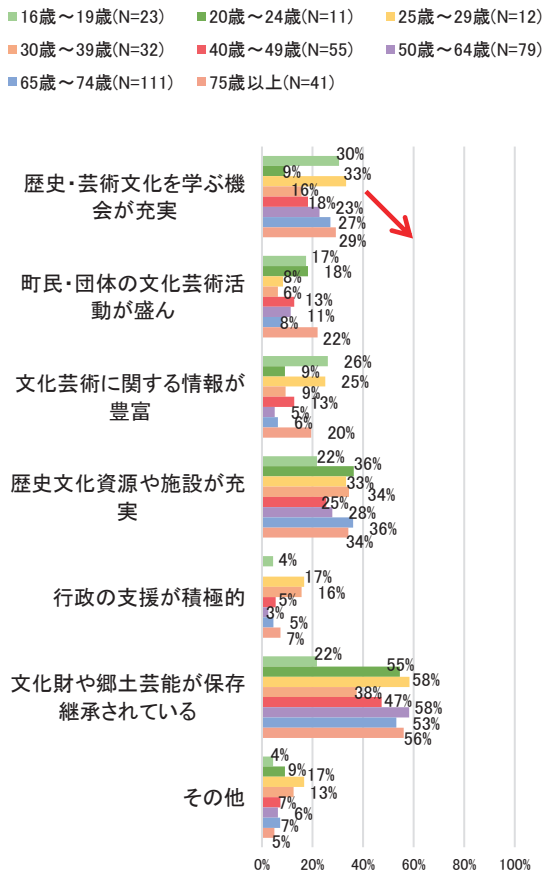
歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思う理由【複数回答】
 愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を伝えたいと思う理由は何ですか？
 ※問 24 で「思う」「やや思う」と回答した方のみ

- ・「保存継承されている」が 51%と最も多く、次いで「施設が充実」が 31%、「学ぶ機会が充実」が 24%となっている。
- ・30代から年代が高くなるにつれて「学ぶ機会が充実」の割合が高くなっている。
- ・「歴史文化資源や施設が充実」は秦荘西小学校区と愛知川東小学校区では 20 ポイントの差がある。

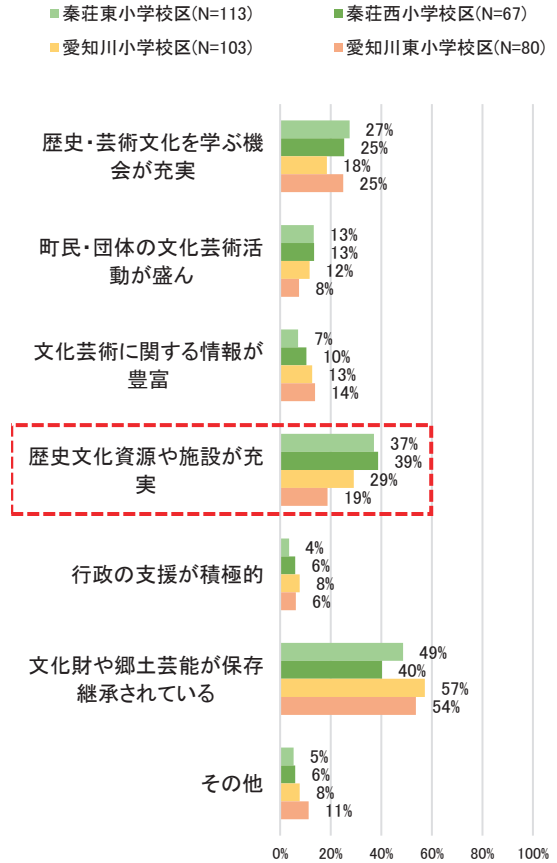
図表 3-57 魅力を伝えたい理由（全体）



図表 3-58 魅力を伝えたい理由（年齢別）



図表 3-59 魅力を伝えたい理由（小学校区別）

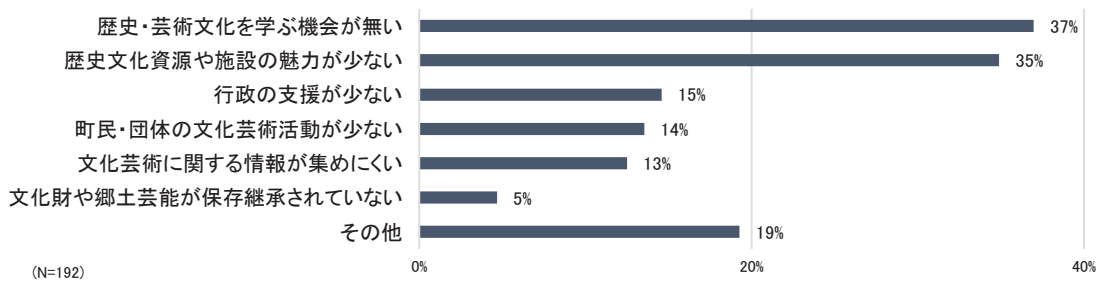


問 26

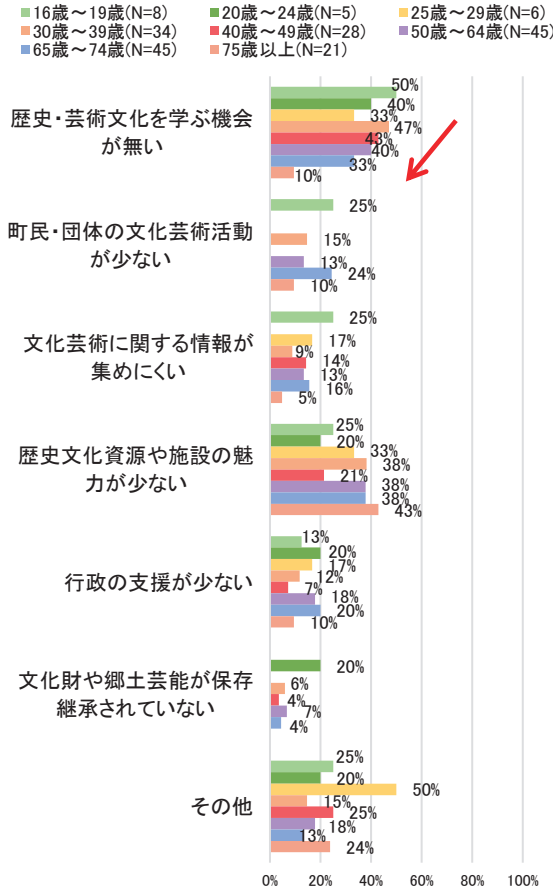
歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思わない理由【複数回答】
 愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を伝えたいと思わない理由は何ですか？
 ※問 24 で「あまり思わない」「思わない」と回答した方のみ

- ・「学ぶ機会が無い」が37%と最も多く、次いで「魅力が少ない」が35%となっている。
- ・「学ぶ機会が無い」は年代が高くなるにつれて低くなっている。
- ・「その他」では「詳しく知らない」という回答が多い。
- ・「歴史文化資源や施設の魅力が少ない」は秦荘東、愛知川小学校区が多く感じているが、問 25 では秦荘東小学校区が「歴史文化資源や施設の魅力が多い」と回答しており、意識の差が大きいと考えられる。

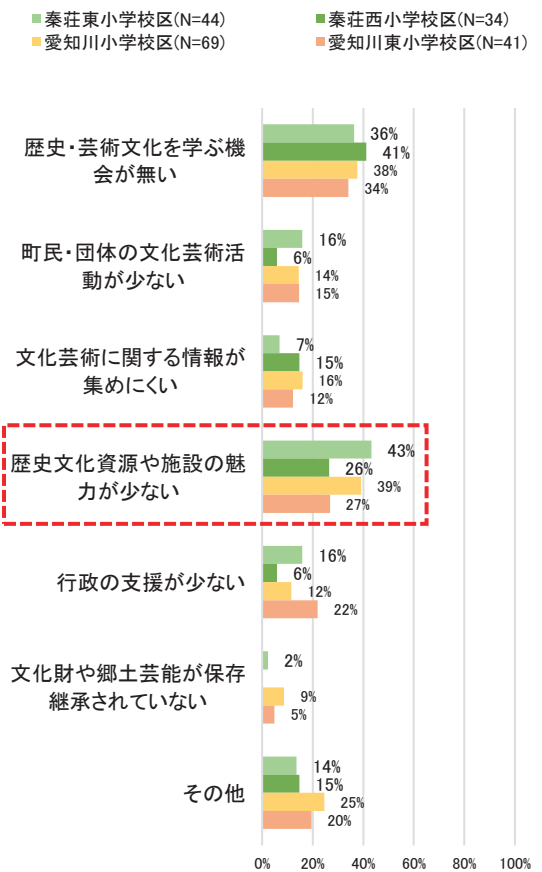
図表 3-60 伝えたいと思わない理由（全体）



図表 3-61 伝えたいと思わない理由（年齢別）



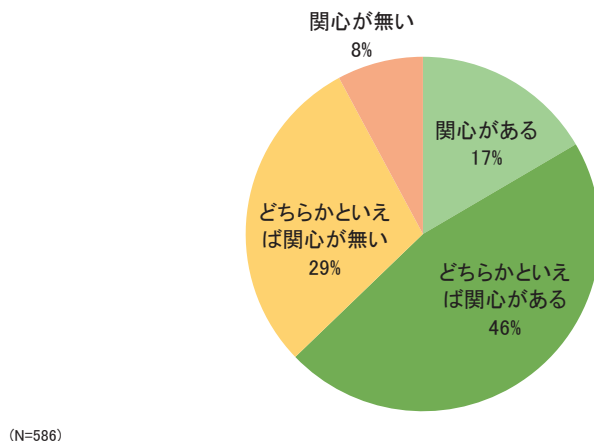
図表 3-62 伝えたいと思わない理由（小学校区別）



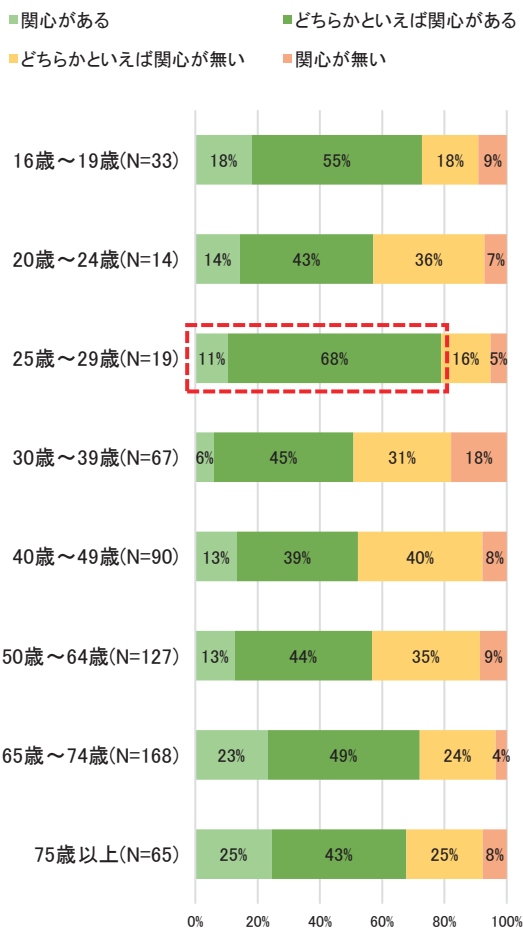
問 27-1 歴史・芸術文化への関心の有無
あなたは愛荘町の歴史・芸術文化に関心がありますか？

- ・「関心がある」「どちらかといえば関心がある」が63%となっている。
- ・25～29歳は79%が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答している。
- ・30～64歳までは他の年代に比べ「関心が無い」「どちらかといえば関心がない」の回答が多い。
- ・小学校区による大きな差は見られなかった。

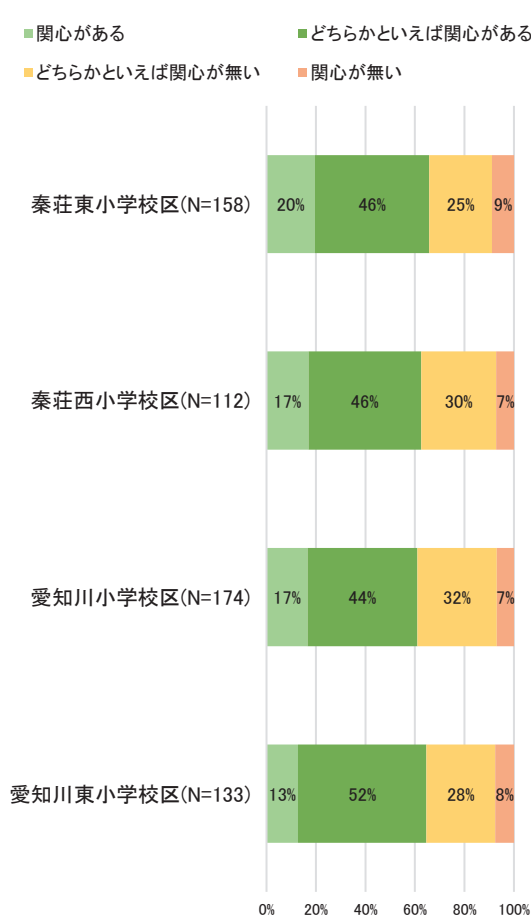
図表 3-63 歴史・芸術文化への関心（全体）



図表 3-64 歴史・芸術文化への関心（年齢別）



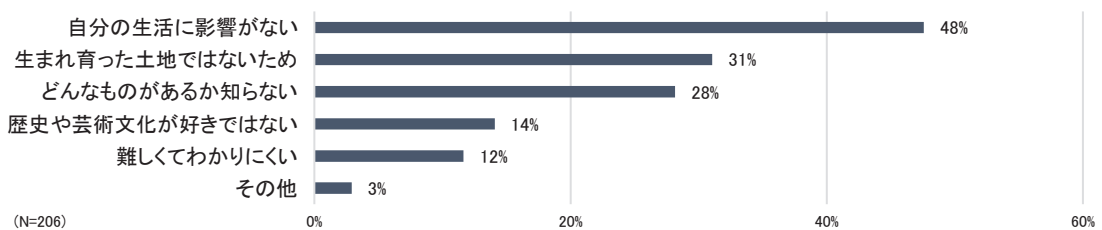
図表 3-65 歴史・芸術文化への関心（小学校区別）



問 27-2 歴史・芸術文化へ関心がない理由【複数回答】
 関心が無い理由は何ですか？
 ※問 27-1 で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と回答した方

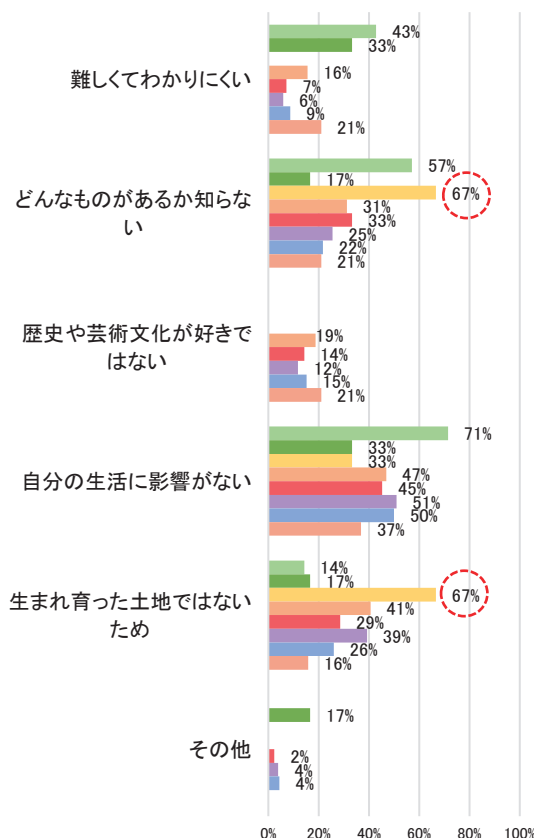
- ・「自分の生活に影響がない」が 48% と最も多く、次いで「生まれ育った土地ではない」が 31% となっている。
- ・25～29 歳は「どんなものがあるか知らない」「生まれ育った土地ではない」との回答が他の世代と比べて多い。
- ・愛知川東小学校区は「どんなものがあるか知らない」が他小学校区より多く、秦荘東小学校区は「自分の生活に影響がない」が多い。
- ・愛知川小学校区は「生まれ育った土地ではない」が他小学校区より多い。

図表 3-66 関心がない理由（全体）



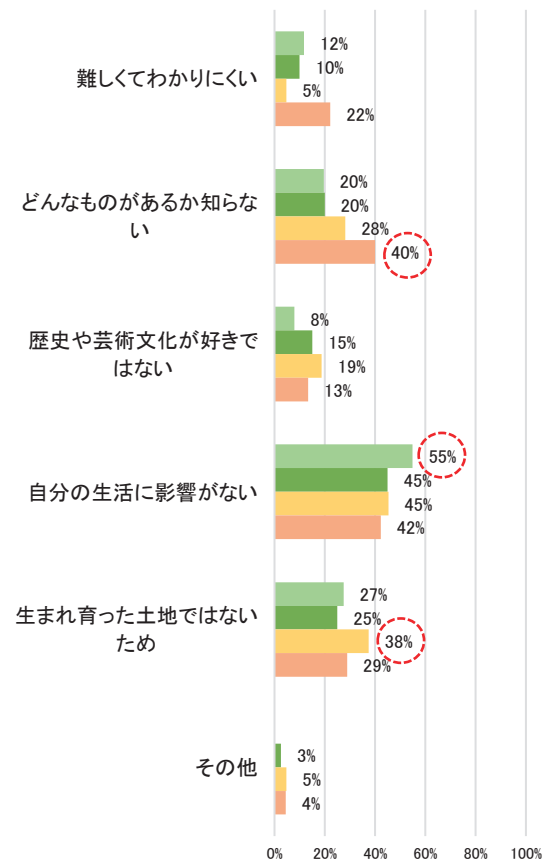
図表 3-67 関心がない理由（年齢別）

16歳～19歳(N=7) 20歳～24歳(N=6) 25歳～29歳(N=3)
 30歳～39歳(N=32) 40歳～49歳(N=42) 50歳～64歳(N=51)
 65歳～74歳(N=46) 75歳以上(N=19)



図表 3-68 関心がない理由（小学校区別）

秦荘東小学校区(N=51) 秦荘西小学校区(N=40)
 愛知川小学校区(N=64) 愛知川東小学校区(N=45)



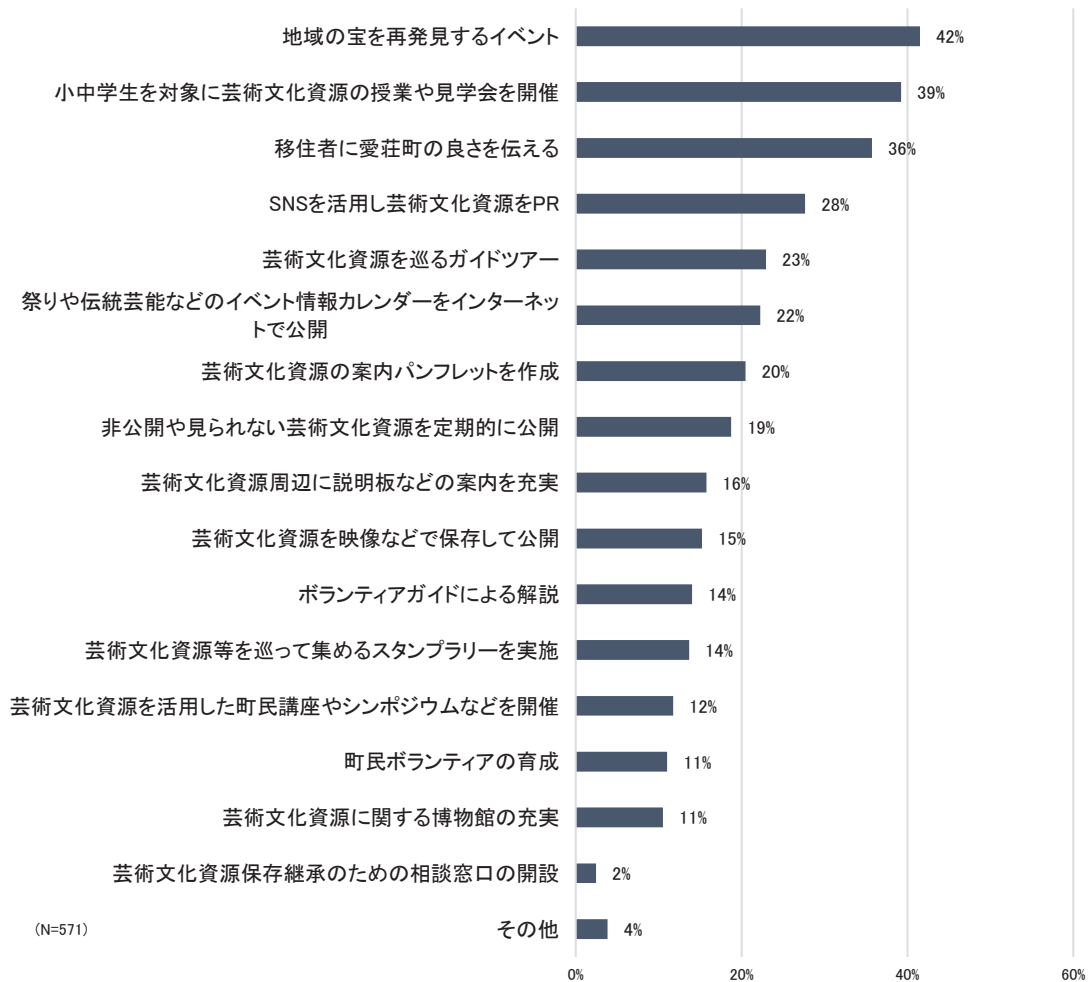
問 28

歴史・芸術文化へ関心を持つために必要なもの【複数回答】

あなたは、多くの方が歴史・芸術文化資源に関心を持つためには、どのようなものが必要だと思いますか？

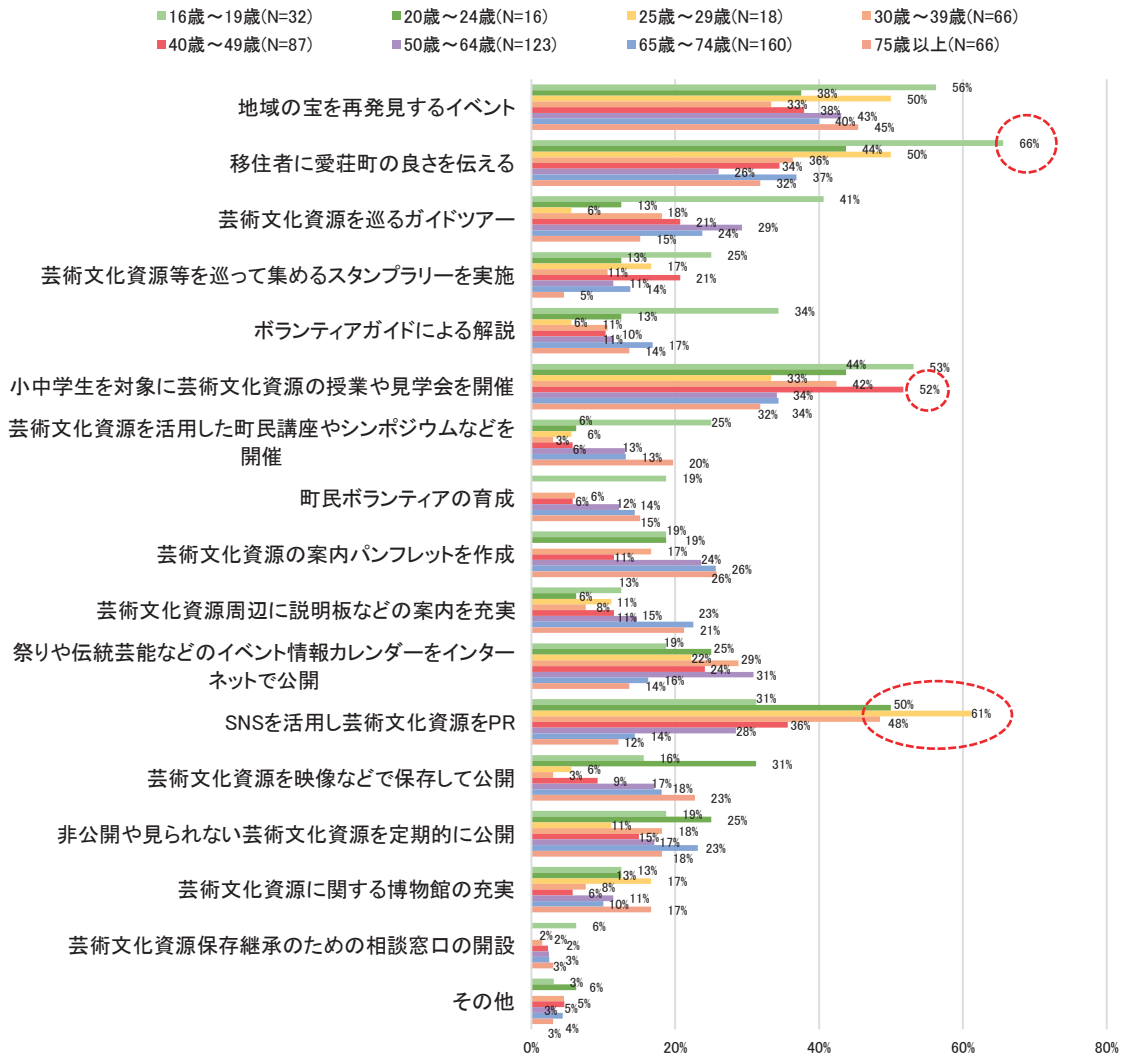
・「イベント」が42%と最も多く、次いで「小中学生を対象に見学会を開催」が39%、「移住者に良さを伝える」が36%となっている。

図表 3-69 関心を持つために必要なもの（全体）

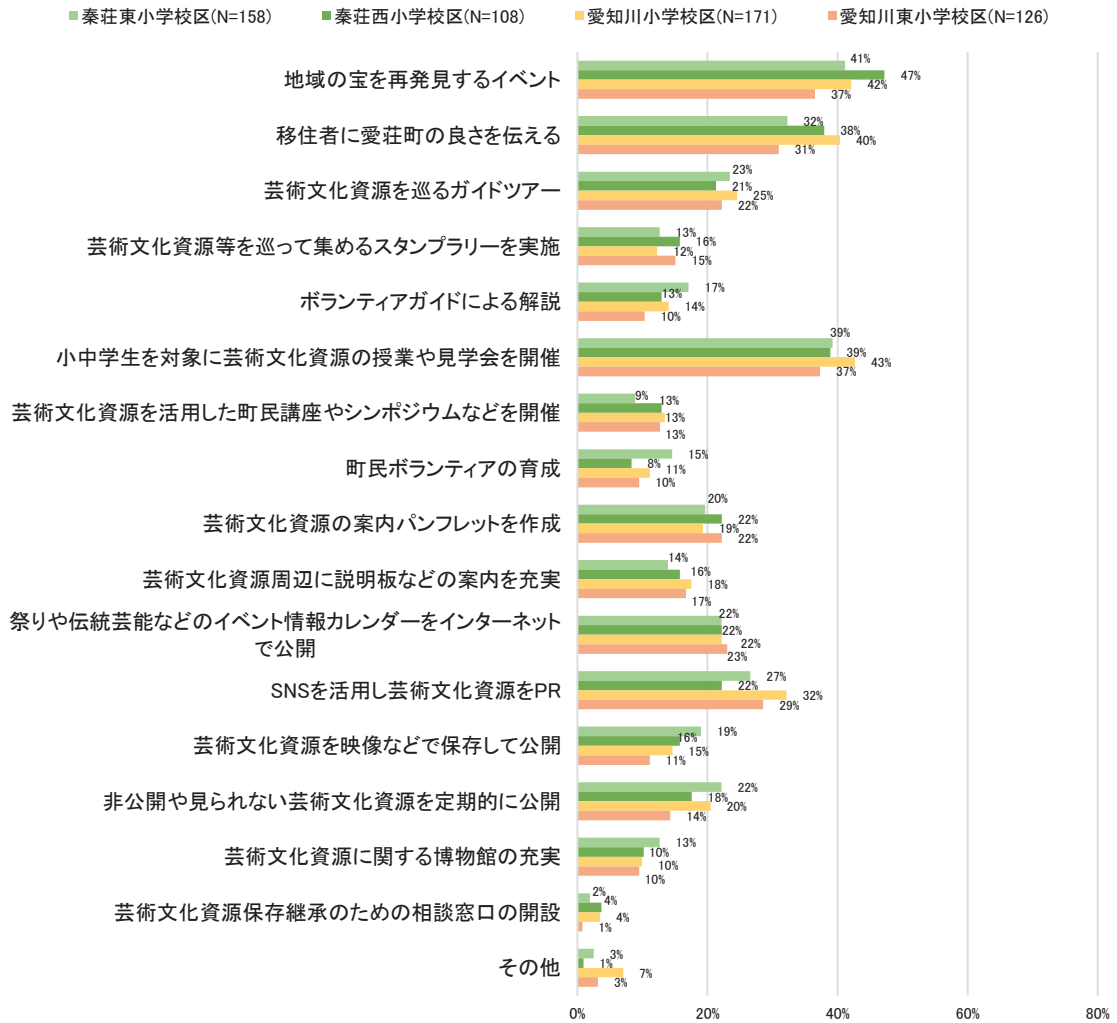


- ・「移住者に良さを伝える」「SNS の活用」は若い世代が多く回答しており、子育て世代である 30～40 代は「小中学生を対象に見学会を開催」が多い。
- ・小学校区による大きな差は見られなかった。

図表 3-70 関心を持つために必要なもの（年齢別）



図表 3-71 関心を持つために必要なもの（小学校区別）



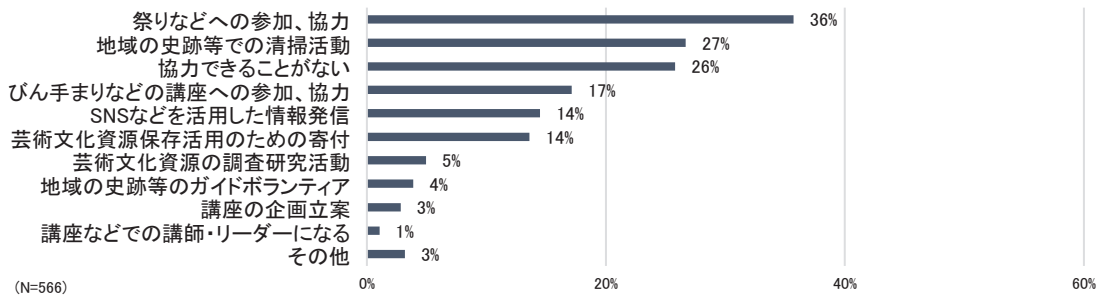
問 29

歴史・芸術文化の保存継承・活用のため協力できること【複数回答】

歴史・芸術文化資源等の保存継承・活用を行う際に、あなたが協力できることは何ですか？

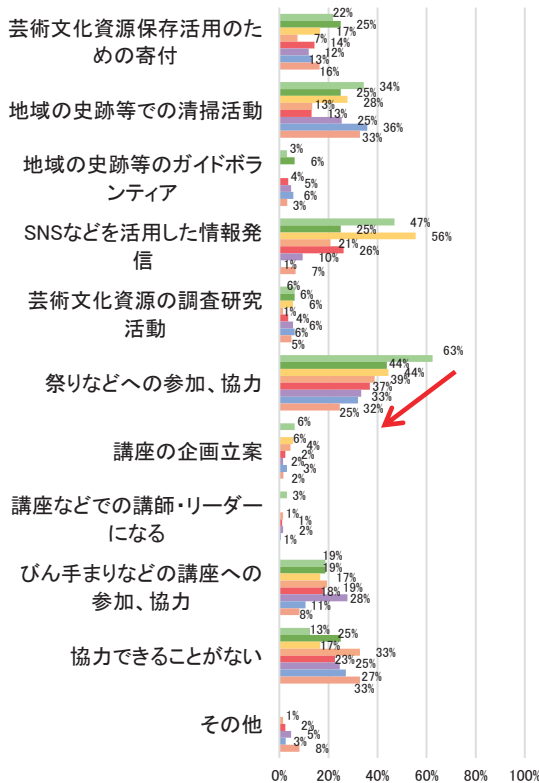
- ・「祭りなどへの協力」が36%と最も多く、次いで「清掃活動」が27%、「協力できない」が26%となっている。
- ・「祭りなどへの協力」は高齢になるほど回答が低くなっている。
- ・「清掃活動」は秦荘東・秦荘西小学校区と愛知川・愛知川東小学校区で12ポイントの差、「祭りなどへの協力」は、秦荘東小学校区と愛知川東小学校区で9ポイントの差がある。

図表 3-72 協力できること（全体）



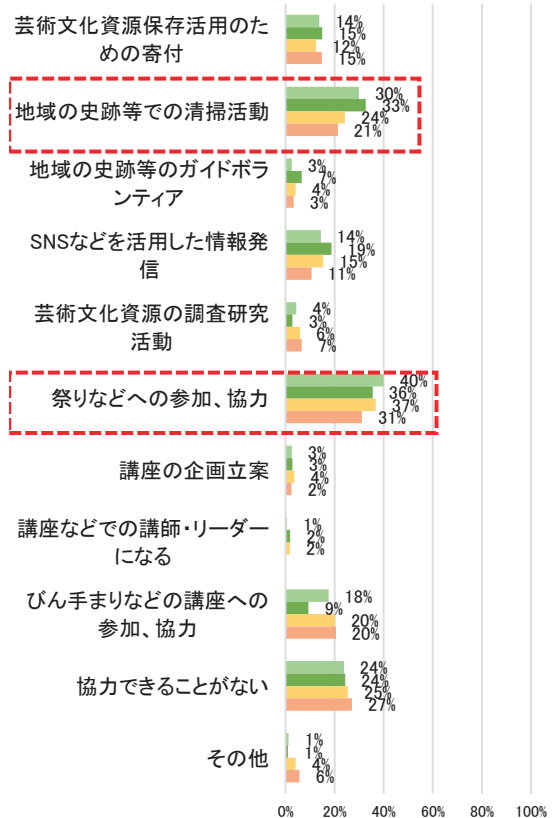
図表 3-73 協力できること（年齢別）

16歳～19歳(N=32) 20歳～24歳(N=16) 25歳～29歳(N=18)
 30歳～39歳(N=67) 40歳～49歳(N=84) 50歳～64歳(N=126)
 65歳～74歳(N=159) 75歳以上(N=61)



図表 3-74 協力できること（小学校区別）

秦荘東小学校区(N=160) 秦荘西小学校区(N=107)
 愛知川小学校区(N=169) 愛知川東小学校区(N=122)

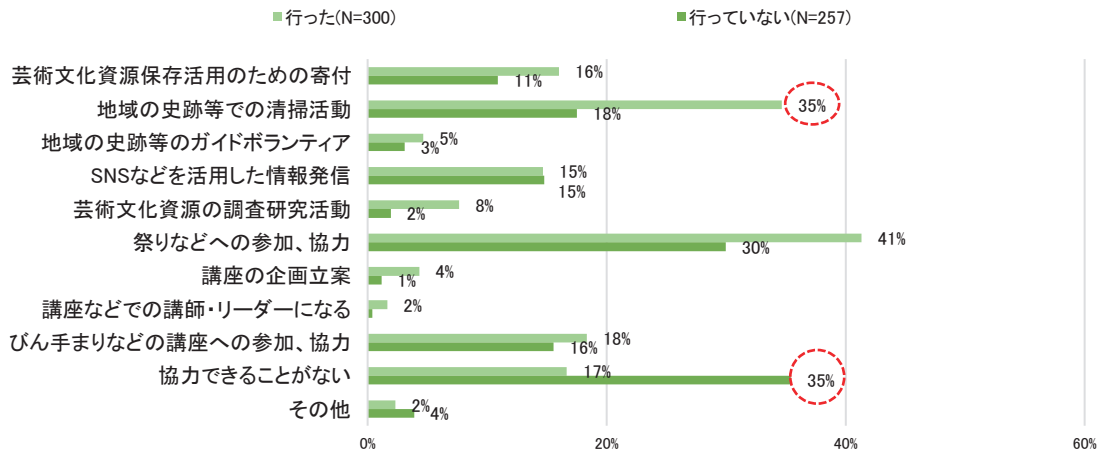


【設問間クロス集計】

問5×問29 生涯学習経験の有無×歴史・芸術文化への協力

- ・生涯学習を行った人は、行わない人より、ほとんどの項目で協力できるが多い。
- ・「清掃活動」では、行った人が17ポイント多くなっている。
- ・また、「協力できない」では行わない人が18ポイント多くなっている。

図表 3-75 生涯学習経験の有無×歴史・芸術文化への協力



(4) 分析結果

問8（学習活動のきっかけ）及び問9-1（生涯学習の活かし方）の回答結果にあるように、生涯学習のきっかけや成果の活かし方に関しては、自分視点での行動によるものが多いと考えられる。問15（仲間づくりをしたい相手）や問16（参加しやすいテーマ）の回答結果を見るように、生涯学習など多くの人を引き入れ継続的に発展させていくためには、同じテーマによるコミュニティや仲間づくりで繋がる方が受け入れやすく、そういった視点での取組が重要だと思われる。

地域への関心・意識に関して、問17（参加している活動）や問29（文化芸術に関して協力できること）の回答結果に見るように、若い世代でまちづくりや地域への協力意識が高いという点が見られ、そういった若い世代をより積極的に巻き込むことで活性化が図られるのではないかと考えられる。

愛荘町民で生涯学習経験者は、問5の結果にあるように半数以上の方々が経験を持っており、その生涯学習経験者は、問24（生涯学習経験と魅力発信意識）や問29（生涯学習経験と文化芸術への協力意識）の結果のように、生涯学習を行っている人は行っていない人に比べ、「地域の魅力を伝えたい」、「文化芸術の振興に対しての高い協力意識を持つ」など、地域（地域資源）に対して協力的な意識や行動を行っている方が多い。したがって、生涯学習行動と地域への貢献意識は親和性が有ると考えることができる。

具体的な愛荘町の文化芸術などに関する地域資源に対して、愛知川びん細工手まりや金剛輪寺、花火祭りなどを大切だと考える人が多い。また、金剛輪寺については年齢が高くなるほど大切だと考える人が多くなるが、愛知川びん細工手まりについては、中学の選択授業で体験した若い世代にも支持を得ていることを考えると、子どもの頃に触れて学んだ経験を持つことは、大人になっても印象・意識を保ち続けることになり、持続可能な文化芸術資源を推進する上で、有意義なことだと考えられる。

2. 近隣地域住民へのアンケート調査

(1) 調査の目的

本調査研究を実施するに当たり、近隣地域における愛荘町の文化芸術資源の認識・魅力を把握し利活用が可能な地域文化芸術資源を抽出するため、インターネットによる近隣地域住民のアンケートを実施した。

(2) 調査の概要

以下の内容で近隣自治体である3地域（大阪府、愛知県、滋賀県内）に居住する住民に Web アンケートを実施した。

- ・ アンケート名：愛荘町の地域資源に関する調査
- ・ アンケート期間：令和3年9月24日～10月2日
- ・ 調査対象、手法：登録調査モニター（約150万人）より、16歳以上89歳以下の男女に対する Web ページでの回答を依頼
- ・ サンプル数：滋賀県、大阪府、愛知県在住者各1,000人（合計3,000人）
- ・ 各地域の性年代別割り当て数：

図表 3-76 各地域におけるアンケート割り当て

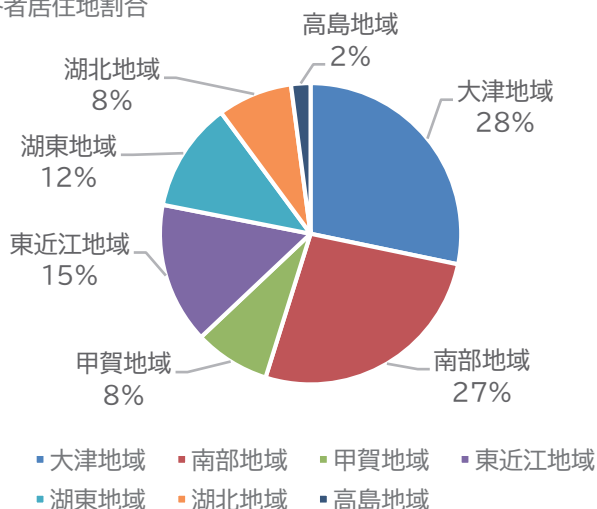
(人)	16～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	計
男性	38	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	500
女性	38	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	500
計	76	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	1,000

*滋賀県住民に対しては、性年代別で上記の割り当てとなるようにウエイトバック集計を行った。

なお、滋賀県在住者での回答者の居住地は以下であった。

図表 3-77 滋賀県内の回答者の居住地

滋賀県回答者居住地割合



大津地域: 大津市

南部地域: 草津市、守山市、栗東市、野洲市

甲賀地域: 甲賀市、湖南市

東近江地域: 東近江市、近江八幡市、日野町、竜王町

湖東地域: 彦根市、愛荘町、甲良町、多賀町、豊郷町

湖北地域: 米原市、長浜市

高島地域: 高島市

- 設問数:回答者属性に関する設問以外で5問(ただし、滋賀県のみ居住地市町の設問を追加)
「愛荘町の認知度」「愛荘町の魅力度」「愛荘町への訪問経験」「地域資源の認知」
「地域資源の魅力」
- 認知・魅力調査対象の地域資源:(並行して実施した愛荘町町民アンケート調査と同一項目)
文化的芸能や伝統工芸品など:むら芝居、愛知川太鼓、近江上布、愛知川びん細工手まり
神社仏閣:金剛輪寺、豊満神社、矢取地藏尊
史跡・遺産:旧愛知郡役所(ゆめまちテラスえち)、中山道愛知川宿、目賀田城跡
伝統行事や町のイベント:堅井之大宮の曳山祭り、御崎神社の火まつり、愛荘 66 かまど
祭り、愛知川祇園納涼祭花火大会
豊かな自然:山比古湧水・軽野湧水、愛荘町の田園風景、宇曾川渓谷、依智秦氏の里古墳
公園の桜や町の桜並木
- アンケート調査実施機関:株式会社ブランド総合研究所(<https://www.tiiki.jp/>)

(3) 調査結果

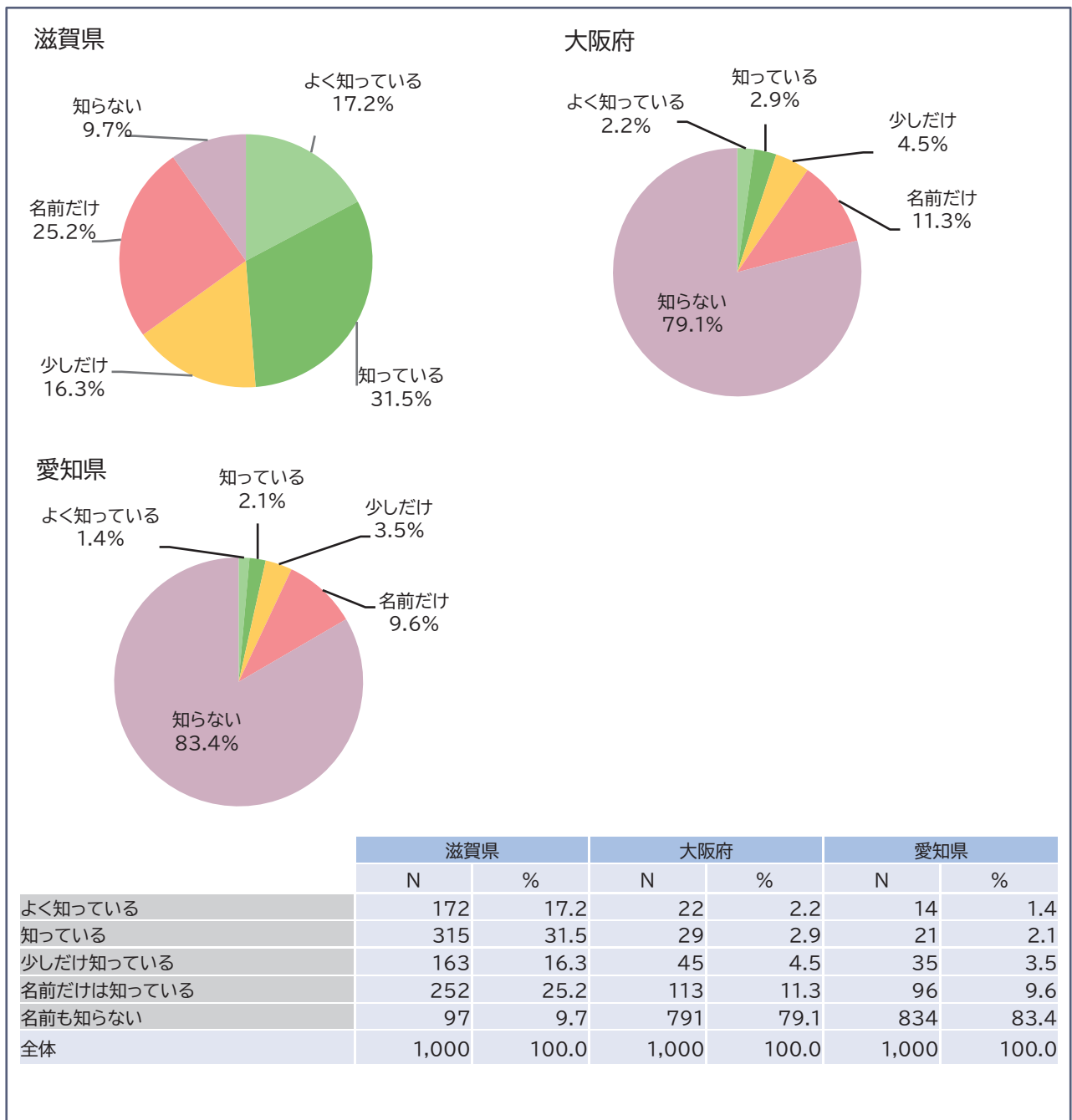
以下、設問項目ごとに調査結果を示す。

ア 愛荘町の認知度

Q1【あなたは滋賀県愛荘町をご存じですか？(SA)】

滋賀県内の居住者では「愛荘町」は9割以上に認知されており、大阪府居住者では認知していない人はおよそ8割、愛知県居住者では8割強となっている。

図表 3-78 愛荘町の認知度

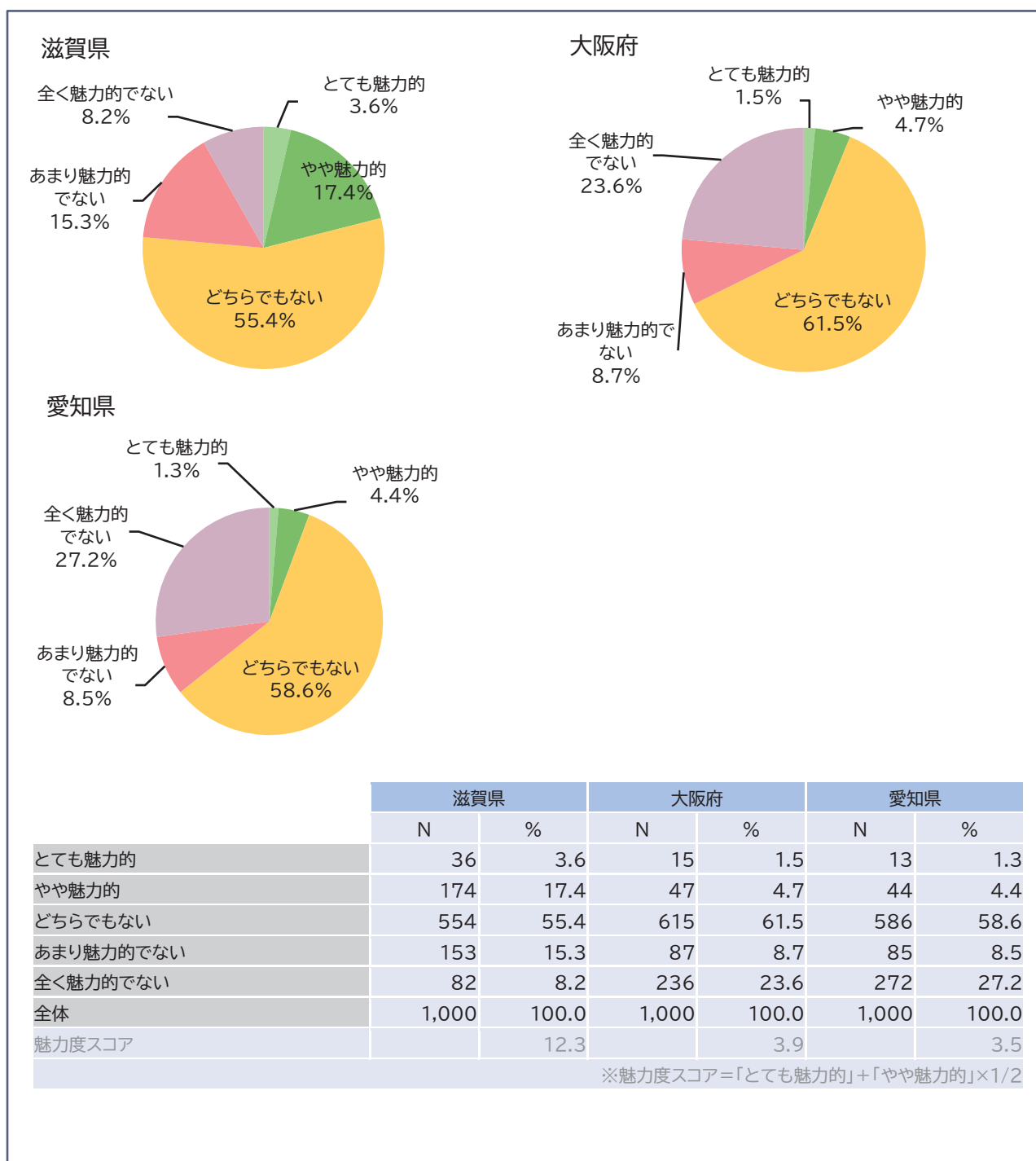


イ 愛荘町の魅力度

Q2 【あなたは滋賀県愛荘町について、魅力を感じますか？(SA)】

滋賀県内居住者では 21.0%が愛荘町に魅力を感じており、大阪府居住者は 6.2%、愛知県居住者では 5.7%が魅力を感じている。魅力度スコアで比較すると、滋賀県内と大阪府および愛知県の各居住者では、魅力度に大きな差があった。

図表 3-79 愛荘町の魅力度



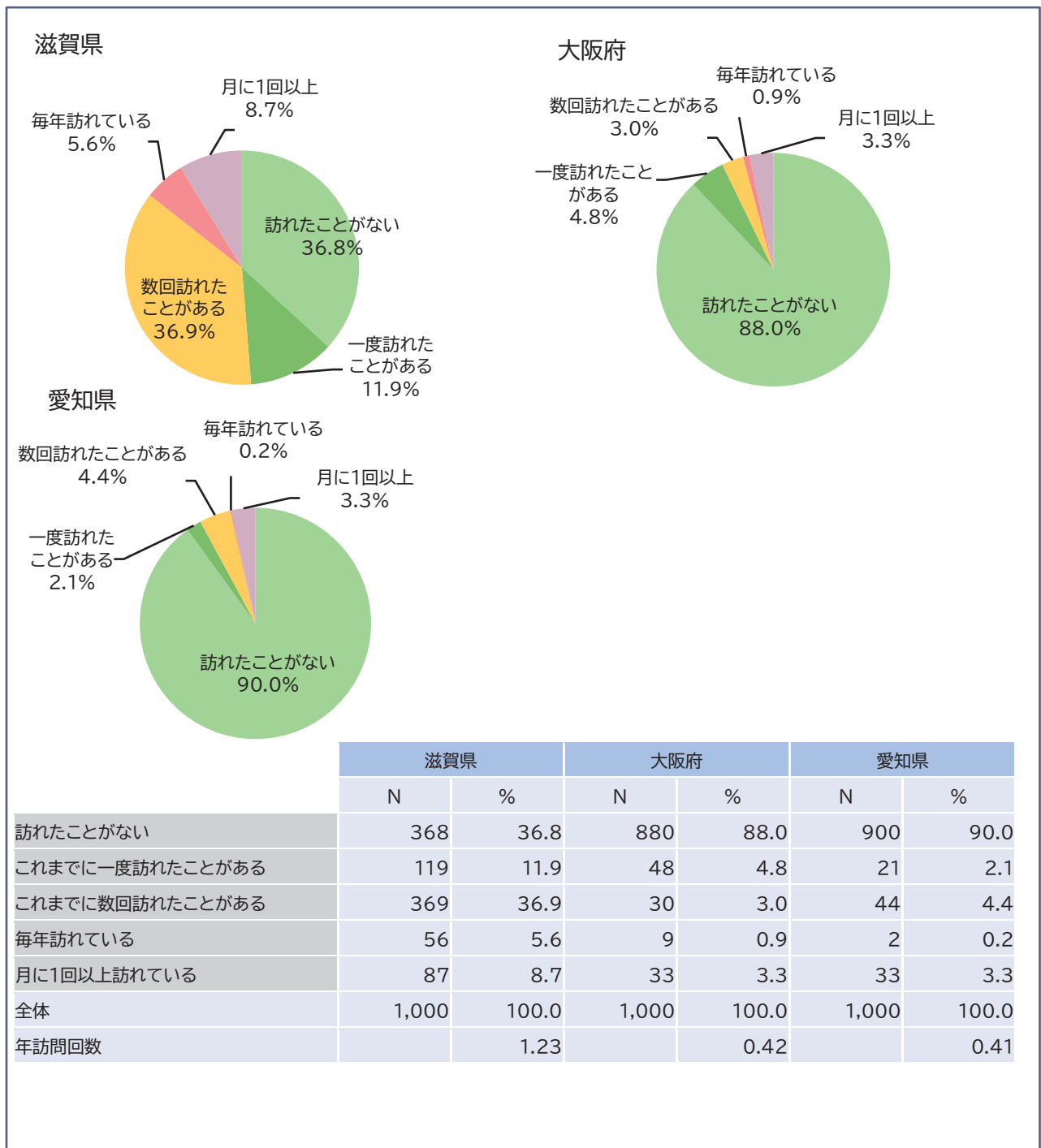
ウ 愛荘町への訪問経験

Q3 【あなたはこれまでに愛荘町に訪問したことがありますか？(SA)】

愛荘町への訪問経験を尋ねた結果、滋賀県居住者で訪れたことがある人は63.2%、大阪府居住者では12.0%、愛知県居住者では10.0%だった。また、年間の訪問頻度は、滋賀県居住者の年間での訪問数は1.23回で、大阪府では0.42回、愛知県は0.41回だった。

毎年訪れるなど定期的な訪問者は滋賀県居住者では14.3%、大阪府居住者では4.2%、愛知県居住者では3.5%だった。

図表 3-80 愛荘町への訪問経験



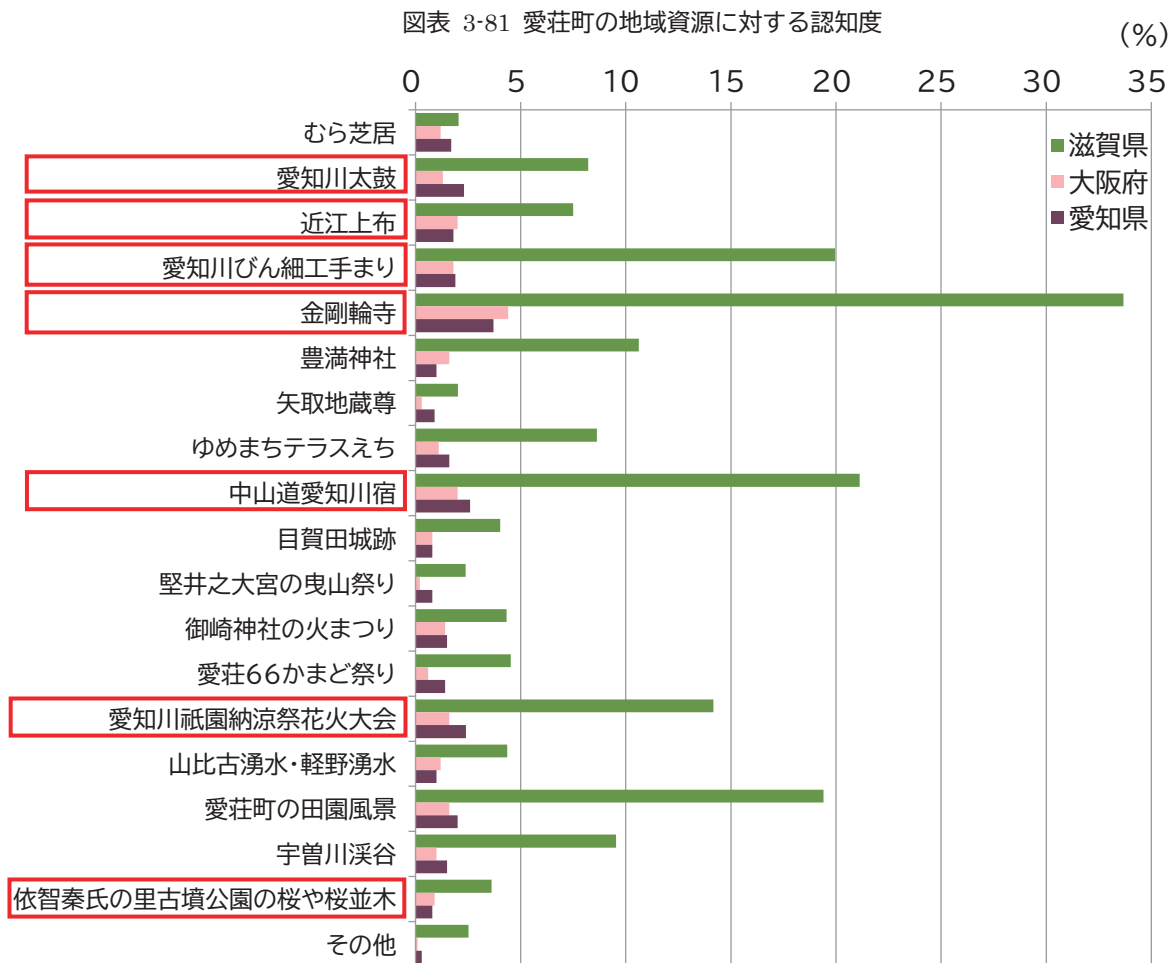
Ⅰ 愛荘町の地域資源に対する認知度

Q4 【愛荘町に関する以下のものについて知っているものをすべてお選びください。(MA)】

愛荘町が有する地域資源に対して尋ねたところ、最も認知度が高い地域資源は滋賀県居住者、大阪府居住者、愛知県居住者ともに金剛輪寺であった。

滋賀県居住者では次に高いのは中山道愛知川宿、愛知川びん細工手まり、愛荘町の田園風景、の順に高かった。また、大阪府では近江上布、中山道愛知川宿、愛知川びん細工手まり、の順に高く、訪問経験のある人の中では「愛知川びん細工手まり」が最も認知度が高い結果であった。愛知県居住者では中山道愛知川宿、愛知川祇園納涼祭花火大会、愛知川太鼓の順に高いという結果になった。

地域資源の認知については複数回答で尋ねており、滋賀県居住者で地域資源1～18の合計は180.1%、すなわち一人平均で1.8個を認知している。一方、大阪府居住者では合計25.0%、すなわち一人平均で0.25個、愛知県居住者では合計29.7%、すなわち一人平均で0.29を認知している結果となり大きな差があることが分かった。



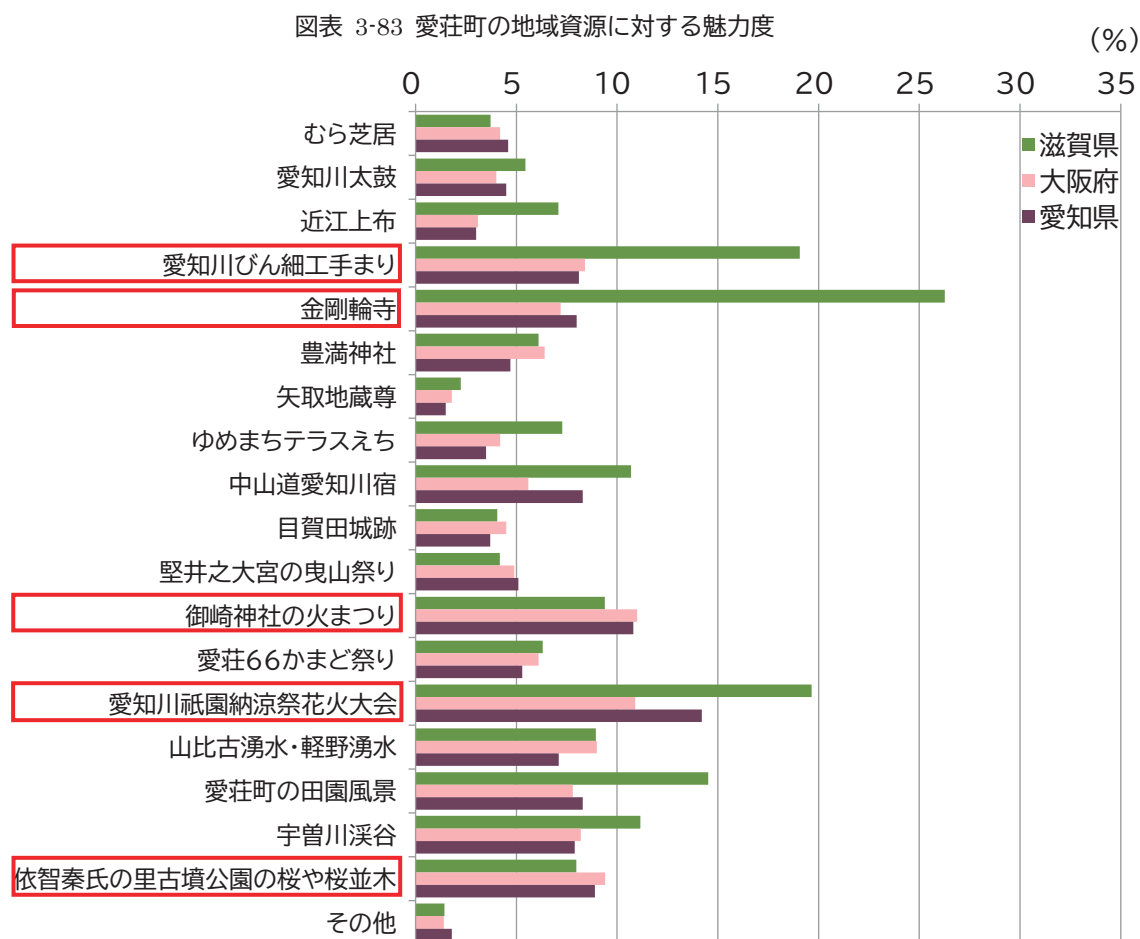
図表 3-82 愛荘町の地域資源に対する認知度（集計データ）

	滋賀県		大阪府		愛知県	
	N	%	N	%	N	%
1 むら芝居	20	2.0	12	1.2	17	1.7
2 愛知川太鼓	82	8.2	13	1.3	23	2.3
3 近江上布	75	7.5	20	2.0	18	1.8
4 愛知川びん細工手まり	200	20.0	18	1.8	19	1.9
5 金剛輪寺	337	33.7	44	4.4	37	3.7
6 豊満神社	106	10.6	16	1.6	10	1.0
7 矢取地藏尊	20	2.0	3	0.3	9	0.9
8 旧愛知郡役所(ゆめまちテラスえち)	86	8.6	11	1.1	16	1.6
9 中山道愛知川宿	211	21.1	20	2.0	26	2.6
10 目賀田城跡	40	4.0	8	0.8	8	0.8
11 壱井之大宮の曳山祭り	24	2.4	2	0.2	8	0.8
12 御崎神社の火まつり	43	4.3	14	1.4	15	1.5
13 愛荘 66 かまど祭り	45	4.5	6	0.6	14	1.4
14 愛知川祇園納涼祭花火大会	142	14.2	16	1.6	24	2.4
15 山比古湧水・軽野湧水	44	4.4	12	1.2	10	1.0
16 愛荘町の田園風景	194	19.4	16	1.6	20	2.0
17 宇曾川溪谷	95	9.5	10	1.0	15	1.5
18 依智秦氏の里古墳公園の桜や町の桜並木	36	3.6	9	0.9	8	0.8
19 その他	25	2.5	1	0.1	3	0.3
20 知っているものはない	396	39.6	863	86.3	862	86.2

オ 愛荘町の地域資源に対する魅力度

Q5【愛荘町に関する以下のものについて、「魅力的」と思うものをすべてお選びください
(MA)】

愛荘町の有する地域資源に対する魅力度を尋ねたところ、滋賀県居住者で一番魅力的だと思われるものは「金剛輪寺」で、次いで「愛知川祇園納涼祭花火大会」、「愛知川びん細工手まり」という結果であった。大阪府居住者では「御崎神社の火まつり」が最も多く、次いで「愛知川祇園納涼祭花火大会」、「依智秦氏の里古墳公園の桜や町の桜並木」という結果に、そして、愛知県居住者では「愛知川祇園納涼祭花火大会」が最も多く、次いで「御崎神社の火まつり」、「依智秦氏の里古墳公園の桜や町の桜並木」という結果であった。



図表 3-84 愛荘町の地域資源に対する魅力度（集計データ）

	滋賀県		大阪府		愛知県	
	N	%	N	%	N	%
1 むら芝居	37	3.7	42	4.2	46	4.6
2 愛知川太鼓	55	5.5	40	4.0	45	4.5
3 近江上布	71	7.1	31	3.1	30	3.0
4 愛知川びん細工手まり	191	19.1	84	8.4	81	8.1
5 金剛輪寺	263	26.3	72	7.2	80	8.0
6 豊満神社	61	6.1	64	6.4	47	4.7
7 矢取地藏尊	22	2.2	18	1.8	15	1.5
8 旧愛知郡役所(ゆめまちテラスえち)	73	7.3	42	4.2	35	3.5
9 中山道愛知川宿	107	10.7	56	5.6	83	8.3
10 目賀田城跡	41	4.1	45	4.5	37	3.7
11 堅井之大宮の曳山祭り	42	4.2	49	4.9	51	5.1
12 御崎神社の火まつり	94	9.4	110	11.0	108	10.8
13 愛荘 66 かまど祭り	63	6.3	61	6.1	53	5.3
14 愛知川祇園納涼祭花火大会	197	19.7	109	10.9	142	14.2
15 山比古湧水・軽野湧水	90	9.0	90	9.0	71	7.1
16 愛荘町の田園風景	145	14.5	78	7.8	83	8.3
17 宇曾川溪谷	112	11.2	82	8.2	79	7.9
18 依智秦氏の里古墳公園の桜や町の桜並木	80	8.0	94	9.4	89	8.9
19 その他	14	1.4	14	1.4	18	1.8
20 魅力的と思うものはない	354	35.4	595	59.5	582	58.2

(4) 分析結果

愛荘町との接触頻度が高い地域とした、滋賀県内はもちろん大阪府及び愛知県に居住する住民に対して、愛荘町及び愛荘町が有する主な地域資源に対する認知度・魅力度を調査した。

- ・ 県外からの愛荘町への訪問経験は県内住民に比べ大幅に少ない
- ・ 愛荘町についての認知・魅力に対して県内住民に比べ非常に低い
- ・ 地域資源に対する認知度や魅力度も低い
- ・ 御崎神社の火祭りや愛知川祇園納涼祭花火大会など伝統行事や町のイベントに関しては関心や意識が高い
- ・ 愛知川びん細工手まりなど地域資源に関しては、町民アンケートと似た傾向である

ということが分かった。

認知そのものが低いという点も考慮すべき点ではあるが、一般的なよくあるケースである、地域の人を感じている魅力と「外からの人」が感じている魅力は大きく乖離しているということは見られなかった。

3. 考察

今回、町民アンケート調査及び地域資源に関する近隣地域の住民へのアンケート調査を実施した。

その結果、生涯学習や意識に関して、2.町民アンケート調査(4)分析結果で記載したように、

- ・現時点では、生涯学習の活かし方は、自分視点に起因するケースが多い
- ・同じテーマに関するコミュニティやつながりを志向する人が多い
- ・地域への関心・地域への協力意識に関して、若い世代で高い傾向
- ・生涯学習に参加する方は、地域の魅力の発信や文化芸術への協力意識が比較的高い

ということが分かった。

したがって、生涯学習の活かし方の行動変容を促進するとともに、地域に存在する「地域への意識の高い若い世代」、「地域の魅力の発信や文化芸術への貢献意識が高い、生涯学習の受講を志向する人々」を、より積極的に文化芸術資源の継承や活性化の事業に参加してもらえるような工夫が必要である。

愛荘町の文化芸術資源に関しては、町民アンケート調査分析からは、

- ・愛知川びん細工手まりや金剛輪寺、花火祭りなどを大切だと考える人が多い
- ・金剛輪寺については年齢が高くなるほど大切だと考える人が多くなるが、愛知川びん細工手まりについては、中学の選択授業で体験した若い世代にも支持を得ている

また、近隣地域の住民アンケート結果からは、

- ・滋賀県内住民に比べ大阪府及び愛知県住民の愛荘町への訪問経験は少ないため認知度・魅力度は低い結果になっている
- ・認知・魅力で上位に挙げられた地域資源は、御崎神社の火祭りや愛知川祇園納涼祭花火大会など伝統行事や町のイベントへの関心・意識は高いが、それ以外に関しては町民に対するアンケート結果と大きな差異は認められない

ということが分かった。

したがって、「持続可能な文化芸術資源の意識や関心を醸成するためには、子どもの頃に触れて学んだ経験を持つことが有意義」、「生涯学習の素材として活用できる愛荘町の独自の地域資源として、町内からでは気付きにくい「外からの視点」を意識することなく利活用を検討すればよい」と考えられる。

第4章 関係団体ヒアリング調査

第4章 関係団体ヒアリング調査

地域の生涯学習や交流促進、伝統文化の継承に関して、これまでも愛荘町内の団体で取組が行われている。これからの生涯学習を考える上で、現状を把握するため、以下に挙げた町内5団体にヒアリング調査を実施した。

また、具体的な実施に際しての参考とするため、すでに全国で、これからの地域を支える10代の学び等の事業を実施している団体にもヒアリングを実施した。

1. 町内関係団体ヒアリング調査

(1) ヒアリング目的

第3章で町民アンケートを実施し、町民の生涯学習や地域資源等への意識や関わりなどについて整理を行った。愛荘町のこれからの生涯学習の在り方等を検討する上で、①町内の関連団体が実施する活動・取組やこれからのビジョン等の確認、②生涯学習を推進する上での課題や行政への要望・提案等の把握等を行うため、以下の町内関連団体にヒアリング調査を実施した。

図表 4-1 愛荘町内関係団体ヒアリング実施内容

ヒアリング実施日時	ヒアリング先	ヒアリング実施者
2021年10月28日(木) 14:00~15:00	愛荘町国際交流協会	◆ 共同調査研究事務局 【愛荘町教育委員会生涯学習課】 課長 陌間 秀介 係長 森野 直樹 【株式会社 日本海コンサルタント】 柳瀬 邦治 【一般社団法人 地方自治研究機構】 主任研究員 江見 哲郎 研究員 渡辺 靖仁
2021年10月28日(木) 15:15~16:15	近江上布伝統産業会館 事務局	
2021年10月28日(木) 16:30~17:30	愛知川びんてまりの館	
2021年10月29日(金) 9:30~10:30	愛荘町体育協会	
2021年10月29日(金) 10:45~11:45	愛荘町文化協会	

(2) ヒアリング実施結果

ヒアリング調査の結果については、調査を通して得られた回答や情報を基に、各団体ともに①団体概要、②ヒアリング結果（活動内容、現状の課題及び行政への要望）として整理し以下に記載する。

ア 愛荘町国際交流協会

①団体概要

愛荘町国際交流協会は平成 23 年 9 月 28 日に設立され、愛荘町多文化共生推進プランの理念である「何事もいっしょにやろう」精神で住みよいまちづくりを推進しよう！の実現を目指し活動している団体である。愛荘町は人口に対する外国籍住民の割合が高い自治体であり、この割合は滋賀県内においても湖南市に次いで 2 番目の高さとなっている。このような背景の中で異文化理解や交流の機会を提供するとともに、外国人住民も日本人住民も同じ愛荘町に暮らす仲間として、互いに認めあい、安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりの推進や自治体と住民をつなぐ中間組織としての役割を担っている。

②ヒアリング結果

■活動内容

・語学教育の取組

町内外からボランティア講師が集まり、日本語教室、放課後学習支援教室である「まなびのひろば」等の活動を行っている。日本語教室では主に愛荘町にあるブラジル人学校サンタナ学園の生徒のほか、町内の企業に勤めている外国籍の町民やその子どもたちを対象にマンツーマンで日本語学習を支援している。放課後支援教室まなびのひろばでは、愛荘町内の小学校に通う外国籍の児童を対象に学校授業の学習支援を行っている。また、日本語発表会の開催や日本語スピーチ大会への参加など、日本語習得に向けた様々な支援を行っている。直近では令和 3 年度より学習者からの要望で英会話クラブ Saturday Night English Meeting を開始。日本語教室のような先生・生徒の関係性ではなく、共通言語を英語とし対等な関係性を構築することで、自身のことやお互いの考え方をより深く理解し合える場となっている。

・多文化共生に向けた取組

国籍や世代を問わず交流できる場として、多文化共生ゲームひろばメルポやオンライン交流ひろばメルポ等の活動を行っている。ゲームひろばメルポでは町内に住む小中学生（国籍問わず）が参加し、巨大すごろくゲームやチーム対抗ゲームなど通して交流し、オンライン交流ひろばメルポではスリランカの日本語学校の生徒とオンライン上でクイズや文化の紹介などを通してお互い学びあいながら交流を行っている。

・広報の取組

愛荘 66 かまど祭りへの出店や広報紙であるニュースレターの発行、ブラジル人学校サンタナ学園を支援する NPO 法人コレジオ・サンタナが主催する国際交流会絵画展等への支援等に取り組んでいる。こうした活動が大学との連携等に繋がっている。

図表 4-2 国際交流協会が実施している取組の様子（左：まなびのひろば、右：多文化共生ゲームひろばメルポ）



（出典：愛荘町国際交流協会ホームページ、<https://aishoifa.localinfo.jp/>）

■現状の課題及び行政への要望

・相互の理解

多文化共生の取組として行っているメルポは、国籍が異なる子どもたちの交流を図るため企画したものだが、同じ国籍同士の子どもたちで固まってしまう、想定したような交流を図ることが難しい状況にあった。お互いの信頼関係が構築されていない中で交流することは難しく、これを改善するためゲーム等を取り入れたメルポの活動を行うこととなった。愛荘町の中にはまだ日本人が外国籍の子のことを知らない現状があり、まずはお互いを知ることが交流機会を創出する上で重要となってくる。

・ICTの取組

今後のICT等を活用したオンライン授業等の取組であるが、オンライン用教材の準備や環境整備がボランティアスタッフの負担となることや教えることが仕事になってしまうと継続的な活動に支障が出てしまうことに懸念がある。また、交流を行う場合には、場だけでなく共通の目的やトピック等も必要である。オンラインの場を提供することは可能であっても、効率的に学習や交流を行うためには実際に顔を合わせて、現場の雰囲気を感じながら行うことが現段階においては望ましい形態となっている。

イ 近江上布伝統産業会館

①団体概要

近江上布伝統産業会館は滋賀県麻織物工業協同組合が愛荘町から委託され、愛荘町の指定有形文化財である「ゆめまちテラスえち（旧愛知郡役所）」を利用して運営を行っている。愛荘町の伝統産業として室町時代から約600年続く近江の麻織物の伝統技術を未来へ継承するために活動している。産地を訪れる人たちや民間・企業の団体も迎え入れ、また、小中学生への周知授業など、国の伝統的工芸品「近江上布」・地域ブランド「近江の麻・近江ちぢみ」の情報発信、後継者育成等の取組など多岐にわたる活動を行っている団体である。

②ヒアリング結果

■活動内容

・近江上布等の情報発信

情報発信として拠点であるゆめまちテラスえちでの展示会の開催、伝統的な織りから現代的な織りまでの様々な体験、麻をキーワードとしたワークショップの実施、また、外部の商業施設等でのワークショップの開催や小学校への出張授業を行っている。ワークショップでは麻糸や麻布、また、原料の麻や技術に触れてもらうために伝統的な近江上布の技術を使ったコースターや麻布を使ったアトリエ（クチュール・こぎん刺し）を実施している。また、町外・県外・国外のイベントに参加し、近江上布や近江の麻織物の魅力を発信している。出張授業では小学1年生の国語の授業で習う「たぬきの糸車」の中で、実際に麻の糸作りで使用している糸車を用いてその使い方や地場産業である近江上布についての授業や、社会科見学や町の観光の授業等の受入れも行っている。また、5年前からは海外展開を見据えた活動を開始し、SDGs（持続可能な開発目標）の観点から、素材メーカーから注目されている。

・後継者育成の取組

後継者育成の取組として3日間の織人(おりびと)短期研修と6ヶ月間の織人育成研修を開催している。短期研修では麻の糸作りから織りまでの一連の作業工程を体験することができ、観光の一環として参加する方も多くいる。織人育成研修では、近江上布の技術を習得した生産者（織人）の育成・伝統技術の継承を目的に開催している。こちらの研修もワークショップ同様、町外からの参加が多い傾向にある。今後、町内外へワークショップやイベント等の情報発信を行っていく上で、こうした後継者育成を経た人材（情報発信者）の確保が重要となってくる。

図表 4-3 近江上布伝統産業会館で実施している取組の様子（左：マイブランドを作ろう！、右：「たぬきの糸車」の出張授業）



（出典：近江上布伝統産業会館 Facebook、<https://www.facebook.com/omijofu>）

■現状の課題及び行政への要望

・後継者の育成

近江上布の技術を後世へ継承していくためにも後継者の確保・育成を行うことが課題となっている。近江上布は糸作り、織り、染めの一連の工程において全て手作業であることが条件であり、生産コストが機械織りのものに比べはるかに高く、需要面においても一般的に日常で使用される織物製品と比べると低い状況にある。現状、織物の主流は機械織りとなっている中で、近江上布の技術を持っている職人も産地の企業に勤務しており、実際には近江上布以外の織物を機械を使用して生産している。近江上布を織る機会が減少していることも伝統技術の継承を行う上での障壁となっていると考えられる。

・伝統産業としての認知

近江上布は愛荘町の誇れる地域資源の一つであるが、町民に伝統産業としての魅力を伝えきれていない印象がある。滋賀県内でわずか3品目の伝統的工芸品の一つであり、全国を通じて麻の伝統的工芸品は3品のみである。伝統産業は地場産業であり、非常に貴重な伝統的工芸品が身近にあることを周知できれば、愛着を深めることが期待できるのではないだろうか。また、町内外に文化の発信を行っていくためには、教育の分野へアプローチを行うことが重要ではないかと考えられる。近江上布は地元を振り返った際に自慢できるものの一つであり、町民の生活・習慣の中に近江上布という文化の意識づけを行っていくためにも行政からの活動支援が必要である。

ウ 愛知川びんてまりの館

①団体概要

愛知川びんてまりの館（以下、びんてまりの館）は愛知川図書館との複合施設であり、びん細工手まりとその背景にある手仕事の文化の調査研究や収集、実物展示や歴史・制作工程の紹介を行っている。びん細工手まりとはフラスコ型のガラス瓶に、びんの口よりも大きな手まりを入れた不思議な工芸品で、「丸くて（家庭円満）、中が見える（仲良く）」とお祝い事の贈り物としても喜ばれており、平成 23 年に「愛知川びん細工手まり」として滋賀県の伝統的工芸品に指定された町を代表する文化芸術資源である。びんてまりの館は資料館であるとともに、愛知川びんてまり普及のための情報発信やワークショップ・イベントの開催や伝承工芸愛知川びん細工手まり保存会（以下、保存会）による技術継承を支援する活動を行っている。

②ヒアリング結果

■活動内容

・保存会活動の取組

保存会は愛荘町でびん細工手まりの最後の作り手といわれた人物が亡くなったことを惜しむ町民たちの声をきっかけに、昭和 49 年に町教育委員会が技術の継承と保存の呼びかけを行ったことで結成されたものである。秘伝として、保存会の会員は町民であることが条件にあり、愛知川公民館を拠点に、会員同士が技術を互いに教え合い、生きがいや誇りとして今日までその文化を継承している。びんてまりの館では、保存会活動は生涯学習の一環であり、その上でも重要な地域資源として捉えている。会員はピーク時には約 200 名在籍していたが、現在は約 70 名で活動を行っており、このうち伝統的工芸品として販売が可能なものを作成できる会員は約 20 名となっている。びんてまりの館では、保存会の支援として、保存会員を対象にした初心者レベルアップ教室などを開催し、保存会全体の技術の底上げを図っている。また、年 1 回「びんてまり展」を開催し、会員が制作した作品や実演などを来場者に見ていただくことで、伝統工芸としての魅力を町内外に発信している。

・観光事業の取組

普及活動の一環として町内の保存会以外の方や町外の方に向けた体験型の事業である「小さなびんてまり教室」や「愛荘町ふるさと体験塾」などのワークショップを開催している。また、平成 7 年から平成 22 年まで中学校の選択授業の中でびん細工手まりを作製する機会があったが、この授業終了後の受け皿として、「夏休みびんてまり教室」を町内在住の小学 5 年生から中学 3 年生までを対象に開催している。「愛荘町ふるさと体験塾」は観光事業として、平成 10 年から継続している 3 日間連続のイベントで、愛荘町観光協会を中心に、保存会、びんてまりの館などが実行委員会形式で開催するもので、毎年定員を超える多数の応募があり、好評を博している。

図表 4-4 びんてまりの館で実施している取組の様子（左：びんてまり展、右：ふるさと体験塾の様子）



（出典：愛荘町 Facebook（あしろうさん紀行）、<https://www.facebook.com/aishotown>）

■現状の課題及び行政への要望

・文化の継承

保存会の会員数の減少や高齢化が進む中、今後の愛知川びん細工手まりの継承が課題となっている。会員となる条件として、町民限定であることが挙げられるが、この条件を緩和することは現実的には難しい状況にある。しかしながら、保存会の活動が定住のきっかけとなった事例もあり、現状の活動を地道に継続していくことで一定レベルの技術者を確保しながら、保存継承を行うことが理想と考えられる。

エ 愛荘町体育協会

①団体概要

愛荘町体育協会は町民の健全なスポーツの普及振興と体力の維持増進を図り、町民相互の親睦と健康増進に寄与することを目的とし活動している。自主事業としてはテニス教室、アーチェリー教室の開催やイベントの企画、指定管理者として愛荘町内の体育施設の管理運用等を行っている団体である。管理運用を行っている施設は以下の図表のとおりである。

図表 4-5 愛荘町体育協会の管理施設一覧

名称	所在地	施設等
愛荘町スポーツセンター	愛荘町軽野甲 100 番地	(1) 秦荘グラウンド (2) 秦荘体育館 (3) 秦荘武道館
宇曾川グラウンドゴルフ場	愛荘町沖 地先	
豊国運動公園	愛荘町東円堂 1484 番地	
愛荘町愛知川体育館	愛荘町愛知川 13 番地 7	
愛荘町中央スポーツ公園	愛荘町川久保 145 番地	(1) 天然芝グラウンド (2) 人工芝グラウンドA (3) 人工芝グラウンドB (4) グラウンドゴルフ場 (5) 多目的広場
愛荘町ふれ愛スポーツ公園	愛荘町長野 1973 番地	(1) 野球場 (2) 多目的グラウンド

②ヒアリング結果

■活動内容

体育協会の独自の事業としてテニス教室（年 8 回）、アーチェリー教室（年 14 回）の実施や愛荘町スポーツフェスティバル、ふれあいウォーク愛荘の開催を行っている。愛荘町スポーツフェスティバルではアーチェリーのデモンストレーションの見学や青空ヨガ、ノルディックウォーク、グラウンドゴルフ、バスケットボール、また、子ども向けの競技として輪投げ等の遊戯やストリートダンスの体験を行うことができる。ふれ愛ウォーク愛荘では全長約 12 km のコースを歩きながら、愛荘町の名所・地域資源である金剛輪寺や宇曾川ダム、山比古湧水などを巡ることができる。どちらのイベントも年齢問わず参加することができるため、多世代にわたる交流の場として機能している。

図表 4-6 体育協会で実施している取組の様子（左：アーチェリー教室の様子、右：ふれ愛ウォーク愛荘）



（出典：愛荘町 Facebook（あしようさん紀行）、<https://www.facebook.com/aishotown>）

■現状の課題及び行政への要望

・団体間の連携、指導者循環の形成

愛荘町のスポーツ推進にあたっては体育協会をはじめ、スポーツ少年団が 11 団体、愛荘町総合型地域スポーツクラブとして NPO 法人が 2 団体あり活動を行っている。総合型地域スポーツクラブとは文部科学省が推進する生涯スポーツの取組の一環であるが、地域住民が自主的・主体的に多種目・多世代・多志向の多様性を持ったクラブの運営を行い、地域のスポーツ環境の形成や運動不足解消による過剰医療費の抑制、学校の授業や部活動への支援を通じたコミュニティ・スクールへの発展等が期待される取組である。しかしながら、各団体が独自に活動しているため、体育協会が町内全体の活動を把握することや各団体間の連携が十分でない現状がある。子どもの頃から参加しているスポーツに対して、自身が大人になったとき自ら指導者として次世代の指導に当たるような循環が生まれていないことも課題となっている。この改善に向けての一つの方法として、体育協会が町内の各団体を指導できるような体制構築が必要である。

・アーチェリーの普及促進

愛荘町の地域スポーツとしてアーチェリー競技の普及促進が挙げられる。体育協会ではアーチェリー教室の取組を継続的に行っており、教室に参加する生徒の中には全日本中学生大会で入賞する生徒も輩出している。また、アーチェリー教室卒業生が中心となり平成 27 年度にアーチェリークラブが創設され、クラブには競技歴の浅い選手から国内トップ選手まで所属している。クラブの活動内容であるが、選手が練習を行うほか、アーチェリー教室の指導等のサポートを行うなど、今後の指導者の循環につながる体制が構築されつつある。このような取組がある中で、学校教育の場などにアーチェリー競技を取り入れることが地域スポーツとしての愛着といった意識づけや普及の促進に繋がるのではないかと考えられる。

オ 愛荘町文化協会

①団体概要

愛荘町文化協会はハーティーセンター秦荘の指定管理者として、町民の文化高揚に努め、その推進に積極的に関与することを理念とし、会員及び登録サークルの文化活動を総括的に支援し、その指導に当たることを目的として活動を行っている。ハーティーセンター秦荘はホール、会議室、研修室、調理室などの設備を有しており、文化活動だけに限らず、多様な学びあいの場を提供できる施設である。現在の登録サークル数は 44 サークル、正会員数は 374 名、準会員数は 47 名となっており、この文化活動の支援や生涯学習を積極的に推進する事業、町並びに愛荘町教育委員会主催の文化振興に関する事業への協力を行っている団体である。

②ヒアリング結果

■活動内容

・ホールを利用した活動

ホール事業は従来からのコンサートや講演会等のイベントの企画・開催のほかに、近年ではむら芝居を行っている。令和 3 年度に企画したむら芝居では、愛知川の歴史を題材して取り組んでいる。秦荘地区にあるハーティーセンター秦荘で愛知川地区の歴史を題材にすることで、地区間での歴史文化の継承にもつながると考えている。このむら芝居はプロデュースや大道具の設営は文化協会だが、脚本・出演は町民が手掛け、演者も町内在住の中学 1 年生から 70 歳以上の方が参加し制作している。そのため地区や世代間の交流に繋がっている取組である。

・会議室等を利用した活動

これまでの文化協会の活動ではホール事業の取組が多く、会議室等の部屋を有効的に活用できていなかった。そのため現在は町民ニーズに基づきハーティー講座を開催し、小会議室等の施設の有効活用に努めている。開催する教室や講座の講師は会員のネットワークを活用し探しており、このネットワークも地域資源の一つと捉えている。コロナ禍においては、特に企業から Wi-Fi 等のオンライン環境の整備についての要望があった。オンライン環境を整備することで企業だけでなく、社会人や学生、ホール講演等にも活用でき、新たな利用形態の創出に繋がることで、施設の利用価値の向上が見込まれる。また、フリーWi-Fi 等を活用したワーキングスペースの利用料収入など、自主財源の確保にも繋がってくる。

図表 4-7 文化協会で実施している取組の一例（左：愛智川地区を題材にしたむら芝居、右：ハーティー講座の一例）



（出典：愛荘町文化協会提供）

■現状の課題及び行政への要望

・会員数の減少

平成 18 年度の文化協会設立時の正会員数は 727 名であったが、令和 3 年度には 421 名に減少している。会員の高齢化による退会や新規会員の伸び悩みなど、その減少に歯止めがかからない状況にあり、令和 6 年度頃には 350 人程度まで減少することが想定される。新たなサークルの加入が見られるが、少人数のサークルであり、会員数の増加には結び付いていない状態となっている。会議室等で行っているハーティー講座では、開催初年度に関しては文化協会が主催しているが、次年度以降の開催にあたっては各サークルが主体的に教室等の開催を行えるよう促している。また、会員の中には自らが発起人となりアクションを起こそうという方もいる。そういった方について文化協会としては可能な限り、実現に向けての支援を行っている。こうした取組により新たなサークルの加入や会員数の増加を目指している。

・行政と文化協会の意識統一

文化協会はハーティーセンター秦荘の指定管理者として 10 年以上運営を行ってきた経験やその中で培った知見を有している。本来、指定管理者制度というのは民間の能力やノウハウを幅広く活用しつつ、住民サービスの向上を図ることを目的とするものであるが、行政と文化協会での意識統一が十分に図れていない部分もあるのではないだろうか。生涯学習を推進するために、文化協会の位置づけや目指すべき方向性を再確認し、共通認識の下、生涯学習を推進していくことが期待される。

(3) 注目する取組・地域資源

生涯学習や文化芸術の振興について活動している愛荘町内の5団体にヒアリングを実施し、主な取組や推進する上で課題となっている点について伺うことができた。

今回の調査研究の視点の一つになっている、文化芸術の振興や世代及び地域間の交流促進について、以下にあげるように、各団体で事業の推進が行われている。

図表 4-8 注目する取組等

団体名	注目する取組	地域資源・アピールポイント
愛荘町 国際交流協会	・ Saturday Night English Meeting	・ 多国籍間の交流機会 ・ 学びあう場の提供
	・ 多文化共生ゲームひろばメルポ	
近江上布 伝統産業会館	・ 後継者育成制度(織人プロジェクト)	・ 近江上布 ・ 織人、認定制度 ・ 交流機会、情報発信の場としてのゆめまちテラスえち ・ 学校教育への協力実績 ・ アトリエ(クチュール、こぎん刺し)
	・ 小学校への出張授業	
愛知川 びんてまりの館	・ 夏休みびんてまり教室	・ 愛知川びん細工手まり ・ 世代間の交流機会の場 ・ びんてまりの館 ・ 保存会員の組織
	・ 愛荘町ふるさと体験塾	
愛荘町体育協会	・ ふれ愛ウォーク愛荘	・ アーチェリー選手輩出実績 ・ 世代間の交流機会 ・ 体育競技施設を保有 ・ 指導者や選手
	・ アーチェリー教室	
愛荘町文化協会	・ むら芝居	・ 町民が主体 ・ ハーティーセンター秦荘 ・ 地区・世代間の交流機会 ・ サークル団体の活動 ・ 会員のネットワーク
	・ ハーティー講座	

文化芸術資源の継承などに関しては愛知川びんてまりの館や近江上布伝統産業会館で交流や発信の取組が行われ、世代及び地域間の交流促進に関しては愛荘町国際交流協会、愛荘町体育協会、愛荘町文化協会で世代や国籍を超えた交流促進の取組が今日まで実施され、今後も推進するための仕組みが構築されていると考えられる。

持続可能な取組を考える上で、これらのすでに構築されている仕組みや実績は非常に有益な基盤となり、愛荘町の持つ資源だと捉えられる。

多様なニーズ、多様な人々が暮らすこれからの地域社会の中において、個別の地域資源そのものに絞り込むだけではなく、実績のある仕組み、中心となって活動している人々の存在も他地域に誇れる「愛荘町の地域資源」として、注目すべきではないかと思われる。

2. 関連団体ヒアリング調査

(1) ヒアリング目的

これからの地域を担う人々への施策の知見を得るため、多くの地域で、今の子どもたちが、自らの人生を切り拓き、豊かに生きていくために、生涯学び続ける「意欲」と変化の激しい時代を楽しみチャンスに変える「創造性」を創出する活動を地域と共に推進している、認定 NPO 法人カタリバへのヒアリングを実施した。

図表 4-9 関連団体ヒアリング

ヒアリング実施日時	ヒアリング先	ヒアリング実施者
2021年12月21日(火)	認定 NPO 法人カタリバ	◆ 共同調査研究事務局 【愛荘町教育委員会生涯学習課】 課長 陌間 秀介 係長 森野 直樹
組織概要: 名称 認定 NPO 法人カタリバ(認定特定非営利活動法人カタリバ) 本部 東京都杉並区高円寺南 3-66-3 高円寺コモンズ 2F 設立 2001年11月1日(2006年9月21日に法人格取得) 役員 代表理事 今村久美 職員数 139名(2021年4月現在)		【株式会社 日本海コンサルタント】 柳瀬 邦治
訪問先:文京区青少年プラザ b-lab (http://b-lab.tokyo/) 住所: 東京都文京区湯島 4 丁目 7 番 10 号 対応者(敬称略): b-lab 館長 米田瑠美(認定 NPO 法人カタリバ) b-lab スタッフ コースワーカー 横田伸治(認定 NPO 法人 カタリバ) 文京区教育委員会 教育推進部児童青少年課青少年係長 小池義治		【一般社団法人 地方自治研究機構】 主任研究員 江見 哲郎 研究員 渡辺 靖仁

NPO 法人カタリバは、「家庭環境や教育環境によって価値観が違ってしまい、描き出せる(自身の)未来のイメージさえも違ってしまふ」という創業者自身の体験を基に、どのようにすれば機会や環境の差を解消し、若者の未来を支援することができるかということで、2001年創業した団体であり、以下のビジョンとコンセプトに基づき活動している団体である。

ビジョン：どんな環境に生まれ育っても、未来をつくりだす力を育める社会

コンセプト：意欲と創造性をすべての10代へ

自己責任論で片づけず、親と学校に丸投げせず、きっかけ格差を超え、全ての10代が意欲と創造性を育める新しい当たり前を目指している。

(2) 活動概要

活動内容は、以下の4つのテーマを掲げサービスを開発しながら、学校に多様な出会いと学びの機会を届け、社会に10代の居場所と出番をつくることを目指し、全国で42事業(2019年度実績報告)を展開している。

- テーマ1：DISCOVER 10代の日常を探究に
- テーマ2：RESILIENCE 逆境から未来をつくる
- テーマ3：GLOCAL 未来の学力をいなかから
- テーマ4：POSTTRAUMATIC GROWTH 災害の悲しみを強さに

各テーマに基づき、それぞれ、サービス展開を実施しており、テーマ1：DISCOVER では、学校や地域で10代に対し大学生や社会人が対話を軸に内省とビジョン形成を支援するキャリア学習プログラムである「カタリ場プログラム」や高校生の探究心に火をともし「出張授業カタリ場」、高校生の主体性（オーナーシップ）と例え小さくても実際に行動を起こす（アクション）ことを重視したプロジェクト型学習の「マイプロジェクト」・「全国高校生マイプロジェクト」、また、テーマ2：RESILIENCE の活動では、経済的事情を抱える家庭へのオンラインでも伴走と学びの機会を届ける奨学プログラム「キッカケプログラム」、居場所・学習・体験・食事を地域と連携しながら子どもたちに届け、文化資本や社会関係資本を育み、貧困の連鎖を断ち切ることに寄与することを目指した「アダチベース」などがある。テーマ1：DISCOVER の活動の一つが、今回ヒアリングで訪れた、なんでも挑戦できる中高生の秘密基地「文京区青少年プラザ b-lab」である。

認定 NPO 法人カタリバの活動のパターンとしては以下の3つの形態で全国展開されている。

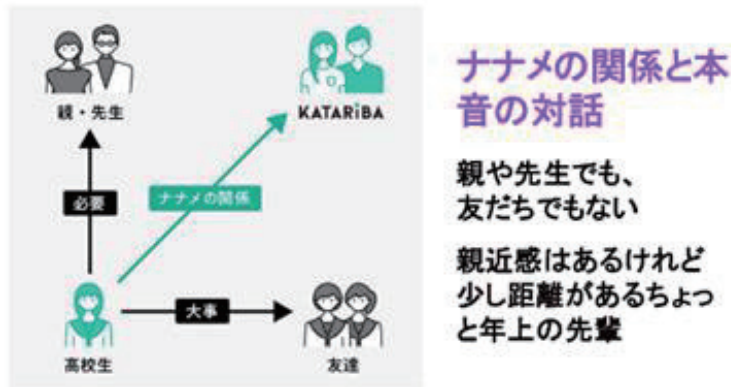
図表 4-10 3つの形態

パターン	内容
1. 地域に10代の新しい居場所をつくる	塾とも児童館とも公民館とも違う、10代が放課後を中心に通ってくる居場所、サードプレイスをつくり、日常的にナナメの関係を届ける
2. 学校や地域にプログラムを届ける	学校や地域で行われる授業やイベントで、ナナメの関係を軸にした10代の心に火を灯すプログラムを届ける
3. 学校や行政に入り学校と社会をつなぐ中間支援	学校・行政の中にスタッフが常駐し、先生や教育委員会のサポートをしながら学校を社会に関する地域資源とし、ナナメの関係の担い手に転換する

ここで重要なのが、親や教員（タテ）、同級生の友だち（ヨコ）とは違った“一歩先に行く先輩”という、10代の内発性に火を灯す関係の「ナナメの関係」（図表 4-11）であり、認定 NPO 法人カタリバのすべての活動の軸になっている。「ナナメの関係」は、中高生への効果だけではなく、モラトリアムの中にいる若者たちが、ナナメの立場から年下の思春期世代と関わることで、自分自身を見つめる機会になり、彼ら自身も成長する経験となり、年が近くて共感しやすいからこそ、一緒に悩んだり、助言をすることで憧れられたり、むしろ自分も頑張らなければと励まされることもあるという、関わる人々が共に成長できる関係を構築する。

図表 4-11 「ナナメの関係」

フロアキャストだからこそ出来ること **KATARIBA**



©2018 IFO Katariba, All Rights Reserved.

(出典：b-lab 様ご提供資料から抜粋)

中高生が安心して自分を表現できる場を創り運営するのが、大学生を中心としたボランティアスタッフ（フロアスタッフ）であり、文京区青少年プラザ b-lab でも多くの大学生がフロアキャストとして活動しており、中高生のフロアキャストの育成にも取り組んでいる。島根県雲南市では、他県の大学生に一定期間活動してもらい、学生自身の学びにつなげ、地域へも貢献する取組を行っている。

これまでも様々な行政のニーズや課題に応じてサービスを組み合わせ、行政と連携し、以下の表に挙げたような、イベント実施や放課後の居場所施設の運営などを行った実績を持つ。

図表 4-12 自治体との実績例

活動実績の例	
居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・文京区教育委員会児童青少年課「青少年プラザ」 ・福島県教育委員会 福島県立ふたば未来学園高校「学内ユースセンター」 ・足立区子どもの貧困対策課「ラーニングセンター」
高校魅力化	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市教育委員会。卒業後も関わり続けたいと思う学校・地域づくりのために「高校支援コーディネーター」を配置し、探究授業の設計やツール作成をはじめ、教員全員で教育目標を熟議する場の設計とファシリテーション、カリキュラムマネジメントのサポートを実施。
探究・プロジェクト型学習	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県教育委員会後援、(一財)地域・教育魅力化プラットフォームと協働 ・川崎市市民文化局コミュニティ推進部「川崎ワカモノ未来 PROJECT」
災害時の教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災：宮城県女川町・岩手県大槌町 ・熊本地震：熊本県益城町 ・西日本豪雨：岡山県

図表 4-13 全国での活動事例



(出典：b-lab 様ご提供資料から抜粋)

また、文部科学省総合教育政策局「多様な主体と ICT の活用で、つながる生涯学習・社会教育（令和2年10月）¹³」に事例として取り上げられている、島根県益田市との取組のように、カタリバの職員が出向いていき、そのまま独立してその地域で活動を継続し、地域の人々にキャストとして参加してもらうなど、その後、自前で事業を展開、着実に地元で循環し地域に貢献し続けているという事例もある。

(3) 調査で得られた知見

認定 NPO 法人カタリバの活動の特徴である「ナナメの関係」は、これからの地域の中での関係性をもう1段階上を目指すために効果的である。

人々の関係性に変化を与えることはたやすいことではなく、愛荘町での課題の一つである「地域の人々の交流促進」は、単に「人を集める機会を設ける」だけでは解決するまでに時間と労力をかけなければならないという課題がある。

今回ヒアリングをした認定 NPO 法人カタリバ等、彼らのこれまでの実施経験や蓄積されたスキルの助けを借りスタートすることで、愛荘町での町内における新しい交流の「場」の構築を加速することができるのではないかと考える。

¹³ 文部科学省総合教育政策局、「多様な主体の協働と ICT の活用で、つながる生涯学習・社会教育～命を守り、誰一人として取り残すことのない社会の実現へ～「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」を踏まえた事例・施策集」、令和2年10月、<https://www.mext.go.jp/content/000077177.pdf>

第5章 今後に向けて（更なる発展に向けて）

第5章 今後に向けて（更なる発展に向けて）

1. 変革の必要性

生涯学習の実施効果は、学習者が取り組んだ結果得られる効果とその事業を推進したことにより得られる効果とがあるが、それらの効果は短期的な視点で判断できるものだけではなく、長期的な視点で見て初めて分かるということが多い。しかし、長期的な視点でその成果評価を見ることは容易ではなく、これまでの生涯学習に関する事業評価指標としても、実施分野や実施回数、参加者数実績、そして参加者の満足度調査の結果等が使われることが多かった。

参加者の満足度を向上させるようにするためには、受講対象者のニーズにいかに応え満足してもらえる機会等を提供することが必要だが、住民ニーズが多様化する現在では、生涯学習機会を提供する側の投資、及び、受講者の満足度の双方をバランスよく実施することは非常に困難になってくると考えられ、これまでの生涯学習の形・生涯学習の実施評価に新しい考え方が必要になる。

第2章で述べたように、文部科学省では今後の社会教育の在り方について「人口減少や高齢化をはじめとする急速な社会経済環境の変化や取り組むべき課題の複雑化の中にあって、住民の主体的な参加による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、社会教育はこれまで以上にその役割を果たすことが期待」されるとし、また、中央教育審議会生涯学習分科会の「議論の整理」（令和2年）でも、新しい時代の生涯学習・社会教育の基本的な考え方として、以下の必要性が議論されている。

- ・ 新しい時代の学びの在り方
- ・ 命を守る生涯学習・社会教育
- ・ 学びを通じた地域づくり

さらに生涯学習・社会教育は、「個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割」を持ち、学びの場を通じた住民相互の「つながり」が要であり、「個人の成長」、「地域社会の発展」、「つながり」が新しい時代の生涯学習・社会教育の鍵になるとされている。

令和2年度に策定された「愛荘町教育大綱 第2期教育振興基本計画」においても、「夢・こころざし・生きる力を育む」、「人生100年時代 かがやき にぎわいのある学び」と共に、「地域で支え合い つながりとやすらぎで豊かな人生を育む」ことを教育の方向性として掲げ、「学校・地域・行政」の連携・繋がりを促進し、学びの循環社会を形成することを目指している。

少子高齢化が進む人生 100 年時代においては、多様な価値観を持つ人々が暮らすこれからの地域社会にとって、これまでの生涯学習の形にとらわれず、地域の各主体が連携し地域づくりに貢献する、「生涯学習がもたらす新しい価値」を模索する必要があると考える。

図表 5-1 これからの地域社会にとっての新しい生涯学習

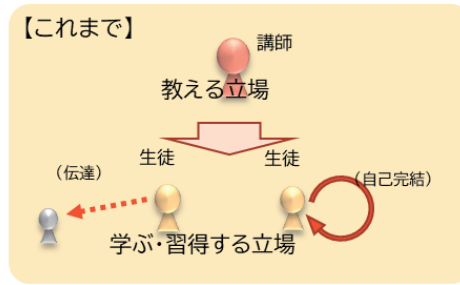


2. 考え方（「消費型の学び」から「生産型の学び」へ）

ここでは、内山淳子「地域における学習活動の展開と継承」鈴木眞理・青山鉄兵・内山淳子編『社会教育の学習論—社会教育がめざす人間像を考える—』学文社、2016年、pp.27-42 に依拠して、考え方をまとめてみる。そこでは、「消費型の学び」と「生産型の学び」という概念がキーをなしつつ説明がなされている。

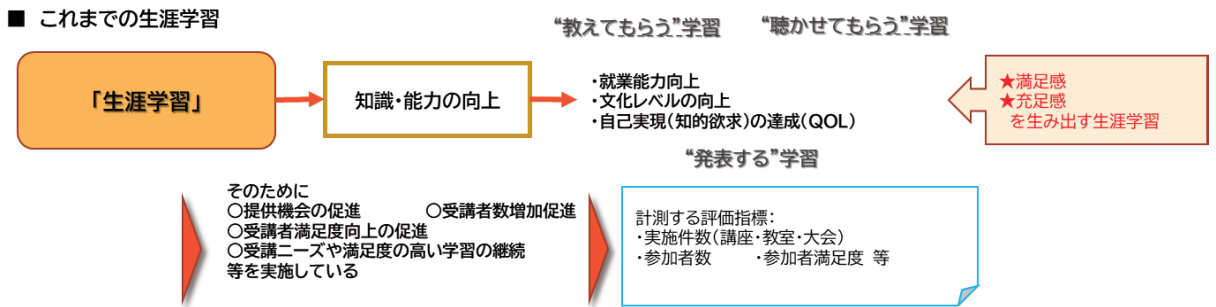
これまでの生涯学習の形は、図表 5-2 及び図表 5-3 に示すように、教えてもらう・聞かせてもらうという受け身の形が数多くあり、教えてもらった側（受講者・参加者）の知識・能力の向上や好奇心・知的満足度など内的要素を向上させる、言い換えれば、受講者本人の中で学習の価値が蓄積・消化される「消費型」の学習（自己完結型）が多く行われてきたと捉えることができる。

図表 5-2 これまでの学習形態
自己完結的(消費型)の生涯学習



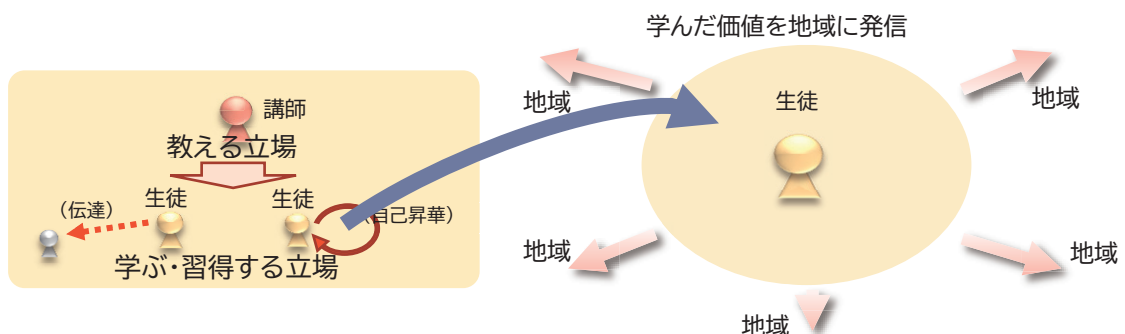
生涯学習事業の評価指針として、アンケートなどで受講者の満足度が測定されてきたことも「消費型の学習」の一つの表れと捉えられる。

図表 5-3 これまでの生涯学習の捉え方



しかし、前節で述べたように、持続可能なこれからの生涯学習に望まれる姿は、図表 5-1 に示すように、「住民の自発的な参加・活動」「地域づくりへの貢献」であり、住民が中心となり、生涯学習を受講した価値を「地域に発信・つなげる」ことが必要となる(図表 5-4)。

図表 5-4 受講者による地域への発信

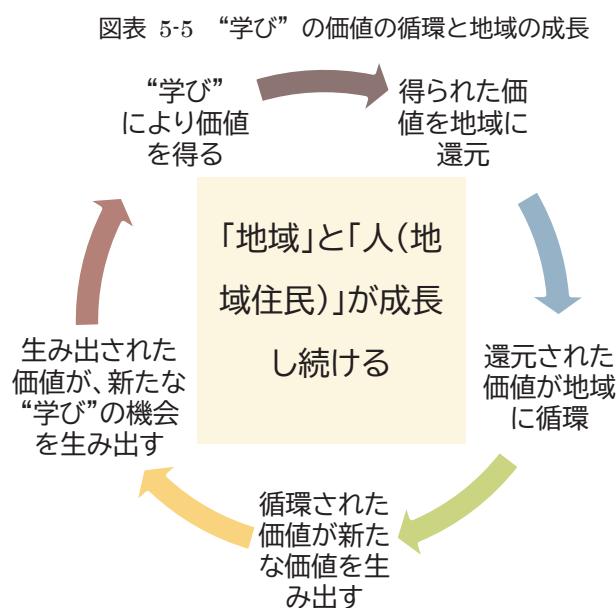


学んだ結果を「地域」へ還元すること、つまり、これまでの「消費型」の学びに加え、地域価値を向上させる「生産型」の学びを進め、地域全体で価値を「共有」する必要があると考える。

3. 新しい生涯学習に向けて

生涯学習の新しい提供価値について、前節では、地域に価値を還元させ循環させる仕組みとして、これまでの「消費型」ではなく、価値を生み出していく「生産型」の生涯学習が考えられると述べた。

すなわち、生涯学習によって生産された価値が、地域を循環し、また新たな価値を生み出し、そして、地域と人（地域住民）が成長し続けるといった循環の姿（図表 5-5）を描くことができるだろう。

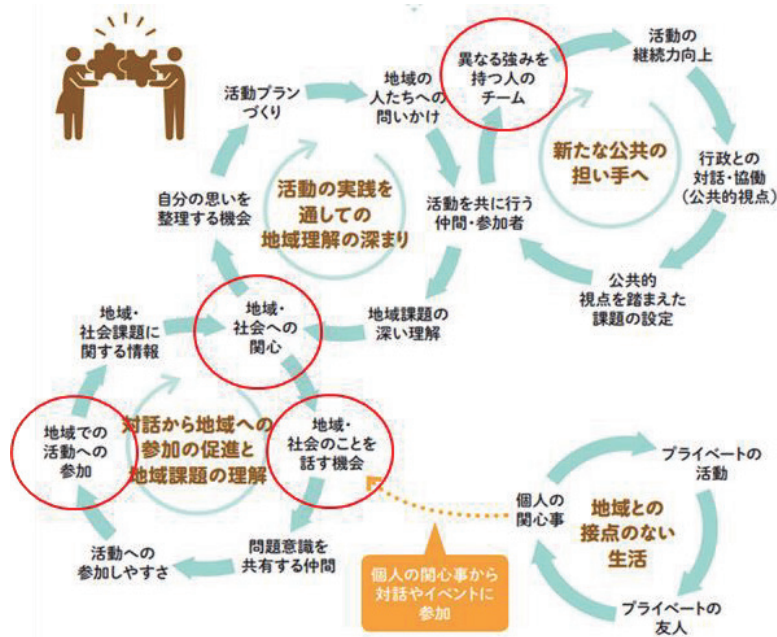


「地域で学ぶ」学習から「地域を創る」学びへの転換には、まず「住民の地域に対する関心を深めること」、そのための「地域社会に目を向ける社会的な仕組み」が重要であり、さらには各自が自覚的に「学び—伝える」という行動型の循環サイクルを作り出すことが重要であると報告されている。¹⁴

地域に関心を持ち、地域を知る事例は、東京都文京区の「新たな公共プロジェクト」の活動が参考になる。個人の関心事から対話やイベントを通じ、地域のことを話し、仲間を作り、地域活動に参加し発信する。そういった循環の中で「地域への関心・理解」が深められ、はじめは小さい輪であったものが多くの人々を巻き込みながら広がっていくことは、住民の自発的な活動を促し地域を創り続ける上で欠かせないことと考えられる。

¹⁴ 内山淳子「地域における学習活動の展開と継承」、鈴木眞理・青山鉄兵・内山淳子編『社会教育の学習論—社会教育がめざす人間像を考える—』、2016年、pp.40-42.

図表 5-6 地域への関心に対する活動例（文京区、「新たな公共プロジェクト」）



（出典：文京区新たな公共プロジェクト事務局,文京区区民部区民課協働推進担当,
文京区新たな公共プロジェクト成果検証会議報告書〈概要版〉、平成 28 年 9 月）

持続可能な循環を生み出すためには、自立した行動、価値の発信を継続的に行っていくことが重要であり、地域を創る「学習」の循環にも同じことがいえる。

そういった、価値の発信・価値の循環の一つの形として、これまで受講者という立場だった地域の人々が活動の担い手となって行う「“学びあう” 学び」の促進が考えられる。

「“学びあう” 学び」では以下の項目を目指し、図表 5-7 を指針として取り組む。

- ・ 生涯学習の価値を、自己の充足（消費型）に留めておかず、地域や地域の人々など外側へ発信・貢献（生産型）という形で現す。
- ・ 参加者など町民相互が「教える」「教えられる」立場の両方を担う。（参加意識。「自分事」としての認知。）
- ・ 学習価値を町民全体の共有財産につながるものとし、価値が常に他の町民の目に触れられるよう拡散し、受講者・参加者以外の意識や行動の変容を促す。

図表 5-7 “学びあう” 学びの指針

「消費型」の学びから「生産型」の学びへ “学びあう” 学び の促進
相互に“教え合う”ことで、これまでつながりが無かった町内の人々が相互に“認め合い”“理解し合う”ことができること
「タテのつながり」からだけでなく、新しい「ヨコのつながり」の中から生まれる新しい価値を、地域の未来資源とすること
学習価値が個人にとどまることなく、地域に発信(地域に貢献)していることが常に意識・認知できること
既存の各団体の取組の仕組みや施設、地域に存在する資源を有機的につなげ、「価値を発信する・生み出す」拠点とする

例えば、“学びあう”の一つの例として以下のようなアイデアが考えられる。

図表 5-8 “学びあう” 学びのアイデア例

“学びあう”例	内容及び効果
「子ども」と「大人」が“学びあう”	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む子どもたちが「地域の良さと悪さ」を、子どもの目の高さで、大人視点ではない新たな地域の特徴を「再認識」。 ・GIGA スクールなど ICT 技術教育と連動し、子どもたちが「自ら」企画・取材・ビデオ収録・編集・プレゼンを実施。 ・ICT 技術について実体験を通じて習得するとともに、自分の思い・考えを具現化し、人に伝える技術を学ぶことができる。
「外国籍居住者」と「日本国籍居住者(地域の人たち)」が“学びあう”	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの文化や食文化を、体験を通じて教え合い、相互理解・多様な社会への認知のきっかけにする。 ・その場では英語を「公用語」として使い、「片方が教える」形から、相互に「教え合う」場・機会を生み出し、日常的な「つながり」を醸成する。
「スポーツに関わる人」が“学びあう”	<ul style="list-style-type: none"> ・違う競技やトレーニングを体験し異種競技間での「スポーツを行う人が相互に」そして「スポーツを教える人が相互に」理解を深め、指導スキルの新しい発見や新たな人的ネットワークの構築につなげる。

外国籍居住者が多い愛荘町にとっては、誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現を目指す SDGs（持続可能な開発目標）の目標4「教育：すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」という視点からも、学びを通じて、外国籍の子どもたちの学校生活での居場所・つながりづくりを促進することは重要である。

他地域においても、住民同士が教えあう取組が行われている。それらを継続的に推進していくためには、最初から地域にある資源のみで推進することは難しく、例えば、今回参考に話を伺った NPO 法人カタリバなど、地域の学びや次世代を担う人々の自立支援の活動を行っている組織・コーディネータの知見等を活用することも必要であろう。

4. 地域資源の利活用

(1) 文化芸術資源等

愛荘町には、第1章で記載した、愛知川びん細工手まりや近江上布、金剛輪寺などの多くの文化芸術資源や、愛知川祇園納涼祭花火大会などの行事、公式競技大会にも利用されるアーチェリー競技施設（愛荘町中央スポーツ公園内）、そして、緑豊かな自然環境など、他地域に対して誇れる地域資源を有している。これら地域資源については、多くの町民がすでに「大切にしたい」という共通の認識・意識を持つものが多く、町民同士の「つながり」を醸成する強力なツール・コンテンツになる。

また、町内の一部の地域でしか栽培できない伝統野菜「秦荘のやまいも」や豊かな自然を活用したスポーツによる町外からの来訪者創出など、それらを一つの手段と捉え、「学び」や「つながり」のツール・コンテンツとなる可能性を秘めている。

(2) 活動実績・仕組み

町民の「つながり」、「世代間の交流」については、以下に挙げるように、町内で活動する団体ですでに具体的な事業が推進されている。

- ・ むら芝居制作・公演など（愛荘町文化協会）
- ・ まなびのひろば、メルポなど（愛荘町国際交流協会）
- ・ テニス教室、アーチェリー教室、ふれあいウォーク愛荘など（愛荘町体育協会）
- ・ あいしょう学びの広場、地域課題解決型学習の推進など（愛荘町社会教育委員会）

歴史文化博物館を中心に活動しているサークル「愛知川史談会」では、歴史について学び、歴史について自らの意見を語り合い、互いに歴史を楽しむなど、すでに「“学びあう” 学び」を実践している。

すでに構築・推進されているこれら仕組みや実績は、町が保有する「独自の資源」であり、今後の「ヨコのつながり」、「世代間交流」の推進に向けて非常に有益な基盤になると考えられる。

また、地理的利便性からも学校区を形成する「学校」を中心とした拠点も考えることができ、「子どもの育成・成長」を介して、周囲の大人へも波及させる一つの資源とみることができる。

(3) 愛荘町の人々の志向

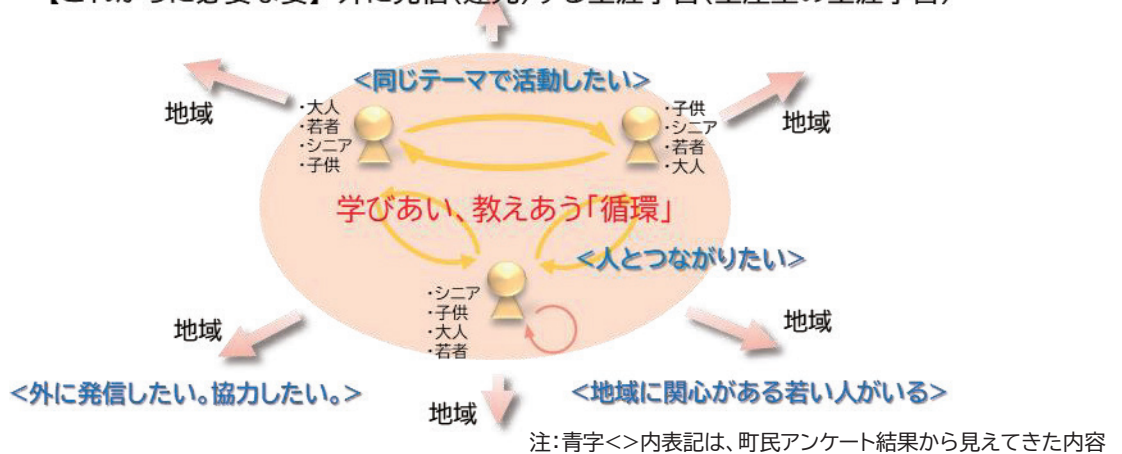
今回実施した町民アンケートの分析から、地域への関心や活動について、若い世代でまちづくりや地域への協力意識が高いという点がみられ、また、生涯学習受講経験者には、「地域の魅力を伝えたい」、「文化芸術の振興に対して高い協力意識を持つ」方が多いことが分かった。そういった志向は、行政の施策だけに頼るのではなく、生涯学習の成果を地域に還元し、かつ、持続的に自立した活動を推進するうえで、非常に有益な「ソフト的な地域資源」と捉えられ、そういった人材の発掘・育成及び支援が新たな時代での鍵となる。

また、生涯学習経験者は、生涯学習でのつながり（仲間づくり）や、同じテーマ（共通認識）でのコミュニティについて意識・志向を持っていることが町民アンケートの分析から分かった。共通認識という点で、前述の文化芸術資源等もそのきっかけづくりに活用できると考える。町の課題でもある地域間での意識や考え方の違い（格差）についても、そういったテーマコミュニティの推進で「ヨコのつながり」を育てることで、課題の改善に向けた地道な貢献が期待できると考える。

今回の町民アンケート結果からは、生涯学習で得られた知識や経験の活かし方は、「自分の生活を豊かにする」など自分への活かし方がまだ多いと思われるが、下図（図表 5-9）に示すように、「外に発信したい。協力したい。」、「地域に関心がある。」、「人とつながりたい。」、「同じテーマで活動したい。」という人が、愛荘町に存在し、「学びあう” 学びで考えている「地域への発信」「（共通の対象に対する）テーマコミュニティの促進」に大きく寄与するポテンシャルを持っていると考えられる。

図表 5-9 町民アンケート結果とこれからの生涯学習

【これからに必要な姿】外に発信(還元)する生涯学習(生産型の生涯学習)

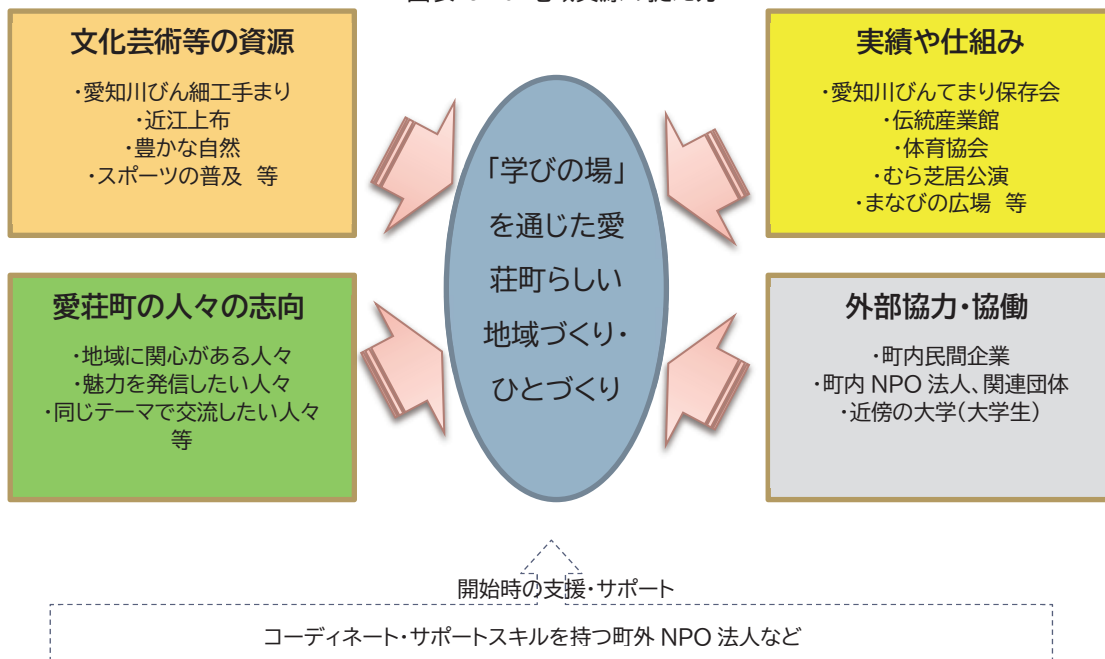


(4) 外部協力・協業

「“学びあう” 学び」を育てるためには、町内の民間企業との連携・協働も重要であり、また、大学生のボランティアなどの柔軟な発想・力との協働は大きな原動力になると考える。自由な発想、これまでになかったアイデアを具現化させる力が必要となる。

文化芸術・自然環境資源、これまでに構築されている各団体の取組や仕組み、そして、町民の持つ地域への貢献（地域づくりや活動意識）資質を活用し、生涯学習という「学びの場」を中心に、自立的で持続可能な「地域づくり」へ貢献させることができると考えられる（図表 5-10）。

図表 5-10 地域資源の捉え方



5. 今後に向けて

少子高齢化・人生 100 年時代・ICT 技術の発展など大きな時代の変化の中における、新しい生涯学習の形として「“学びあう” 学び」を提案した。

“学びあう” は“支え合う” という福祉の考え方にも共通する点がある。これまで「受け手」であった側が「送り手（支え手）」側として地域に貢献することによって、地域社会における「自分の居場所（地域社会での立ち位置。社会的欲求・承認欲求の充足）」を、「送り手」となりうる子どもから大人・高齢者まですべての町民に提供でき、より強い地域への関心・愛着心を高める可能性が期待できる。生活に対する必然性が高い福祉事業と比べ、一見、生涯学習事業は生活する上でのその必然性は低く見られることがある。しかし、豊かな人生・生活を生み出す“学び” は、これからの人生 100 年時代において今後より必然性が高くなると考えられる。

“学び” を従来の概念の枠から抜け、地域に貢献する・地域力を高める機会であるとして捉えなおすことで、人々の「時間」を豊かにし、地域のコミュニケーションを豊かにし、地域社会全体を活性化させる。そういった可能性を、生涯学習は秘めている。

- ①愛荘町が保有する、地域の文化芸術等の資産
- ②町内の関連団体が実現してきた取組や仕組み
- ③愛荘町に住む人々が持つ意識や資質

の「資源」を生かし、外部からの発想や知見と合わせ、

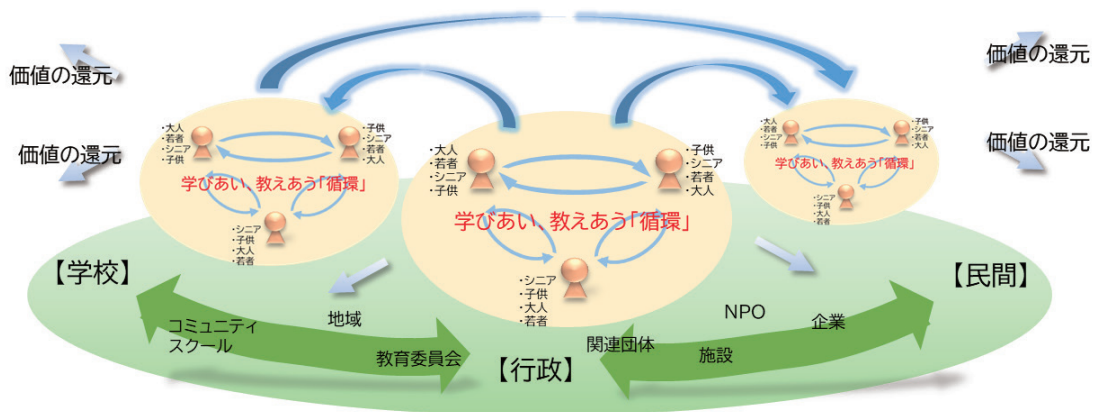
- ・ 町内に住む人々自らが自発的に活動する
- ・ “学び” の成果を地域に還元する
- ・ “学び” 活動の価値を循環させる

という持続可能な新しい生涯学習の姿が描けるのではないだろうか。

既存の仕組み・活動を支援するとともに、新しい“芽”として「“学びあう” 学び」をまずはスモールスタートさせ、常にトライ&エラーを繰り返しながら育てていき、多くの人たちを巻き込みながら町内全体への活動に広げていくことが、新しい「姿」を実装する上で肝要である。

町民が中心となり、生涯学習を「地域に還元する」取組において、学校・民間・行政が「循環を持続させる支援を行う強力なプラットフォーム」となっていくことが考えられる。(図表 5-11)

図表 5-11 愛荘町のこれからの「学び」に関するプラットフォーム



【学校】【民間】【行政】の連携が、「循環」を生み出すプラットフォーム

具体的な推進事業においては、以下の表に挙げたような項目や視点について精査・詳細検討を行う必要がある。今後、「ガイドラインやアクションプラン」等の検討と合わせて、関連組織・団体等と連携し具体策を考える必要があると考える。

図表 5-12 推進課題の一例

項目	現状	方向
“学ぶ”きっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習を体験していない人もいる ・生涯学習の価値があまり「肌感覚」として認知されていない ・生涯学習を体感することへの障壁(時間、意識)がある 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習を経験していない人の「声」や「意識」を吸い上げる ・価値を認知する機会を増やす ・“学び”の「入口」、「学び」の形態を充実させる 等
“学ぶ”をする人を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・既存組織団体への参加者(加入者)が増えない ・限られた「人」への視点等 	<ul style="list-style-type: none"> ・“学び”に触れる機会を増やし、意識変容・行動変容につなげやすくする ・福祉事業との連携(子ども福祉など) ・多様な人々への対応(外国籍やLGBTQ+など) 等
循環する「自走する」仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自立し柔軟に変容しながら推進していく経験が少ない ・町全体での推進の統一性(体系的な一体感)が認知されていない 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・町全体の“学び”推進を積極的に動く町民リーダーを発掘する ・行政組織内・NPO など含めた民間内での「ヨコのつながり」を充実させる 等

町内だけにとらわれすぎず、隣接する地域との協業や共同事業など、近隣地域との連携を視野に入れた“学び”の推進・拡がりも今後の方策として考えられる。

自発的な学習・自立できる取組を実現するためには、継続できる仕組みをいかに定着させるかが重要であり、これからの「愛荘町の“学び”」に対するビジョン形成、そしてそのビジョンを実現するシステム及びマネジメントを、既存の組織・仕組みを超えたヨコのつながりを強化しながら推進していくことが重要である。

学校・地域・行政及び地域の企業団体や町民が、より連携を強化しながら、新しい発想で生涯学習に取り組むことが必要である。また、それらをスタートさせるきっかけとして、前述した NPO 法人カタリバなど外部の知識（知見・手法）等を取り込んで活性化させ、町民が自立して活動できる能力を体験し、町民及び地域に蓄積させることも有効である。このような方策によって、持続可能で地域に根付いた「新しい生涯学習」が実現できるはずである。

委員会名簿

これからの生涯学習の在り方および文化芸術について公共施設や地域資源を活用した持続可能なまちづくり
に関する調査研究委員会 委員名簿

(順不同 敬称略)

委員長	高 木 和 久	学校法人滋賀学園 びわこ学院大学 非常勤講師
委員	内 山 淳 子	学校法人佛教教育学園 佛教大学教育学部 特任准教授
	久保川 幸 雄	一般財団法人愛荘町文化協会 会長
	長谷川 ひろ子	愛荘町国際交流協会 副会長
	高 橋 健	愛荘町スポーツ推進員
	北 村 司 朗	愛荘町社会教育委員
	山 本 豊 子	愛荘町社会教育委員
	森 まゆみ	愛荘町福祉政策監
	上 林 市 治	愛荘町教育委員会事務局 次長
	三 宅 正 芳	一般財団法人 地方自治研究機構 調査研究部長
事務局	陌 間 秀 介	愛荘町教育委員会生涯学習課 課長
	森 野 直 樹	愛荘町教育委員会生涯学習課 係長
	江 見 哲 郎	一般財団法人 地方自治研究機構 主任研究員
	渡 辺 靖 仁	一般財団法人 地方自治研究機構 研究員
基礎調査機関	柳 瀬 邦 治	株式会社日本海コンサルタント 社会事業部 副部長

参考資料

(町民アンケート調査結果 報告書)

目次

1. 愛荘町の生涯学習と地域資源に関する町民アンケート調査...	1
1) 調査概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査の概要.....	1
(3) 調査項目の基本構成.....	2
(4) 調査票.....	3
2) 調査結果.....	11
3) 参考資料.....	113
(1) アンケートの有効性について.....	113

愛荘町の生涯学習と地域資源に関する 町民アンケート調査結果

報告書

令和4年2月8日

1. 愛荘町の生涯学習と地域資源に関する町民アンケート調査

1) 調査概要

(1) 調査の目的

町民が、普段の生活における趣味・スポーツ活動、自治会などの活動、研修会などの学びの場等の生涯学習についてどのような考えを持っているのかを調査することにより、愛荘町の生涯学習充実にに向けた施策の方向性等を検討するための資料とするもの。

(2) 調査の概要

- ◇調査対象：愛荘町全域の16歳以上の方
- ◇調査方法：郵送によるアンケート調査票の配布・回収、はがきによるWEBアンケート
- ◇調査期間：令和3年9月11日（土）～9月30日（木）
- ◇回収数：①紙アンケート回収率：紙：586通/2,000通=29.3%
②WEBアンケート回収率：紙：586通/500通=6.6%
・40代以下の若者層の回収率向上を目指してはがきにQRコードを印刷したWEBアンケートを実施したが、設問が多いことなどから回収率は低くなった。そのため、全体の回収率としては619通/2,500通=24.8%。

アンケート配布数

年齢別	人口 (R2)	紙アンケート 配布数	WEBアンケート 配布数	合計 配布数	回収数	回収率
16-19歳	959	111	215	326	34	10.4%
20代	2,250	261	165	426	35	8.2%
30代	2,587	300	20	320	68	21.3%
40代	3,165	368	100	468	91	19.4%
50代	2,442	285		285	82	28.8%
60代	2,208	256		256	118	46.1%
70代以上	3,607	419		419	188	44.9%
	17,218	2,000	500	2,500	619	24.8%

※年齢無回答3票

(3) 調査項目の基本構成

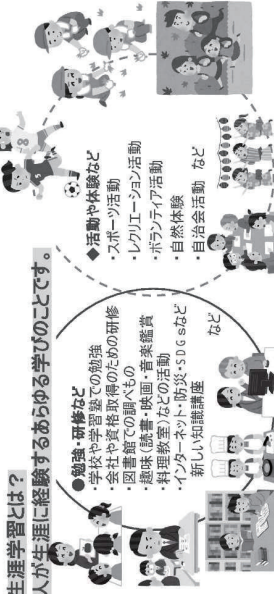
調査項目は下表の通り。

調査項目	
1. あなたご自身について	
問1	①性別 ②年齢 ③同居家族構成 ④愛荘町にお住まいの年数
問2	職業
問3	お住まいの地域（小学校区）
問4	お住まいの地域の良いところ【複数回答】
2. 生涯学習への参加意識について	
問5	生涯学習の経験の有無
問6	生涯学習を行った場所・形態【複数回答】
問7	学習活動の種類【複数回答】 継続して行っている学習活動【複数回答】
問8	学習活動を行うようになったきっかけ【複数回答】
問9	学習活動の活かし方【複数回答】 学習活動を活かしていない理由【複数回答】、 学習活動を活かすためのアイデア
問10	生涯学習を行わなかった理由【複数回答】
問11	利用したことのある施設【複数回答】
問12	よく利用する施設【複数回答】
問13	学校を生涯学習の場とするための環境や条件【複数回答】
問14	スポーツ施設の今後の対応【複数回答】
問15	仲間づくりをしたい相手
問16	生涯学習に参加しやすくするために充実させた方がよい活動
問17	参加している活動【複数回答】
問18	多くの人が地域活動に参加するために必要なこと【複数回答】
問19	学習する際の情報収集方法【複数回答】
問20	インターネット講座を受講する際の問題【複数回答】
問21	生涯学習の取組について充実度と重要度
3. 生涯学習に関する自由回答	
4. 愛荘町の歴史・芸術文化に関する意識等について	
問22	大切だと思う歴史・芸術文化資源のカテゴリー【複数回答】
問23	最も大切だと思う歴史・芸術文化資源
問24	歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいか
問25	歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思う理由【複数回答】
問26	歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思わない理由【複数回答】
問27	歴史・芸術文化への関心の有無 歴史・芸術文化へ関心がない理由【複数回答】
問28	歴史・芸術文化へ関心を持つために必要なもの【複数回答】
問29	歴史・芸術文化の保存継承・活用のため協力できること【複数回答】
5. 歴史・芸術文化資源に関する自由回答	

(4) 調査票

愛荘町の生涯学習と地域資源に関する 町民アンケート調査

日頃より、愛荘町の教育文化行政に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
愛荘町では、令和3年2月に策定した教育大綱・第2期教育振興基本計画に基づき『生涯にわたって、夢とこころざしを持ち、あらゆる機会に、あらゆる場所において、学習することができる人生100年の学び』の実現を目指し、**就学前教育・学校教育・社会教育の様々な場面で、家庭・学校・地域が連携・協働しながら町民の主体的な生涯学習活動を進めています。**
このアンケートは、**町民の皆さまが、普段の生活における趣味・スポーツ活動、自治会などの活動、研修会などの学びの場等の生涯学習についてどのようなお考えをおもちになつているのかを調査することにより、愛荘町の生涯学習充実に向けた施策の方向性を検討するための資料とするものです。**
御多忙のところ、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解いただき、率直な御意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



生涯学習とは？
人が生涯に経験するあらゆる学びのことです。

アンケート調査については専門知識のある民間調査機関（㈱日本海コカ Cola（石川県金沢市））へ委託して実施しておりますが、ご回答いただいた内容は全て厳格的に処理し、個々の内容を外部に公表することや本調査以外の目的で使用することは決まていません。

【アンケートのご記入方法について】

1. ご回答は、設問ごとにはまる項目の番号を○で囲んでください。また、質問に添し「あてはまる番号1つに○」「あてはまる番号全てに○」のように、○をつける個数を指定していただきますのでご注意ください。
2. 直接記入する設問もありますので、出来る限り具体的な内容をご記入ください。
3. この不明な点がありましたら担当者までご連絡ください。
4. ご回答いただいた調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒に入れて
令和3年9月23日（木）までに、返函してください。

【お問合せ先】
愛荘町 教育委員会 生涯学習課
〒529-1234 滋賀県愛荘町安孫子 825番地
TEL 0749-37-8055、FAX 0749-37-4192
E-mail syogaku@town.aisho.lg.jp

1ページ

1. あなたご自身についてお尋ねします

問1 あなたの性別、年齢などを教えてください。(あてはまる番号1つに○)

【①性別】	2. 女性	3. その他		
1. 男性				
【②年齢】	2. 20歳~24歳	3. 25歳~29歳	4. 30歳~34歳	
1. 16歳~19歳	6. 40歳~44歳	7. 45歳~49歳	8. 50歳~54歳	
5. 35歳~39歳	10. 60歳~64歳	11. 65歳~69歳	12. 70歳~74歳	
9. 55歳~59歳	13. 75歳以上			
【③同居家族構成】	2. 夫婦のみ	3. 親と子	4. 親と子と孫	
1. 単身	5. その他			
【④愛荘町に合計で何年お住まいですか】 (2006年の合計以前からお住まいの方は合計の年数を選択)	1. 1年未満	2. 1年~5年未満	3. 5年~10年未満	4. 10年~20年未満
5. 20年以上				

問2 あなたの職業は？ (あてはまる番号1つに○)

1. 農林水産業	2. 自営業 (商業、工業、サービス業など)	
3. 会社員・会社役員	4. 公務員、団体職員	5. パート・アルバイト
6. 専業主婦 (主夫)・家事手伝い	7. 学生	
8. 無職・定年退職	9. その他	

問3 あなたのお住まいの地域についてお聞きします (あてはまる番号1つに○)

1. 桑江町小学校区	2. 桑江小学校区	3. 愛知川小学校区	4. 愛知川車小学校区
------------	-----------	------------	-------------

問4 あなたがお住まいの地域の良いところを教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 地域や近所付き合いが良好	2. 自治会などの活動が盛ん
3. ポラテニア活動が盛ん	4. 多世代交流が盛ん
5. 空き家が少ない	6. みんなが気軽に寄れる居場所がある
7. その他	

2. 生涯学習への参加意識についてお尋ねします

問5 あなたはこ教年の中で「生涯学習」をを行いましたか？ (あてはまる番号1つに○)

※生涯学習とは1ページに示す活動や体験も含めたあらゆる学びのことです。	
1. 行った	⇒問6・問7・問8・問9をご回答ください
2. 行っていない	⇒問10へお進みください

●問5で「1. 行った」と回答した方のみにお尋ねします。

問6 あなたは、その生涯学習をどのような場所や形態で行いましたか？ (あてはまる番号すべてに○)

1. 公民館や生涯学習センター、運動施設などの公的な施設や機関での講座や教室
2. カルチャースタジオやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育
3. 学校 (高等学校、大学、大学院、専門学校など) の公開講座や教室または入学
4. 職場の教育、研修、職場が指定する外部研修への参加
5. 同好会など自主的にしている集まり、サークル活動、スポーツ活動
6. 図書館、博物館、美術館でのイベント参加・自主学習
7. テレビやラジオ
8. インターネット、ネット配信、ZOOMなどを活用したウェブセミナー
9. 読書・自宅で学習活動

2ページ

●問5で「2.行っていない」と回答した方の方にお尋ねします。

問10 ここ数年の中で「生涯学習」を行わなかった理由は何ですか？(あてはまる番号全てに○)

1. 仕事や忙しくて時間が無い
2. 特に必要だとは思わない
3. きっかけがつかぬ
4. 家事・育児・介護などが忙しくて時間が無い
5. 近くに学習する場がない
6. 時間帯が希望に合わない
7. 学習するためには費用がかかる
8. 学習より優先したいことがある
9. 一緒に学習する仲間がいない
10. 学習するのに必要な情報(内容・時間・場所・費用など)が入手できない
11. 学習したい講座がない
12. 学習しても家庭や職場で評価されない
13. 新型コロナウイルス感染予防のため
14. その他()

●以降の設問は全員が回答してください。

問11 町内公共施設などのうち、あなたが利用したことのある施設は何ですか？

(あてはまる番号全てに○)

1. ハーティーセンター兼荘
2. 愛知川公民館
3. 愛知川図書館
4. 秦荘図書館
5. 歴史文化博物館
6. スポーツセンター(グラウンド)
7. 秦荘武道館
8. 秦荘体育館
9. 愛知川体育館
10. 豊国運動公園
11. ふれ愛スポーツ公園
12. 中央スポーツ公園(グラウンドゴルフ)
13. 中央スポーツ公園(アーチERY)
14. 中央スポーツ公園(フットサル)
15. 中央スポーツ公園(テニスコート)
16. けんこうアール
17. 宇治川テラランドゴルフ場
18. 愛知川武道館
19. はつらつドーム
20. 地域総合センター
21. ゆめまちテラスえら
22. 学校体育施設
23. その他()

問12 問11の町内公共施設のうち、よく利用する施設の番号を全て記入してください。

問13 学校を生涯学習(趣味のサークル活動、ボランティア活動、交流活動、研修活動、スポーツ活動等)の場とする場合、どのような環境や条件が整えばよいと思いますか？(あてはまる番号全てに○)

1. 活動する教室が十分に有ること
2. 部屋の借用が簡単にできること(鍵の借用・返却が簡単・借用申請等の手続きが簡単)
3. 使用料が無料または、きわめて安いこと
4. コンピューター等の機器が使用できること(機器レンタル、ネットが使えるなど)
5. 学校が開いていないとき(土日、休日等)でも使用できること
6. その他()

問14 愛荘町は2町合併で誕生し、スポーツ施設が多く整備されていますが、老朽化し多額の維持管理費等が発生している施設も見られます。これらの施設は今後どのようにすることが望ましいとお考えですか？(あてはまる番号全てに○)

1. 効率的な行政運営のため、スポーツ施設の統廃合・集約などを推進すべき
2. 費用がかかっても、現状の施設を維持できるように検討すべき
3. スポーツ施設は不足していると思うので、他の経費を切り詰めても増やすべき
4. その他()

問15 あなたはどのような人々と学びあひ仲間づくりをしていきたいですか？(あてはまる番号1つに○)

1. 同じ趣味を持つ人々
2. 子どもから大人まで多世代の人々
3. 家族や親せき
4. 自治会・ご近所の人々
5. 小学校区の範囲の人々
6. 同じ職場の人々
7. 同級生や同年代の人々
8. インターネットを活用した不特定多数の人々
9. その他()

問16 あなたは、生涯学習(趣味のサークル活動、ボランティア活動、スポーツ活動等)に参加するなら、「学校区などの地域単位での活動」か「共通する生涯学習のテーマでの活動」のどちらを充実させたい方が参加しやすいですか？(あてはまる番号1つに○)

1. 地域単位での生涯学習活動やイベントなどを充実する方が参加しやすい
2. 共通する生涯学習テーマで仲間を集めて活動する方が参加しやすい
3. 地域単位での活動も、共通する生涯学習のテーマごとの活動もどちらも必要であり、参加しにくいとは思わない
4. 地域単位での活動も、生涯学習の種類ごとの活動もどちらも参加しにくい
5. わからない

問17 あなたは、地域活動やボランティア活動など、参加している活動はありますか？(あてはまる番号全てに○)

1. 地域活性化やまちづくり・観光などを支援する活動
2. PTA など学校や保育園・幼稚園などを支援する活動
3. 生活課題を抱える人や子育てを支援する活動
4. 防災訓練や避難路確認、災害復旧など防災に関する活動
5. 自然保護活動やリサイクル運動など環境保全等に関する活動
6. 自治会や公民館活動
7. 子ども会や学校ボランティアなど学校や地域の子どもの育成を支援する活動
8. スポーツ少年団や各種スポーツ団体などスポーツの指導や運営支援活動
9. 図書館運営やまちづくり読書等を支援する活動
10. その他()
11. 参加していない

問18 あなたは多くの人が地域活動やボランティア活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要(期待すること)だと思いますか？(あてはまる番号全てに○)

1. 地域や社会に関する講習会の開催など活動への参加につながるきっかけづくり
2. 地域や社会での活動に関する情報共有
3. 活動の成果が地域や社会(職場)で評価されること
4. 交通費・活動費など必要経費の支援
5. 参加しやすい時間帯や曜日など、時間的な縛りが少ないこと
6. 子ども向けなど興味のある活動やプログラムの充実
7. コーディネーターや指導員などリーダー的な人材の充実
8. 地域の人々が気軽に集まれる場所や相談窓口をつくる
9. 図書館等の施設での活動機会充実や気軽に参加できる活動の充実
10. 民間企業や事業者・団体等へ地域活動への参加を促す
11. その他()
12. わからない

問 19 あなたがこれから学習する場合、どこから情報収集を行いますか？
(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 新聞・雑誌・チラシ・DM | 2. テレビやラジオ |
| 3. 友人や知人の紹介・口コミ | 4. ホームページや講座情報等の検索サイト |
| 5. SNS を通じた情報提供 | 6. 自治会の回覧や掲示版 |
| 7. 行政の広報誌 | 8. 公民館や図書館などのポスターやチラシ |
| 9. 職場などからの案内 | 10. 大学などの教育機関からの公開講座情報 |
| 11. 駅や商業施設などのポスターやチラシ | 12. その他 () |

問 20 新型コロナウイルス感染症予防の観点からインターネットによる配信講座などが増えていますが、あなたがインターネット講座を受講する際の問題となることは何ですか？
(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|-----------------------------|-----|
| 1. 自宅にインターネット通信が無い | () |
| 2. スマートフォンなどを持っていない | () |
| 3. パソコンが無く受講できない | () |
| 4. パソコンやスマートフォンなどの使い方がわからない | () |
| 5. インターネットなどで受講するのは抵抗がある | () |
| 6. その他 () | () |
| 7. 特に問題はない | () |

問 21 愛宕町の生涯学習に関する取組について、充実していると感じていますか？5～11の5段階で評価してください。また、その取組の重要性についてA～Dの4段階で評価してください。

	①充実度				②重要度				
	充 実	充 実	充 実	充 実	重 要	重 要	重 要	重 要	
以下の生涯学習の取組について、「重要度」と「充実度」をお答えください。(該当する番号、記号それぞれ1つずつ○)									
① 生涯学習に関する情報発信がなされている	5	4	3	2	1	A	B	C	D
② 生涯学習に関する相談窓口がある	5	4	3	2	1	A	B	C	D
③ いつでも、どこでも、だれでも学ぶ機会がある	5	4	3	2	1	A	B	C	D
④ インターネットを活用した新たな学習の提供や、それを支える仕組みが整っている	5	4	3	2	1	A	B	C	D
⑤ あらゆる世代が交流し、学べる施設が充実している	5	4	3	2	1	A	B	C	D
⑥ スポーツの機会や施設が充実している	5	4	3	2	1	A	B	C	D
⑦ 人権問題や多様性に関する学習の場や機会がある	5	4	3	2	1	A	B	C	D
⑧ 学習した成果を活かす場や機会がある	5	4	3	2	1	A	B	C	D
⑨ NPOやボランティア団体等と連携している	5	4	3	2	1	A	B	C	D
⑩ 自治会や公民館による生涯学習活動がある	5	4	3	2	1	A	B	C	D
⑪ 仲間づくりや居場所（拠点）づくりを支援している	5	4	3	2	1	A	B	C	D

3. 生涯学習に関する自由回答

あなたの趣味や特技、ボランティア・サークル活動、他の人が行っている活動等を活かして、学校・園や地域の人々と一緒にやってみたらおもしろい、楽しい行事・イベント・集いといったものがあれば教えてください。

生涯学習に関する設問は以上です。引き続き歴史・芸術文化に関する設問に回答ください。

10. ボランティア活動など地域での活動をとおしての学習
11. その他 ()

問 7

あなたは、どのような種類の学習活動を行いましたか？(あてはまる番号全てに○)

1. 教育的なもの(文化、歴史、科学、語学など)	()
2. 社会問題に関するもの(人権・時事、国際、環境、SDGs、ジェンダーなど)	()
3. 趣味やけいこ事(音楽、美術、華道、舞踊、書道など)	()
4. 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	()
5. 子育てや青少年健全育成(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	()
6. 就職や転職のために必要な知識・技能(就職や転職に必要な知識や資格取得など)	()
7. 現在の仕事に関する必要な知識・技能(スキルアップや知識習得、資格取得など)	()
8. パソコンやスマホ、インターネットの知識(Word やExcel 講座・SNS*の利用など)	()
9. 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳、ゴルフなど)	()
10. 防災や観光などボランティア活動のために必要な知識・技能	()
11. 自然体験や農業体験などの体験活動	()
12. その他 ()	()

*SNSは、スマホやパソコンを使って人間関係を構築することできるオンライン上のコミュニケーションの総称。Facebook、Twitter、LINE、Instagram などのサービスが知られています。

前項の学習活動種類のうち複数年継続して受講・活動しているものがありましたら、下記欄に番号を記入してください。(あてはまる番号全てを記入)

問 8

あなたが、生涯学習を行うようになっただけは何か？(あてはまる番号全てに○)

1. 自ら学習・活動したくなったから	()
2. 職場などから指示されたり、勧められたりしたから	()
3. 家族、友人、知人から誘われたから	()
4. 自由な時間が増えたから	()
5. 興味のある講座や教室が開かれたから	()
6. 自宅や職場近くに講座や教室があったから	()
7. 仲間を作りたと思ったから	()
8. 社会の役に立ちたいと思ったから	()
9. その他 ()	()

問 9 あなたは、学習活動を通じて得た知識や技能・経験をどのように活かしていますか？
(あてはまる番号全てに○)

1. 自分の人生を豊かにしている	()
2. 資格の取得に役立っている	()
3. 学習を通じて仲間や友達が増えた	()
4. 学校や園でのボランティアに活かしている	()
5. 家族や職場で活かしている	()
6. 仕事や職業で活かしている	()
7. 学校や園でのボランティアに活かしている	()
8. 自分の健康維持や増進に活かしている	()
9. その他 ()	()
10. 活かしていない	()

活かしていない理由は何ですか？(あてはまる番号全てに○)

1. 活かす場がない	()
2. 活かすきっかけがない	()
3. 活かせるような内容ではなかった	()
4. 活かしたいと思わない	()
5. その他 ()	()

どのようにすれば活かせると思いますか？アイデアがあればお書きください

4. 愛荘町の歴史・芸術文化に関する意識等についてお尋ねします

問 22 下記の愛荘町の主な歴史・芸術文化資源のうち、あなたが大切だと思ふ『カテゴリー』は何ですか？(A～Eの項目からあてはまるアリウアップレット全てに○)
↓A～Eのカテゴリーに○を付けてください

A 文化的芸能や伝統工芸品など	
①むら芝居	②愛知川太鼓
③近江上布	④愛知川びん細工手まり
⑤その他()	
B 寺社仏閣	
⑥金剛崎寺	⑦豊満神社
⑧矢取地藏尊	⑨その他()
C 史跡・遺産	
⑩旧愛知郡役所(ゆめまちテラスえち)	⑪中山道愛知川宿
⑫その他()	⑬目賀田城跡
D 伝統行事や町のイベント	
⑭野井之木宮の曳山祭り	⑮御崎神社の火まつり
⑯愛知川祇園納涼祭花火大会	⑰その他()
E 豊かな自然	
⑱比古湧水	⑲田園風景
⑳宇曾川渓谷	㉑その他()
㉒依智楽氏の里土庫公園の桜や町	㉓その他()

問 23 問 22 で選択したカテゴリーの中で、最も誇りに思ふ資源を①～④から1つ選び、番号を記載してください。

最も誇りに思ふ資源(①～④)の番号を1つ記入→

問 24 あなたは愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思いますか？

(あてはまる番号1つに○)

1. 思う	2. やや思う	⇒問 25 へ
3. あまり思わない	4. 思わない	⇒問 26 へ

問 25 愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を伝えたいと思ふ理由は何ですか？

(あてはまる番号全てに○)

1. 歴史・芸術文化を学ぶ機会が充実	2. 町民・団体の文化芸術活動が盛ん
3. 文化芸術に関する情報が豊富	4. 歴史文化資源や施設が充実
5. 行政の支援が積極的	6. 文化財や郷土芸能が保存継承されている
7. その他()	

問 26 愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を伝えたいと思わない理由は何ですか？

(あてはまる番号全てに○)

1. 歴史・芸術文化を学ぶ機会が少ない	2. 町民・団体の文化芸術活動が少ない
3. 文化芸術に関する情報が集めにくい	4. 歴史文化資源や施設の魅力が少ない
5. 行政の支援が少ない	6. 文化財や郷土芸能が保存継承されていない
7. その他()	

7 ページ

問 27 あなたは愛荘町の歴史・芸術文化に興味がありますか？(あてはまる番号1つに○)

1. 関心がある	2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない	4. 関心がない

↓関心が無い理由は何ですか？(あてはまる番号全てに○)

1. 難しくてわかりにくい	2. ほんものがあるか知らない
3. 歴史や芸術文化が好きではない	4. 自分の生活に影響がない
5. 生まれ育った土地ではないため	
6. その他()	

問 28 あなたは、多くの方が歴史・芸術文化資源に興味を持つためには、どのようなものが必要だと思いますか？(あてはまる番号全てに○)

1. 地域の宝を再発見するイベント	2. 移住者に愛荘町の良さを伝える
3. 芸術文化資源を巡るガイドツアー	4. 芸術文化資源等を巡って集めるスタンラリーを実施
5. ボランティアガイドによる解説	6. 小中学生を対象に芸術文化資源の授業や見学会を開催
7. 芸術文化資源を活用した町民講座やシンポジウムなどを開催	8. 町民ボランティアの育成
9. 芸術文化資源の案内パンフレットを作成	10. 芸術文化資源周辺に説明板などの案内を充実
11. 祭りや伝統芸能などのイベント情報カレンダーをインターネットで公開	12. SNS を活用し芸術文化資源をPR
13. 芸術文化資源を映像などで保存して公開	14. 非公開や見られない芸術文化資源を定期的に公開
15. 芸術文化資源に関する博物館の充実	16. 芸術文化資源保存継承のための相談窓口の開設
17. その他()	

問 29 歴史・芸術文化資源等の保存継承・活用を行う際に、あなたが協力できることは何ですか？(あてはまる番号全てに○)

1. 芸術文化資源保存活用のための寄付	2. 地域の史跡等での清掃活動
3. 地域の史跡等のガイドボランティア	4. SNS などを活用した情報発信
5. 芸術文化資源の調査研究活動	6. 祭りなどへの参加、協力
7. 講座の企画立案	8. 講座などの講師・リーダーになる
9. ひんまりなどの講座への参加、協力	10. 協力できることがない
11. その他()	

5. 歴史・芸術文化資源に関する自由回答

愛荘町の歴史・芸術文化資源について、ご意見・ご要望などがあれば、ご自由にお書きください。

--

設問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

8 ページ

2) 調査結果

＜集計結果の留意点＞

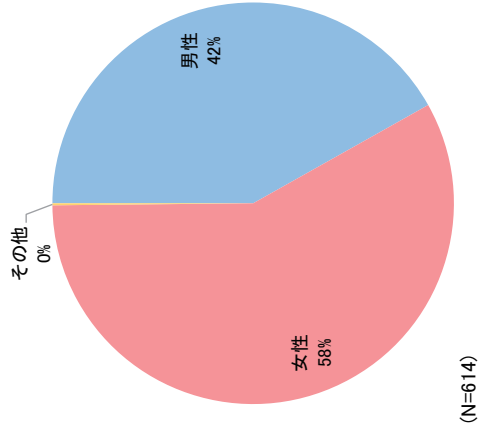
- ◇集計結果のパーセントは、合計値が四捨五入の関係で100%とならない場合があります。
- ◇グラフのスペース上、3%未満の値を省略している場合があります。

1. あなたご自身について

問 1 ①性別 ②年齢 ③同居家族構成 ④愛荘町にお住まいの年数
あなたの性別、年齢などを教えてください。

①性別

- ・回答者は「女性」が58%、「男性」が42%であり、女性の回答が多い。



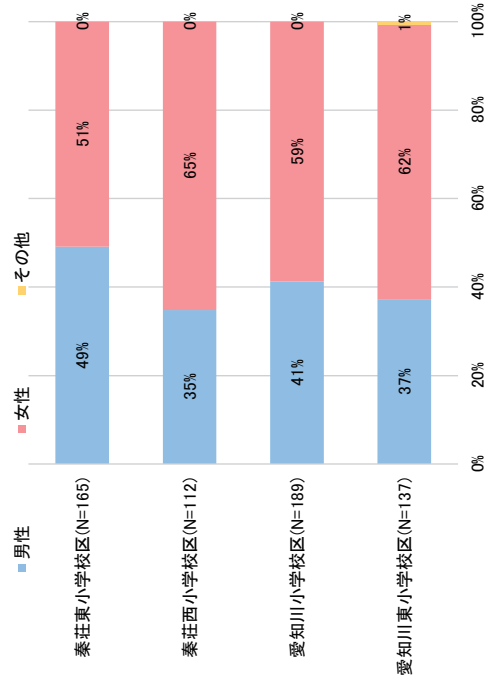
■年齢別

- ・30代と40代は「女性」の回答が約7割となっており、30～40代の男性はアンケート回答への協力が得られにくい。



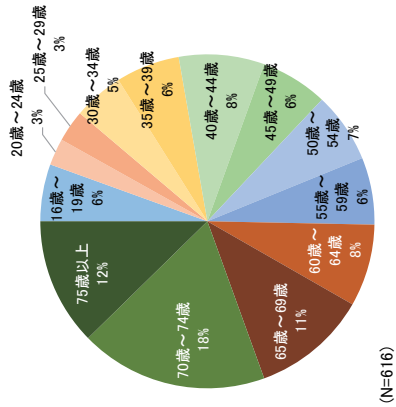
■小学校区別

- ・どの小学校区も「女性」の方が男性よりも多い。



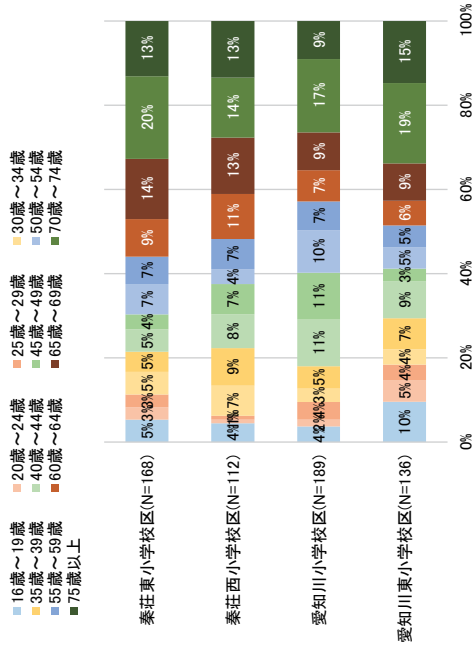
②年齢

・「70歳～74歳」が18%と最も多く、次いで「75歳以上」が12%であり、60歳以上が49%と半数を占めている。



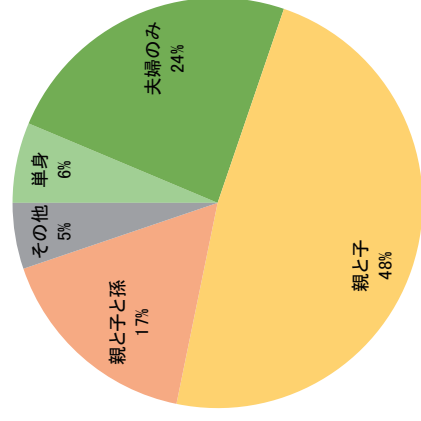
■小学校区別

・愛知川小学校区が若干60代以下の回答が多い。



③同居家族構成

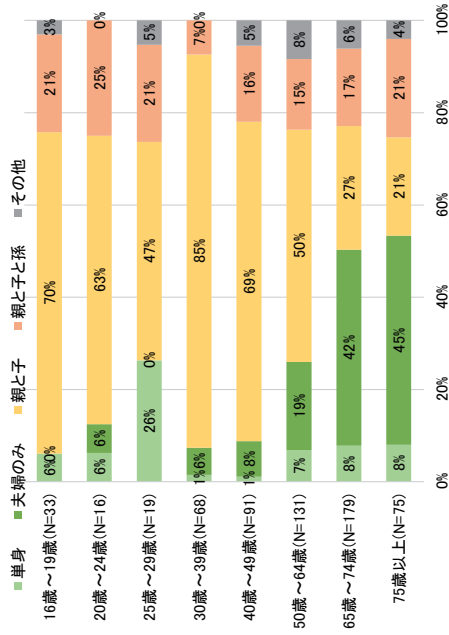
・「親子」が48%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が24%、「親子と孫」が17%となっている。



(N=615)

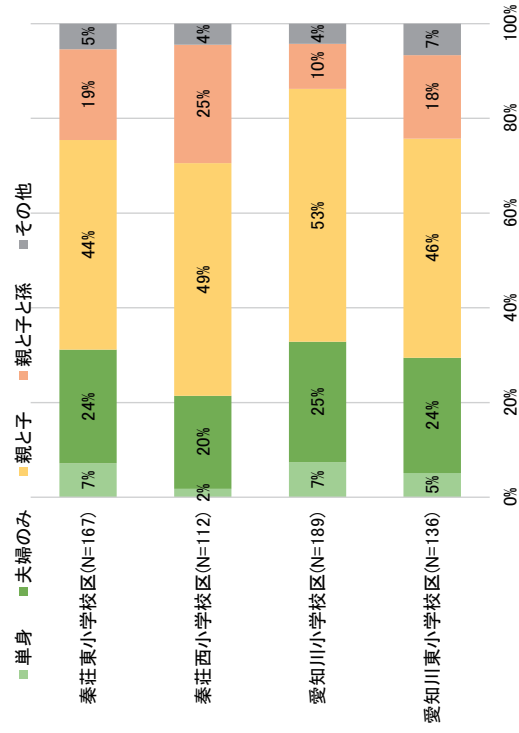
■ 年齢別

・25歳～29歳は「単身」が26%と、他の年齢に比べて18ポイント以上多く占めている。



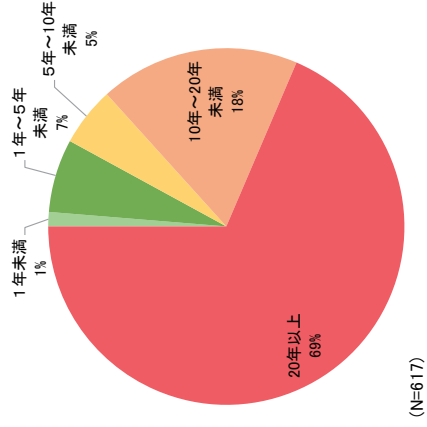
■ 小学校区別

・どの小学校区も「親と子」が4～5割を占めている。



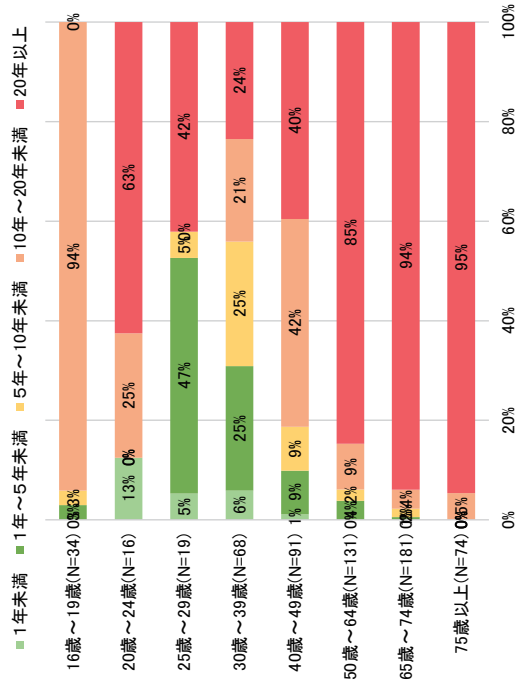
④ 愛荘町にお住まいの年数

・「20年以上」が69%と最も多く、次いで「10年～20年未満」が18%、「1年～5年未満」が7%となっている。



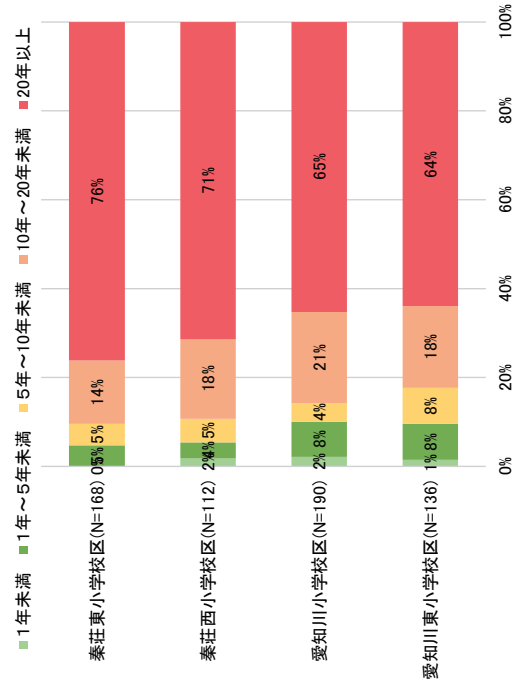
■ 年齢別

・25～29歳は「1～5年未満」が47%と他の年齢に比べて22ポイント以上多くなっている。



■ 小学校区別

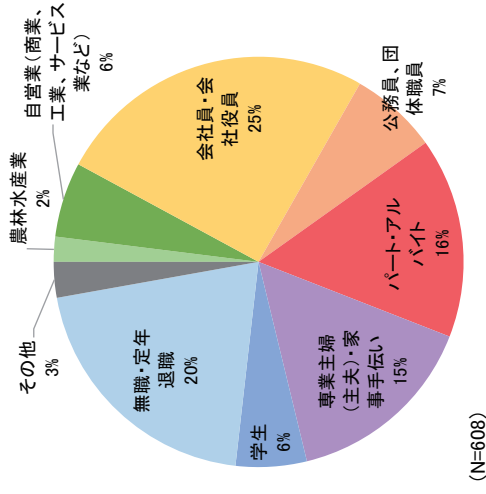
・どの小学校区も「20年以上」が6～7割と多くっており、愛知川小学校区の方が10年未満の回答が多い。



職業

問2 あなたの職業は？

・「会社員・会社役員」が25%と最も多く、次いで「無職・定年退職」が20%、「パート・アルバイト」が16%となっている。



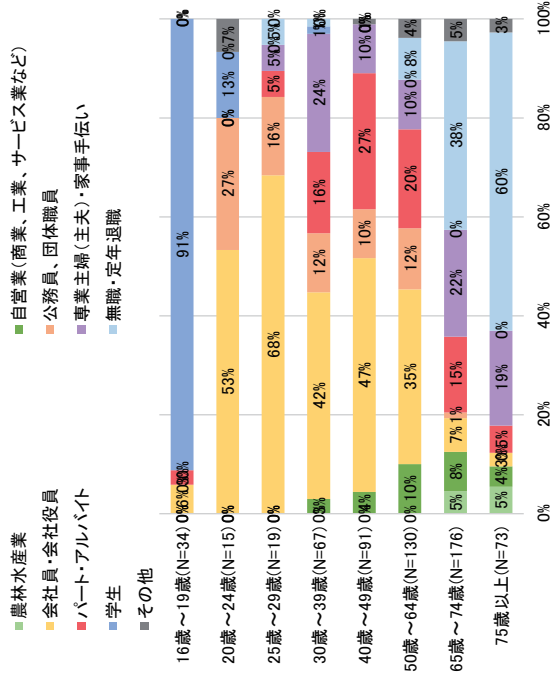
【その他(自由回答)】

その他(自由回答)	件数
無職	3
派遣	3
農業	2
看護師	2
画家	1
専従者	1
学童	1
営農組合	1
介護職	1
高齢者	1
自営業	1

(回答数:17件、回答者数:15人)

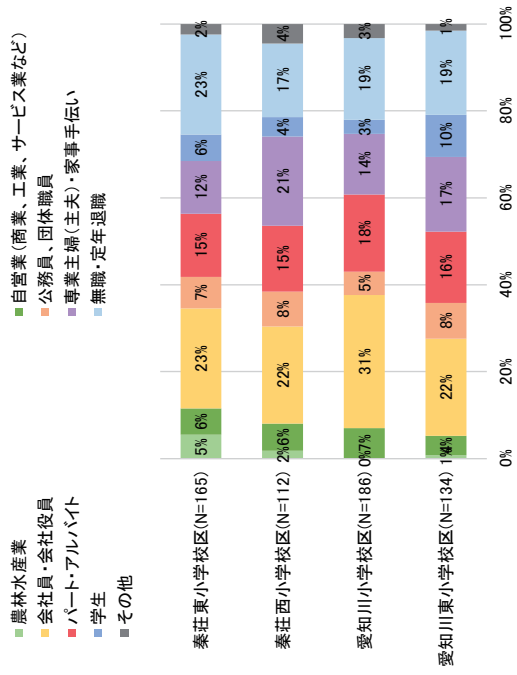
■ 年齢別

・25歳～29歳は「会社員・会社役員」が68%と、他の年齢に比べて15ポイント以上多くなっている。



■ 小学校区別

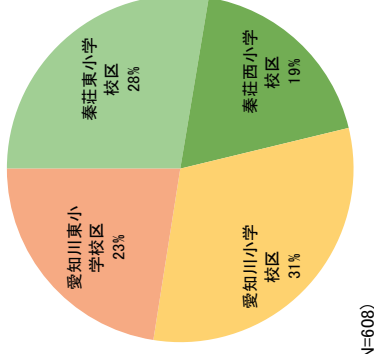
・愛知川小学校区は「会社員・会社役員」が31%と他の小学校区より8ポイント以上多くなっている。



問3

お住まいの地域（小学校区）
あなたのお住まいの地域についてお聞きます。

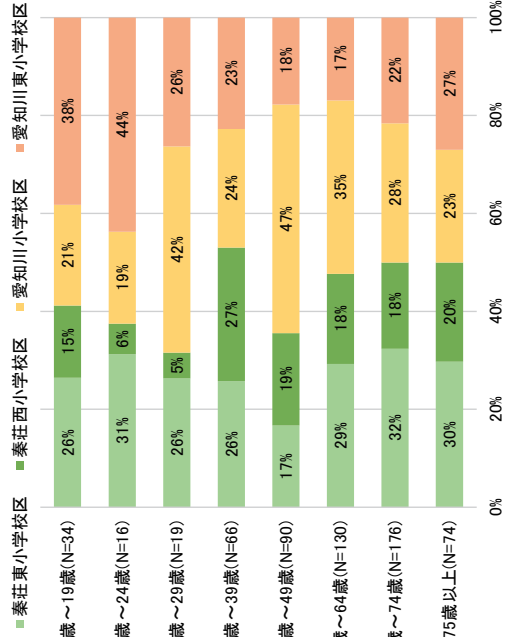
・「愛知川小学校区」が31%と最も多く、次いで「秦荘東小学校区」が28%、「愛知川東小学校区」が23%となっている。



(N=608)

■ 年齢別

・30歳～39歳は「秦荘西小学校区」が27%と他の小学校区に比べて7ポイント以上多くなっている。

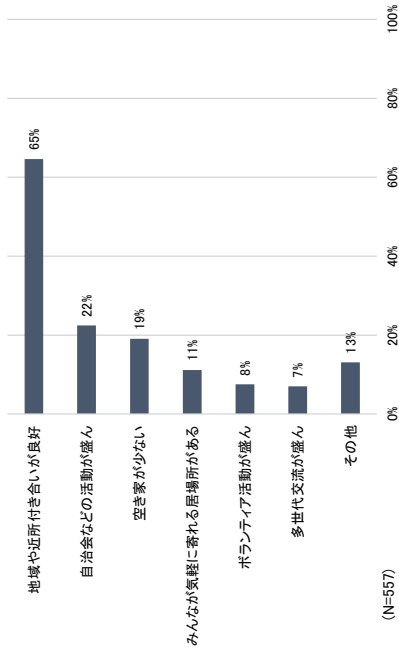


問 4

お住いの地域の良いところ【複数回答】

あなたがお住いの地域の良いところを教えてください。

・「地域や近所付き合いが良好」が65%と最も多く、次いで「自治会などの活動が盛ん」が22%、「空き家が少ない」が19%となっている。



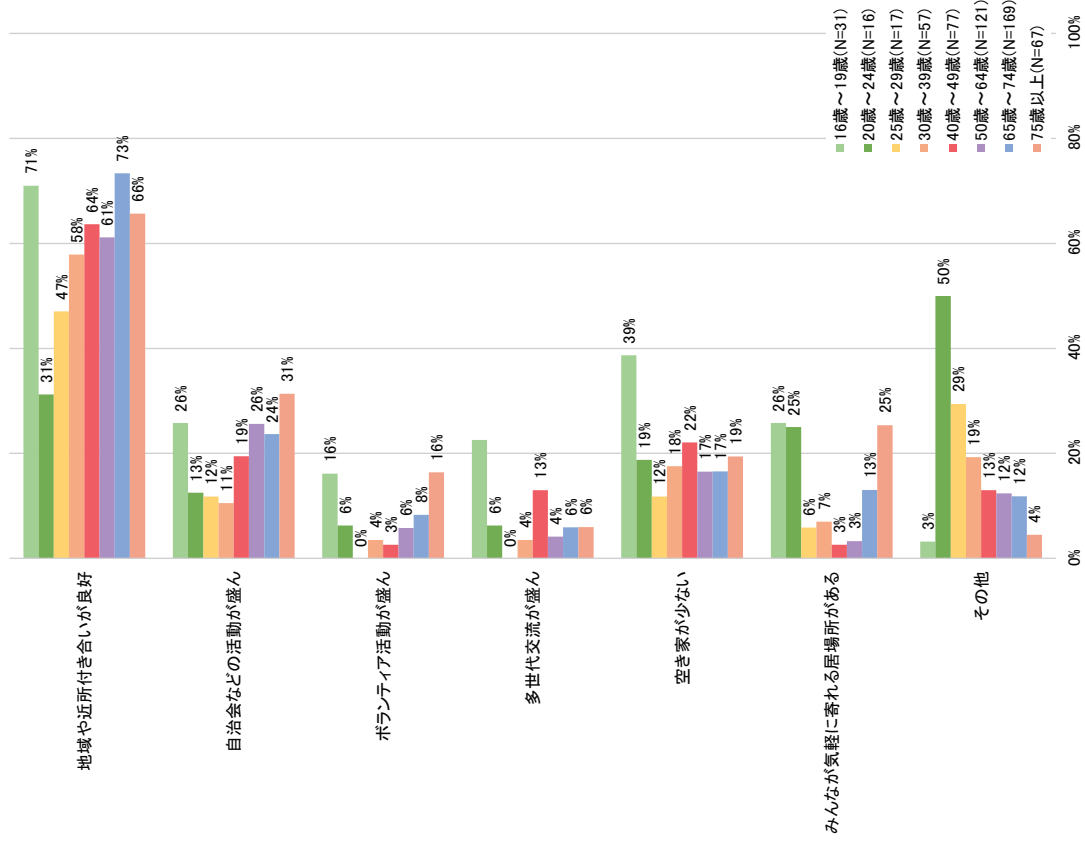
【その他(自由回答)】

内容	件数
特になし	23
周辺に商業施設が充実している	6
静か	6
自然が豊か	5
地域との適度な距離感	3
適度な環境	3
子育てしやすい	2
治安が良い	2
その他(1件ずつの回答)	12

(回答数:62件、回答者数:59人)

■ 年齢別

・16歳～19歳は「空き家が少ない」が39%と、他の年齢に比べて17ポイント以上多くなっている。



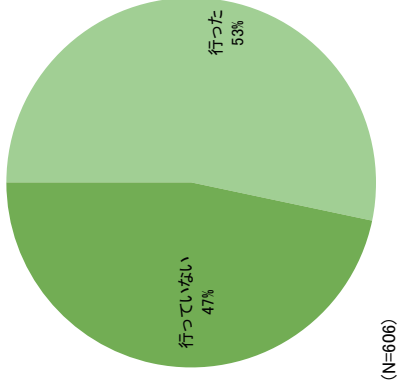
2. 生涯学習への参加意識について

問5

生涯学習の経験の有無

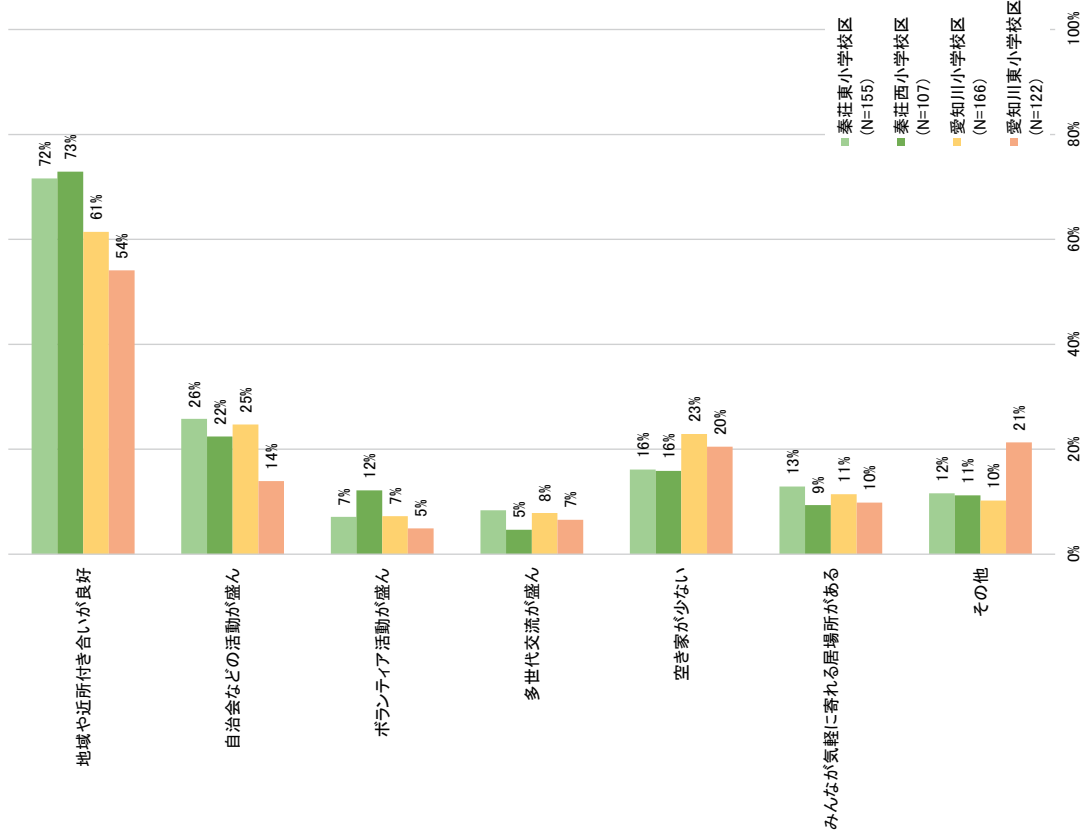
あなたはここ数年の中で「生涯学習」を行いましたか？

・「行った」が53%、「行っていない」が47%となっている。



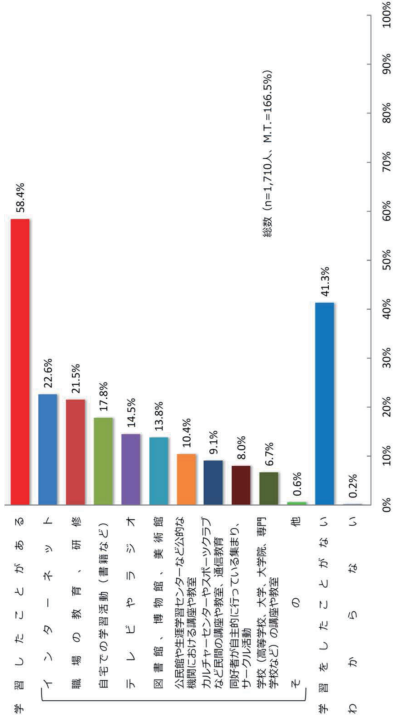
■小学校区別

- ・愛知川小学校区、愛知川東小学校区よりも秦荘東小学校区、秦荘西小学校区の方が「地域や近所付き合いが良好」の回答が多い。
- ・秦荘東小学校区、秦荘西小学校区よりも愛知川小学校区、愛知川東小学校区の方が「空き家が少ない」の回答が多い。



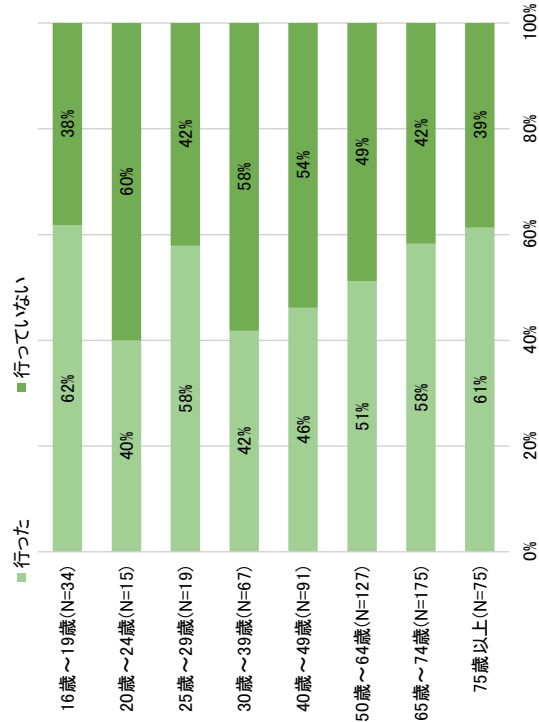
【参考】内閣府生涯学習に関する世論調査（平成30年）

類似設問のある平成30年全国調査では、生涯学習したことがある人は58.4%であり、全国と比較すると5ポイント程度少ないが、新型コロナの影響もあると考えられる。



■ 年齢別

・30歳～39歳から年齢が上がるにつれ、「行った」の割合が多くなっている。



■ 小学校区別

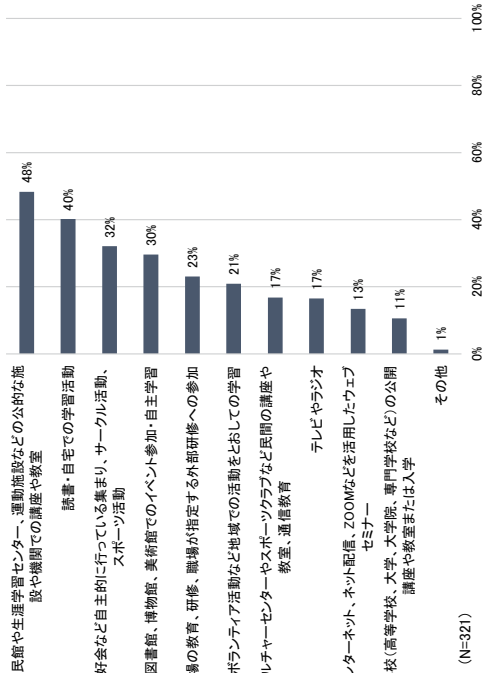
・どの小学校区も「行った」が5割以上を占めており、秦荘西小学校区が他小学校区より「行った」人の割合が高い。



生涯学習を行った場所・形態【複数回答】

あなたは、その生涯学習をどのような場所や形態で行いましたか？
※問5で「行った」と回答した方のみ

・「公民館や生涯学習センター、運動施設などの公的な施設や機関での講座や教室」が48%と最も多く、次いで「読書・自宅での学習活動」が40%、「同好会など自主的に行っている集まり、サークル活動、スポーツ活動」が32%となっている。



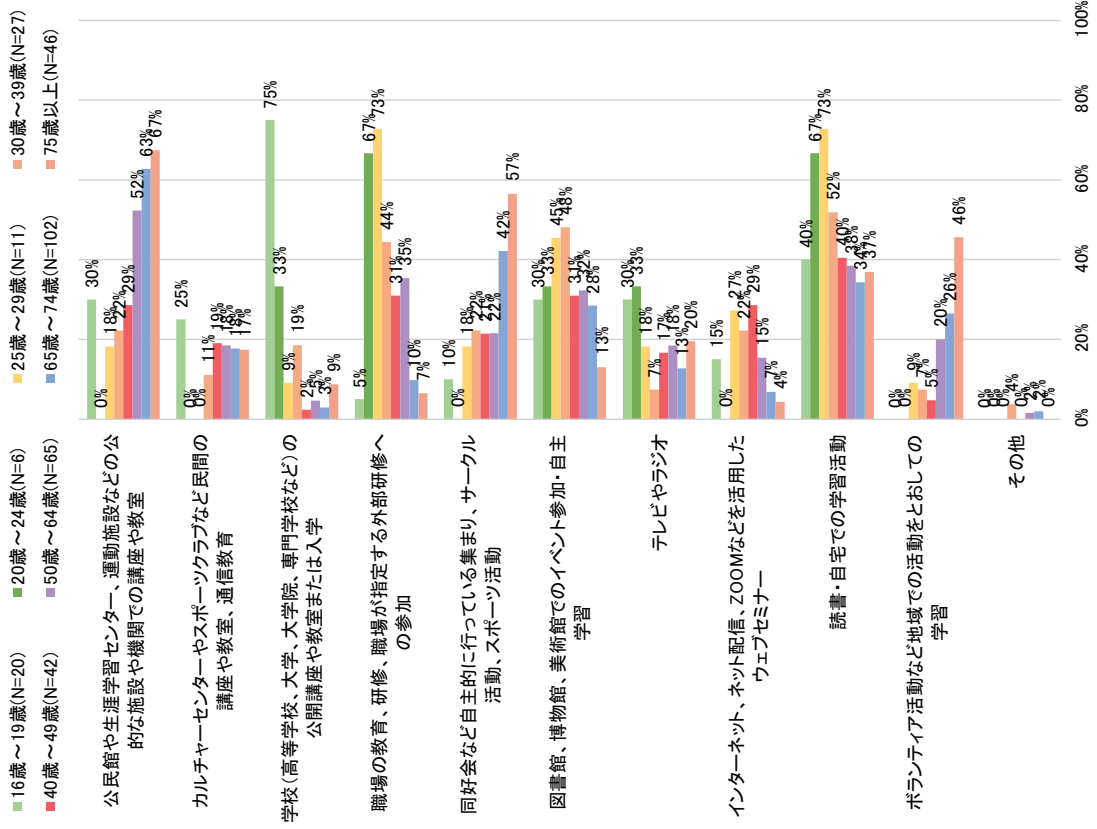
【その他(自由回答)】

その他回答	件数
習い事教室	2
清掃活動	1
自治会活動	1
宅老所ボランティア活動	1
YouTubeやInstagram	1
外国人学校の支援	1

(回答数:7件、回答者数:7人)

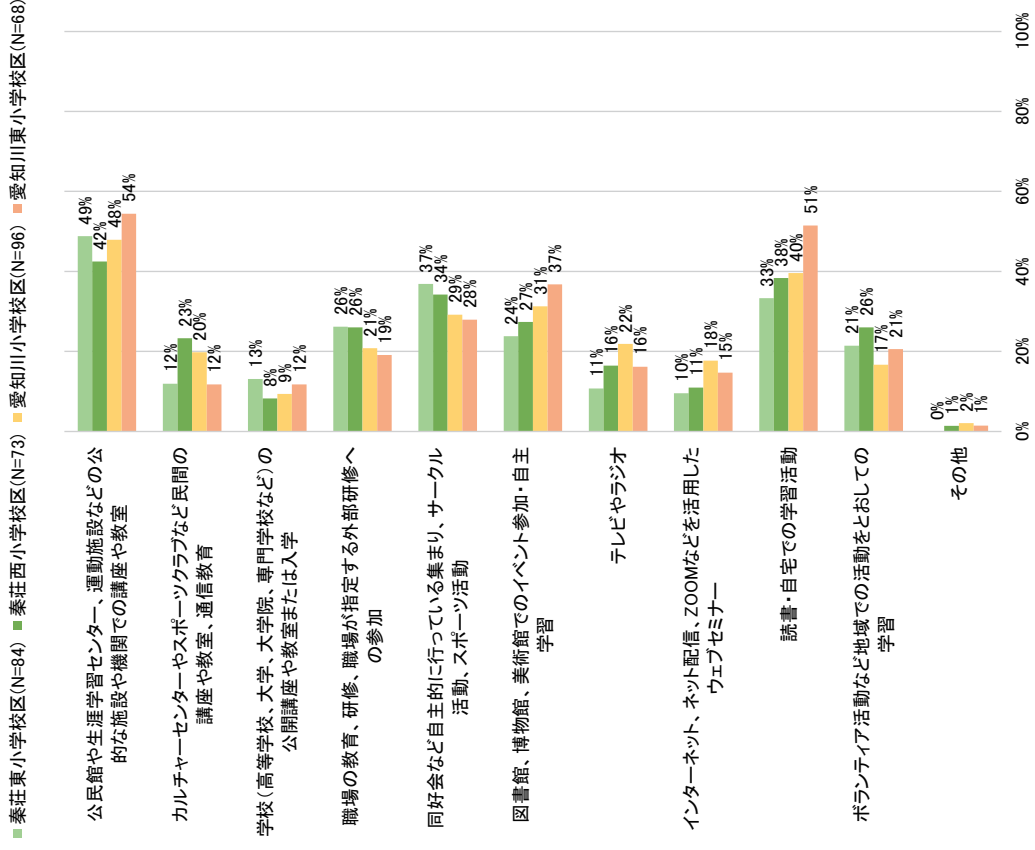
■ 年齢別

- ・75歳以上は「ボランティア活動など地域での活動での学習」が46%と他の年齢に比べて20ポイント以上多くなっている。
- ・「公的な施設や機関での講座」は年齢が高くなるほど多くなり、「自宅での学習活動」は年齢が高くなるほど少なくなっている。



■ 小学校区別

- ・どの小学校区も「公民館や生涯学習センター、運動施設などの公的な施設や機関での講座や教室」が最も多い。
- ・愛知川東小学校区では、「自宅での学習」が他の小学校区より10ポイント程度高い。

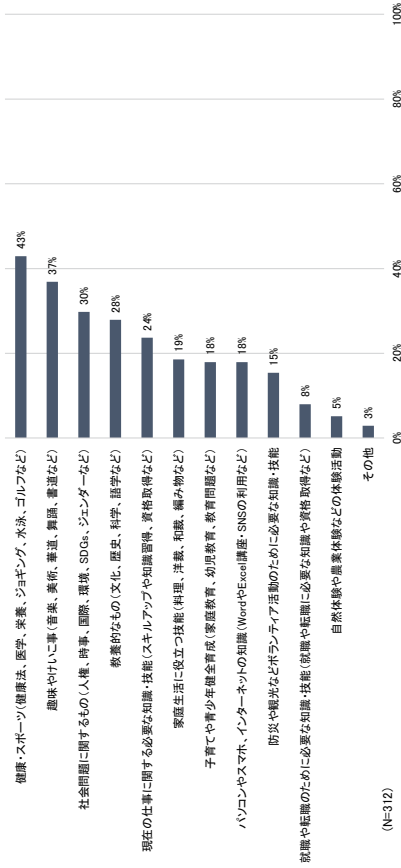


問7-1

学習活動の種類【複数回答】

あなたは、どのような種類の学習活動を行いましたか？
※問5で「行った」と回答した方のみ

・「健康・スポーツ」が43%と最も多く、次いで「趣味やけいこ事」が37%、「社会問題に関するもの」が30%となっている。



【その他(自由回答)】

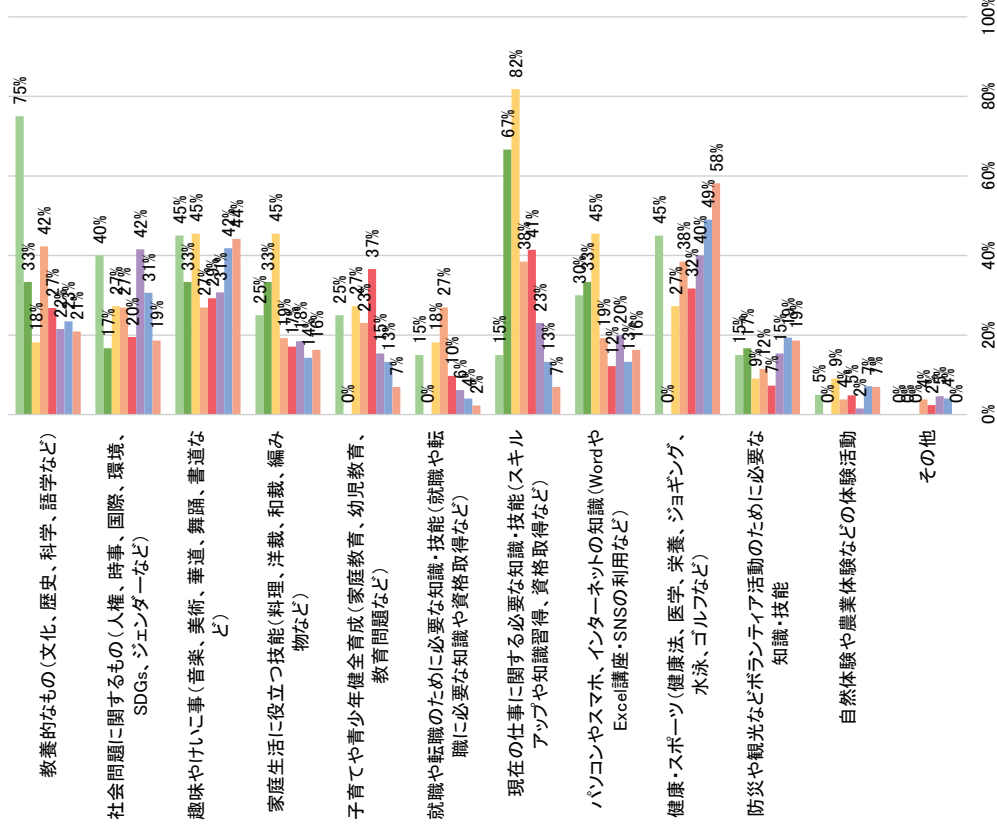
その他(自由回答)	件数
図書館で自主的に	1
びんてまりの初心者講習	1
ダイバーシティ	1
宅老所	1
地域でのスポーツ活動	1
著作権について	1
SDGs	1
ヨガ	1
陶芸	1
なし	1

(回答数:10件、回答者数:9人)

■年齢別

・75歳以上は約6割が、「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳、ゴルフなど)」を行っている。
・20代は「仕事に関する知識や技能」の回答が多い。

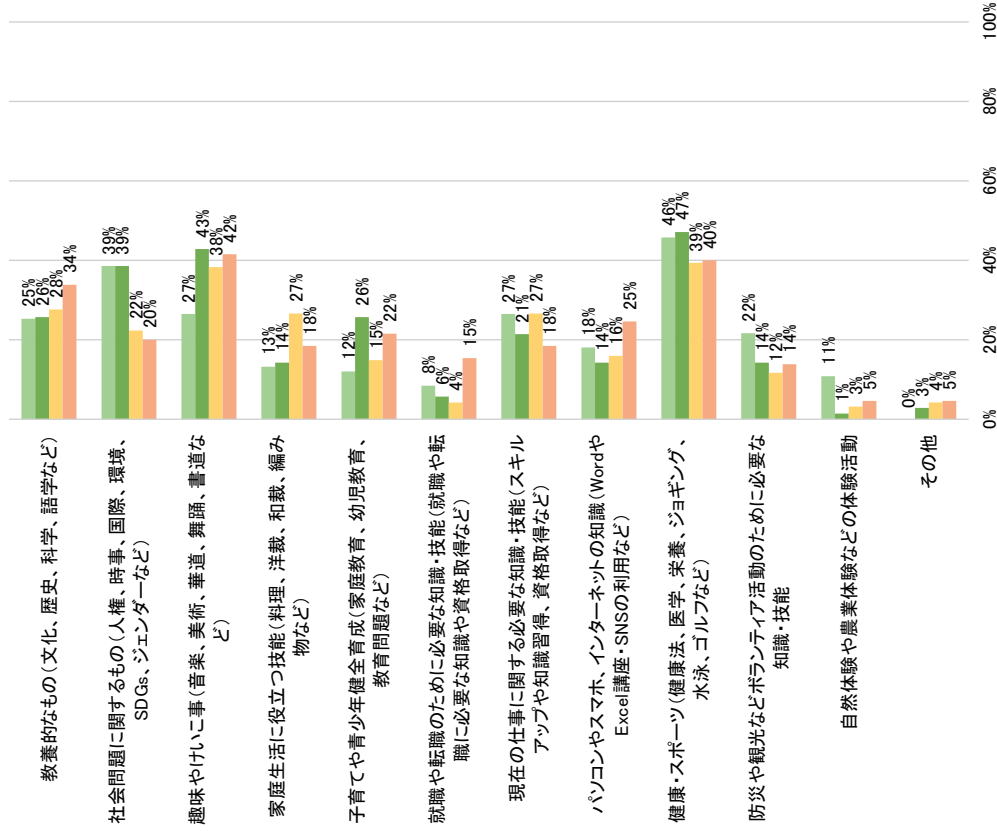
■16歳～19歳(N=20) ■20歳～24歳(N=6) ■25歳～29歳(N=11) ■30歳～39歳(N=26)
■40歳～49歳(N=41) ■50歳～64歳(N=65) ■65歳～74歳(N=98) ■75歳以上(N=43)



■ 小学校区別

・秦荘東小学校区、秦荘西小学校区は「社会問題に関するもの」が愛知川小学校区、愛知川東小学校区に比べて17ポイント多い。
 ・愛知川小学校区は「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」が27%と他の小学校区に比べて9ポイント以上多くなっている。

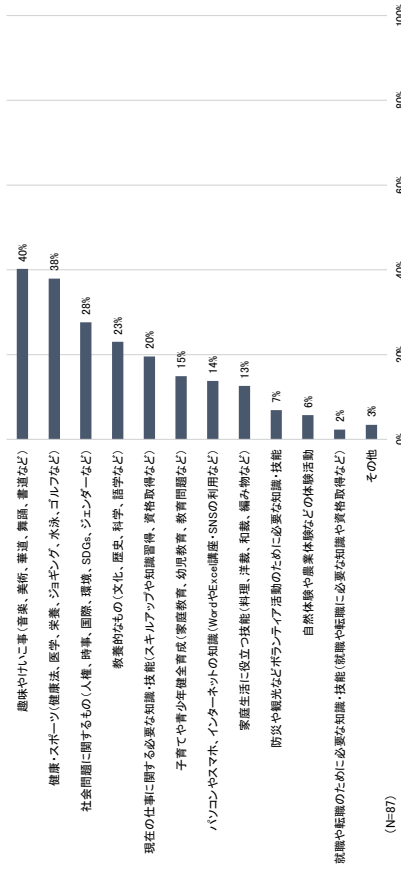
■ 秦荘東小学校区(N=83) ■ 秦荘西小学校区(N=70) ■ 愛知川小学校区(N=94) ■ 愛知川東小学校区(N=65)



継続して行っている学習活動【複数回答】

問7-2 前項の学習活動種類のうち複数年継続して受講・活動しているものがありましたら、下記欄に番号を記入してください。
 ※問5で「行った」と回答した方のみ

・「趣味やけいこ事」が40%と最も多く、次いで「健康・スポーツ」が38%、「社会問題に関するもの」が28%となっている。



(N=87)

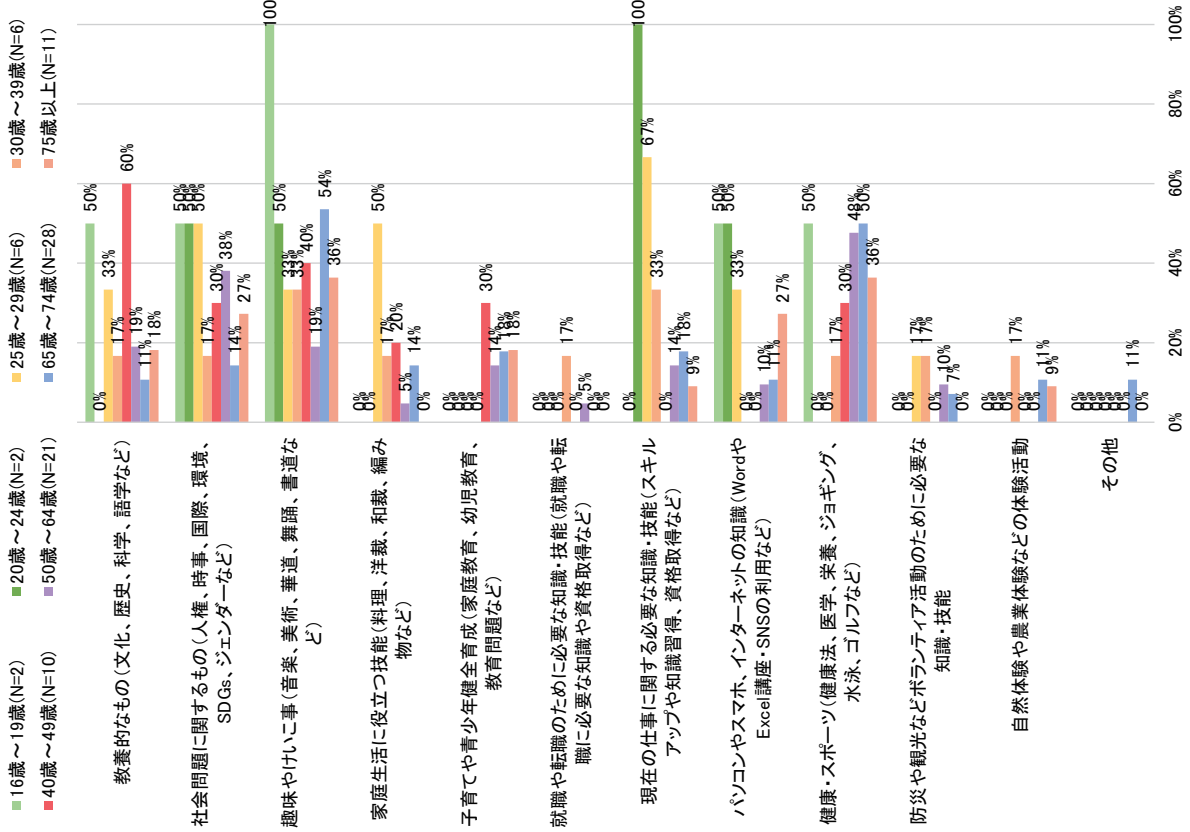
【その他(自由回答)】

その他(自由回答)	件数
グラウンドゴルフ	2
大正琴	1
健康推進委員	1

(回答数:4件、回答者数:2人)

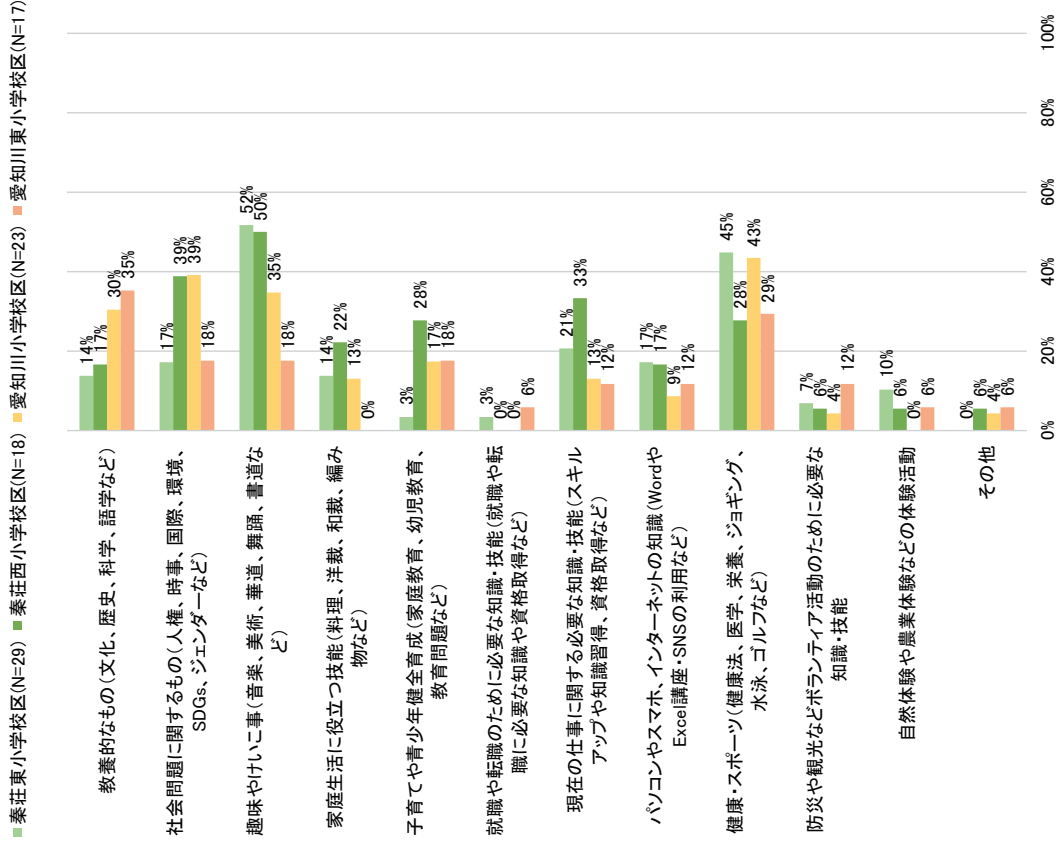
■ 年齢別

・50歳～64歳、65歳～74歳は約5割が「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳、ゴルフなど）」を行っている。
 ※40代以下は回答者数が10人以下のため参考値とする。



■ 小学校区別

・秦荘西小学校区は「現在の仕事に関する必要な知識・技能」が33%と他の小学校区に比べて12ポイント以上多くなっている。
 ・「教養的なもの」は愛知川小学校区、愛知川東小学校区が多く、「趣味やけいこ事」は秦荘東小学校区、秦荘西小学校区が多い。

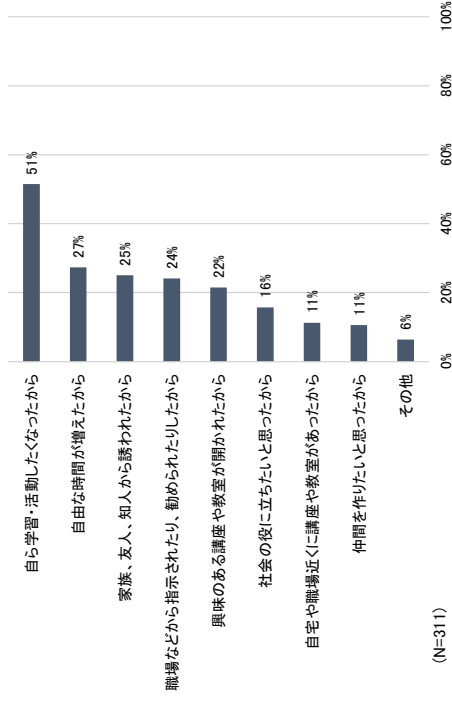


問 8

学習活動を行うようになったきっかけ【複数回答】

あなたが、生涯学習を行うようになったきっかけは何ですか？

・「自ら学習・活動しなくなったから」が51%と最も多く、次いで「自由な時間が増えたから」が27%、「家族、友人、知人から誘われたから」が25%となっている。



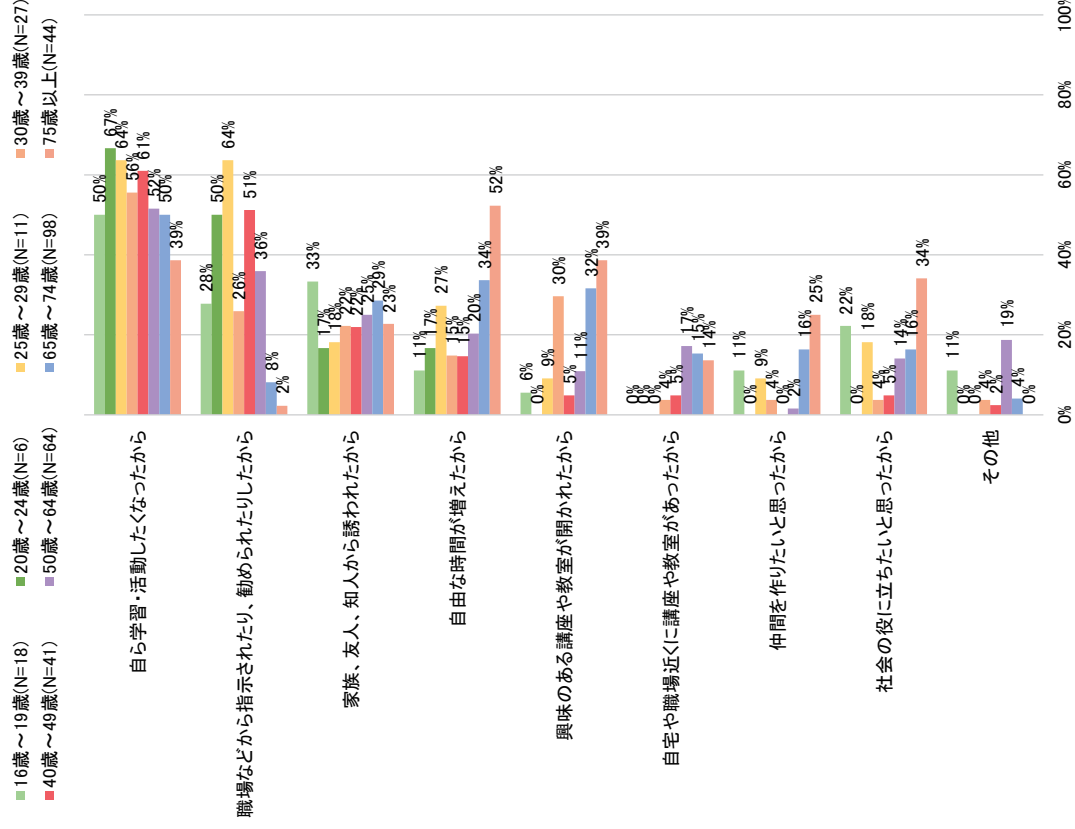
【その他(自由回答)】

自由回答	件数
自治会での経験	8
地域貢献	3
授業の一環	2
健康のため	1
家族に勧められたから	1
近くに図書館があるから	1
家族と一緒に習い事をするため	1
継続しているから	1
広告を見た	1
ネット環境が整ったから	1

(回答数:20件、回答者数:20人)

■ 年齢別

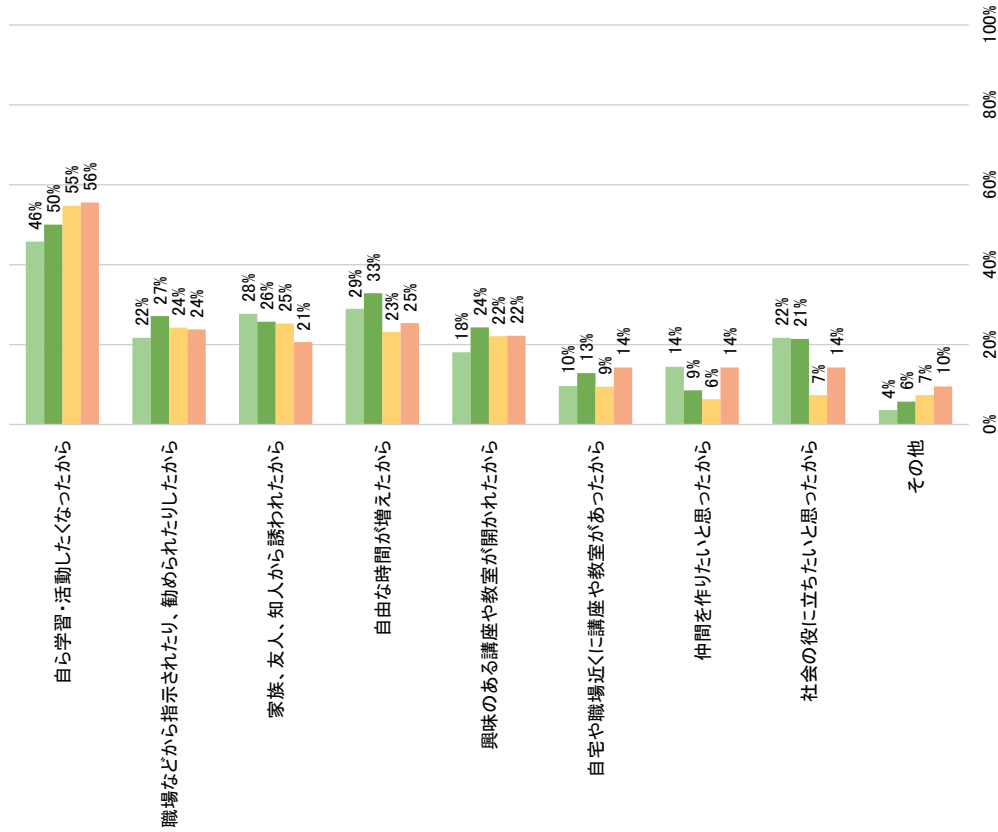
・75歳以上は「自由な時間が増えたから」が52%と、他の年齢に比べて18ポイント以上多くなっている。



■小学校区別

- ・どの小学校区も「自ら学習・活動したくなったから」が最も多い。
- ・秦荘東小学校区、秦荘西小学校区では、「自由な時間が増えた」「社会の役に立ちたい」の回答が愛知川小学校区、愛知川東小学校区より多い。

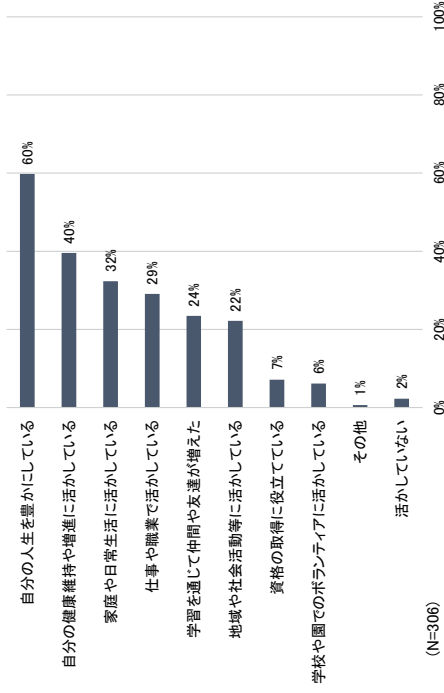
■秦荘東小学校区(N=83) ■秦荘西小学校区(N=70) ■愛知川小学校区(N=95) ■愛知川東小学校区(N=63)



学習活動の活かし方【複数回答】

問9-1 あなたは、学習活動を通じて得た知識や技能・経験をどのように活かしていますか？

・「自分の人生を豊かにしている」が60%と最も多く、次いで「自分の健康維持や増進に活かしている」が40%、「家庭や日常生活に活かしている」が32%となっている。



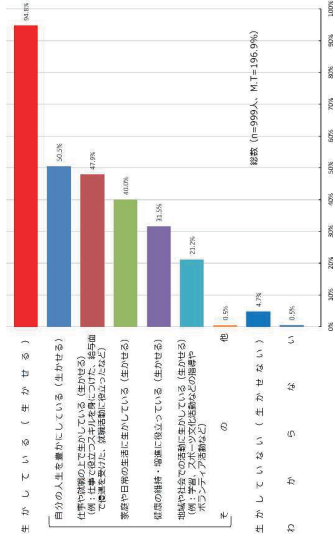
【その他(自由回答)】

その他回答	件数
笑顔	1
ボランティア活動(家修理)	1

(回答数:2件、回答者数:2人)

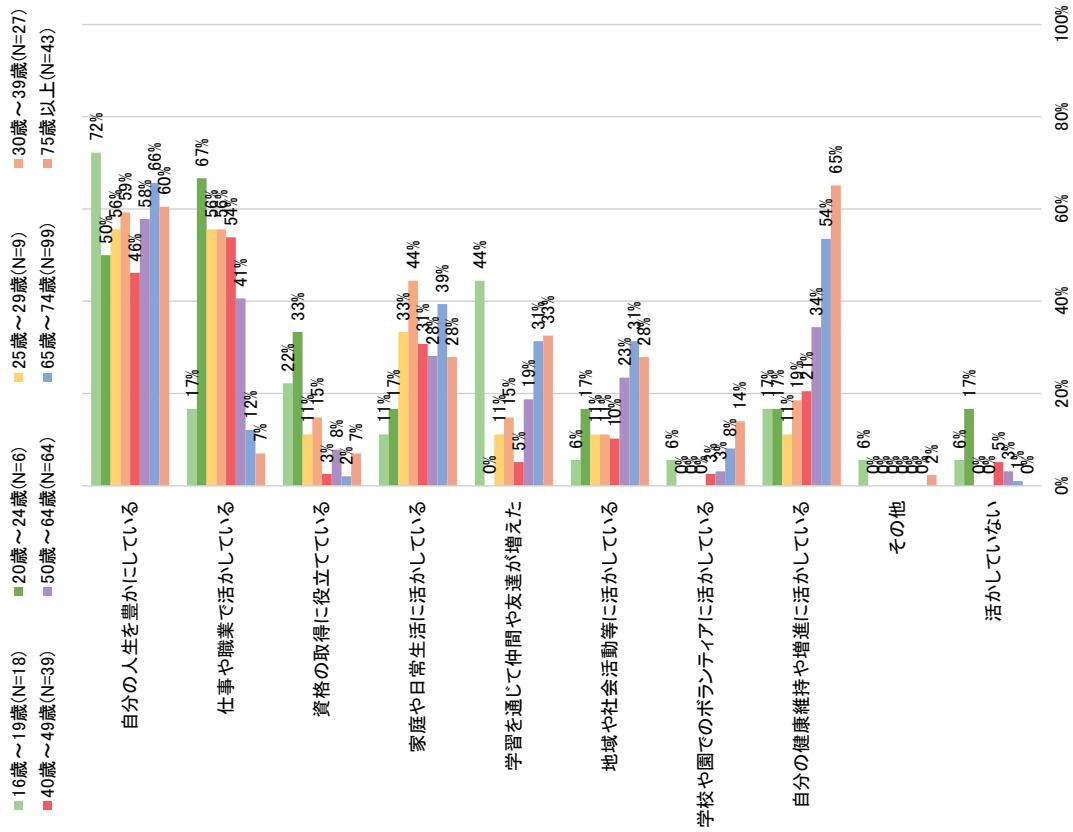
【参考】内閣府生涯学習に関する世論調査(平成30年)

全国調査では人生を豊かにしているが50.5%、健康増進は31.5%となっており、愛荘町の数値が上回っている。また、活かしていない人は4.7%であり、愛荘町では活かしている人が多い。



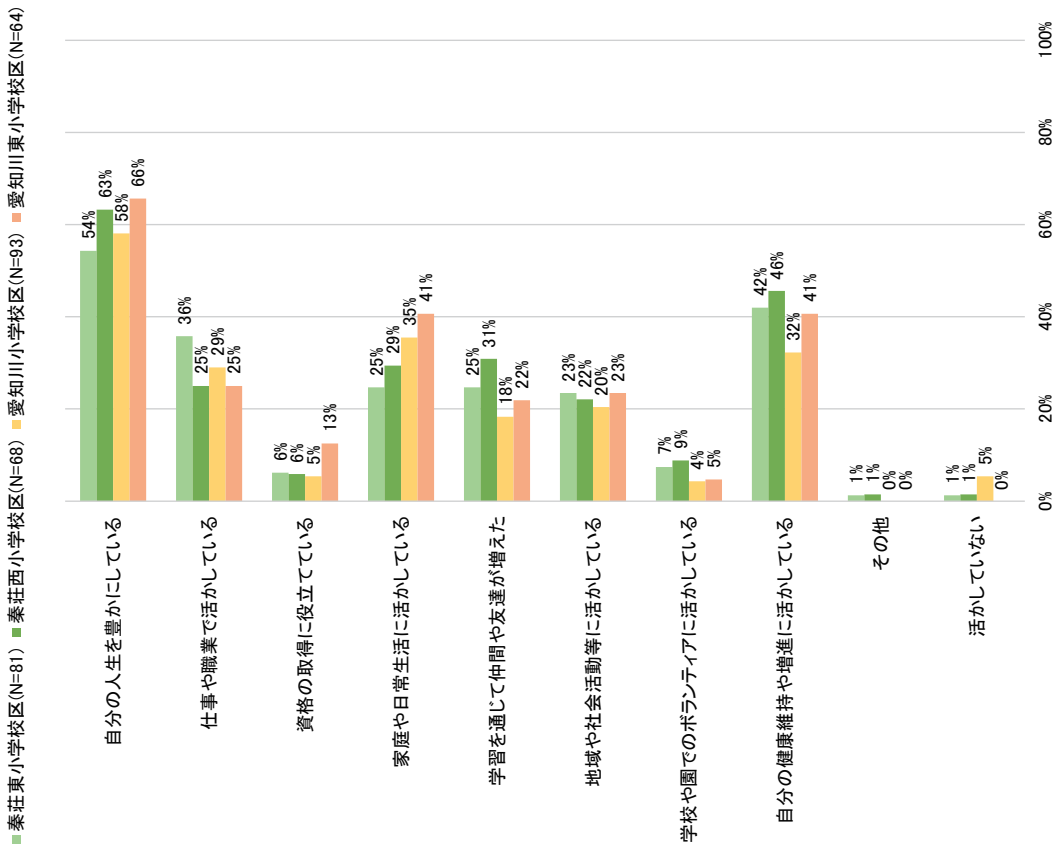
■ 年齢別

・25歳～29歳から年齢が高くなるにつれて、「自分の健康維持や増進に活かしている」の割合が多くなっている。



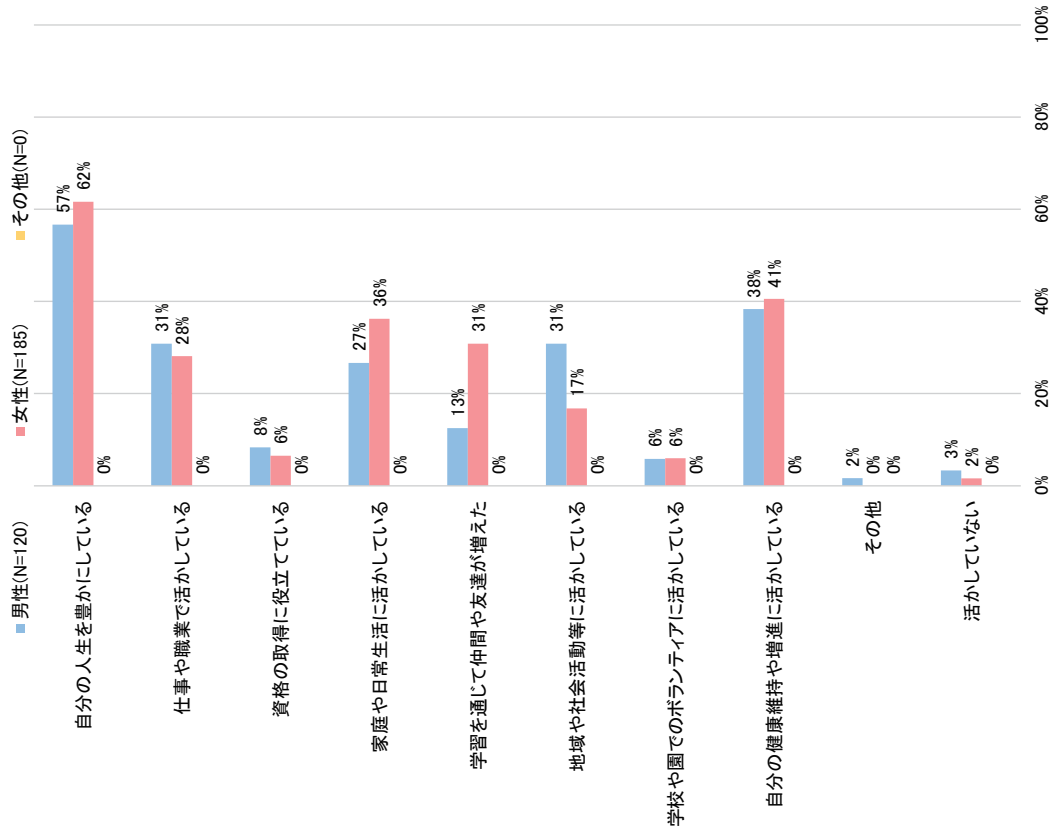
■ 小学校区別

・どの小学校区も「自分の人生を豊かにしている」が最も多い。



■性別別

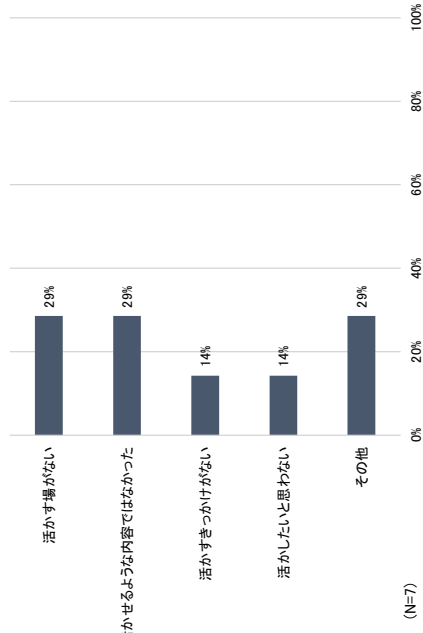
・女性は「学習を通じて仲間や友達が増えた」が31%と男性に比べて18ポイント以上多く
 くなっている。



問9-2 学習活動を活かしていない理由【複数回答】

活かしていない理由は何ですか？

・「活かす場がない」、「活かせるような内容ではなかった」が29%と最も多く、次いで「活かすきっかけがない」、「活かしたいと思わない」が14%となっている。



【その他(自由回答)】

自由回答内容	件数
年長的に厳しい	1
コロナ禍で外出機会が少ない	1
活動が多すぎる	1
生涯学習を知らなかった	1
時間が無い	1
自分のペースで活動したい	1

(回答数:6件、回答者数:6人)

※回答者数7人のため、年齢別及び小学校区別のクロス集計は実施しない。

問9-3

学習活動を活かすためのアイデア【複数回答】

どのようにすれば活かせると思いますか？アイデアがあればお書きください

【学習活動を活かすためのアイデア(自由回答)】

学習活動を活かすためのアイデア回答	件数
時間的な余裕ができれば	3
職種別に	1
互いに助け合う気持ちを持ち続けることができれば良い	1
安全な社会にする	1
テレビ、ラジオ、インターネットを利用する	1
回覧板等による生涯学習の周知	1
無理に活用するものではない	1
わからない	1
思わない	1

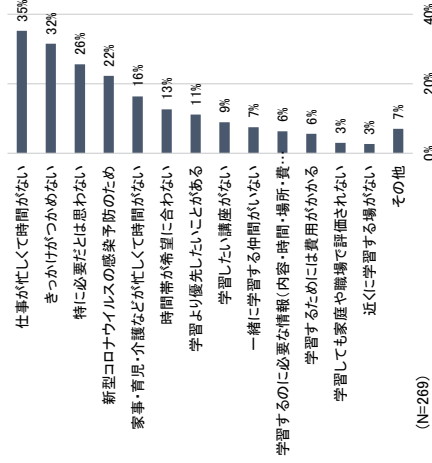
(回答数:11件、回答者数:11人)

生涯学習を行わなかった理由【複数回答】

ここ数年の中で「生涯学習」を行わなかった理由は何ですか？

※問5で「行っていない」と回答した方のみ

・「仕事が忙しくて時間がない」が35%と最も多く、次いで「きつかけがつかめない」が32%、「特に必要だとは思わない」が26%となっている。



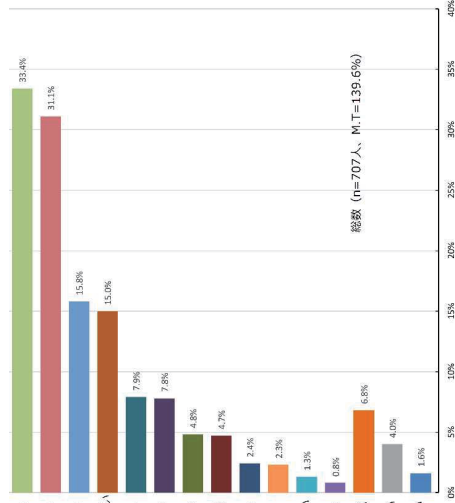
【その他(自由回答)】

その他回答	件数
知らなかったため	7
身体が不自由なため	3
気持ちがないため	2
特になし	2
病気のため	2
他市に一人暮らしをしているため	1
その他のことをしているため	1
交通の便がないため	1
コロナ禍のため	1
高齢のため	1

(N=269) (回答数:21件、回答者数:21人)

【参考】内閣府生涯学習に関する世論調査(平成30年)

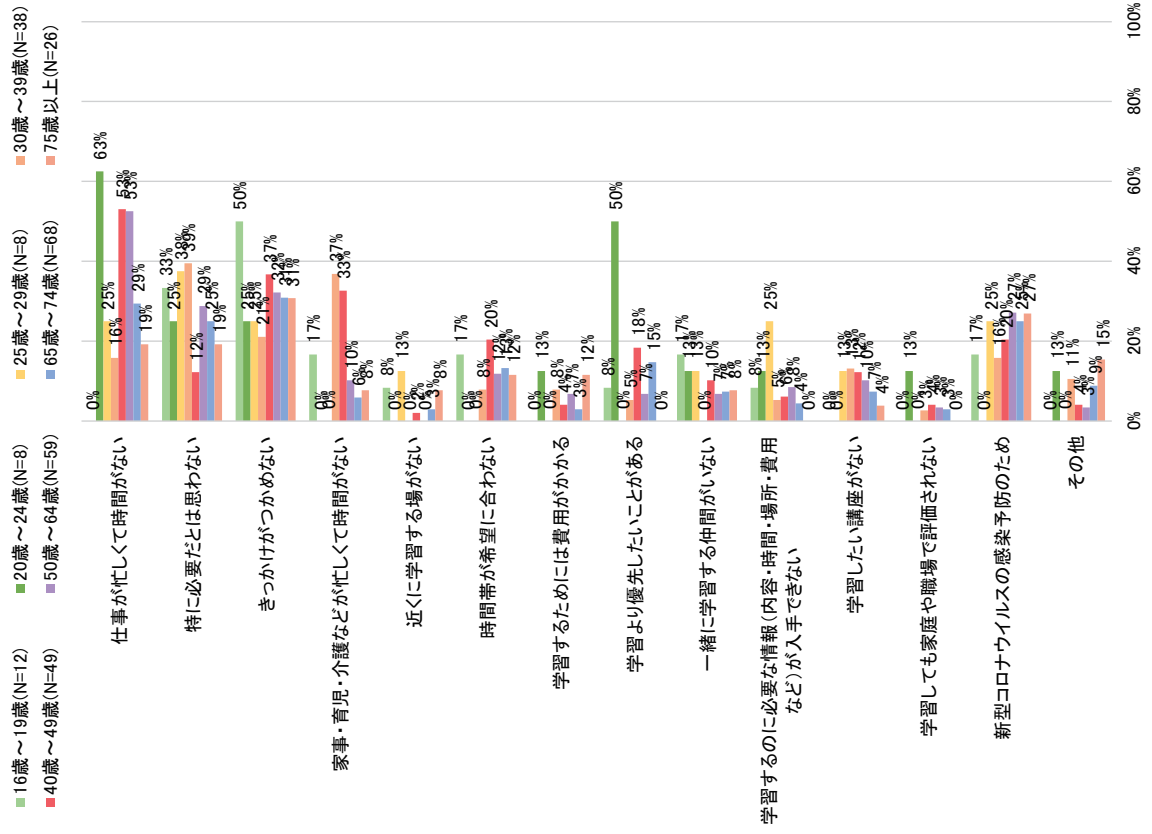
全国調査では仕事が忙しいが33.4%、必要が無いが31.1%、きつかけがつかめないが15.8%となっており、愛荘町では必要と感じている人が多い。



総数 (n=707人、M.T=139.6%)

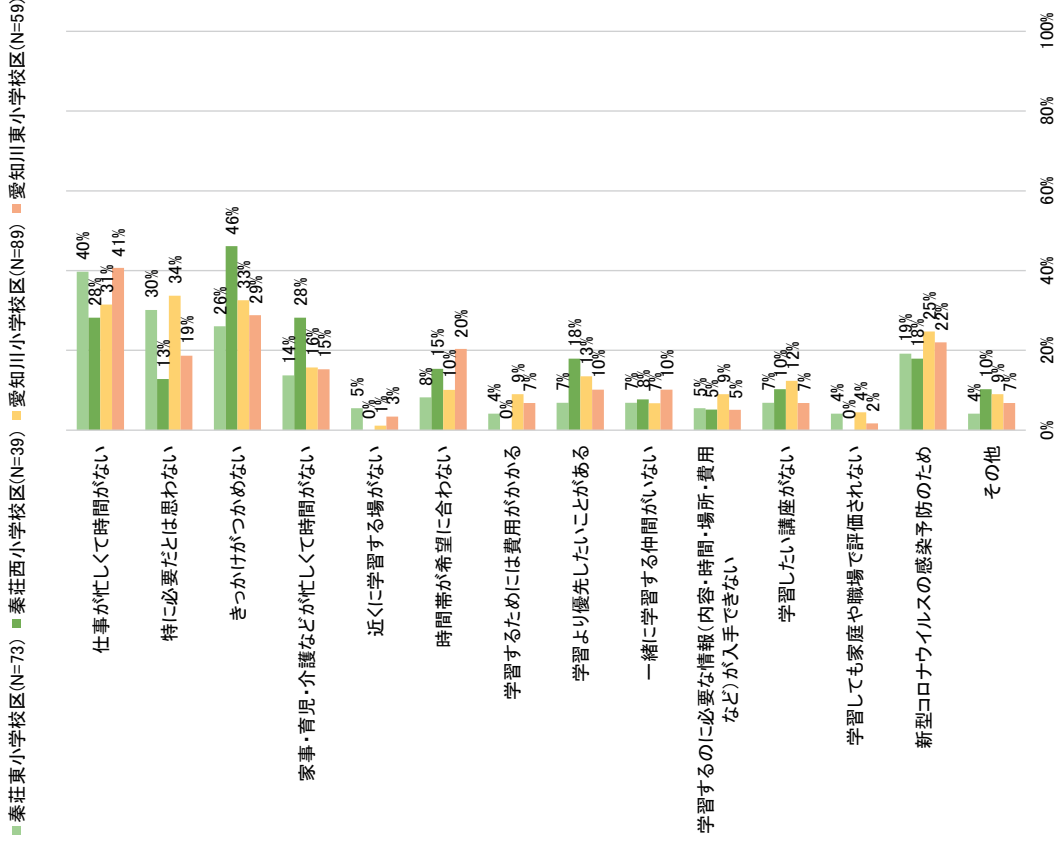
■ 年齢別

- ・ 20歳～24歳は「仕事が忙しくて時間がない」が63%、「学習より優先したいことがある」50%と他の年代より高い。
- ・ 40歳～49歳、50～64歳の約5割が「仕事が忙しくて時間がない」としている。



■ 小学校区別

- ・ 秦荘西小学校区は「きつかけがつかめない」が46%と、他の小学校区に比べて13ポイント以上多く持っている。

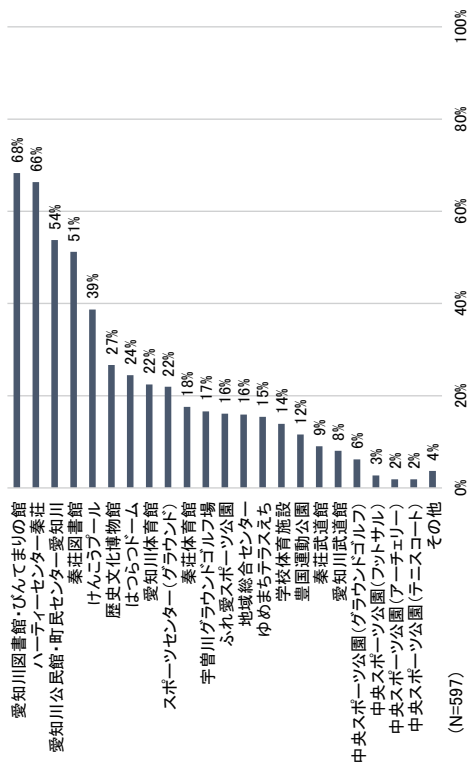


問 11

利用したことのある施設【複数回答】

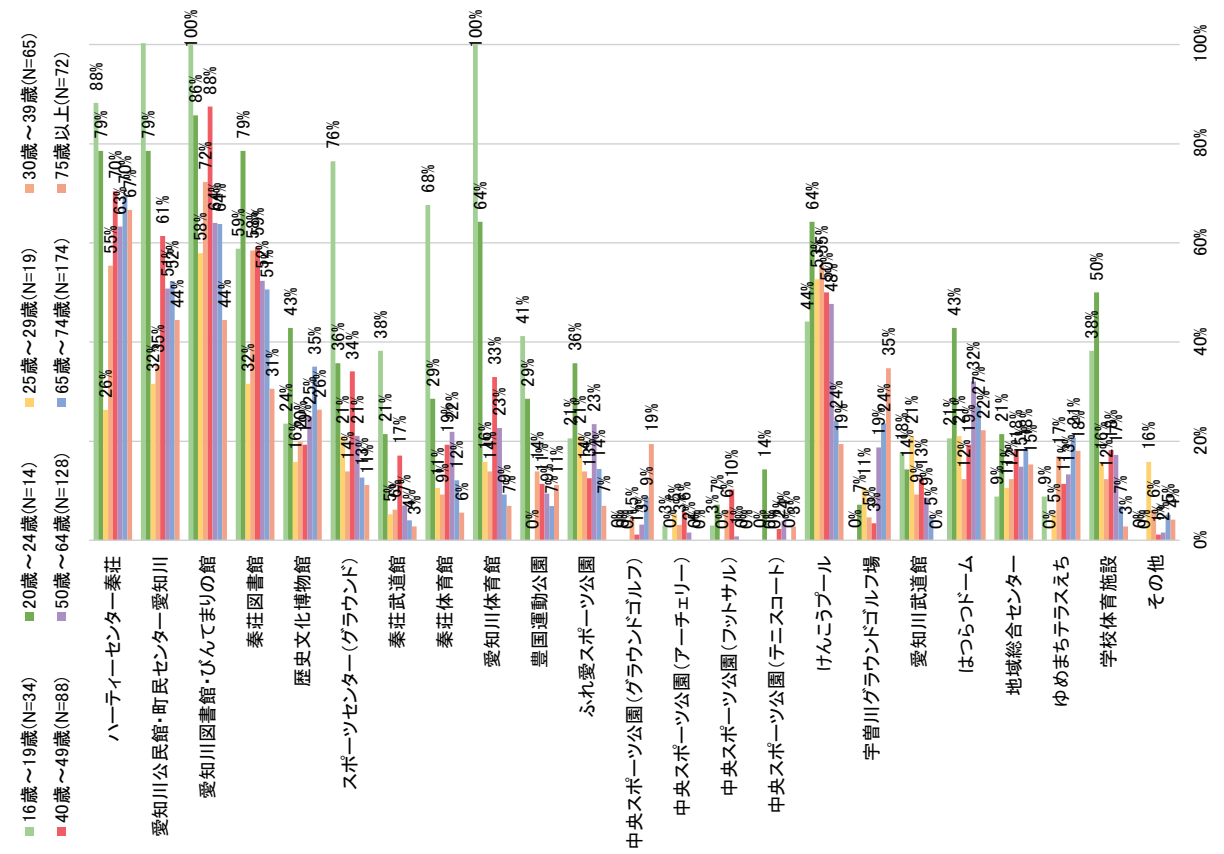
町内公共施設などのうち、あなたが利用したことのある施設は何ですか？

・「愛知川図書館・びんてまりの館」が68%と最も多く、次いで「ハーティイセンター・秦荘」が66%、「愛知川公民館・町民センター・愛知川」が54%となっている。



■ 年齢別

・16～19歳は「スポーツセンター(グラウンド)」が76%と他の年齢に比べて40ポイント以上多くなっている。

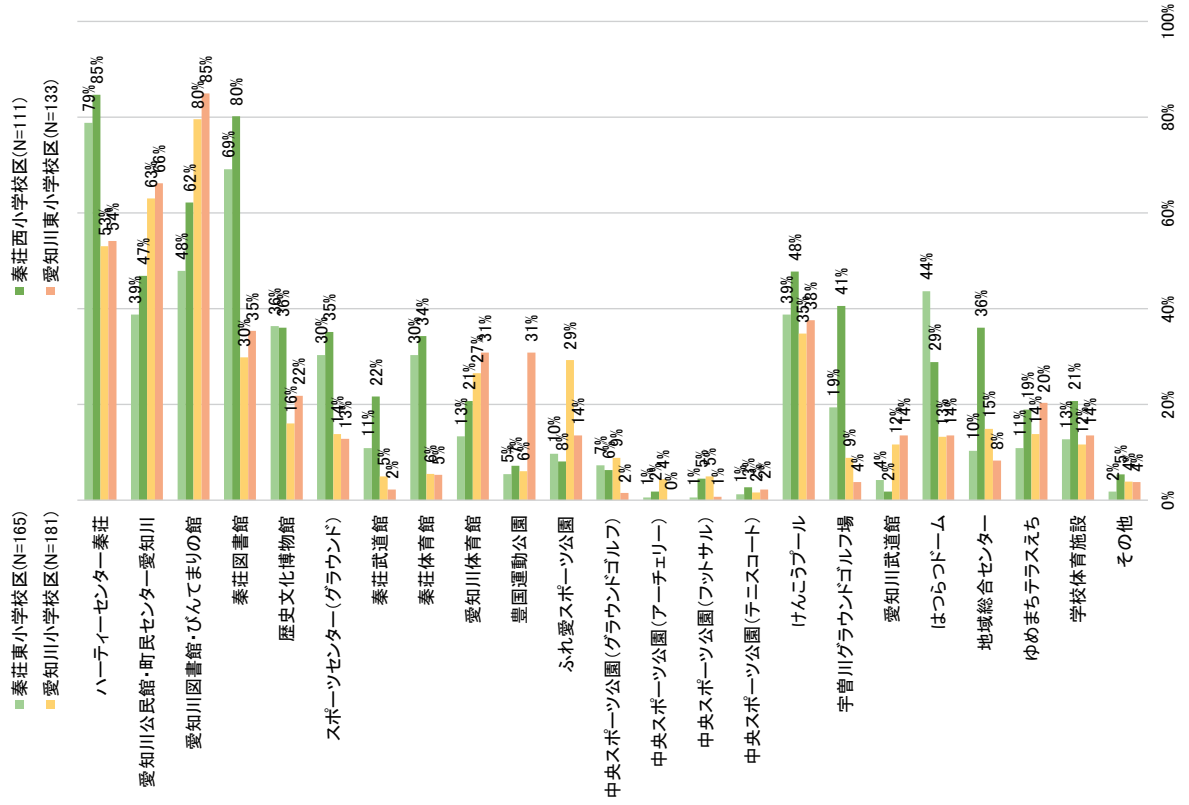


【その他(自由回答)】

自由回答	件数
特になし	8
子育て支援センター	2
わからなない	1
湖東三山館あいしよ	1
福祉センター・ラポール・秦荘いきいきセンター	1
農協	1
甲良町公民館	1
福祉センター・愛	1
川久保地域総合センター	1
愛知消防署	1

■ 小学校区別

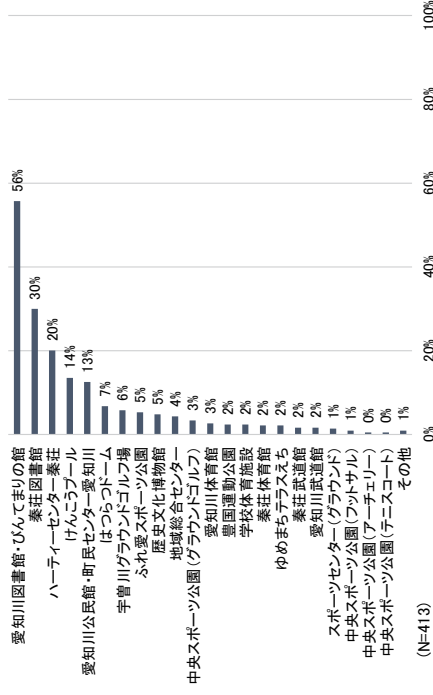
・小学校区内や近隣にある施設を利用している傾向があり、「ハーティセンター秦荘」や「秦荘図書館」等はその傾向が強く、「けんこうプール」は小学校区の偏りが少ない。



よく利用する施設【複数回答】

問 11 の町内公共施設のうち、よく利用する施設の番号を全て記入してください。

・「愛知川図書館・びんてまりの館」が56%と最も多く、次いで「秦荘図書館」が30%、「ハーティセンター秦荘」が20%となっている。



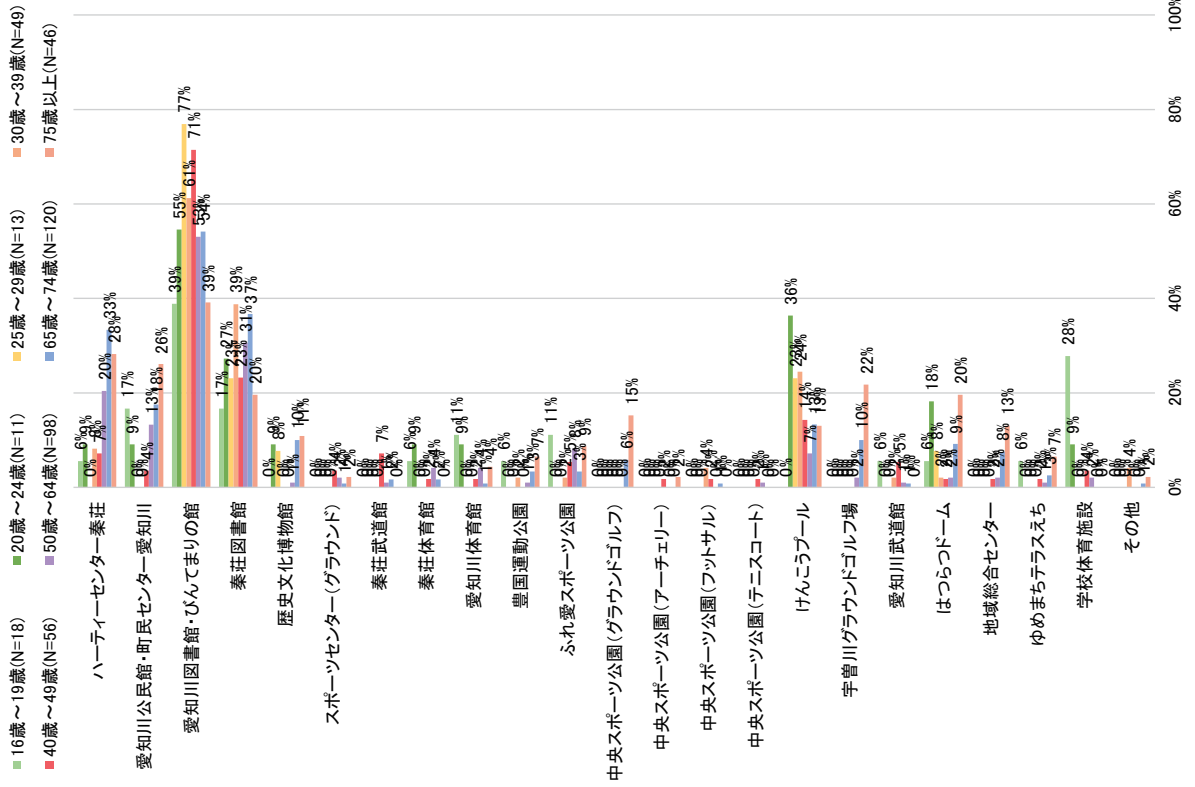
【その他(自由回答)】

その他回答	件数
最近利用していない	6
けんこうプール	1
福祉センターラポール秦荘いきいきセンター	1
特になし	1
スポーツセンター	1
秦荘、愛知川の子供がたくさん遊ぶ場	1
地域総合センター	1
ハーティセンター秦荘	1
宇智川グラウンドゴルフ場のトイレ	1
愛荘町シルバー人材センター	1
ゆめまちテラスえち	1

(回答数: 16件、回答者数: 13人)

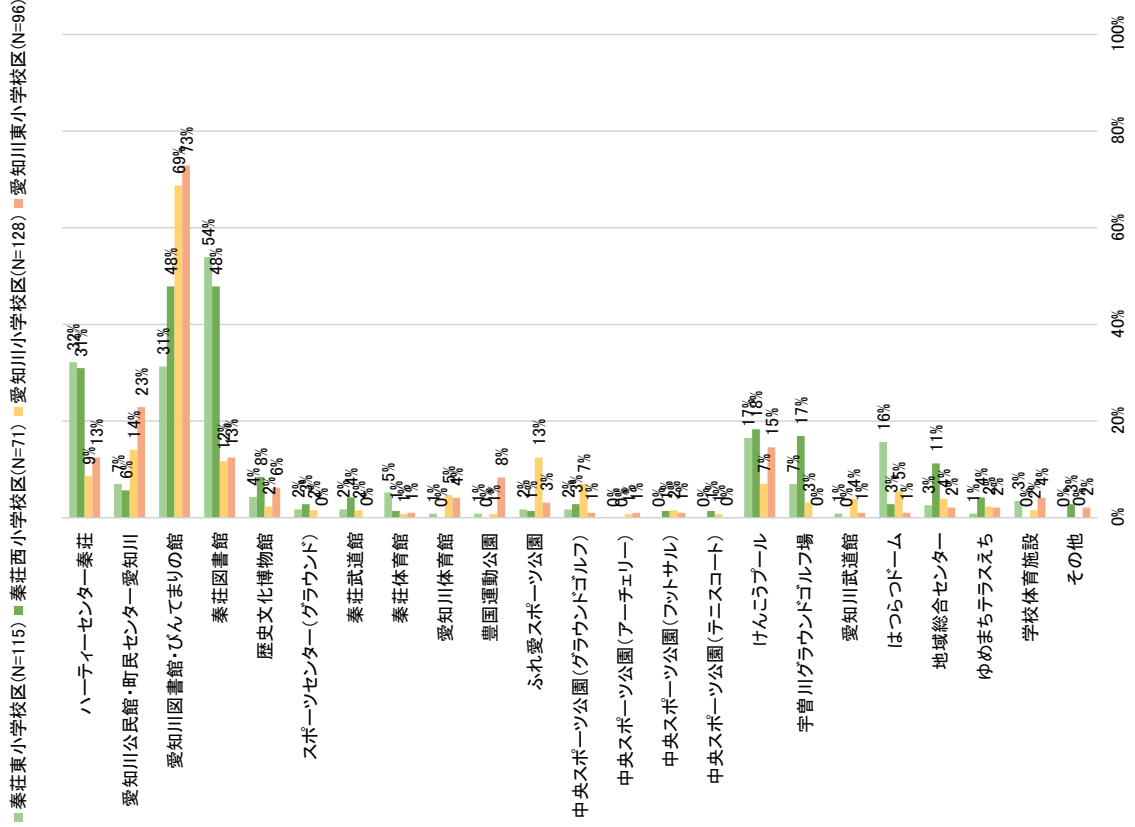
■ 年齢別

・「愛知川図書館・びんてまりの館」は、25歳～49歳までの子育て世代の利用が多く、ハーティーセンターは50歳以上の利用が多い。



■ 小学校区別

・校区内や近隣にある施設を利用している傾向があり、「ハーティーセンター-秦荘」や「愛知川図書館・びんてまりの館」「秦荘図書館」等はその傾向が強い。

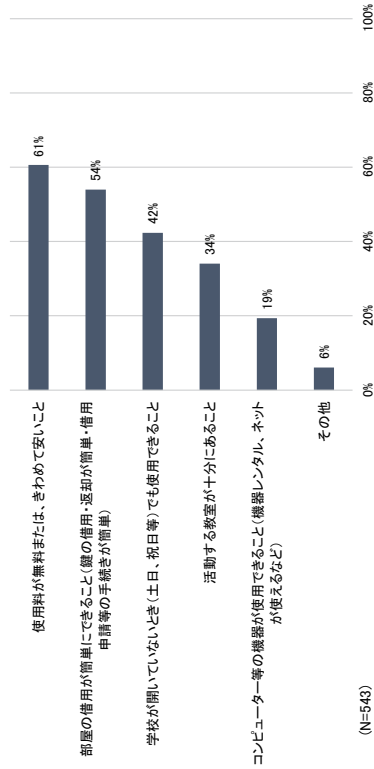


問 13

学校を生涯学習の場とするための環境や条件【複数回答】

学校を生涯学習（趣味のサークル活動、ボランティア活動、交流活動、研修活動、スポーツ活動等）の場とする場合、どのような環境や条件が整えばよいと思いますか？

・「使用料が無料または、きわめて安いこと」が61%と最も多く、次いで「部屋の借用が簡単にできること」が54%、「学校が開いていないとき（土日、祝日等）でも使用できること」が42%となっている。



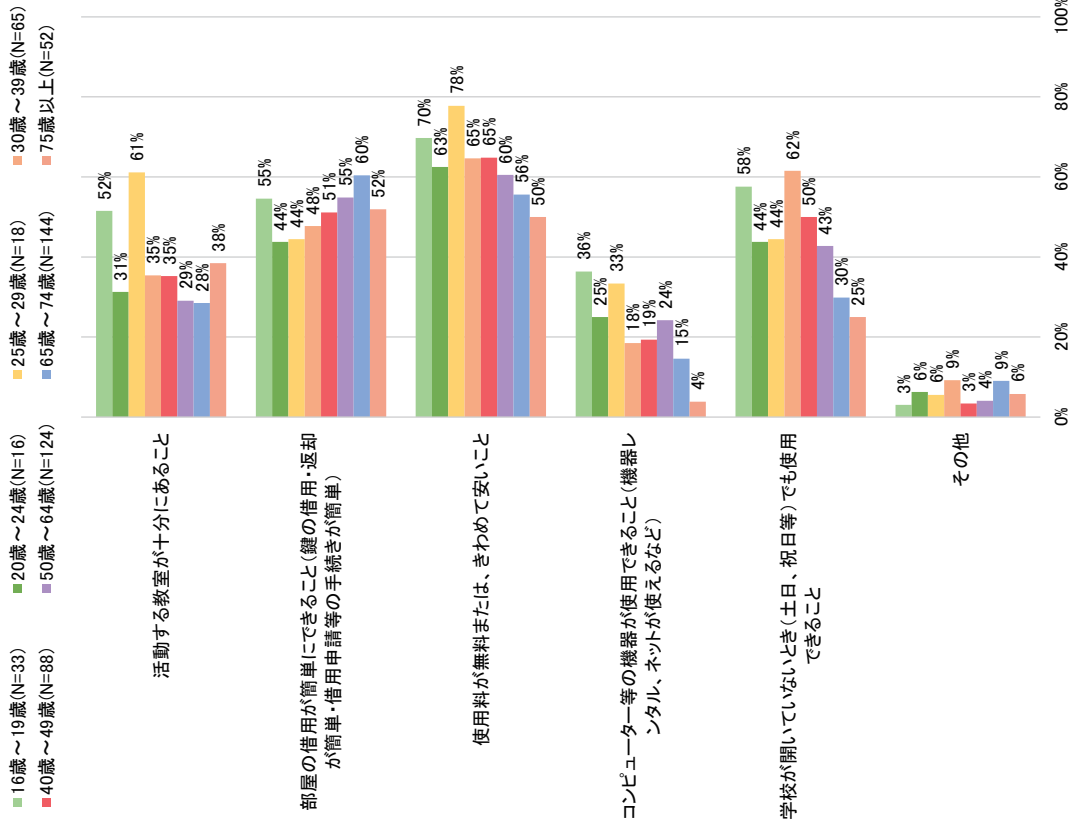
【その他(自由回答)】

自由回答内容	件数
学校を使用する必要を感じない	5
防犯対策が整備されていること	3
わからない	2
ネット環境等の設備が充実していること	2
教員の負担にならないこと	2
指導者が気軽に指導できること	1
使用時間に制約がないこと	1
トイレが充実していること	1
利用していない	1
コロナ感染症対策	1
生徒と一緒に活動できること	1
興味のある講座があること	1
教員や子供の育成に活用してほしい	1
公私全ての利用で料金を徴収すること	1
特になし	1
責任の所在を明確にすること	1
場所が近いこと	1
地域活動を周知させること	1
学校を使用することに反対	1
夜間利用できる教室があること	1

(回答数:29件、回答者数:27人)

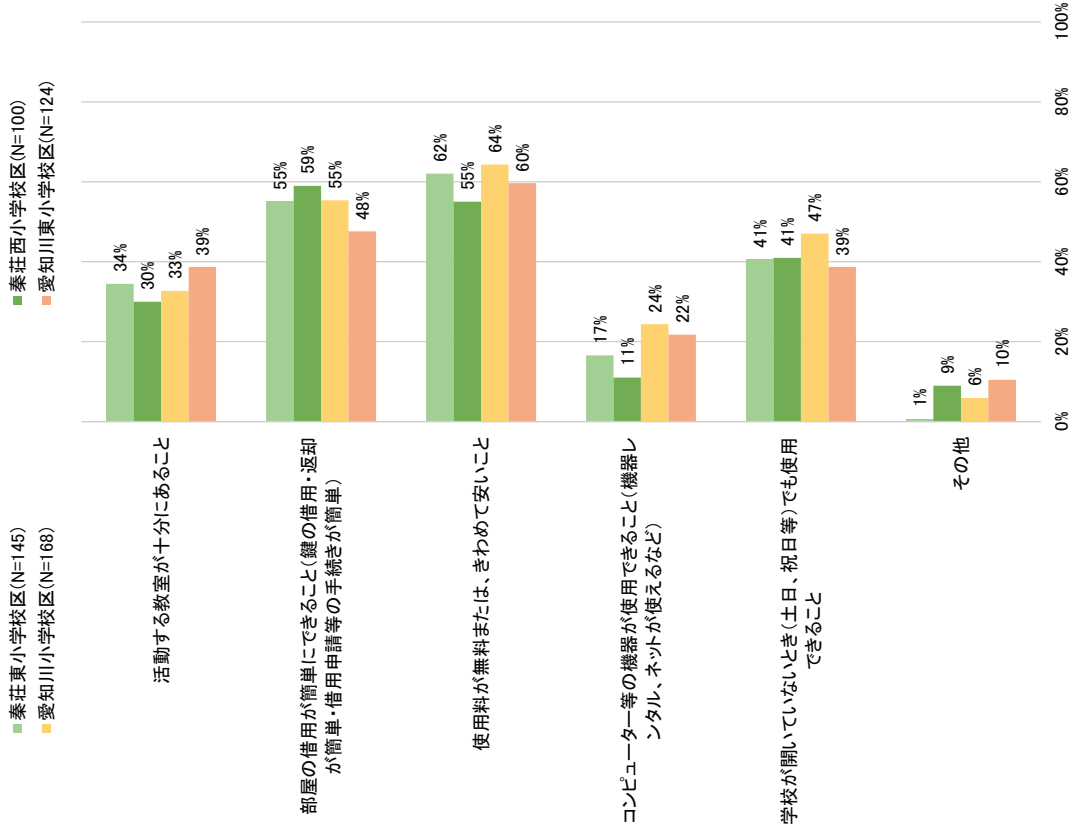
■ 年齢別

・年齢が高くなるほど「部屋の借用が簡単にできる」が多くなり、「使用料が無料またはきわめて安いこと」が少なくなる。



■ 小学校区別

・小学校区での差は見られない。

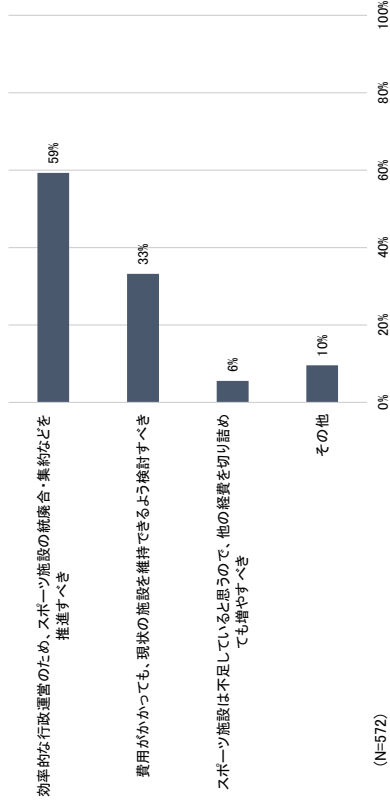


スポーツ施設の今後の対応【複数回答】

愛荘町は2町合併で誕生し、スポーツ施設が多く整備されていますが、老朽化し多額の維持管理費等が発生している施設も見られます。これらの施設は今後どのようにすることが望ましいとお考えですか？

問 14

・「効率的な行政運営のため、スポーツ施設の統廃合・集約などを推進すべき」が59%と最も多く、次いで「費用がかかっても、現状の施設を維持できるように検討すべき」が33%、「スポーツ施設は不足していると思うので、他の経費を切り詰めても増やすべき」が6%となっている。



(N=572)

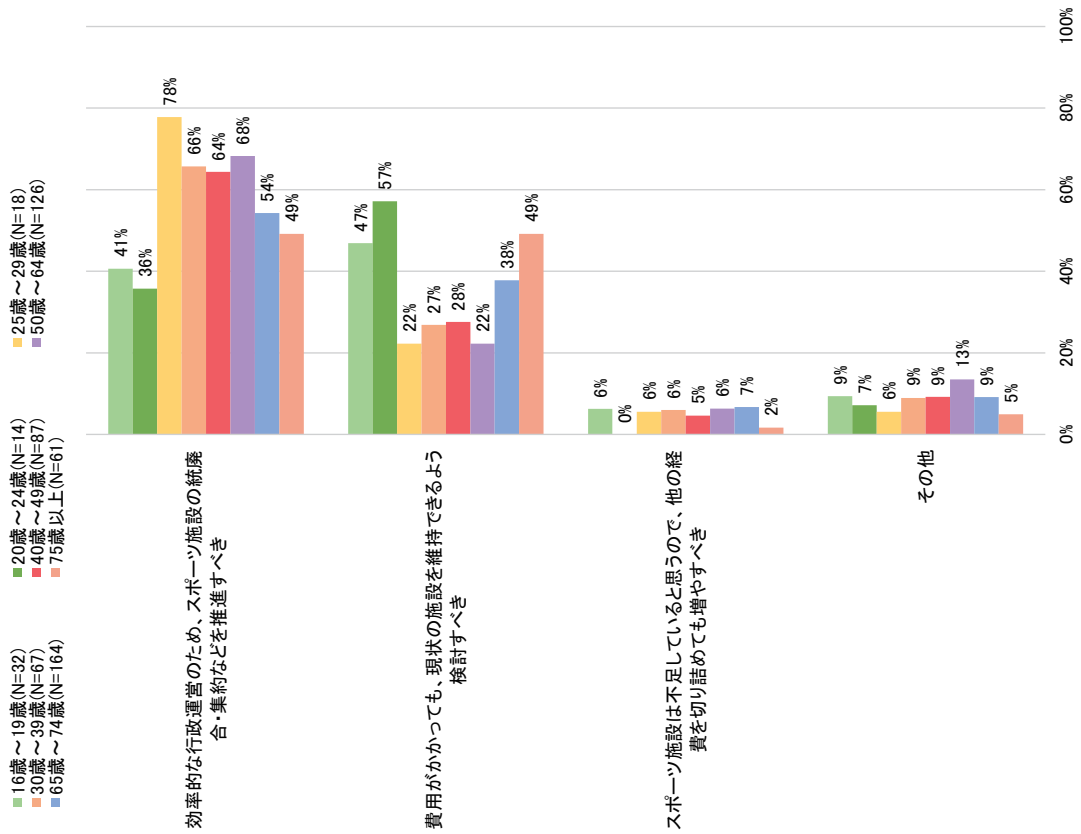
【その他(自由回答)】

自由回答内容	件数
利用状況等考慮し検討を深めて決定すべき	8
わからない	6
誰もが借りやすい環境づくりを進めるべき	5
ある程度統廃合・集約すべき	4
地区間での偏りをなくすべき	4
公共施設を増やすべきでない	3
維持管理しつつ統廃合・集約すべき	2
その他(1件ずつの回答)	15

(回答数: 47件、回答者数: 47人)

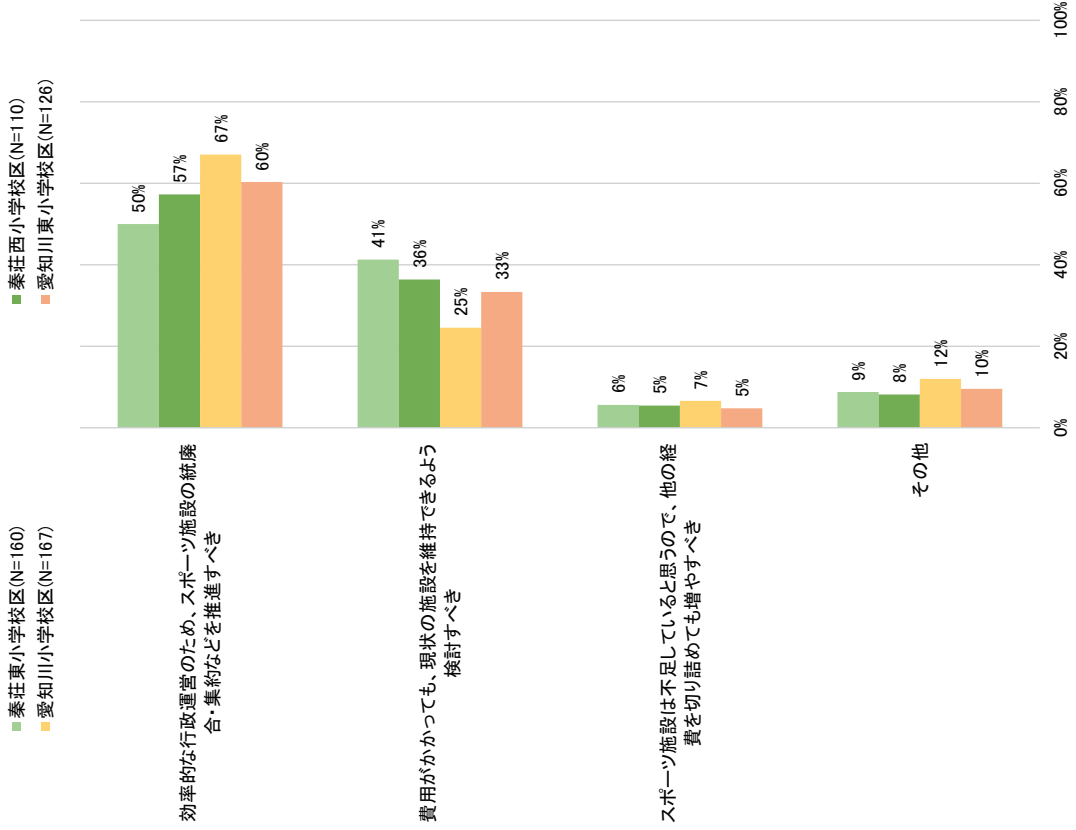
■ 年齢別

・25歳～64歳までは「スポーツ施設の統廃合・集約を推進すべき」の意見が多く、24歳以下及び65歳以上は、「現状の施設を維持できるよう検討すべき」が他の世代より多い。



■ 小学校区別

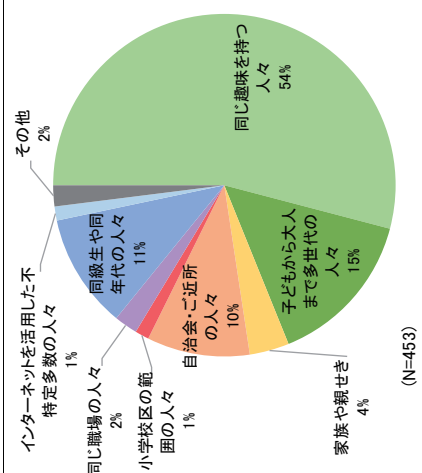
・小学校区での差はほとんどないが、秦荘東小学校区、秦荘西小学校区の方が「現状の施設を維持できるよう検討すべき」の意見が多い。



問 15

仲間づくりをしたい相手
あなたはどのような人と学びあい仲間づくりをしたいですか？

・「同じ趣味を持つ人々」が54%と最も多く、次いで「子どもから大人まで多世代の人々」が15%、「同級生や同年代の人々」が11%となつている。



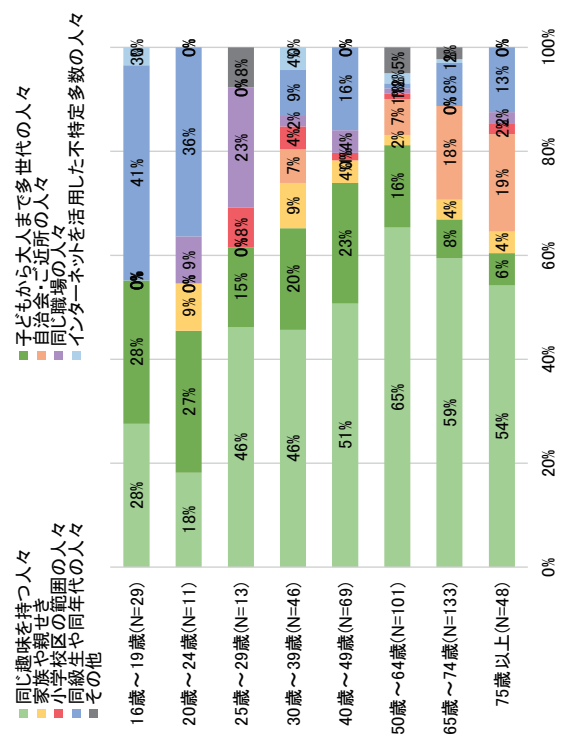
【その他(自由回答)】

自由回答	件数
特になし	4
前向きなし	1
余裕がない	1
他市町の方が多い	1
学びあいたくない	1
場合による	1
新たな人間関係の構築を考慮すべき	1

(回答数:10件、回答者数:10人)

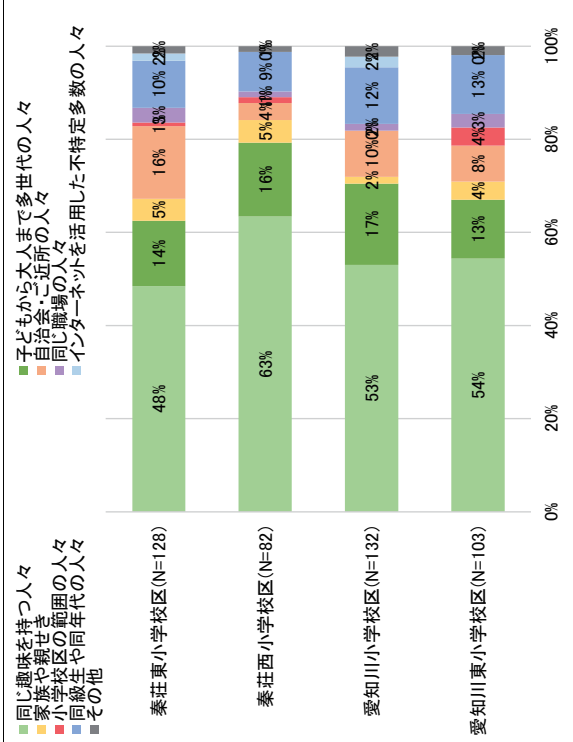
■年齢別

・24歳以下は「同級生」、25歳～29歳は「同じ職場の人々」、65歳以上は「自治会」が他の年齢より多くとなっている。



■小学校区別

・秦荘東小学校区は「自治会・ご近所の人々」が16%と、他の小学校区より6ポイント以上多くとなっている。

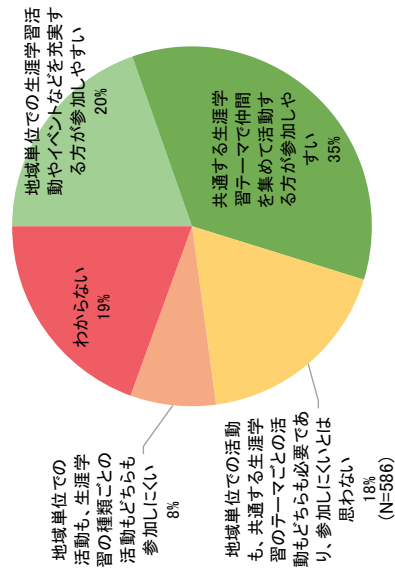


生涯学習に参加しやすくするために充実させた方がよい活動

あなたが、生涯学習（趣味のサークル活動、ボランティア活動、スポーツ活動等）に参加するなら、「学校区などの地域単位での活動」か、「共通する生涯学習のテーマでの活動」のどちらを充実させた方が参加しやすいですか？

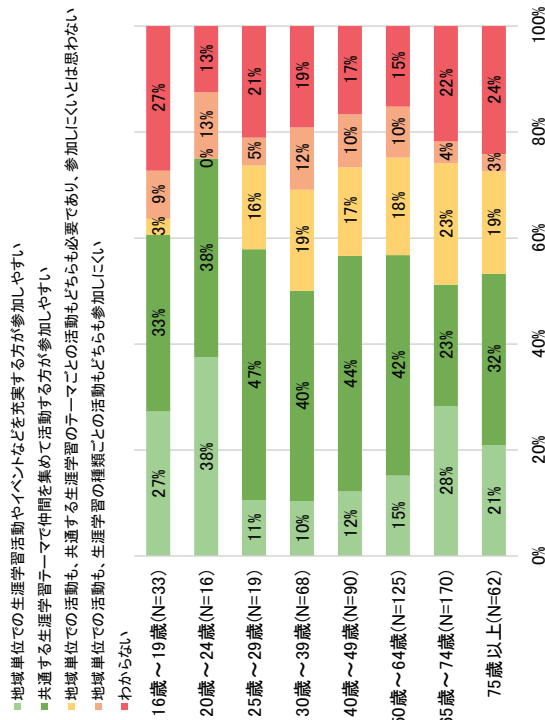
問 16

・「共通する生涯学習テーマで仲間を集めて活動する方が参加しやすい」が35%と最も多く、次いで「地域単位での生涯学習活動やイベントなどを充実する方が参加しやすい」が20%、「地域単位での活動も、共通する生涯学習のテーマごとの活動もどちらも必要であり、参加しにくいとは思わない」が18%となっている。



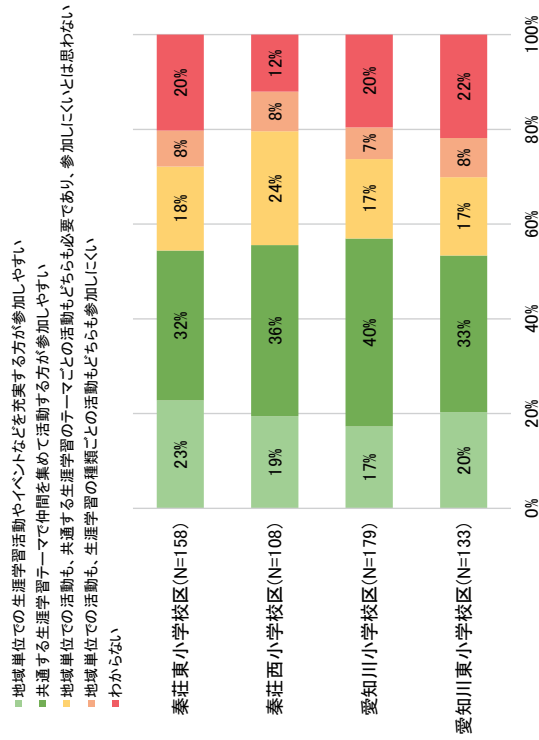
■ 年齢別

・65歳～74歳は他の年齢と異なり、「共通する生涯学習テーマ」よりも「地域単位での生涯学習活動」の方が多い。



■ 小学校区別

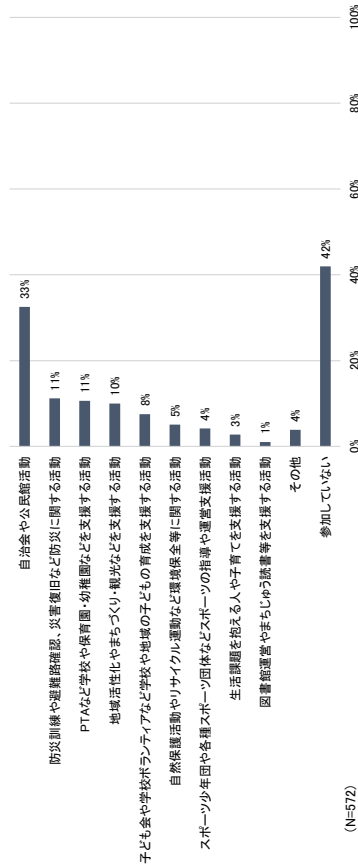
・小学校区での差は見られない。



参加している活動【複数回答】

問 17 あなたが、地域活動やボランティア活動など、参加している活動はありますか？

・「参加していない」が 42%と最も多く、次いで「自治会や公民館活動」が 33%、「防災訓練や避難路確認、災害復旧など防災に関する活動」が 11%となっている。



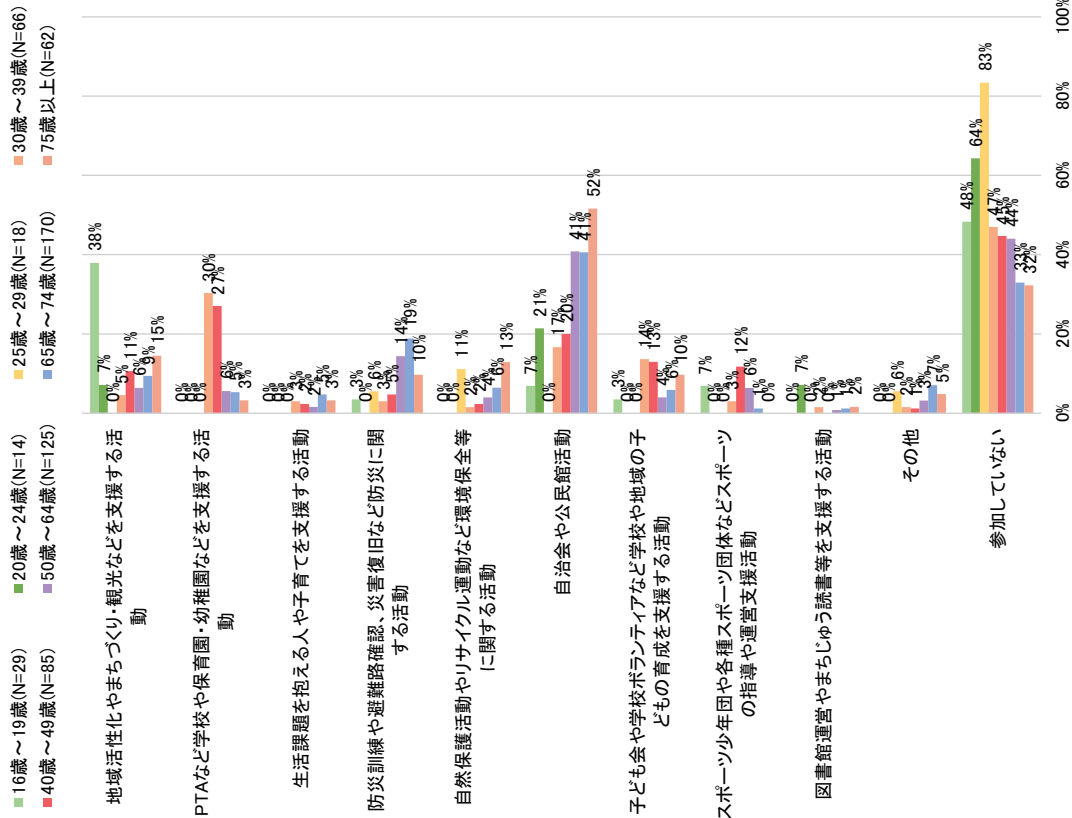
【その他(自由回答)】

自由回答	件数
地域の見守り活動	5
スポーツの指導や運営支援	3
日本赤十字社	2
なし	2
給食サービス	1
子どもの育成支援	1
養護学校の植物菜園	1
音楽活動	1
掃除	1
活動の場がない	1
参加したくない	1
老人クラブ	1

(回答数:20件、回答者数:19人)

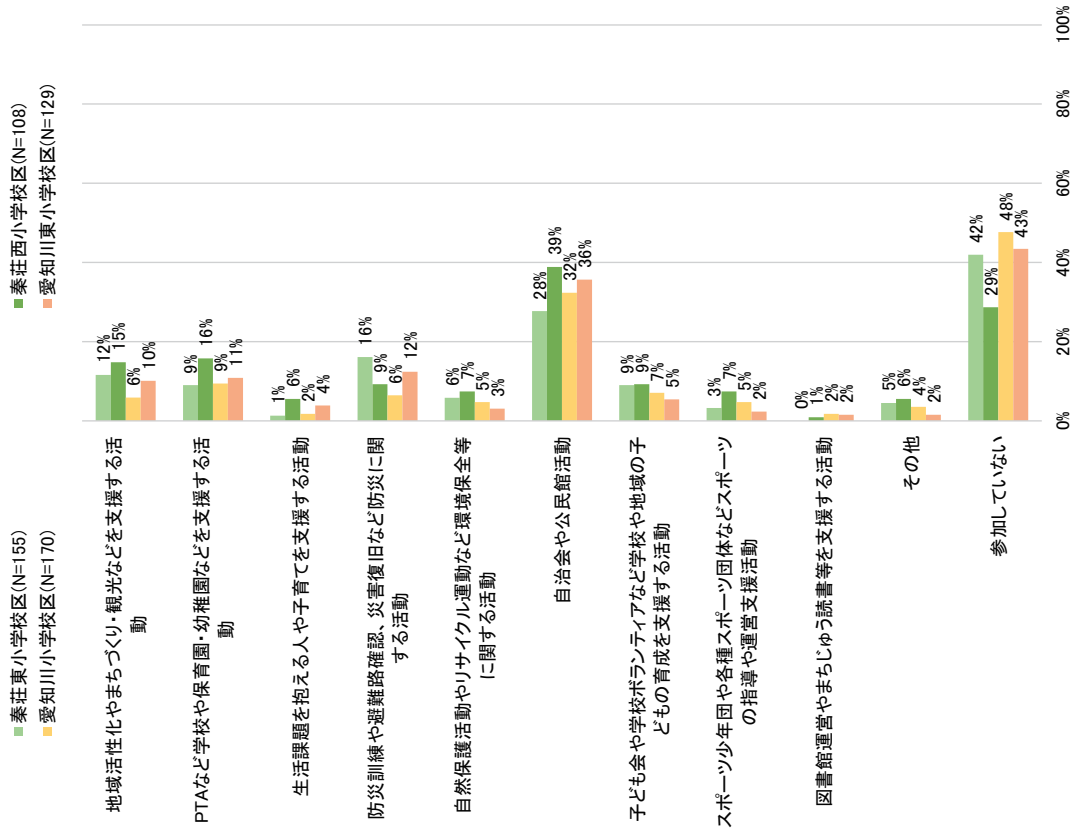
■年齢別

・16～19歳は「地域活性化やまちづくり・観光などを支援する活動」が 38%と他の年齢より 23 ポイント以上多くなっている。
 ・ライフステージに合わせた活動が多く、子育て世代の 30代～40代は PTA などの活動、50代以上は自治会活動が多い。
 ・25歳～29歳は参加していないが 83%となっている。



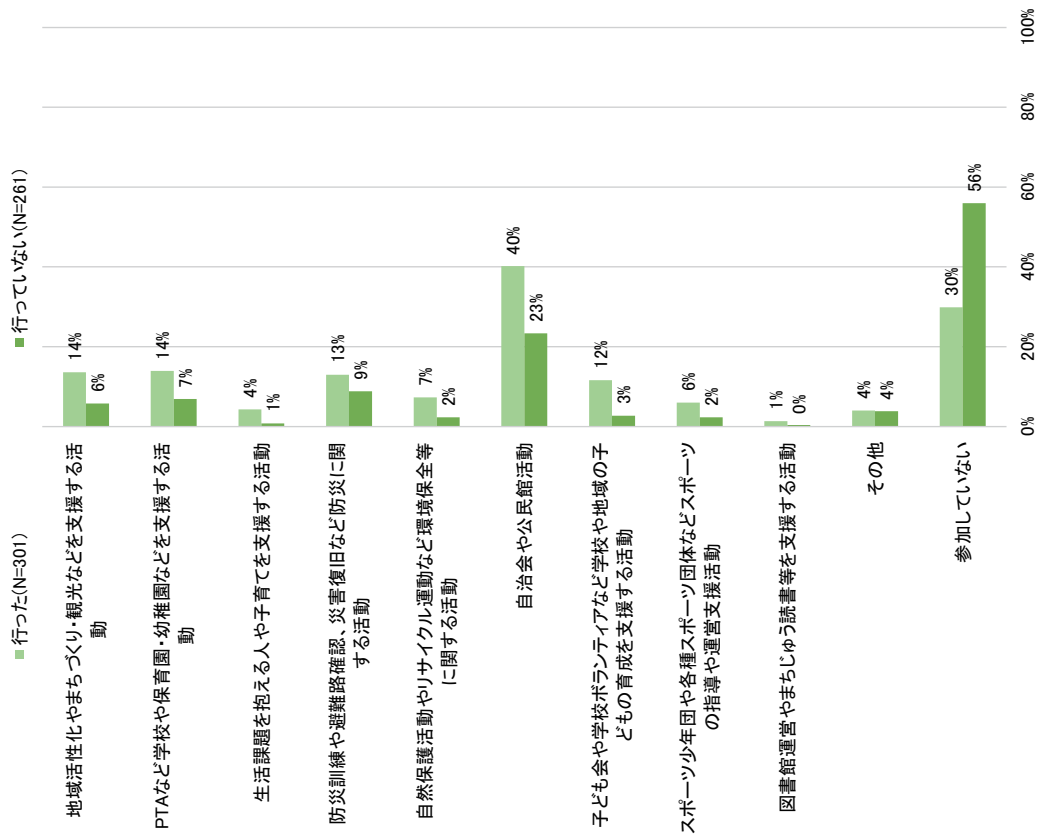
■ 小学校区別

・小学校区での差は見られないが、秦荘西小学校区の参加していない人は他の小学校区より少ない。



■ 生涯学習の経験の有無別

・生涯学習を行った人は「参加していない」が30%と行わない人よりも26%も少なく、何らかの活動に参加している人が多い。

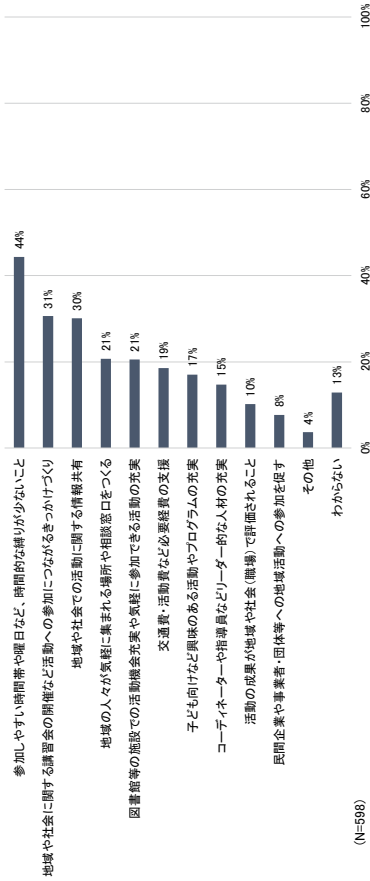


問 18

多くの人が地域活動に参加するために必要なこと【複数回答】

あなたは多くの人が地域活動やボランティア活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要（期待すること）だと思いますか？

・「参加しやすい時間帯や曜日など、時間的な縛りが少ないこと」が44%と最も多く、次いで「地域や社会に関する講習会の開催など活動への参加につながるきっかけづくり」が31%、「地域や社会での活動に関する情報共有」が30%となっている。



(N=598)

【その他(自由回答)】

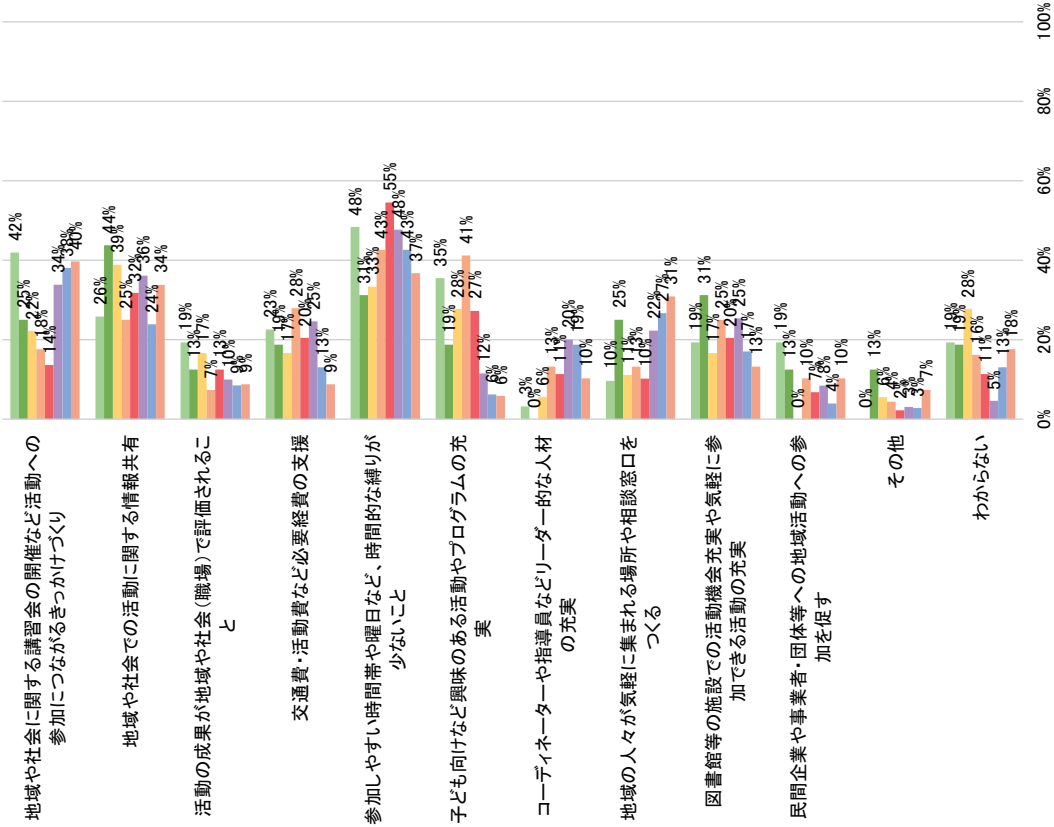
自由回答内容	件数
活動の詳細や参加のメリットを公開・発信すること	3
活動を促す町の支援	2
時間的・精神的余裕	2
自分の意思で参加することが大事	2
何もたたくない	1
体験型施設の充実	1
活動成果が実感できること	1
小中高からの学習習慣	1
自由に生活したい	1
年齢的に参加しにくい	1
活動を減らす	1
地域という狭いくくりにとらわれない	1
子ども連れていけないこと	1
教育現場での子どもへの教え方	1
交通の便	1
いつでも自由に参加できる機会	1
健康	1
きっかけづくり	1

(回答数: 23件、回答者数: 22人)

■年齢別

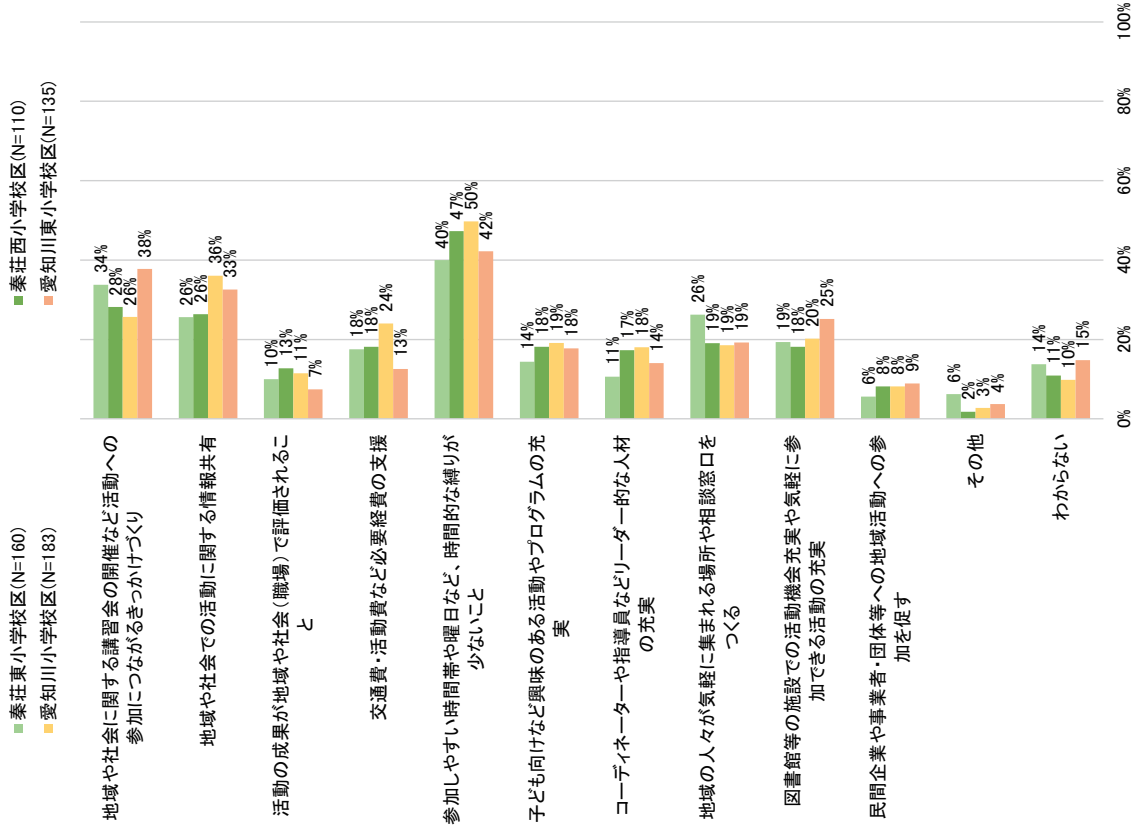
・40歳～49歳の5割以上が「参加しやすい時間帯や曜日など、時間的な縛りが少ないこと」を選んでいる。

■年齢別
 16歳～19歳(N=31) 20歳～24歳(N=16) 25歳～29歳(N=18) 30歳～39歳(N=68)
 40歳～49歳(N=88) 50歳～64歳(N=130) 65歳～74歳(N=176) 75歳以上(N=68)



■小学校区別

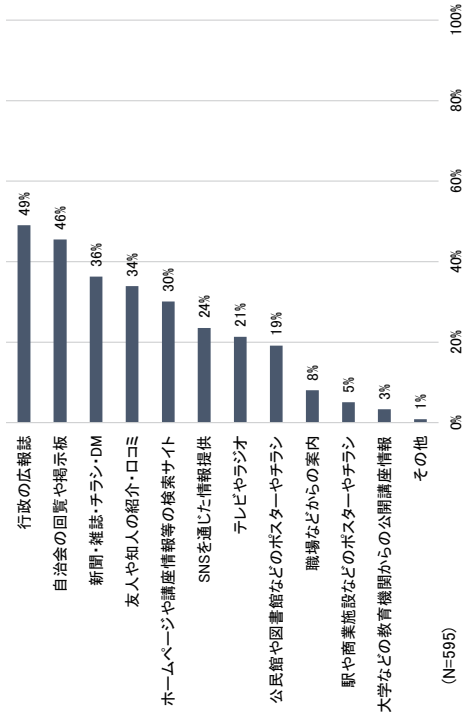
・小学校区での差は見られない。



問 19 学習する際の情報収集方法【複数回答】

あなたがこれから学習する場合、どこから情報収集を行いますか？

・「行政の広報誌」が49%と最も多く、次いで「自治会の回覧や掲示板」が46%、「新聞・雑誌・チラシ・DM」が36%となっている。



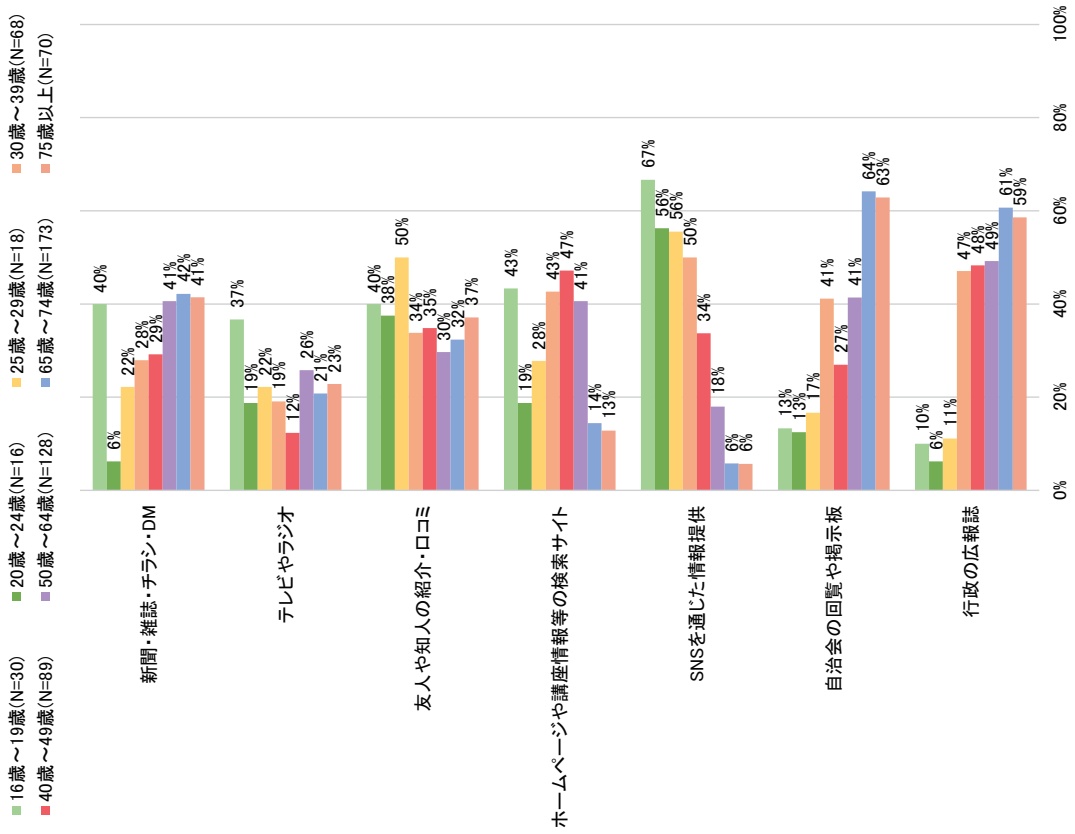
【その他(自由回答)】

自由回答内容	件数
インターネット	1
手助け窓口があれば良い	1
ポルトガル語のチラシ等	1
仕事をやめ、自由になった時	1

(回答数:4件、回答者数:4人)

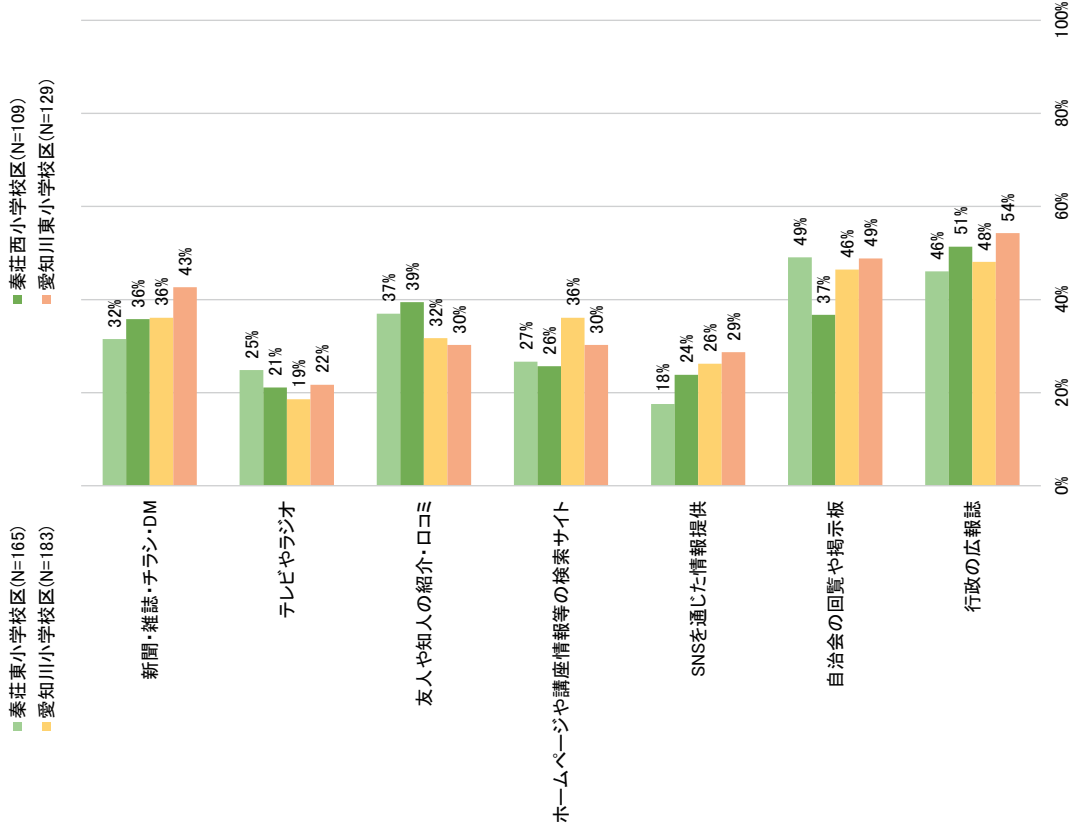
■ 年齢別

- ・ 25～29歳は「友人や知人の紹介・口コミ」が50%と他の年齢より10ポイント以上多くなっている。
- ・ SNSは30代までは50%を超えているが、年齢が高くなるほど少なくなり65歳以上は6%となる。



■ 小学校区別

- ・ 小学校区での差は見られない。

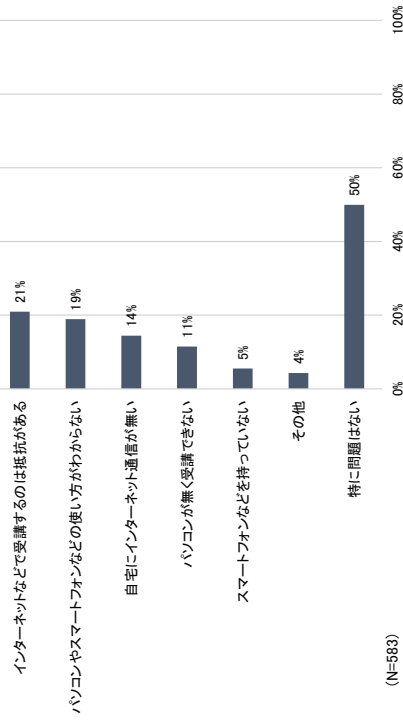


問 20

インターネット講座を受講する際の問題【複数回答】

新型コロナウイルス感染予防の観点からインターネットによる配信講座などが増えています。あなたがインターネット講座を受講する際に問題となることは何ですか？

・「特に問題はない」が50%と最も多く、次いで「インターネットなどで受講するのは抵抗がある」が21%、「パソコンやスマートフォンなどの使い方がわからない」が19%となっている。



【その他(自由回答)】

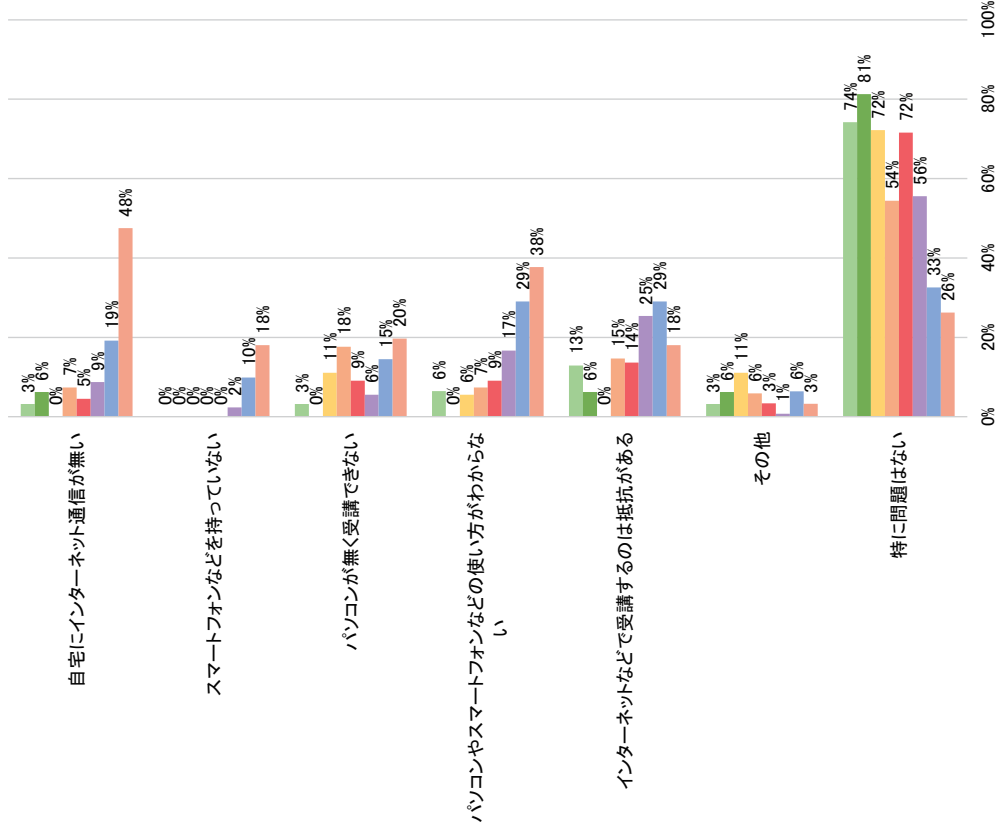
自由回答内容	件数
手続きや用語が難しくやり方がわからない	6
静かに集中できる環境がない	3
コミュニケーションがとりにくい	2
不慣れである	2
健康的に支障が出る	2
アカイブされない	1
わからぬ	1
自由に使える機器がない	1
通信環境がない	1
必要ない	1

(回答数:20件、回答者数:20人)

■ 年齢別

・75歳以上は「自宅にインターネット通信が無い」が48%と、他の年齢に比べて29ポイント以上多く持っている。
・スマートフォンを持っていない方も65歳以上は10%を超えている。

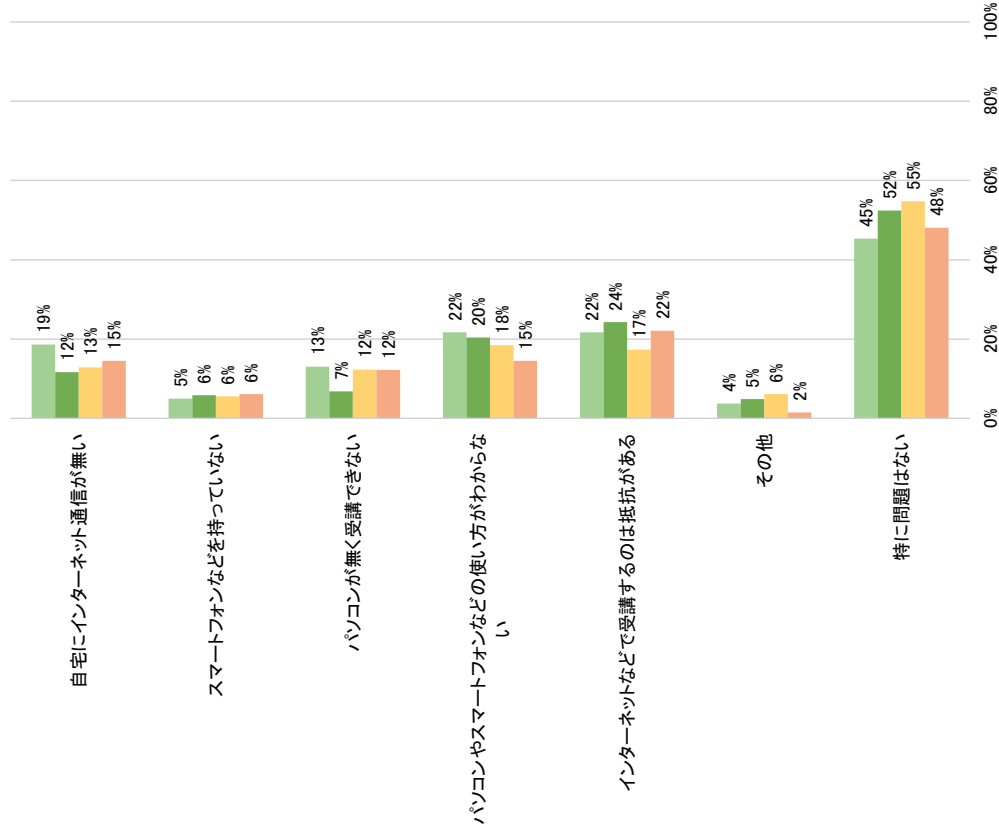
■ 10歳～19歳(N=31) ■ 20歳～24歳(N=16) ■ 25歳～29歳(N=18) ■ 30歳～39歳(N=68)
■ 40歳～49歳(N=88) ■ 50歳～64歳(N=126) ■ 65歳～74歳(N=172) ■ 75歳以上(N=61)



■小学校区別

・小学校区での差は見られない。

■秦荘東小学校区(N=161)
■秦荘西小学校区(N=103)
■愛知川小学校区(N=179)

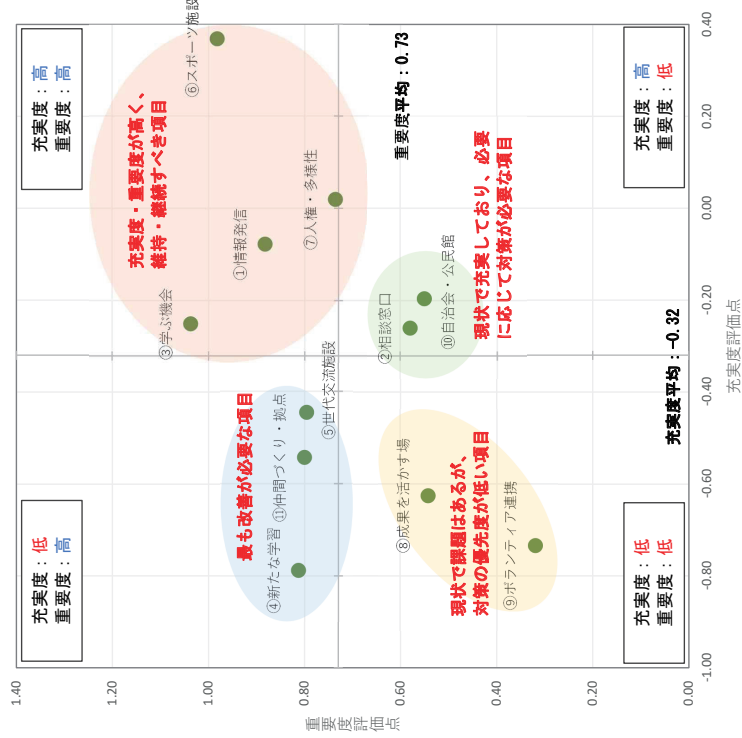


生涯学習の取組について充実度と重要度

愛荘町の生涯学習に関する取組について、充実していると感じていますか？5～1の5段階で評価してください。また、その取組の重要性についてA～Dの4段階で評価してください。

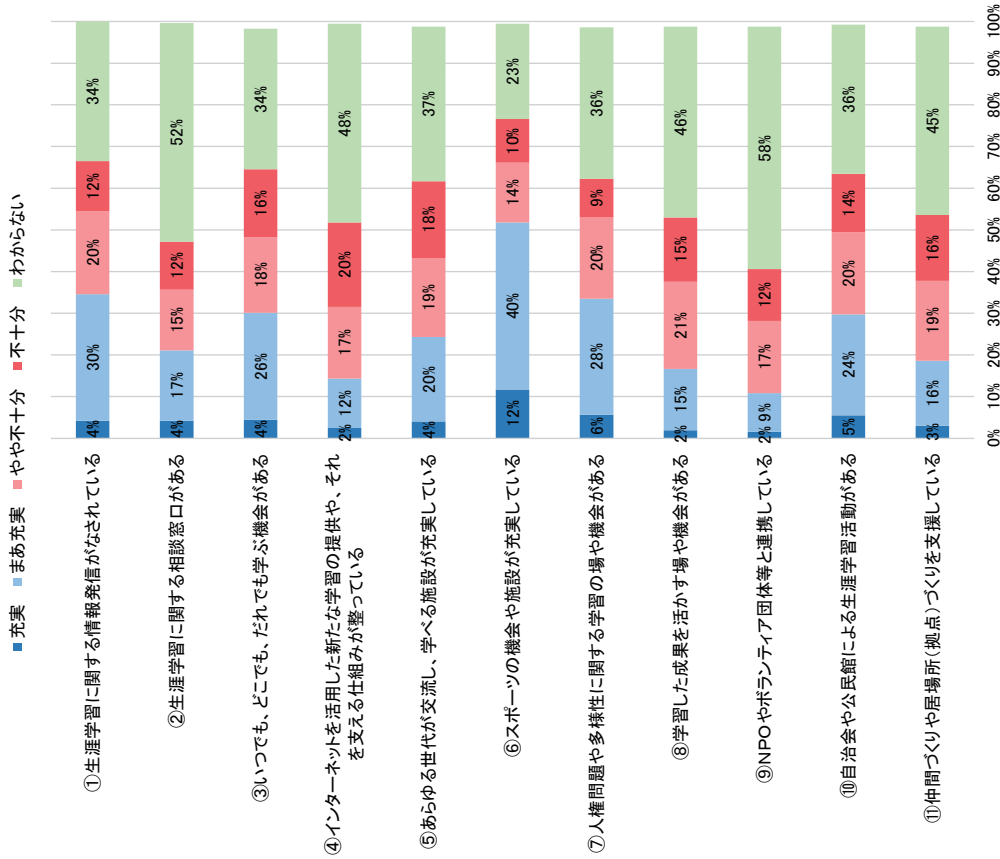
- ①生涯学習に関する情報発信がなされている
- ②生涯学習に関する相談窓口がある
- ③いつでも、どこでも、だれでも学ぶ機会がある
- ④インターネットを活用した新たな学習の提供や、それを支える仕組みが整っている
- ⑤あらゆる世代が交流し、学べる施設が充実している
- ⑥スポーツの機会や施設が充実している
- ⑦人権問題や多様性に関する学習の場や機会がある
- ⑧学習した成果を活かす場や機会がある
- ⑨NPOやボランティア団体等と連携している
- ⑩自治会や公民館による生涯学習活動がある
- ⑪仲間づくりや居場所（拠点）づくりを支援している

・充実度が低く重要度が高いもとも改善すべき項目は、「④インターネットを活用した新たな学習の提供や、それを支える仕組みの整備」、「⑤あらゆる世代が交流し、学べる施設の充実」「⑩仲間づくりや居場所（拠点）づくりの支援」である。



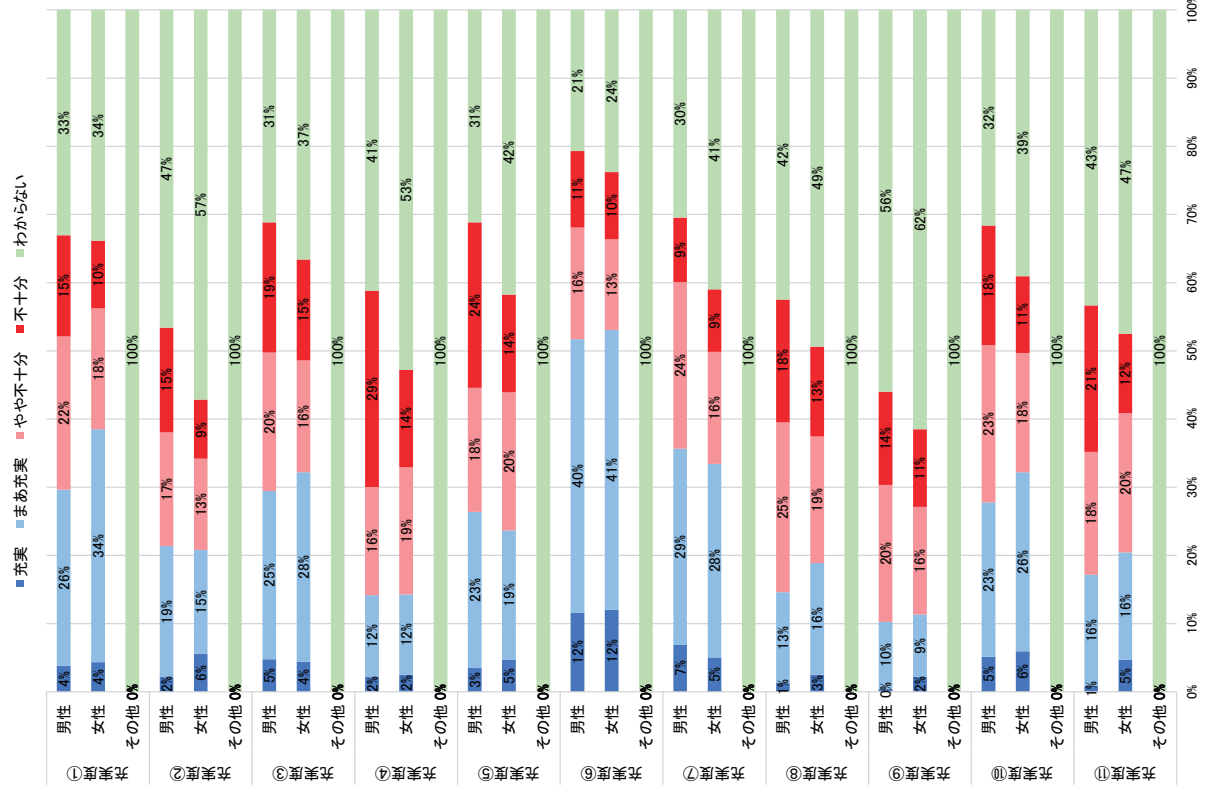
※各設問の充実度(横軸)を、充実+2点、まあ充実+1点、やや不十分-1点、不十分-2点、重要度(縦軸)を、重要+2点、やや重要+1点、あまり重要ではない-1点、重要ではない-2点で算定し、充実度の平均-0.32点、重要度の平均0.73を中央値とした。

参考：充実度



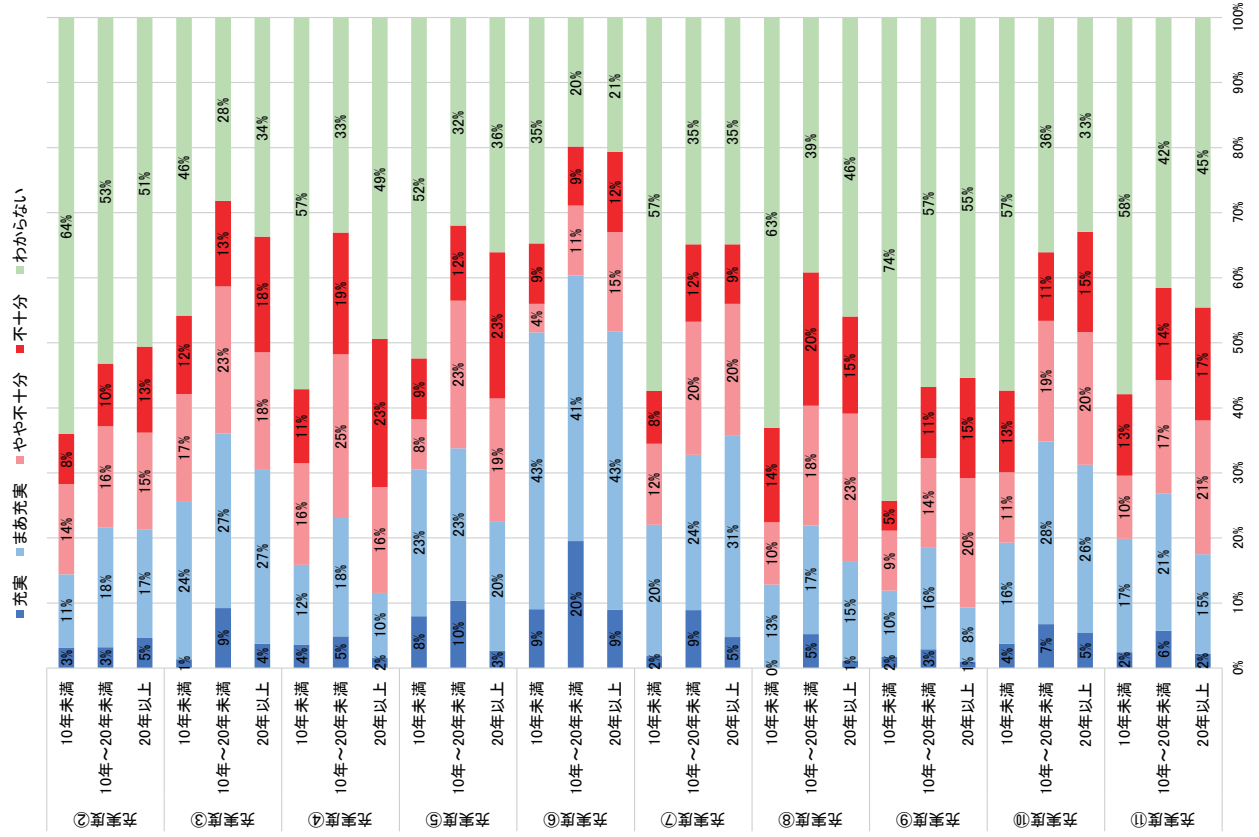
性別別

・「④インターネットを活用した新たな学習の提供や、それらを支える仕組みが整っている」について、男性は「不十分」が29%と、女性に比べて15ポイント以上多くなっている。

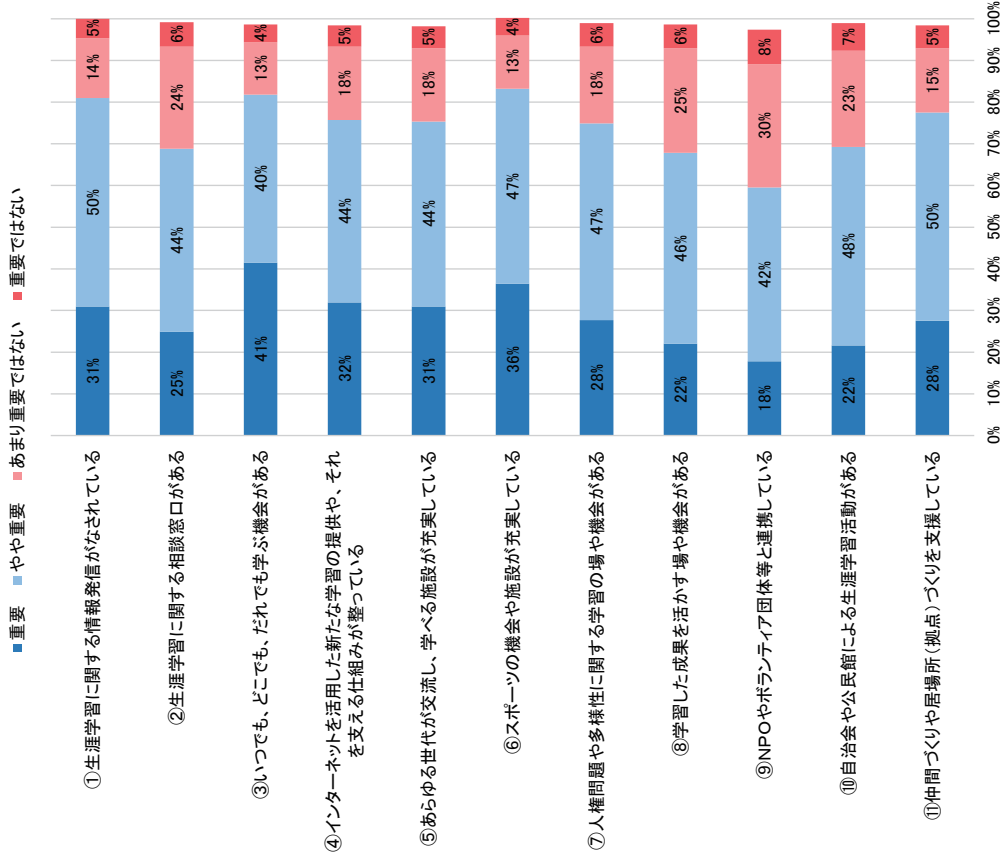


■ 居住年数別

・「⑤あらゆる世代が交流し、学べる施設が充実している」について、居住年数が長くなるにつれて、「やや不十分」「不十分」の割合が多くなっている。

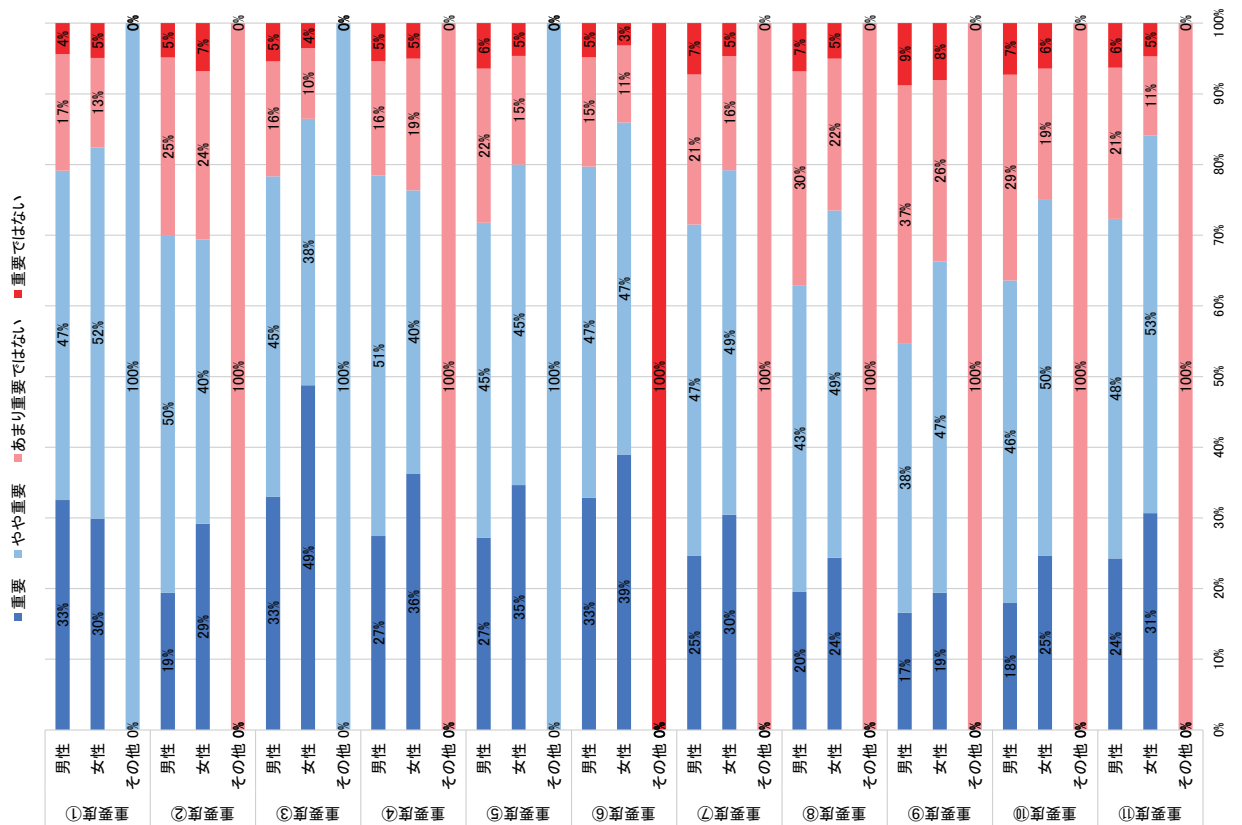


参考②：重要度



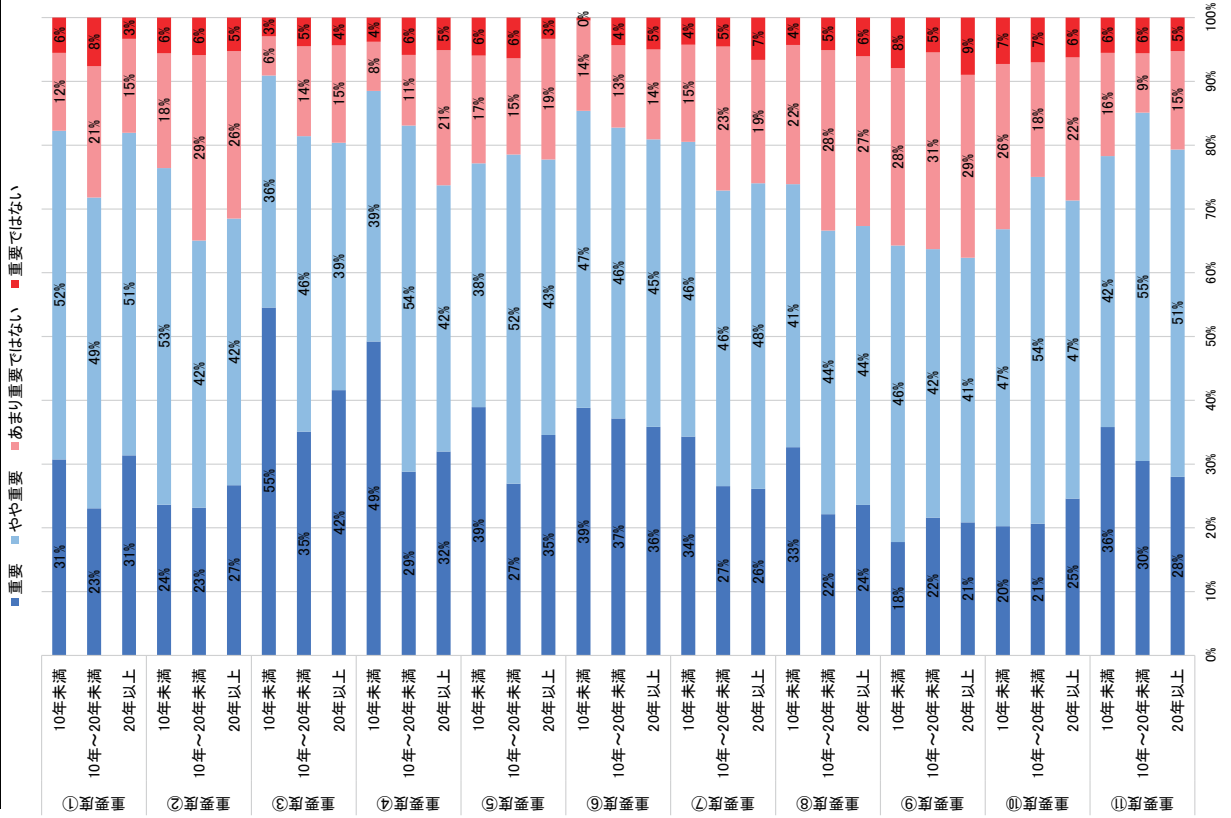
■性別別

・「③いつでも、どこでも、だれでも学ぶ機会がある」について、女性は「重要」が49%と、男性に比べて16ポイント以上多くになっている。



■居住年数別

・「④インターネットを活用した新たな学習の提供や、それらを支える仕組みが整っている」について、居住年数が長くなるにつれて、「あまり重要ではない」「重要ではない」の割合が多くなっている。



3. 生涯学習に関する自由回答

あなたの趣味や特技、ボランティア・サークル活動、他の人が行っている活動等を活かして、学校・園や地域の人々と一緒にやってみたらおもしろい、楽しい行事・イベント・集いといったものがあれば教えてください。

・「スポーツ大会」や「園芸」、「音楽活動」、「農業」といった自由回答が多く見られた。

【生涯学習に関する自由回答】

自由回答	件数
わからない	7
特になし	5
スポーツ大会	5
園芸	4
音楽活動	4
農業	4
クラフトゴルフ	3
自由に誰でも参加できる活動	2
年齢的に活動が難しい	2
キャンプ・自然体験	2
読書会	2
スマホ・パソコン教室	2
フリーマーケット	2
日本文化	2
サイクリング	2
人に気を使う	2
親子で参加できる教室	2
子どもたちのための活動機会	2
コロナ禍により自粛	2
バドミントン	2
マラソン大会	1
音楽コンクール	1
観光ツアー	1
直接コミュニケーションをとる機会	1
継続的な活動	1
筆道	1
絵画教室	1
オーティション番組	1
公園の遊具が少ない	1
ゲーム	1
学習	1
日本語学習	1
流しそうめん	1
介護ボランティア	1
紙手紙	1
空手	1
テニス	1
ミニ四駆の大会	1
同じ立場の人と交流する機会	1
ハフカカボーン	1
趣味や職業を知る機会	1
ハンドボール	1
オンライン授業	1
他文化学習	1
名産品づくり	1
ペット・動物関連	1
展覧会	1
ユニスコートが活用できていない	1
木工	1
語学学習	1
地域の産業や場所・人を活かしたイベント	1
地元野菜を使った料理教室	1
シャトルボックス	1
各活動のライブ中継	1
水画教室	1
生涯学習という名称をわかりやすいものに	1
芸術体験	1
映画鑑賞	1
習い事を発表する機会	1
和太鼓	1
学校カフェ	1
コミックマーケット	1
着物	1

(回答数:101件、回答者数:86人)

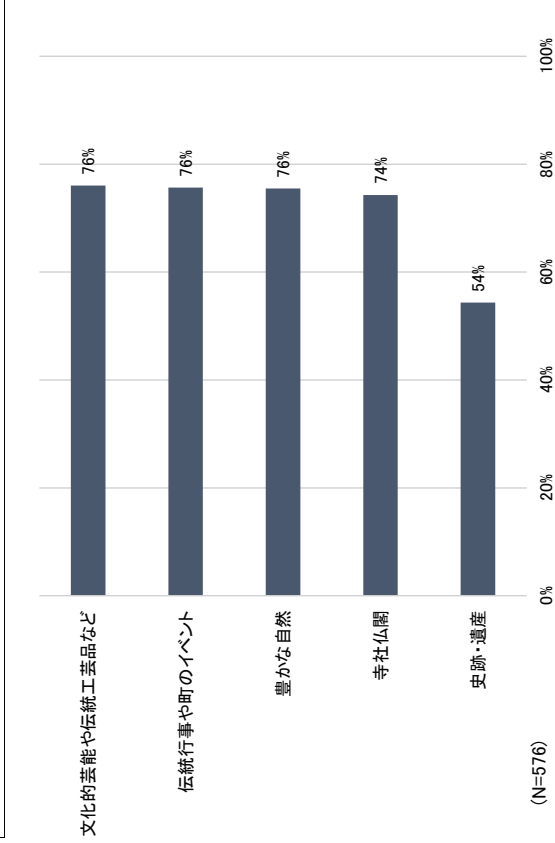
4. 愛荘町の歴史・芸術文化に関する意識等について

大切だと思う歴史・芸術文化資源のカテゴリー【複数回答】

下記の愛荘町の主な歴史・芸術文化資源のうち、あなたが大切だと思う『カテゴリー』は何ですか？

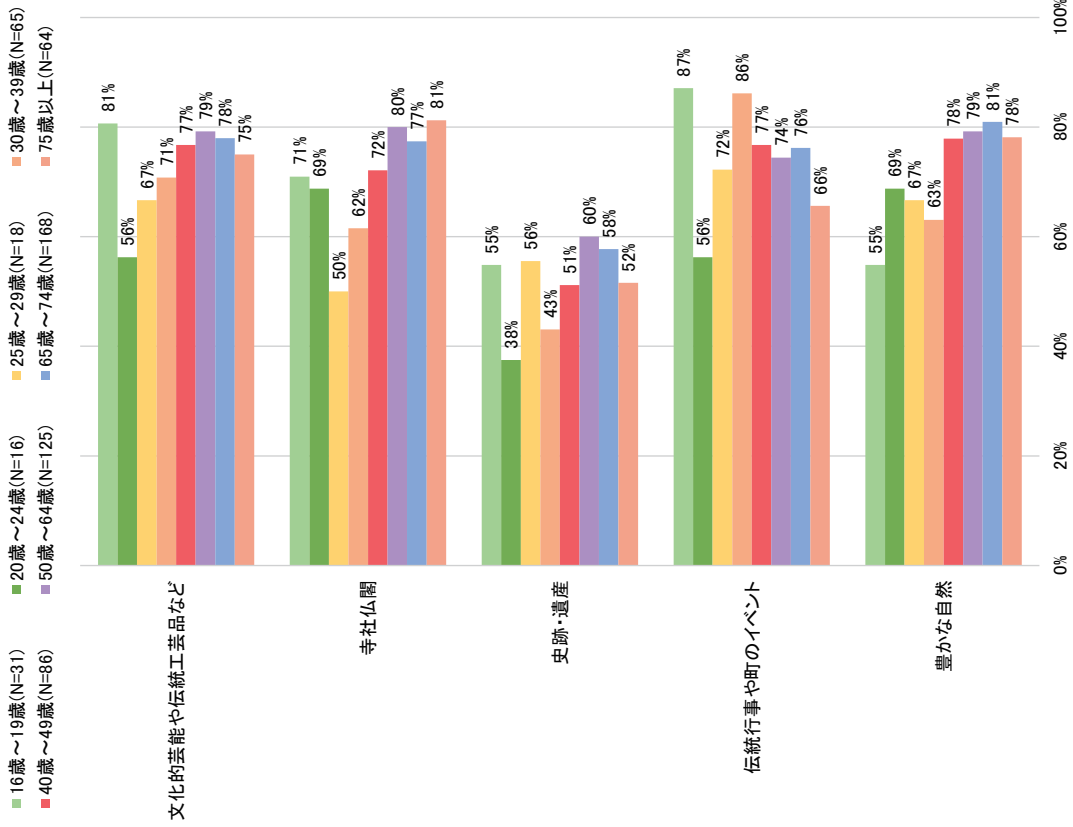
問22

・「文化的芸能や伝統工芸品など」、「伝統行事や町のイベント」、「豊かな自然」が76%と



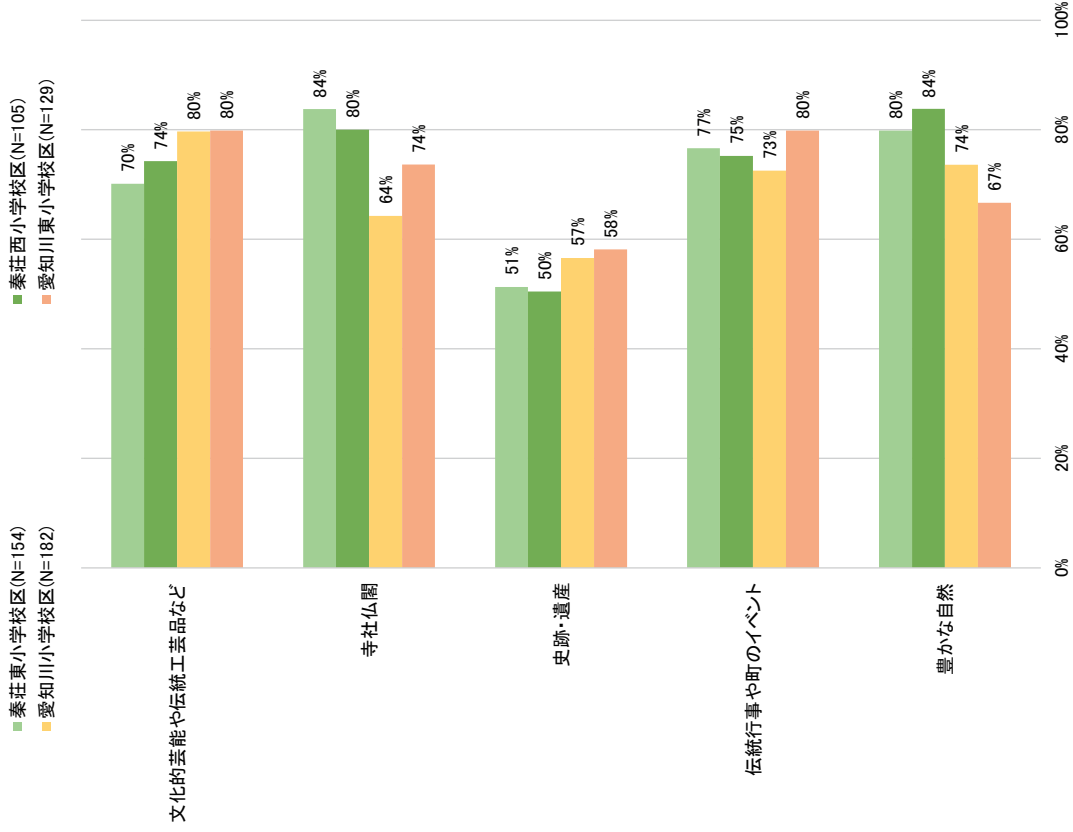
■ 年齢別

・ 25歳～29歳から年齢が高くなるにつれて、「寺社仏閣」の割合が多くなっていく。



■ 小学校区別

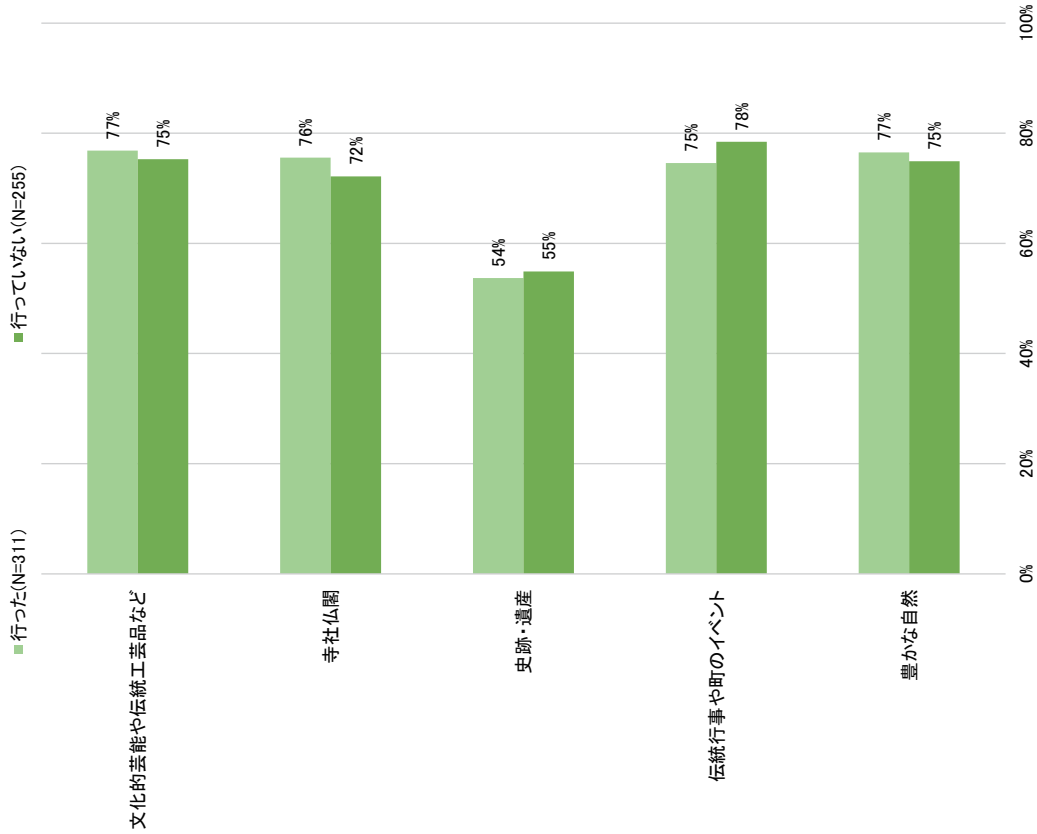
・ 小学校区による大きな差は見られなかった。



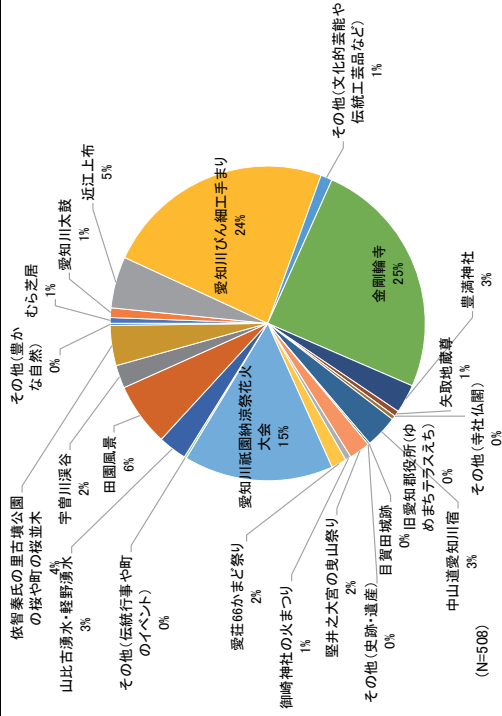
問 23

問 22 で選択したカテゴリの中で、最も誇りに思ふ資源を①～⑩から 1 つ選び、番号を記載してください。

生涯学習の経験の有無別
生涯学習の経験の有無による大きな差は見られなかった。



「金剛輪寺」が 25%と最も多く、次いで「愛知川びん細工手まり」が 24%、「愛知川祇園納涼祭花火大会」が 15%となっている。



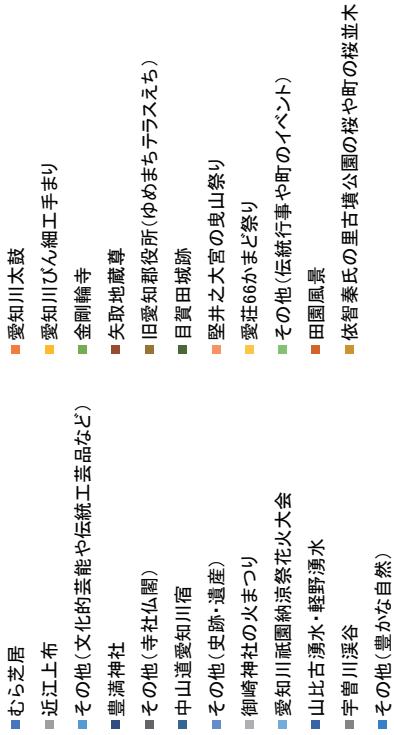
【D「伝統行事や町のイベント」その他(自由回答)】

自由回答	件数
特定地域ではなく各集落の伝統行事や町のイベント	1

(回答数:1件、回答者数:1人)

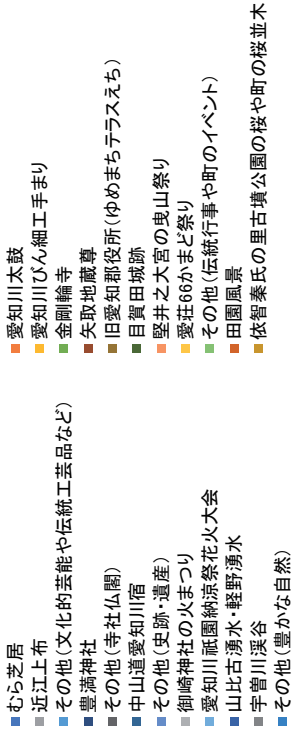
■ 年齢別

- ・16～19 歳は「愛知川祇園納涼祭花火大会」、20～49 歳は「愛知川びん細工手まり」、50 歳以上は「金剛輪寺」が最も多い。
- ・16～19 歳は小中学校の授業などで「むら芝居」の観劇などを体験しており、20 代～40 代は「愛知川びん細工手まり」を中学の選択授業で体験していることから、他の年代より多くなっていると考えられる。



■ 小学校区別

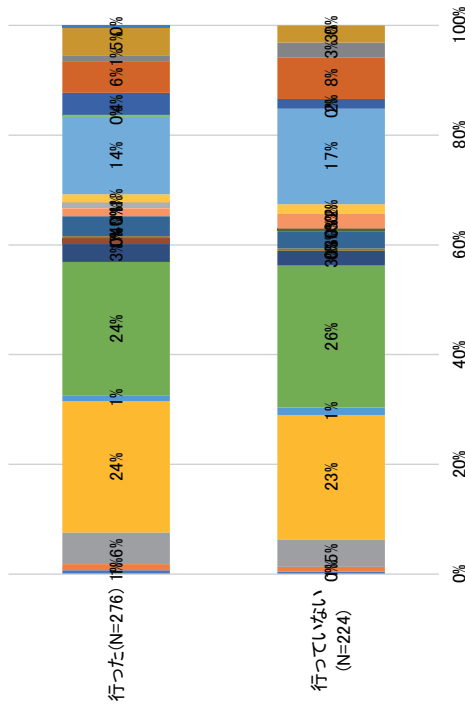
- ・秦荘東小学校区は「金剛輪寺」が48%と他の小学校区より19ポイント以上多くなっており、愛知川小学校区、愛知川東小学校区では「愛知川びん細工手まり」の回答が多いなど地域性が出ている。



■生涯学習の経験の有無別

・生涯学習の経験の有無による大きな差は見られなかった。

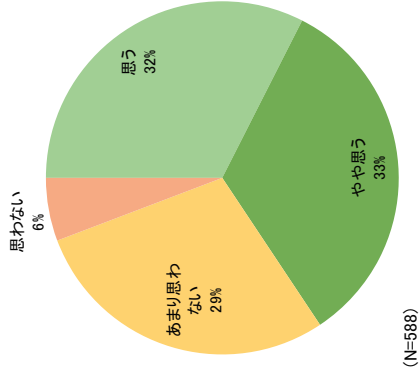
- 愛知川太鼓
- 愛知川びん細工手まり
- 金剛輪寺
- 女取地蔵尊
- 旧愛知郡役所(ゆめまちテラスえち)
- 目賀田城跡
- 堅井之大宮の曳山祭り
- 愛荘66かまど祭り
- その他(伝統行事や町のイベント)
- 田園風景
- 依智秦氏の里古墳公園の桜や町の桜並木
- むら芝居
- 近江上布
- その他(文化的芸能や伝統工芸品など)
- 豊満神社
- その他(寺社仏閣)
- 中山道愛知川宿
- その他(史跡・遺産)
- 御崎神社の火まつり
- 愛知川祇園納涼祭花火大会
- 山比古湧水・軽野湧水
- 宇曹川渓谷
- その他(豊かな自然)



問 24 歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいか

あなたは愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思いますか？

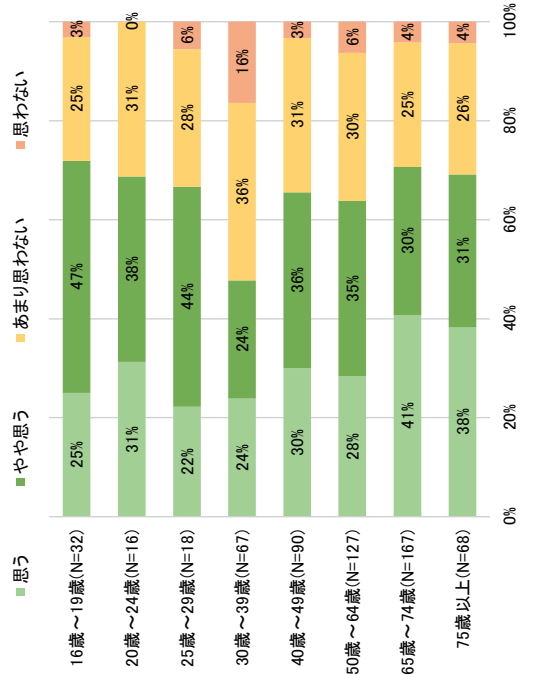
・「やや思う」が33%と最も多く、次いで「思う」が32%、「あまり思わない」が29%となっている。



(N=588)

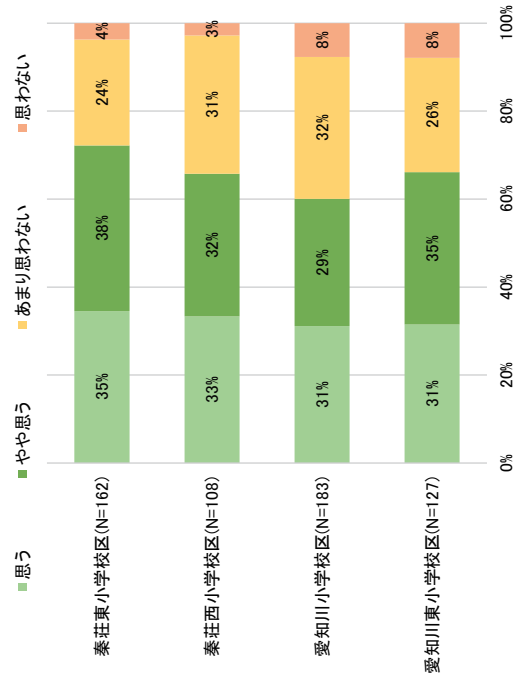
■年齢別

・30代は「思わない」「あまり思わない」が52%と半数を超えており、歴史・芸術文化への意識がやや希薄となっている。



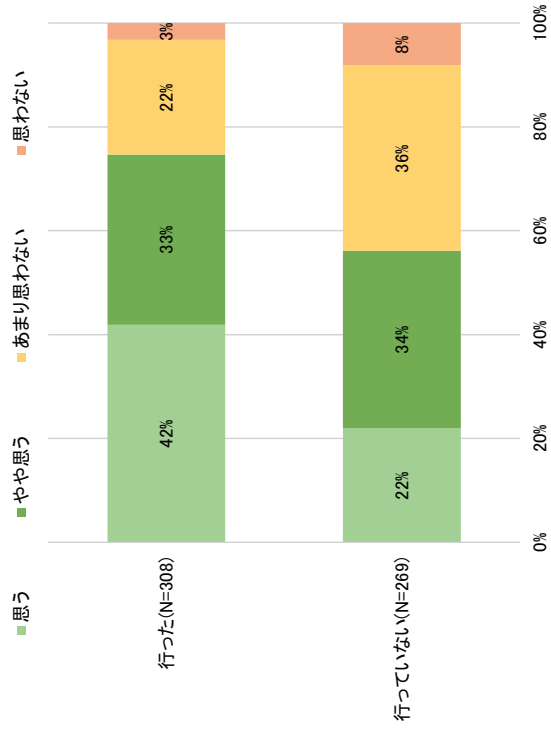
■ 小学校区別

・小学校区による大きな差は見られなかった。



■ 生涯学習の経験の有無別

・生涯学習を行った人のうち魅力を伝えたいと思う人は、75%であり、行っていない人の56%よりも19ポイント多い。

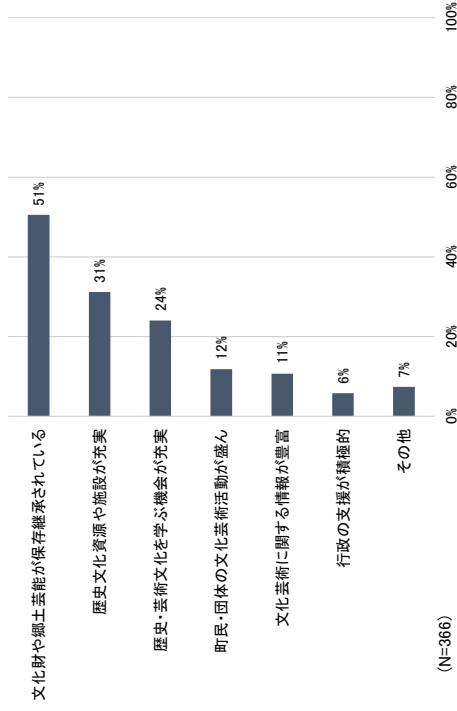


問 25

歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思う理由【複数回答】

愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を伝えたいと思う理由は何ですか？
※問 24 で「思う」「やや思う」と回答した方のみ

・「文化財や郷土芸能が保存継承されている」が51%と最も多く、次いで「歴史文化資源や施設が充実」が31%、「歴史・芸術文化を学ぶ機会が充実」が24%となっている。



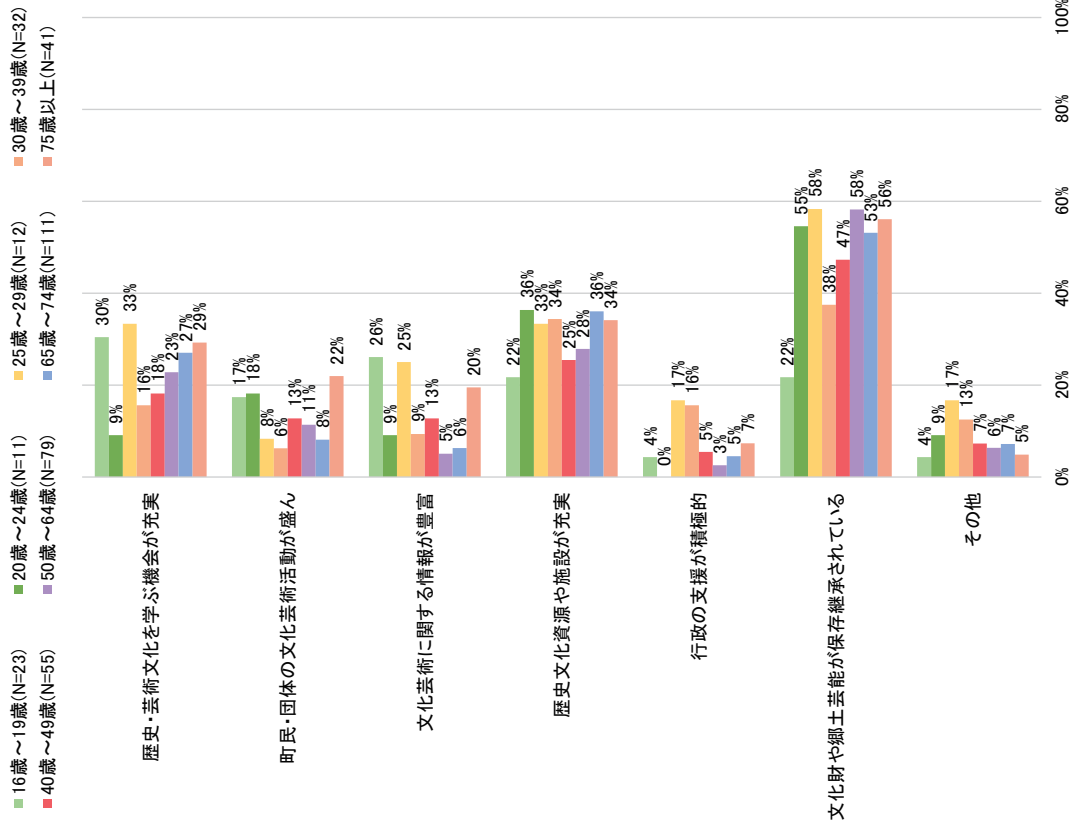
【その他(自由回答)】

自由回答内容	件数
魅力を知ってほしいから	4
歴史・芸術文化を継承するため	4
自然が豊か	2
愛荘町が好きだから	2
行政の支援が不十分	2
歴史・芸術文化を誇りに思っている	1
歴史が好きだから	1
自分で発信している	1
質問と回答が合致しない	1
景色が良い	1
花火大会が魅力的だから	1
歴史的に重要だから	1
わからない	1
住民が協力して伝えたい	1

(回答数: 23件、回答者数: 23人)

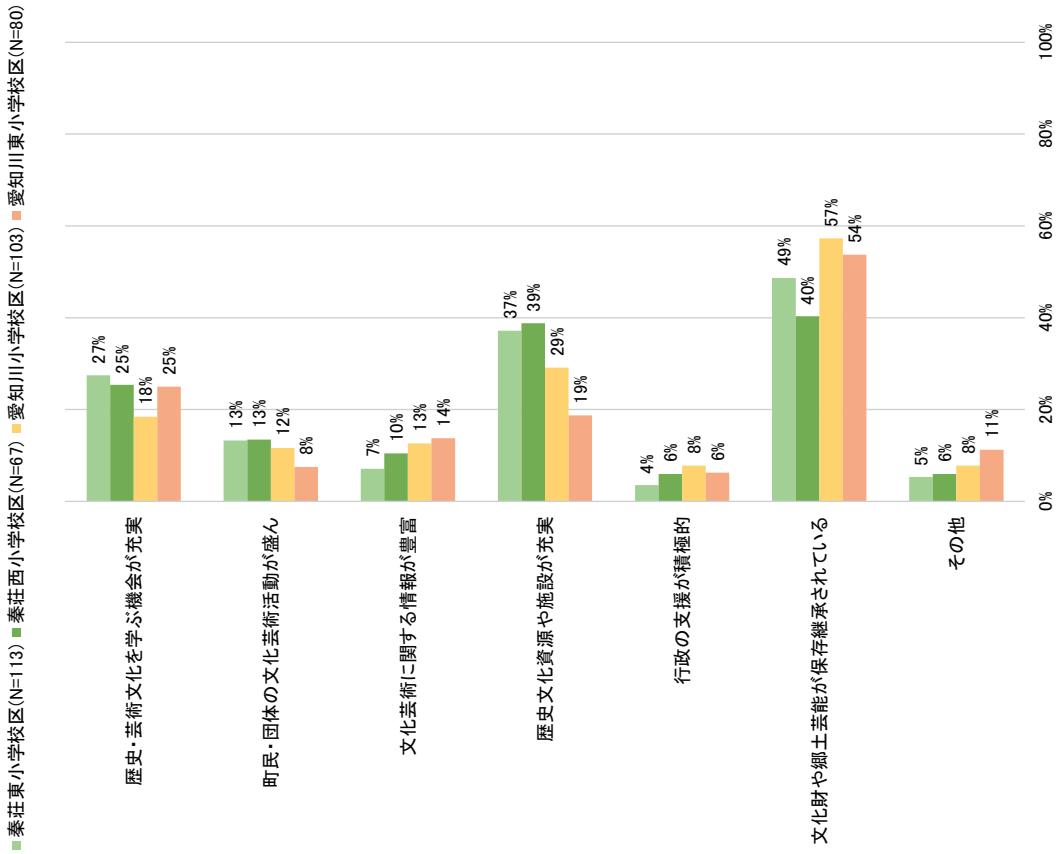
■ 年齢別

・30歳～39歳から年齢が高くなるにつれて、「歴史・芸術文化を学ぶ機会が充実」の割合が多くなっている。



■ 小学校区別

・どの小学校区も「文化財や郷土芸能が保存継承されている」が最も多い。



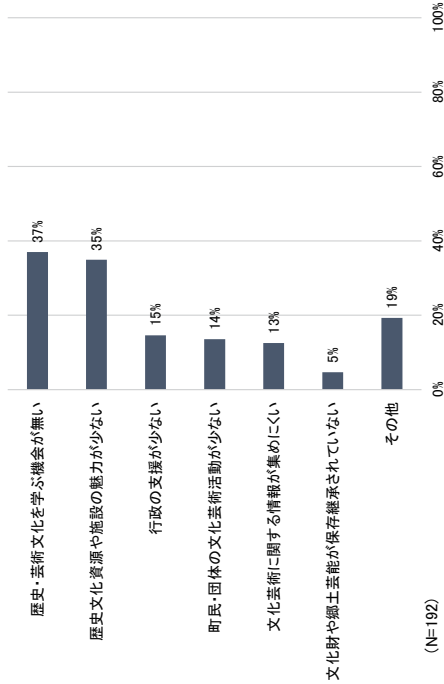
問 26

歴史・芸術文化の魅力を人に伝えたいと思わない理由【複数回答】

愛荘町の歴史・芸術文化の魅力を伝えたいと思わない理由は何ですか？

※問 24 で「あまり思わない」「思わない」と回答した方のみ

・「歴史・芸術文化を学ぶ機会が無い」が 37%と最も多く、次いで「歴史文化資源や施設の魅力が少くない」が 35%、「行政の支援が少くない」が 15%となっている。



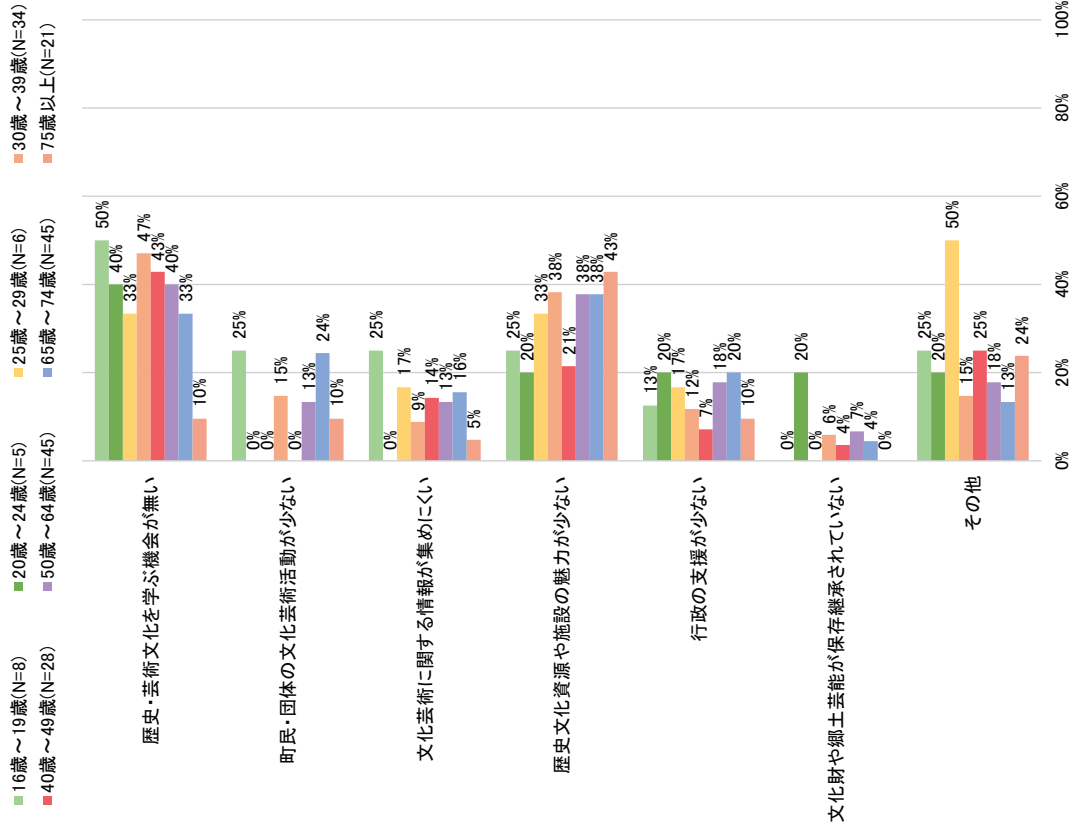
【その他(自由回答)】

自由回答内容	件数
詳しく知らないから	14
興味がないから	8
忙しくて余裕がないから	3
自分で興味をもつことが重要だから	2
魅力がないから	2
関心のある人がいないから	2
ネットで十分だから	1
個人の自由だから	1
人が来にくいから	1
健康ではないから	1
有名ではないから	1
必要性を感じないから	1
行政の仕事だから	1
人が少ないから	1

(回答数:39件、回答者数:37人)

■ 年齢別

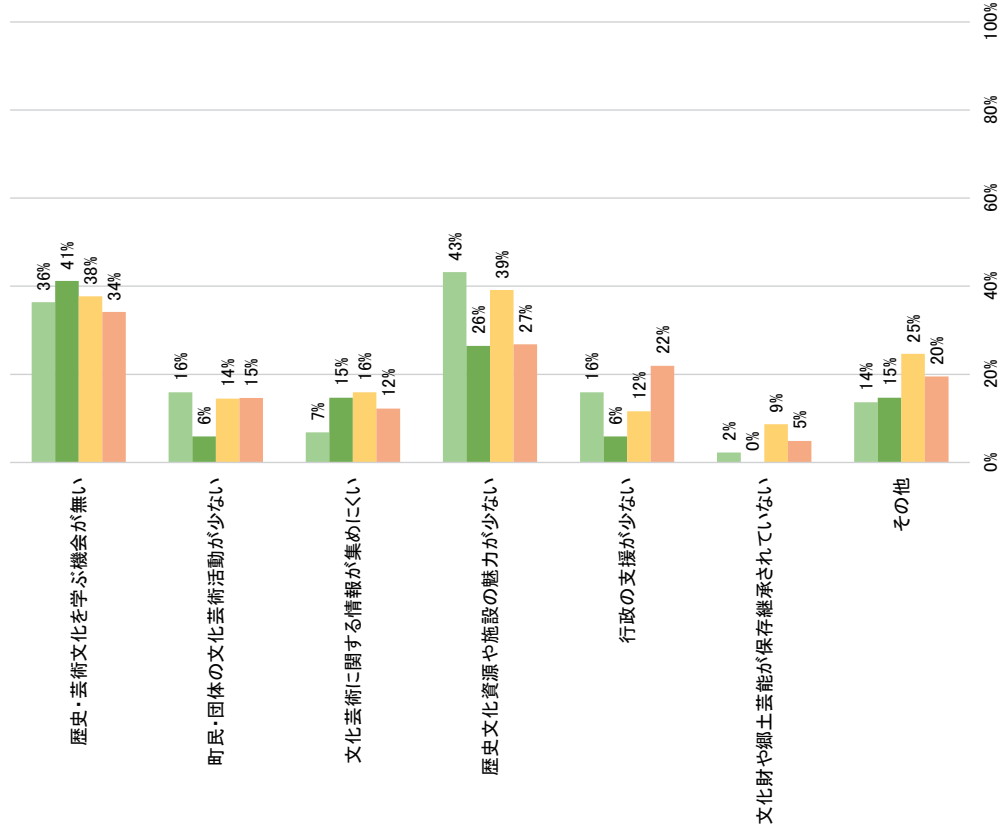
・75歳以上は「歴史文化資源や施設の魅力が少くない」が43%と、他の年齢に比べて5ポイント以上多くとなっている。



■ 小学校区別

・小学校区による大きな差は見られなかった。

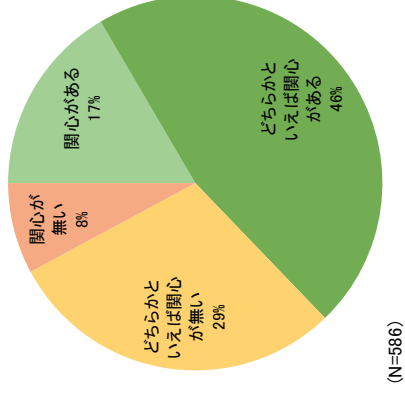
■ 秦荘東小学校区(N=44) ■ 秦荘西小学校区(N=34) ■ 愛知川小学校区(N=69) ■ 愛知川東小学校区(N=41)



歴史・芸術文化への関心の有無

あなたは愛荘町の歴史・芸術文化に関心がありますか？

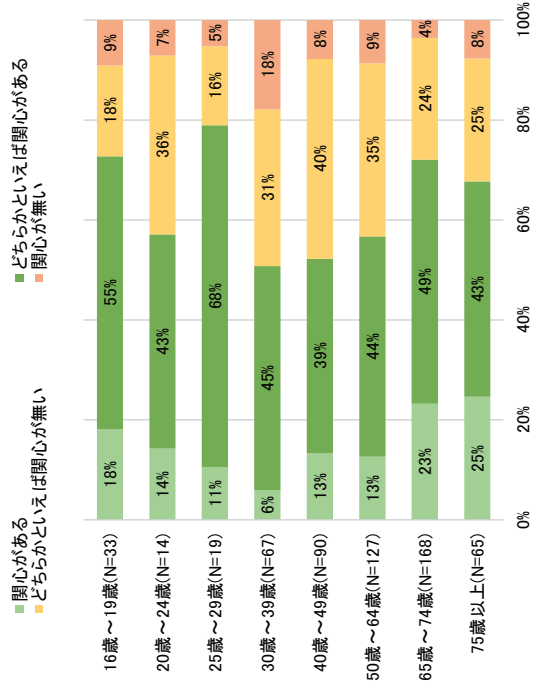
・「関心がある」「どちらかといえれば関心がある」が合わせて63%と多い。



(N=586)

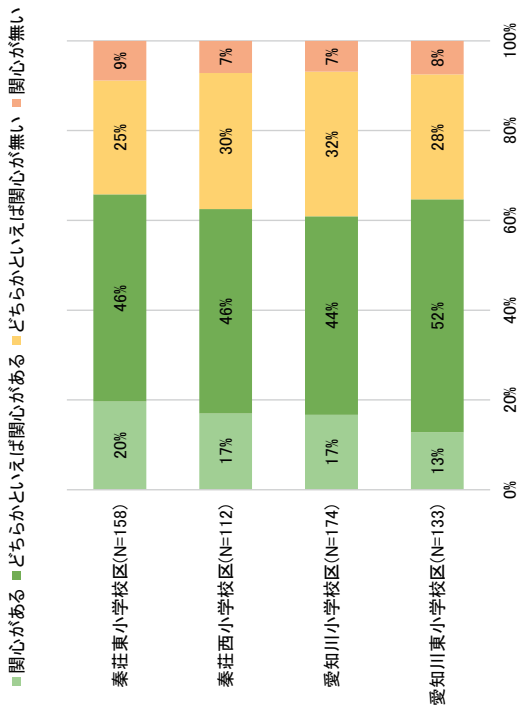
■ 年齢別

・25歳～29歳は「関心がある」「どちらかといえれば関心がある」が合わせて79%、16歳～19歳は73%、65歳～74歳が72%、75歳以上が68%となっている。



■小学校区別

・小学校区による大きな差は見られなかった。

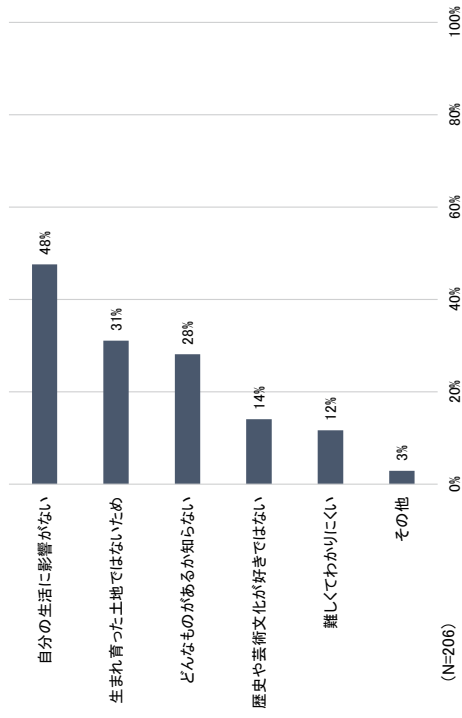


歴史・芸術文化へ関心がない理由【複数回答】

問 27-2 関心がない理由は何ですか？

※問 27-1 で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と回答した方のみ

・「自分の生活に影響がない」が48%と最も多く、次いで「生まれ育った土地ではない土地では無い」が31%、「どんなものがあるか知らない」が28%となっている。



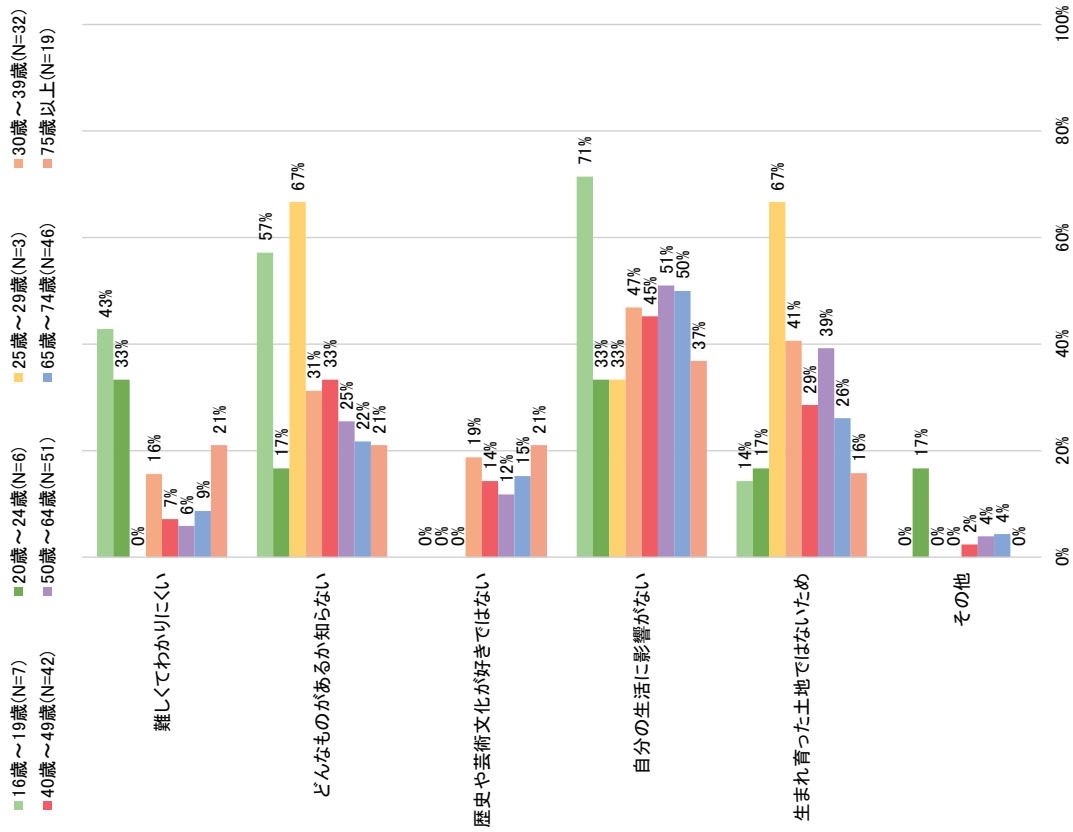
【その他(自由回答)】

その他回答	件数
よくわからない	1
忙しくて余裕がないから	1
関心をもてるものがないから	1
アピールが足りないから	1
機会がなくなっただから	1

(回答数:5件、回答者数:5人)

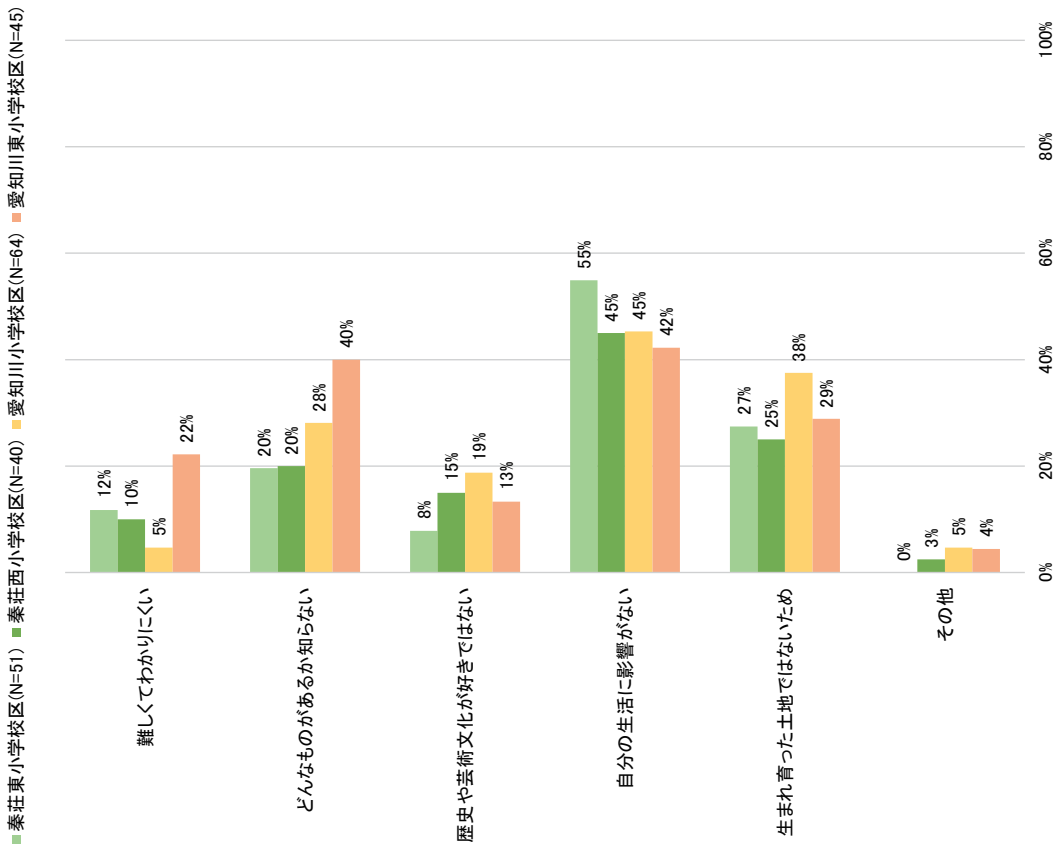
■ 年齢別

・25～29歳は「どんなものがあるか知らない」、「生まれ育った土地ではない」との回答が他の世代と比較が多い。



■ 小学校区別

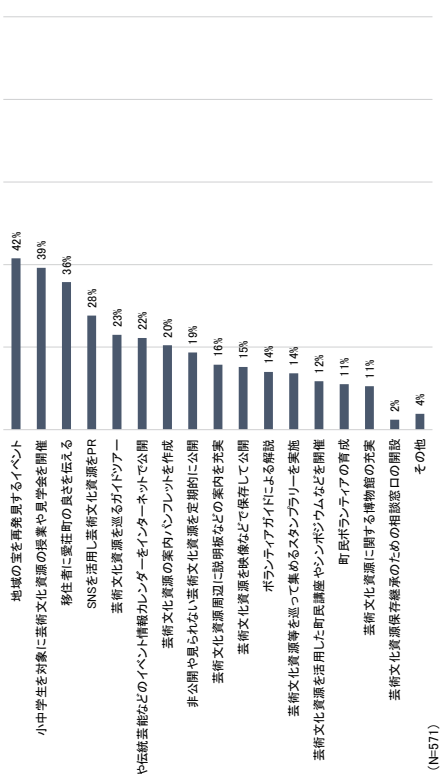
・小学校区による大きな差は見られなかった。



歴史・芸術文化へ関心を持つために必要なもの【複数回答】

あなたは、多くの方が歴史・芸術文化資源に関心を持つためには、どのようなものが必要だと思いますか？

・「地域の宝を再発見するイベント」が42%と最も多く、次いで「小中学生を対象に芸術文化資源の授業や見学会を開催」が39%、「移住者に愛荘町の良さを伝える」が36%となっている。



【その他(自由回答)】

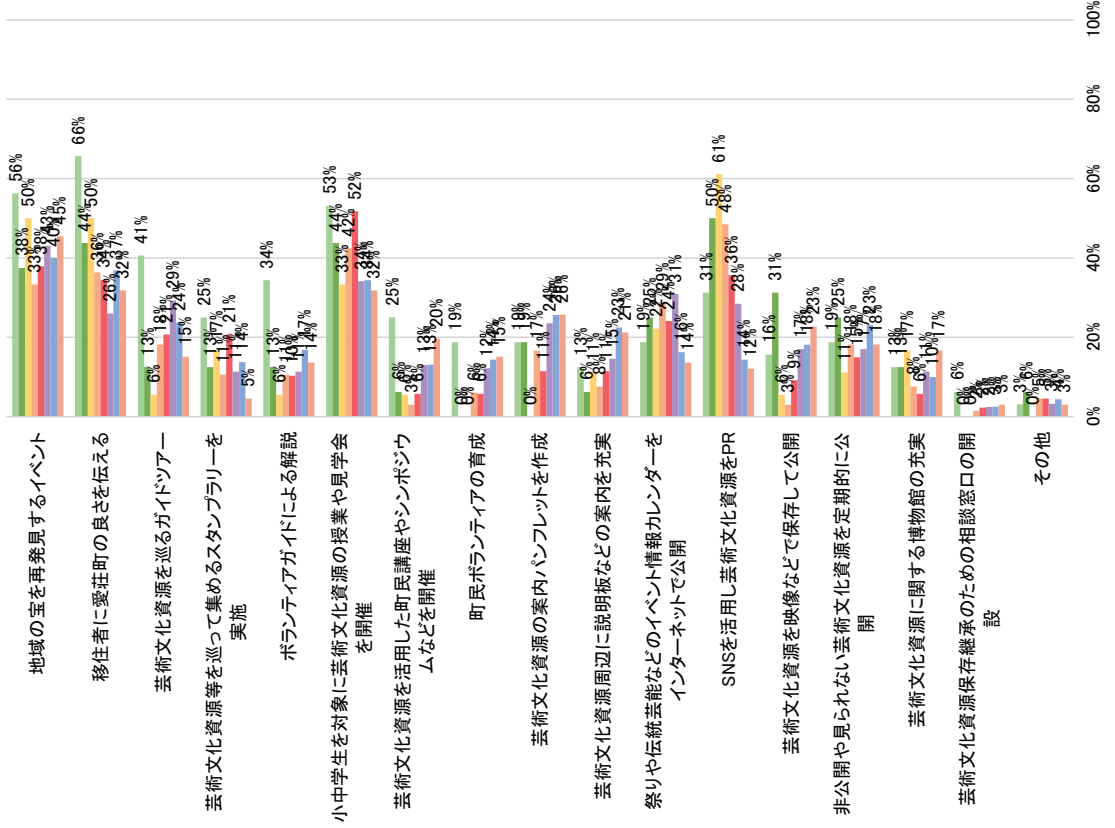
その他回答	件数
観光誘客に力を入れる	4
ラジオ・テレビ・YouTube・インターネットによる発信	3
国道でのPR・宣伝	2
歴史・芸術文化に触れる機会をつくる	2
わからない	1
興味がない人が一定数いるのは仕方ない	1
スタッフの対応・身だしなみ	1
興味がない	1
愛荘協定の創設	1
大型商業施設の誘致	1
忙しい	1

(回答数:18件、回答者数:18人)

■年齢別

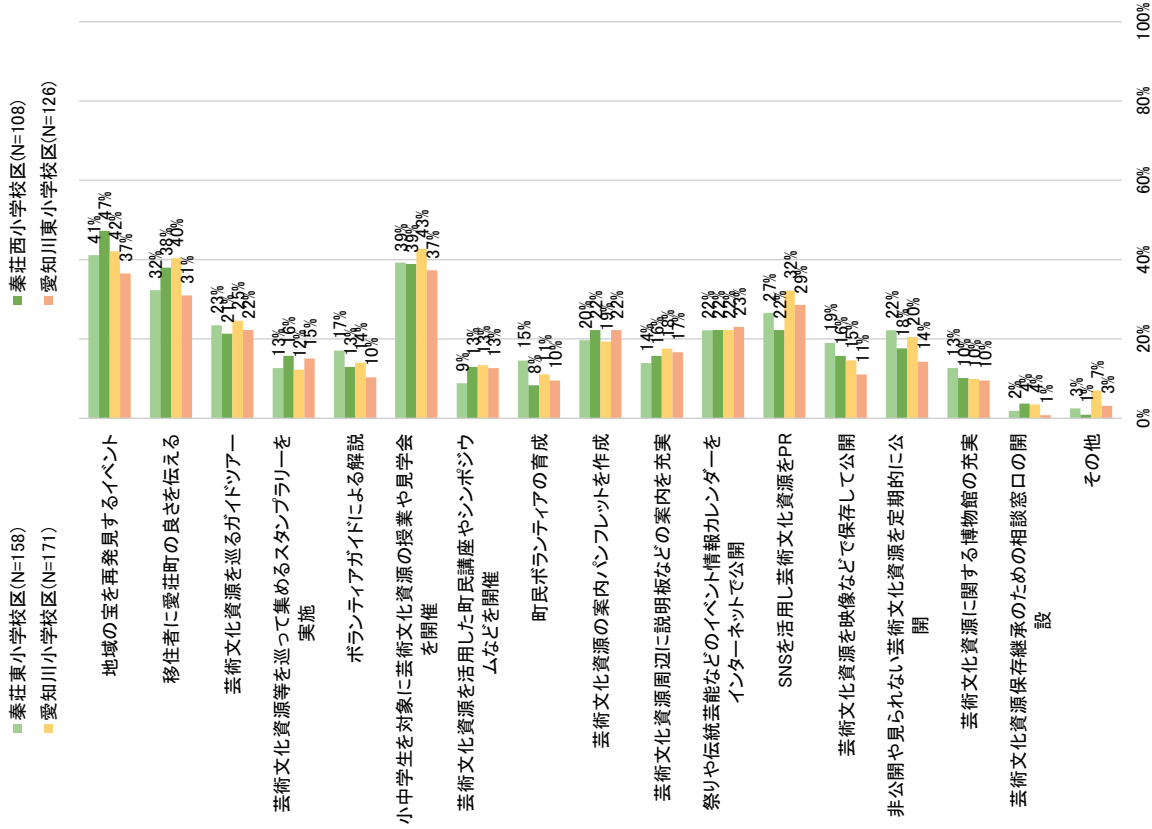
・16歳～19歳は「移住者に愛荘町の良さを伝える」が66%と他の年齢に比べて16ポイント以上多く答えている。
 ・「SNSを活用し芸術文化資源をPR」は20代30代が多く回答している。

■16歳～19歳(N=32) ■20歳～24歳(N=16) ■25歳～29歳(N=18) ■30歳～39歳(N=66)
 ■40歳～49歳(N=87) ■50歳～64歳(N=123) ■65歳～74歳(N=160) ■75歳以上(N=66)



■ 小学校区別

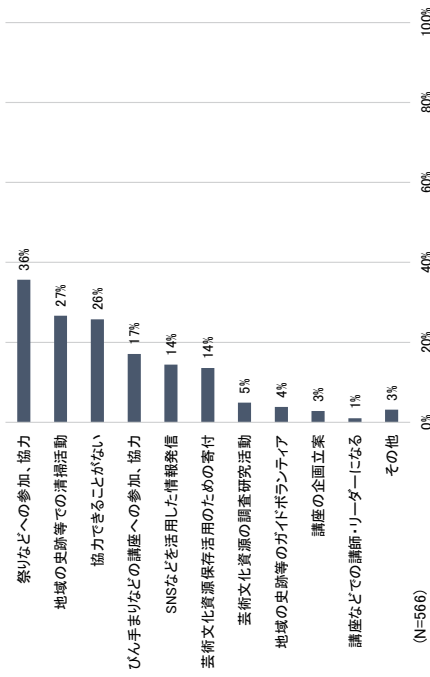
・小学校区による大きな差は見られなかった。



歴史・芸術文化の保存継承・活用のため協力できること【複数回答】

歴史・芸術文化資源等の保存継承・活用を行う際に、あなたが協力できることは何ですか？

・「祭りなどへの参加、協力」が36%と最も多く、次いで「地域の史跡等での清掃活動」が27%、「協力できることがない」が26%となっている。



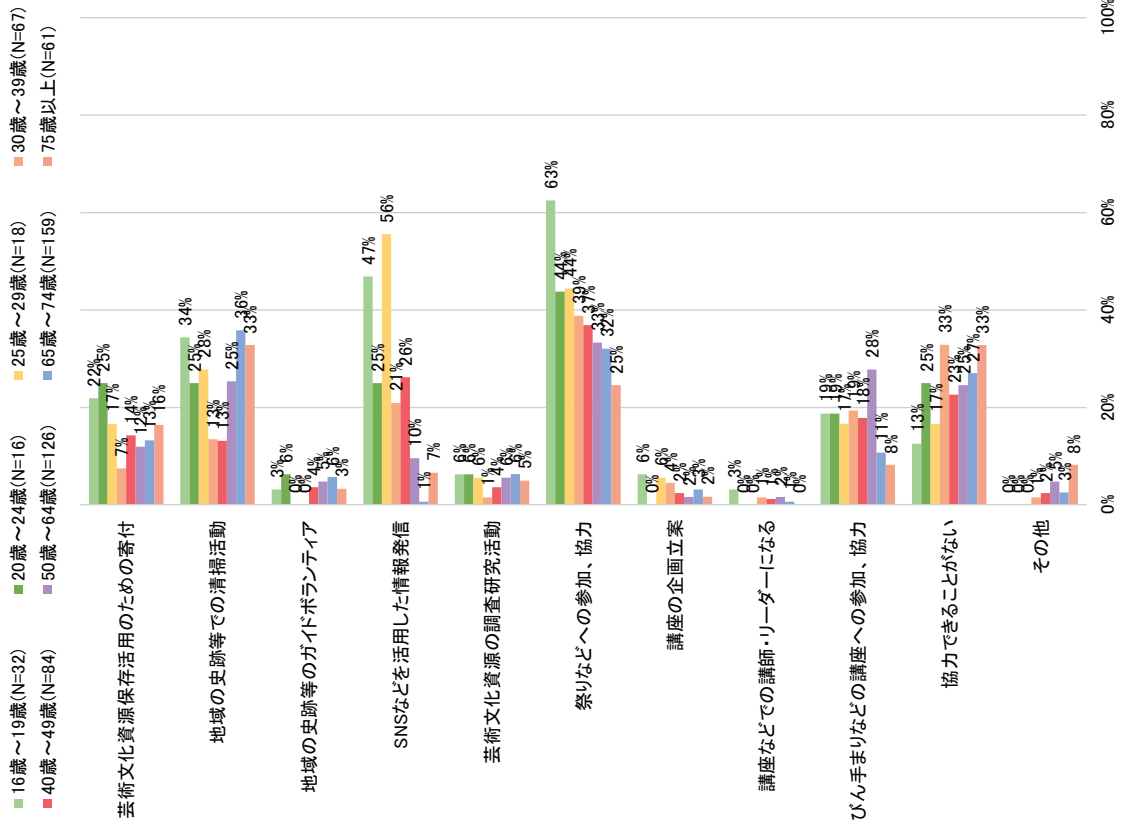
【その他(自由回答)】

自由回答	件数
協力したいが余裕がない	4
興味がない	2
介護中	1
登山道の整備	1
むずかしい	1
自分ができることを少しづつやる	1
協力したいができることがわからない	1
興味を引く情報発信	1
環境整備が必要	1
募金	1
興味を引く企画をしてほしい	1
遠方のため行事に参加できない	1
特になし	1

(回答数: 17件、回答者数: 18人)

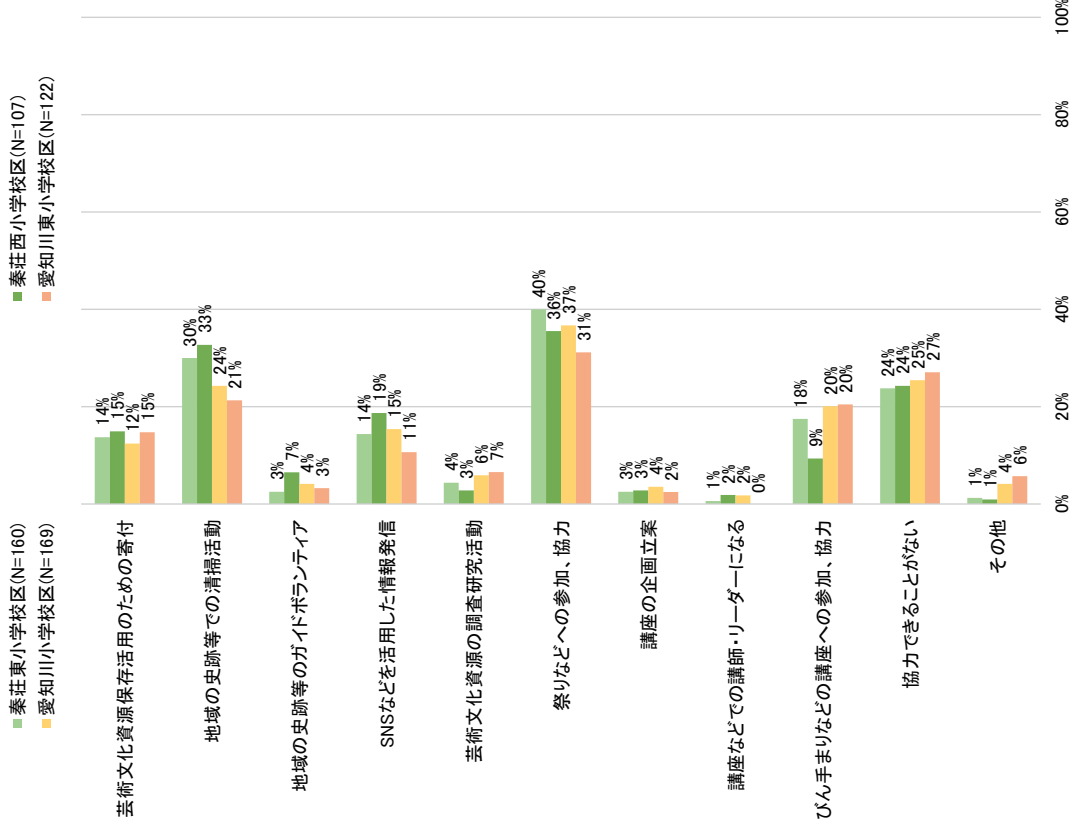
■ 年齢別

- ・16歳～19歳は「祭りなどへの参加、協力」が63%と他の年齢に比べて19ポイント以上多くなっている。
- ・「祭りなどへの参加、協力」は、年齢が高くなるほど少なくなっている。



■ 小学校区別

- ・小学校区による大きな差は見られなかった。



5. 歴史・芸術文化に関する自由回答

愛荘町の歴史・芸術文化資源について、ご意見・ご要望などがあれば、ご自由にお書きください。

・歴史・芸術文化に関する意見について、「歴史・芸術文化に関して」「A 文化的芸術や伝統工芸など」「B 寺社仏閣」「C 史跡・遺産」「D 伝統行事や町のイベント」「E 豊かな自然」の6項目で分類した。

・「歴史・芸術文化に関して」の「保存継承について」に関する意見が10件と最も多く、次いで「イベントや活動を通じた魅力発信」が5件、「WEBやSNSを通じた魅力発信」が4件となっている。

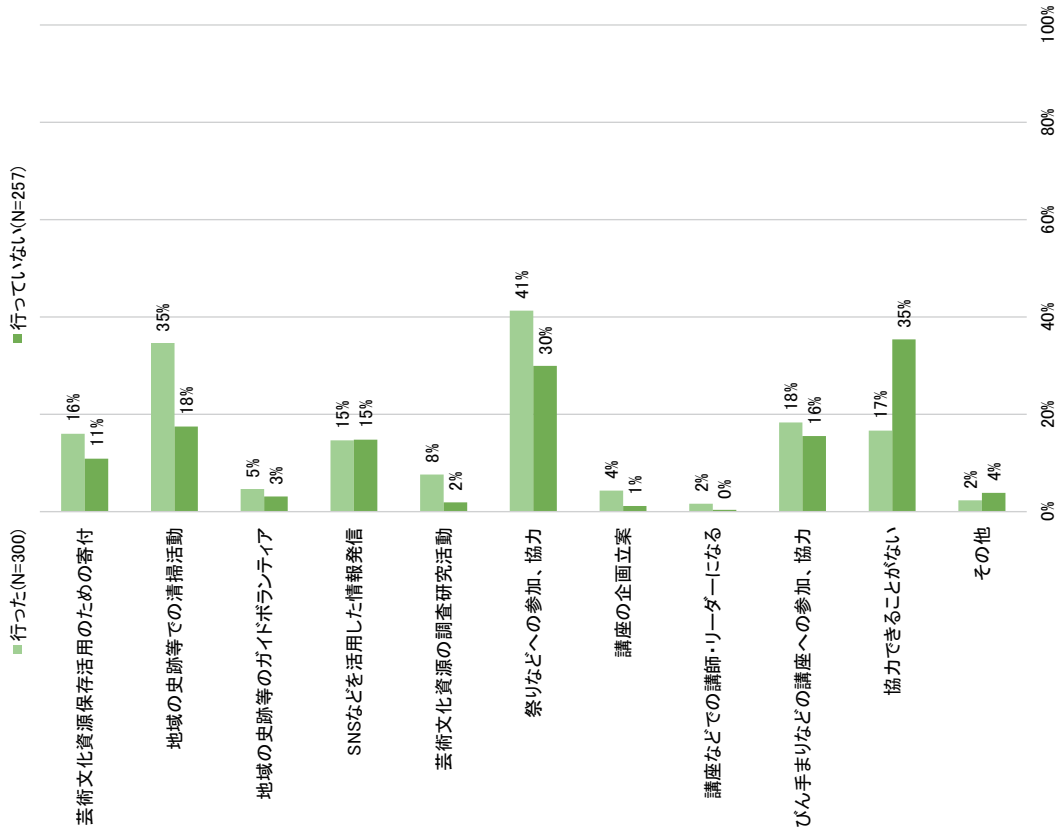
【意見・要望(自由回答)】

その他回答	件数
歴史・芸術文化に関して	29
保存継承について	10
イベントや活動を通じた魅力発信	5
WEBやSNSを通じた魅力発信	4
ふれあう機会を増やす	2
雑誌等による魅力発信	2
公共施設への投資について	2
重要性を知ってもらう	2
魅力的な資源が少ない	1
学ぶ機会を増やす	1
A 文化的芸術や伝統工芸など	7
保存継承について	2
ふれあう機会を増やす	2
重要性を知ってもらう	1
公共施設への投資について	1
学ぶ機会を増やす	1
B 寺社仏閣	3
保存継承について	2
重要性を知ってもらう	1
C 史跡・遺産	8
空き家について	2
公共施設への投資について	2
重要性を知ってもらう	1
WEBやSNSを通じた魅力発信	1
ふれあう機会を増やす	1
学ぶ機会を増やす	1
D 伝統行事や町のイベント	3
コロナ禍によるイベント・活動の自粛について	1
イベントの内容について	1
イベント開催日時について	1
E 豊かな自然	5
保存継承について	3
重要性を知ってもらう	1
ふれあう機会を増やす	1
その他	25
アンケートについて	6
要望	3
感想	3
活動参加者について	2
感謝・御礼	2
その他(1件ずつの回答)	9

(回答数:80件、回答者数:77人)

■生涯学習の経験の有無別

・生涯学習を行った人は「地域の史跡等での清掃活動」が35%と行っていない人比べて17ポイント以上多くなっている。
 ・生涯学習を行った人は「協力できることがない」が17%と行っていない人比べて18ポイント以上少なくなっている。



3) 参考資料

(1) アンケートの有効性について

- ・アンケートの有効性については、統計学上の見地から以下の通り確認した。
- ①母集団の設定
- ・アンケート調査は、16歳以上の愛荘町住民を対象として実施しており、2020年の国勢調査人口では、17, 218人となっている。

②統計学上信頼のある標本誤差の算定

- ・母集団Nに対して、標本誤差bは以下の式で求められる。

$$b = k \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

- ・n=有効回答数(回収数)
- ・b=標本誤差(サンプリングにより生じる誤差)
- ・標本誤差bとは、例えば標本誤差5%の場合、「性別」を聞く設問で男性の回答が50%だった時、母集団全員に聞いても45%~55%の範囲内になるという意味である。
- ・N=母集団
- ・P=回答比率(0.5のときにnが最大となる)
- ・kは、信頼水準によって定まる値であり、通常信頼度95%に対応した1.96が採用される。(「統計実務基礎知識」総務省統計局統計基準部監修より)
- ・信頼度95%とは、100回同じ調査を実施した場合に5回だけ標本誤差の範囲内に納まらない場合があるという意味である。

③生涯学習に関する町民アンケートにおける標本誤差

- ・有効回答数は619票であり、標本誤差は3.87%となり、国が実施する調査では標準誤差率を5%程度におさめるように設計しているため、本調査の有効性は確認できる。

$$3.87\% = 1.96 \sqrt{\frac{(17,218 - 619)}{(17,218 - 1)} \times \frac{0.5(1 - 0.5)}{619}}$$

これからの生涯学習の在り方および文化芸術について
公共施設や地域資源を活用した持続可能なまちづくり
に関する調査研究

—令和4年3月発行—

愛荘町教育委員会生涯学習課

〒529-1234

滋賀県愛知郡愛荘町安孫子825番地

電話 0749-37-8055

一般財団法人 地方自治研究機構

〒104-0061

東京都中央区銀座7-14-16 太陽銀座ビル2階

電話 03-5148-0661 (代表)

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。